

10. 資料

10.1 防災研究所中期目標・中期計画

（教育研究に関する参考資料，平成15年8月）

存立理念および活動綱領

防災研究所は創設以来，自然科学を中心とした災害学理の追求と，防災学の構築に関する総合的研究・教育を存立理念としてきた。本中期計画においても，この存立理念を継承し，地球規模，あるいは地域特性の強い災害と防災に関わる多岐多様な課題に対して，理学，工学，社会科学等にまたがる基礎的研究を展開するとともに，防災に対する社会ニーズに応えうる実践的なプロジェクト研究を，学際融合的な研究組織によって実施する。防災研究所が研究，教育，社会貢献他について掲げる活動綱領は下記の通りである。

研究：災害軽減という地域的あるいは地球的課題の研究命題に，災害学理の追求と防災に関する総合的な研究の実践をもって取り組み，その成果によって人間社会の安寧に貢献する。また，世界に開かれた研究所として，最先端防災研究と実践への転換を図る応用研究双方において，世界のリーダーとしての任を果たす。

教育：防災学に関する研究蓄積を基盤に京都大学の学部および大学院教育の一翼を担い，豊かな教養と高い人間性を持ち，地球社会と調和を取りうる人格形成に貢献する。

社会貢献：災害や防災に関する専門知識や研究成果を，平易な言葉に翻訳して社会に積極的に発信し，防災に対する国民と社会の理解の向上を図るとともに，行政の防災施策に適切な助言を与える。また防災に関わる先端知識・技術の国際発信を通じて，国際社会に対する責務も果たす。

運営：所長の指揮下に効率的かつ弾力性に富む運営組織を構築することによって，教育，研究成果等に対し説明責任を全うできる運営を断行する。

教育の目標

学際複合的な特徴をもつ「災害科学」，「防災学」に対するわが国唯一の総合的研究・教育組織として，災害と防災に関する最先端の研究者と高度な専門知識・能力を持つ人材を育成する他，防災学教育プログラムの整備を通じて，全学的な学部教育に協力し防災教育の実践を図る。また，災害・防災に対する世界中からの高い研究・教育ニーズに応えるべく，海外からの留学生を積極的に受け入れ，英語による教育プログラムを推進する。

教育に関する計画

- 学部教育については，既存の「自然災害科学Ⅰ，Ⅱ」，「環境地圏科学ゼミナールⅠ，Ⅱ」等の全学共通科目および新入生向け少人数セミナー「ポケットゼミ」を充実する。新入生向け少人数セミナーにおいては，研究所が保有する，災害・防災研究に供される研究施設を有効利用した教育を展開する。さらに，関連学部・学科等と協力し，学際領域的科目（防災学）を提案し，全学共通科目としての開講をめざす。
- 大学院教育については，関連研究科等と協力し，防災学関連科目を横断的に提供する。これを実現するために，開講中の既存科目を災害科学・防災学の視点から再定義・評価するとともに，科目間の整合・連携・補完を図る。
- 学生には防災関連科目の受講を奨励し，ウェブサイト，パンフレット等を用いて周知する。
- 大型実験施設・観測施設等，研究所が保有する特殊施設群を最大限に利用し，災害科学と防災学の最先端を反映した大学院教育を推進する。

- 災害調査、現地観測等のフィールドワークを重視した大学院教育を実施し、災害実態に対する理解の向上と、災害調査研究の学習を図る。
- 国内外における各種災害の実態とそのメカニズムや、防災学研究に関する基礎知識の習得を目標とした英語による大学院教育プログラムを提供する。
- 英語による発表・討議訓練を通じた学生の英語コミュニケーション能力の向上、質の高い英文論文誌等への投稿・公表の奨励など、国際的な視野にたった防災教育を展開する。
- 教育専門委員会を設置し、カリキュラムや教育内容を定期的に点検するとともに、学生の要望や関連組織からの意見をフィードバックし、教育方法の継続的改善に努める。
- 教員の教育者としての質の向上を図るため、講義方法や講義資料の作成などに関する相互指導を目的とした FD の仕組みを整備する。
- 宇治地区事務局および他研究所・センターと協力し、宇治地区研究棟の新築に際して、講義室、ゼミナール室等の拡充、学生向けの研究室の拡充、情報機器の整備を図る他、共通講義室等利用における電子予約システムの整備等、教育施設の利用体制の効率化を推進する。また、宇治地区共通図書館の整備を関係部局と協力して推進する。
- 本部地区と宇治地区間のキャンパスバスの増便、宇治地区と桂地区間のキャンパスバスの新設等、学生の通学環境の改善に向けて、宇治地区事務局および他研究所・センターと協力して関係部局に働きかける。
- 全国共同利用研究所共同事業の一環として、インターネットを利用した遠隔教育や、大型実験施設やシミュレーション装置を用いた教育を提供し、防災教育の全国的啓発活動を推進する。
- 災害科学と防災学を解説するビデオ教材を整備し、視覚にも訴える教育を充実させる他、これ

ら教材を FD の一環にも利用する。

- RA、TA の制度を活用して、大学院生に教育への参画機会を与えると同時に、経済的補助の一助とする。
- 留学生に対しては、英語講義や英語ゼミを基本に単位取得と論文作成が可能となるプログラムを整備する。
- 学位取得後、職場に復帰した社会人学生や、帰国した留学生との共同研究を積極的に開拓し、社会や海外における防災活動やその問題解決に協力する。
- 国外からの学生や研究者に快適な教育・研究環境を提供する努力の一環として、海外留学生・研究者らに対する相談室を新設する。

研究の目標

下記の四項目からなる研究ビジョンに立脚して研究を推進する。

- (1) 都市化や環境問題等、今日的課題が引き起こす災害の進化・変容を見据え、21 世紀の防災に対する指針を導くための基礎研究を展開することを通じて「災害学理の深化」を図る。
- (2) 情報テクノロジー等最先端技術の活用、地球環境への配慮、社会・経済・人間との調和等に立脚した「防災知識技術の洗練」を展開する。
- (3) 社会が切望する核心的な防災ニーズを特定し、それを学際的体制と複合融合的研究アプローチを通じて解決する「防災プロジェクト研究」を推進する。
- (4) 防災に関する我が国唯一の全国共同利用研究機関、また災害科学と防災学に関する国際研究社会において我が国を代表する研究機関として、共同研究、突発災害調査、研究ネットワーク、災害データベースの構築にリーダーシップを発揮するとともに、世界の防災研究に関する拠点とし活発な国際交流を展開する。

研究に関する計画

研究課題と方法

- 研究ビジョン(1)と(2)は、運営費交付金や加えて、科学研究費等、個人もしくは、小研究グループが獲得する外部競争資金を主たる財源として実施し、教員が現在までに蓄積してきた研究の継続的発展、新しい研究分野開拓等、多岐にわたる個性的な研究を展開する。
- 研究ビジョン(3)は、21世紀COEプログラム研究(2002～2006年度)を核に実施し、社会の要請が強く、その解決には学際的体制と複合融合的研究アプローチを要する課題である下記の5課題を推進する。
 - 1) 地球規模での気候、水循環、社会変動による環境災害に関する研究
 - 2) 地表変動災害の予測と対策に関する研究
 - 3) 西日本における巨大地震と火山噴火の発生予測と災害軽減に関する研究
 - 4) 都市の災害脆弱性診断と都市生活空間の再生技術・戦略に関する研究
 - 5) 防災情報の作成・伝達とその総合化に向けての新技术の研究
- 研究ビジョン(3)の5課題を、文部科学省科学技術振興調整費、戦略的基礎研究推進事業費(CREST)、重点研究創生プラン(RR2002)等の競争的資金、および、「地震予知のための新たな観測(2次)研究計画」、「第7次火山噴火予知計画」、「大都市大震災軽減プロジェクト」等による事業費他によっても実行する。

全国共同利用研究

- 防災に関するわが国唯一の「全国共同利用研究機関」として、共同研究の推進、研究集会の開催、研究ネットワークの構築と防災研究におけるわが国のプレゼンス向上に努め、防災学研究の中核機関としての役割を果たす。また、先端・萌芽的課題に対する共同研究の推進、大型施設を利用した防災研究の強化を図り、国内外での

リーダーシップを発揮する。

- 突発災害時には、現地情報の収集、調査団の派遣、調査報告書の作成等に指導力を発揮する。
- 全国共同利用体制の充実と改善を図るために設けた、京都大学防災研究所自然災害研究協議会の中核機関として、他の研究機関等との連携を通じて、協議会運営にリーダーシップを発揮する。
- 全国共同利用に供しうる大型実験設備や観測施設の高度活用を推進し、実験・観測データ等の安定供給を図る。

研究施設と支援体制

- 研究の最先端を維持し、また機動力に富んだ共同研究を推進するため、建物スペースの確保、災害科学・防災学研究に不可欠な大型実験施設・装置、観測施設の有効活用と新設・更新に努力する。
- プロジェクト研究や個別基礎研究で達成された成果のうち、社会的に実用性の高いものや実用化が望まれるものは、関係機関・会社との協力を得つつ学内の発明審議委員会などと協議のうえ、特許の取得を試みる。ただし、社会での普及や災害軽減に必要とされる成果に対しては、関係機関への無料配布も考慮した社会還元を図る。
- 研究所が保有する隔地観測所・実験所については、部局としての研究プロジェクトとそれぞれの施設が置かれている自然・社会環境を考慮して、全所的視点から統廃合や観測項目の追加・変更を検討するとともに、IT基盤を充実させ利用の高度化円滑化を図り、防災研究に必要な実験・観測データ取得の拠点とする。
- 宇治川キャンパスにおいては、オープンラボラトリー構想を掲げ、現有観測・実験装置の共同利用をさらに推進する他、研修室の開設による実験教育・訓練プログラムの実行に着手する。

- 技術室は、研究所の重点プロジェクトの実行において積極的に技術支援するほか、観測、実験、分析などに関する知識と技術の向上を図るとともに、所内情報通信管理を含めた研究支援の責務を果たす。

研究活動の評価

- 組織・教員個人の研究活動の評価に対しては、自己点検・評価委員会を設け、恒常的な情報収集を図る。
- 個人の活動については、各教員の達成度を公表された質の高い研究論文に基づいて評価するほか、国・地方自治体・各種公共団体・一般社会等に対する社会貢献や、国際共同研究の実施、留学生の派遣や受け入れ等の国際貢献にも配慮した、多面的な達成度評価を実行する。
- 教員個人が当該研究領域においてどのような認知を受けているかを総合的に評価するために、「Peer Review」制度を新たに導入し、国内外関連研究者らからの率直な意見をも反映した、公平かつ多面的な評価を恒常的に実施する。
- 組織としての活動については、毎年作成する個人、グループの研究成果データベースを、自己点検として毎年定期的に集約し、2年ごとに自己評価を実施する。さらに6年に一度、研究プロジェクトの達成内容、組織の研究・教育活動内容とあわせて、部局以外の識者数名（学内識者2名、学外識者2名、国外識者1〜2名）から構成する外部評価委員会に提出し、評価と批判を受ける。

社会貢献の目標

災害や防災に関する専門知識や研究成果を、防災の実践に直接供しうる形態に転化させることによって、国や地方自治体等の防災施策に助言を与える。またこれら知識や成果を平易な言葉に翻訳し、それらを社会に向けて積極的に発信することから、防災に対する国民と社会の理解の向上を図る。

社会貢献に関する計画

- 研究活動の柱の一つである「防災プロジェクト研究」の速やかな実行と実践に役立つ成果の公表を通じて、日本と世界の防災向上に寄与する。
- 科学技術・学術審議会の建議、「地震予知のための新たな観測研究計画（2次）の推進」および「第7次火山噴火予知計画の推進」に基づいて、地震および火山噴火の予知に関する観測研究を継続的に推進し、観測データを行政に提供することを通じて、防災行政に貢献する。
- 研究成果の公表においては、防災とそれに関連する分野に従事する各種専門家や、国、自治体等の要望に応じた、実務者研修、シンポジウム、講習会を定期的開催し、先端の研究成果を実践へと反映させる手順の促進を図る。
- 各種審議会や委員会への参画を通じて、国や地方自治体等の意志決定に対する助言、技術相談、予測されうる災害情報の公開、あるいは、国や自治体等が実施する災害危険度評価への協力など、公的機関の防災事業に対する専門知識の提供を推進する。
- 一般市民を対象にした公開講座を定期的開催し、防災学、防災システム等を平易な言語で解説することによって研究成果の普及を図るとともに、防災研究所の活動に対する一般社会の理解を求める。また、一般市民、小中学教員等向けの広報活動として、宇治地区研究所・センターらと連携したキャンパス公開などの機会を利用して、研究施設の一般公開も図る。
- 高校生や高校教員を対象とした公開授業・ゼミ、実験等を企画することによって、災害科学や防災に対する若い世代の理解と興味の向上を図る。
- 2002年度から実施中の21世紀COEプログラム活動の一環として、研究成果の一般社会への情報発信、研究成果の社会還元、社会からの研究ニーズの獲得等を目的とし、京都と東京の2ヶ所において、連続イーブニングセミナーを恒

常的に展開し、防災研究所に対する社会の理解の向上を図る。さらに、同セミナーの記録映像を編集したビデオ教材を作成する。

- 防災に関する技術を民間等と開発しそれを実践に移すために、受託研究や民間企業等との共同研究を積極的に推進する。なお、それを促進すべく、共同研究形態や実施手続きを研究所外に広く公開する。
- 防災に関わる研究や開発に従事する国内研究機関との、情報交換や共同研究を含む横断的連携を推進することとし、その核として、防災研究所が指導的役割を担う「京都大学防災研究所自然災害研究協議会」や、文部科学省防災関連研究組織の連携促進をめざして新たに設置された「防災研究フォーラム」の活動を充実させる。
- 防災研究所が現在利用している広報媒体（防災研年報、和文要覧・英文要覧、ニューズレター、ホームページなど）を抜本的に見直し、さらにマスメディアとの協調も考慮しつつ、より実効性の高い広報システムを構築する。ウェブサイトを防災研究所広報の主役ととらえ、日本語版と英語版両方におけるコンテンツの充実と維持管理更新体制の整備をもって、わが国の防災研究情報発信拠点にふさわしいレベルを確保する。

国際活動の目標

「世界に開かれた研究所」として、防災研究・情報に関する国際拠点の構築をめざす。質・量ともに圧倒的な研究成果の発信基地としての機能を担い、また、先進的研究推進のリーダー的役割を務め、地球と人類の利益に資する防災学研究の実践とグローバルな社会的還元をめざす「研究ネットワーク推進活動」を推進する。

国際活動に関する計画

- 防災学研究の国際化とその普及・確立に資すべく、発展途上国への防災技術援助や、発展途

上国の研究者・技術者への教育を推進する。特に防災技術の将来を担うべき若手教育研究者を養成するために、留学生の博士学位取得を奨励する。

- 発展途上国の災害軽減への貢献を目指し、現地指導・技術移転に関与するとともに、ユネスコなどの国際機関と連携した教育や JICA などにおける防災関連分野の研修にも協力する。
- 英語によるウェブサイト充実させ、防災研究・教育の取り組みを世界に向けて公開する。
- 若い時代からの国際交流に配慮し、学生の交換留学制度を最大限に活用し、海外の大学・研究機関に学生を積極的に派遣する他、外国人学生の受け入れ等も推進する。
- 研究所教員が、海外の大学等において講義等の教育活動を実践し、防災学と防災研究所の国際プロモーションに従事することを積極的に支援する
- 在外研究員制度、外国人研究者招聘制度、科学研究費、2002 年度から実施中の 21 世紀 COE プログラム等を活用し、教員とりわけ若手教員の海外研究機関への派遣や、海外から優れた研究者の日本への招聘を促進する。
- 2002 年度から実施中の 21 世紀 COE プログラムの一環として、諸外国からの若手研究者短期・長期招聘、日本の大学院生の海外短期留学と先方での共同研究、特定課題に対する国際シンポジウム・セミナー開催等を推進する。また、若手研究者の英語による発表・討議能力を向上させるためのトレーニングセミナーを定期的実施する。
- 世界的かつ先端的研究機関との研究交流協定を積極的に推進し、相互に補完しうる研究課題に対する国際共同研究を推進する。さらに、種々の国際研究計画の事務局も積極的に努め、国際共同研究情報受発信の拠点としての地位を確保する。

運営組織

所長が所長補佐と協力してリーダーシップを発揮する執行部と、その指揮下で各種運営に従事する常置委員会群からなる即応力の高い組織運営体制をもって、研究・教育・社会貢献等、中期計画に掲げる一連の活動に対する活力を保持する。また、教授会は、研究所の各種活動を概観し、存立理念に沿って研究方針や運営形態の議論と判断を行う。

運営に関する計画

執行体制

- 将来計画担当，研究教育担当，対外関連事項担当の3所長補佐体制を確立し，実行力と指導力を備えた執行部を形成する。
- 将来計画担当所長補佐を長とする将来計画検討委員会を恒常的に設置し，組織とその研究に対する中長期ビジョンを踏まえた適切な人材確保，人材交流を検討する。
- 研究教育担当所長補佐を長とする研究専門委員会，教育専門委員会を設け，研究および教育に関する計画の進行状況を恒常的に把握するとともに，その改善策を検討する。
- 対外関連事項所長補佐を長とする広報委員会，情報委員会を設け，迅速かつ明快な成果の国内外への発信と，研究所 IT 基盤の整備と更新を確保する。また同所長補佐は，国際活動のうち特に研究者交流の指揮を執る。
- 事務部との連携を一層強化し，学内本部・他部局や文部科学省ら関係省庁からの情報収集や，競争的研究資金の獲得等について，実効力の高い体制を構築する。
- 研究・教育の遂行に必要な各種資格・保管基準などを把握し，取得の必要性の伝達・保管内容の報告を受け，労働安全管理を徹底させる。
- セキュリティに関しては，宇治地区構内の安全管理は他研究所と共同で，また情報ネットワークは所内委員会で整備しその体制を明確にする。

適正な人事配置

- 防災という学問領域が必然的に有する多様性と学際性・複合性に応えるべく，多様な研究ジャンルからの人材確保に努める他，部局内外の密接な人的交流を軸として，新しい研究領域の創生，社会が切望する核心的な防災ニーズに適確に応える研究成果の普及をめざす。
- 研究者の採用や昇進にあたっては，「Best and Brightest」の任用を旨とし，世界中に目を向け最高の人材を広く求める。新しい教員（教授・助教授ポスト）の任用は「公募」を原則とし，公募要項を世界中の関連研究機関他に送付する等広く門戸を開く。
- 外国人教員や女性教員の任用に積極的に取り組み，教員の多様化を図る。また，任期制を一部導入し，研究活力の維持と多様な人材確保に努める。

10.2 防災研究所の諸規定

制定年月日	規 程 ・ 内 規 等 名 称	最近改正年月
昭 26. 6. 15	京都大学防災研究所協議員会規程	平 8. 5. 11 廃止
昭 26. 10. 20	京都大学防災研究所事務分掌規程	平 8. 5. 11 改正
昭 27. 4. 10	防災研究所所員選考内規	昭 39. 4. 1 廃止
昭 39. 4. 1	防災研究所教員選考内規	平 9. 4. 11 改正
昭 47. 4. 14	防災科学資料センター運営に関する要項	平 5. 4. 1 廃止
昭 48. 2. 6	京都大学防災研究所長候補者選考規程	平 8. 5. 11 改正
昭 48. 2. 6	防災研究所長候補者適任者推薦内規	平 8. 5. 11 改正
昭 50. 12. 19	防災研究所附属研究施設長候補者選考内規	平 8. 5. 11 改正
昭 51. 1. 23	附属施設長候補者選考に関する申合せ	平 3. 10. 1 廃止
昭 53. 4. 18	京都大学防災研究所附属水資源研究センター規程	平 8. 5. 11 廃止
昭 53. 4. 18	京都大学防災研究所附属水資源研究センター運営協議会規程	平 8. 5. 11 廃止
昭 54. 6. 4	附属水資源研究センター客員教員候補者推薦手続	
昭 54. 6. 15	防災科学資料センター主任に関する申合せ	平 5. 4. 1 廃止
昭 57. 3. 12	防災研究所放射線障害予防内規	平 4. 2. 28 廃止
昭 58. 10. 14	防災研究所洛南道路建設計画対策委員会要項	平 13. 5. 10 廃止
昭 59. 9. 21	附属水資源研究センター及び地震予知研究センター客員教員候補者選考手続	平 8. 5. 11 廃止
昭 60. 5. 2	協議員懇親会についての申合せ	平 8. 5. 11 廃止
昭 61. 3. 7	防災研究所将来計画検討委員会要項	平 8. 5. 11 廃止
昭 61. 3. 14	防災科学資料センター運営に関する要項についての申合せ	平 5. 4. 1 廃止
昭 61. 5. 9	防災研究所客員教員候補者選考手続	平 8. 5. 11 廃止
昭 61. 12. 19	附属都市施設耐震システム研究センター運営に関する要項	平 8. 5. 11 廃止
昭 61. 12. 19	附属都市施設耐震システム研究センター主任に関する申合せ	平 8. 5. 11 廃止
昭 63. 9. 9	緊急を要する教官の海外渡航の取扱いについて	平 3. 10. 1 廃止
昭 63. 11. 11	附属都市施設耐震システム研究センター運営に関する要項についての申合せ	
平 2. 3. 9	防災研究所研究員の受入れに関する申合せ	
平 2. 3. 9	防災研究所研究生の在学期間に関する申合せ	
平 2. 3. 28	助手の補充について	平 2. 9. 21 廃止
平 2. 4. 25	地震予知研究センター運営協議会委員候補者の選出について	
平 2. 5. 7	防災科学資料センターの助手について	平 5. 4. 1 廃止
平 2. 6. 26	京都大学防災研究所附属地震予知研究センター規程	平 5. 4. 1 廃止
平 2. 6. 26	京都大学防災研究所附属地震予知研究センター運営協議会規程	平 8. 5. 11 廃止
平 2. 6. 28	附属地震予知研究センター客員教員候補者推薦手続	平 8. 5. 11 廃止
平 2. 9. 21	防災研究所助手定員の取扱いに関する申合せ	
平 2. 11. 9	防災研究所学術情報・通信整備運用委員会要項	平 8. 6. 14 改正
平 3. 4. 1	防災研究所技術部組織規程	平 8. 5. 11 廃止
平 3. 4. 12	防災研究所非常勤講師任用に関する申合せ	平 4. 10. 19 廃止
平 3. 10. 1	防災研究所長等の海外渡航に伴う事務代理についての申合せ	平 8. 5. 11 廃止
平 3. 10. 1	防災研究所海外渡航の協議員会における取扱いについて	平 8. 5. 11 廃止
平 5. 4. 9	附属地域防災システム研究センター運営に関する要項	平 8. 5. 11 廃止
平 5. 4. 9	防災研究所自己点検・評価実施内規	平 8. 5. 11 改正

平 8. 5. 11	京都大学防災研究所規程	平 15. 2. 1 改正
平 8. 5. 11	京都大学防災研究所教授会規程	平 15. 1. 10 改正
平 8. 5. 11	京都大学防災研究所協議会規程	
平 8. 5. 11	京都大学防災研究所技術室組織規程	平 14. 3. 8 改正
平 8. 5. 11	防災研究所部門規程	
平 8. 5. 11	防災研究所部門長・センター長会議内規	平 15. 1. 10 改正
平 8. 5. 11	防災研究所長等の海外渡航に伴う事務代理についての申合せ	平 15. 1. 10 改正
平 8. 5. 11	教官の海外渡航についての申合せ	
平 8. 5. 11	防災研究将来計画検討委員会内規	
平 8. 5. 11	防災研究所教授及び助教授選考に関する申合せ	平 12. 6. 9 改正
平 8. 5. 11	防災研究所客員教員候補者選考内規	平 13. 3. 9 改正
平 8. 5. 11	防災研究所非常勤講師任用に関する申合せ	
平 8. 5. 11	京都大学防災研究所共同利用委員会規程	平 13. 3. 9 改正
平 8. 5. 11	京都大学防災研究所共同利用委員会専門委員会要項	平 13. 3. 9 改正
平 8. 5. 11	京都大学防災研究所附属災害観測実験センター規程	
平 8. 5. 11	京都大学防災研究所附属災害観測実験センター運営協議会規程	
平 8. 5. 11	京都大学防災研究所附属地震予知研究センター規程	
平 8. 5. 11	京都大学防災研究所附属地震予知研究センター運営協議会規程	
平 8. 5. 11	京都大学防災研究所附属火山活動研究センター規程	
平 8. 5. 11	京都大学防災研究所附属火山活動研究センター運営協議会規程	
平 8. 5. 11	京都大学防災研究所附属水資源研究センター規程	
平 8. 5. 11	京都大学防災研究所附属水資源研究センター運営協議会規程	
平 8. 5. 11	京都大学防災研究所附属巨大災害研究センター規程	
平 8. 5. 11	京都大学防災研究所附属巨大災害研究センター運営協議会規程	
平 13. 3. 9	京都大学防災研究所放射線障害予防規定	
平 13. 4. 1	京都大学防災研究所自然災害研究協議会規程	
平 15. 1. 10	京都大学防災研究所所長補佐に関する規程	

10.3 防災研究所の改組計画

2005年3月

防災研究所の改組に当たって

所長 井上和也

1. はじめに

防災研究所は、平成17年4月1日から、現在の組織を別紙のように改組することになりました。本改組は、平成16年に策定された中期計画に沿って、防災研究に対する社会のニーズに的確に応えるために行うものです。以下に改組の主旨及び概要を記しますので、ご理解をいただき、防災学研究所の発展と災害の更なる軽減に向けて、皆様方がより一層取り組まれることをお願いします。

2. 改組の主旨

防災研究所は、1951年の創設以来、自然科学を中心とした災害学理の追求と、防災学の構築に関する総合的研究・教育に取り組んできた。また、1996年、阪神・淡路大震災の教訓と防災学研究への社会への要請に応えるため、自然科学を中心とした研究に加え、人文・社会科学研究の強化をはかるとともに、全国共同利用研究所への転換を含む抜本的な改組を行った。

2004年、京都大学が国立大学法人に移行するに伴って、理学、工学、社会科学等にまたがる基礎的研究を更に一層展開するとともに、防災に対する真の社会的ニーズに応えうる実践的なプロジェクト研究を学際融合的な研究組織によって実施するための第1期中期計画を策定した。今回の改組は、この第1期中期計画で公約した一連の研究教育活動を確実にかつ速やかに実施するため、前回の改組から10年間の経験を基に、研究組織のよりよい姿を実現するために行うものである。

3. 改組の概要

中期計画では、防災研究所が今後6年間に実施する課題として、以下の項目を掲げている。

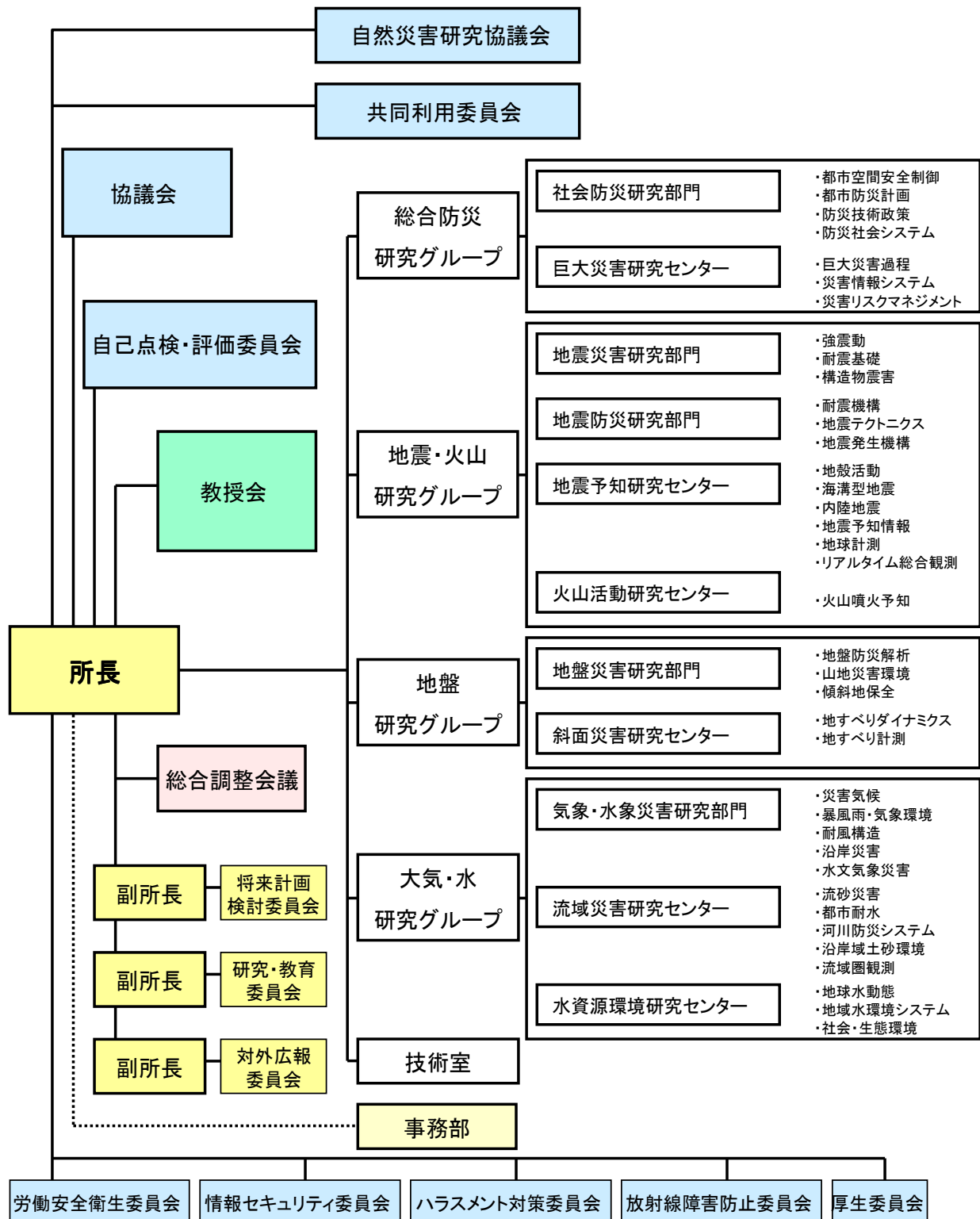
- i. 災害と防災を巡る社会的ニーズに応えるための防災プロジェクト研究の推進
- ii. 「環境」や「都市」に特徴的な複合的災害・防災に関わる研究の推進
- iii. 基礎研究・応用研究の両輪からなる研究展開
- iv. 学際的研究の一層の促進
- v. 研究所内人事交流の活性化
- vi. 遠隔地観測所・実験所研究活動の活性化

これら6つの課題の実施に向けて、研究部門、附属研究施設との横断的研究を推進する単位として、4つの研究グループ、即ち、総合防災研究グループ、地震・火山研究グループ、地盤研究グループ及び大気・水研究グループを設ける。

各研究グループを構成する研究部門および附属研究施設は以下の通りである。

- ①総合防災研究グループ：社会防災研究部門、巨大災害研究センター
- ②地震・火山研究グループ：地震災害研究部門、地震防災研究部門、地震予知研究センター、火山活動研究センター
- ③地盤研究グループ：地盤災害研究部門及び斜面災害研究センター
- ④大気・水研究グループ：気象・水象災害研究部門、流域災害研究センター、水資源環境研究センター

組織構成



10.4 防災研究所所内委員会名簿

平成14年度所内委員会委員名簿

(平15.1月現在)

委 員 会 名	委 員 名	任 期
自己点検・評価委員会	☆河田，寶，関口，MORI，丸山，城戸，本田 (サブ委員)畑山，飛田，渋谷，浜口，川方	13.5.1～15.4.30 14.12.1～15.4.30
将来計画検討委員会	☆石原，岡田，千木良，河井，中川（一），大志万，池淵， 小尻	13.5.1～15.4.30
研究企画小委員会	☆小尻，中島，千木良，橋本，鈴木， 大志万	〃
研究拠点整備ワーキンググループ	☆林（春），中島，橋本	13.10.12～
教育ワーキンググループ	☆河井，千木良，大志万，橋本，中川（一）	13.12.14～
人事構想ワーキンググループ	☆池淵，岡田，石原，中島	14.5.11～
改組ワーキンググループ	☆岡田，河井，大志万，中川（一），橋本	14.5.11～
観測所・観測ワーキンググループ	☆大志万，中川（一），林（泰）	14.8.16～
21世紀COE運営委員会	☆池淵，林（春）（幹事），入倉，河田，石原，小尻， 植田，岡田	14.10.11～
21世紀COE実行委員会	☆河田，中島，寶，橋本（以上3名幹事） 岡田，佐々，関口，石原，池淵，林（春）	〃
21世紀COE幹事会	☆河田，池淵，中島，岡田，林（春），寶，橋本	14.11.19～
厚生委員会	☆福岡，児島，諸岡，武藤，三浦，谷川	14.4.1～15.3.31
放射線障害防止委員会	☆所長，千木良，岡	4.3.4～
学術情報・通信整備 運用委員会	☆岡，入倉，澤田（純），田中（聡），谷川	13.4.1～15.3.31
LAN管理運用委員会	☆澤田（純），三村，立川，丸山，井口（正），田中（聡）， 諸岡，岩田，荒木，馬場，大見，田中（賢），浜口， 平野，多河，谷川，足立（施設管理部長）	14.4.1～15.3.31
図書専門委員会	☆川崎	〃
宇治川キャンパス運営 委員会	☆井上，佐々，高山，河井，関口，中川（一），梅田， 池淵，石垣，平野	13.5.11～
共同利用委員会	☆所長，鈴木，田中（仁），千木良，井上，植田， 中川（一），川崎，岡，田中（哮），井口（正）	14.5.11～16.5.10
企画専門委員会	☆植田，鈴木，田中（仁），千木良，井上，中川（一）， 川崎，岡，田中（哮），井口（正）	〃
広報専門委員会	☆中川（一）	〃
出版小委員会	☆河井，吹田，福岡，戸田，石川，山下，渡辺，西上， 城戸，赤松	〃
公開講座実行委員会	☆佐藤，中川（一），小尻，林（春），林（康）， 三村，林（泰），渋谷	13.5.11～15.5.10
公開講座出版事業 小委員会	☆河田，澤田（純），福岡，立川，石川，石垣，大志万	13.5.11～
ホームページ・ニュースレター編集 委員会	☆中川（一），多々納，吹田，伊藤，釜井，立川， 武藤，片尾，竹門，平野，多河，吉田，谷川，上道	14.5.11～16.5.10
ホームページワーキンググループ	☆片尾，多河，吉田	13.9.1～
建物利用委員会（阿武山観測所 利用計画検討委員会と合併）	☆池淵，梅田	
技術室運営委員会	☆関口，千木良，河井，古澤，MORI，池淵，林（春）， 平野，多河	13.4.1～
宇治地区共通行事所内 委員会	井合，向川，谷川	15.1.1～15.12.31

注）太字部分が今回報告の部分

（備考；☆は委員長）

平成15年度 所内委員会委員名簿

(平成15. 12月現在)

委員会名	委員名	任期
将来計画検討委員会	☆小尻, 中島, 田中(哮), 高山, 千木良, 梅田, 岩嶋, 石原, 山崎[専]	15. 6. 1～17. 4.30 (15. 5. 1～17. 4.30 の2年)
研究・教育委員会	☆大志万, 田中(仁), 鈴木, 井合, 中川(一), 向川, 池淵, 山崎[専]	15. 6. 1～17. 3.31 (所長の任期末)
研究運営専門委員会	☆鈴木, 井合, 山下, 飯尾	〃 (経理課, 研協課)
教育専門委員会	☆田中(仁), Mori, 林(春), 多々納, 三村	〃 (総務課企画掛)
技術専門委員会	☆中川(一), 伊藤, 丸山, 林(康), 井口(正), 平野 [技], 多河 [技]	〃 (総務課人事掛)
COE運営委員会	☆池淵 (委員長), 河田 (拠点リーダー), 林(春) (幹事), 井上, 石原, 植田, 岡田, 大志万	14.10.11～ (研協課)
対外広報委員会	☆河井, 寶, 橋本, 関口, 川崎, 田中(仁), 佐藤, 平野 [技], 山崎[専]	15. 6. 1～17. 3.31 (所長の任期末)
広報・出版専門委員会	☆寶, 赤松, 石川, 釜井, 城戸, 戸田, 西上, 松波, 片尾, 田中(聡), 竹内(文), 多河 [技], 松浦 [技], 上道 [事]	〃 (総務課庶務掛)
行事推進専門委員会	☆橋本 (公開講座), ☆井合 (宇治地区共通行事), ☆川崎 (年次研究発表講演会), 向川 (宇治地区共通行事), 井口(正), 石垣, 吹田, 友杉, 林(康), 福岡, 藤田, 矢守, 堀口, 西村 [技], 富阪 [技], 吉山 [事]	〃 (研協課研協掛)
ネットワーク専門委員会	☆関口, 岡, 澤田(純), 伊藤, 丸山, 辰己 [技], 吉田 [技]	〃 (総務課企画掛)
・LAN管理運営委員会	☆澤田(純), 田中(聡), 岩田, 三村, 児島, 石垣, 加藤, 大見, 荒木, 井口(正), 田中 (賢), 浜口, 川方, 吉田 [技], 山崎[専], 足立 (施設管理掛長)	15. 7. 1～17. 3.31
情報セキュリティ委員会	☆所長, 関口 (幹事), 岡, 澤田(純), 伊藤, 多々納, 丸山, 吉田 [技], 辰己 [技], (+総務課より), 山崎[専]	部局規程制定日～
図書専門委員会	☆川崎	(14.4.1～) (研協課学情掛)
国際交流専門委員会	☆田中(仁), Sidle, Mori, 本田	15. 6. 1～17. 3.31 (研協課国流掛)
産官学連携推進専門委員会	☆佐藤	〃 (研協課研協掛)
自己点検・評価委員会 (外部評価を含む)	☆岡田, 寶, Sidle, 伊藤, 澤田(純), 石川, 林(泰), 矢守, 畑山, 多河 [技]	15. 5. 1～17. 4.30 (総務課企画掛)
共同利用委員会	☆所長, 植田, 鈴木, 千木良, 高山, 中川(一), 川崎, 岡, 田中(哮), 井口(正), 吹田	14. 5. 11～16. 5.10 (研協課共同利用掛)
企画専門委員会	☆植田, 鈴木, 千木良, 高山, 中川(一), 川崎, 岡, 田中(哮), 井口(正), 吹田	〃
厚生委員会	☆飯尾, 井口(敬), 飛田, 畑山, 辰己 [技], 山崎[専]	15. 4. 1～16. 3.31
セクハラ対策委員会	☆高山, 総務課長, 防災研専門員	15. 7. 1～ (総務課庶務掛)
放射線障害防止委員会	☆所長, 千木良, 岡	14. 3. 4～

(備考：☆は委員長)

(備考欄のカッコ内の課・掛は宇治地区事務部の対応協力課・掛)

平成16年度 所内委員会委員名簿

(平成16. 10月現在)

委 員 会 名	委 員 名	任 期
将来計画検討委員会	☆小尻, 中島, 田中(哮), 高山, 千木良, 梅田, 岩嶋, 石原, 多々納, 山崎[専]	15. 6. 1～17. 4.30 (15. 5. 1～17. 4.30 の2年)
研究・教育委員会	☆大志万, 田中(仁), 鈴木, 井合, 中川, 向川, 池淵, 山崎[専]	15. 6. 1～17. 3.31 (所長の任期末)
研究運営専門委員会	☆鈴木, 井合, 山下, 飯尾	〃 (経理課, 研協課)
教育専門委員会	☆田中(仁), Mori, 林(春), 多々納, 三村	〃 (総務課企画掛)
技術専門委員会	☆中川, 伊藤, 丸山, 林(康), 井口(正), 平野 [技], 吉田 [技]	〃 (総務課人事掛)
COE運営委員会	☆池淵 (委員長), 河田 (拠点リーダー), 林(春) (幹事), 井上, 石原, 井合, 岡田, 大志万	14.10.11～ (研協課)
対外広報委員会	☆河井, 寶, 橋本, 関口, 川崎, 田中(仁), 佐藤, 平野 [技], 山崎[専]	15. 6. 1～17. 3.31 (所長の任期末)
広報・出版専門委員会	☆寶, 赤松, 石川, 釜井, 城戸, 戸田, 西上, 松波, 竹内, 片尾, 三浦 [技], 松浦 [技], 上道 [事]	〃 (総務課庶務掛)
行事推進専門委員会	☆橋本 (公開講座), ☆多々納 (宇治地区共通行事), ☆川崎 (年次研究発表講演会), 井口(正), 石垣, 吹田, 友杉, 林(康), 福岡, 藤田, 矢守, 堀口, 西村 [技], 富阪 [技], 吉山 [事]	〃 (研協課研協掛)
ネットワーク専門委員会	☆関口, 伊藤, 多々納, 澤田(純), 丸山, 吉田 [技], 辰己 [技]	〃 (総務課企画掛)
・LAN管理運営委員会	☆澤田(純), 畑山, 岩田, 田村, 飛田, 丸山, 馬場, 山下, 大見, 荒木, 山本, 田中(賢), 浜口, 川方, 福岡, 吉田 [技], 辰己 [技], 山崎[専], 足立 (施設管理掛長)	15. 7. 1～17. 3.31
図書専門委員会	☆川崎	(14.4.1～) (研協課学情掛)
国際交流専門委員会	☆田中(仁), Sidle, Mori, 本田, 小尻, 大志万, 河井	15. 6. 1～17. 3.31 (研協課国流掛)
産官学連携推進専門委員会	☆佐藤	〃 (研協課研協掛)
自己点検・評価委員会 (外部評価を含む)	☆岡田, 寶, Sidle, 伊藤, 澤田(純), 石川, 林(泰), 矢守, 畑山, 松浦 [技]	15. 5. 1～17. 4.30 (総務課企画掛)
情報セキュリティ委員会	☆所長, 河井, 関口 (幹事), 澤田(純), 伊藤, 多々納, 丸山, 吉田 [技], 辰己 [技], 山崎[専]	16. 4. 1～
共同利用委員会	☆所長, 多々納, 井合, 戸田, 林(春), 佐々, 吹田, 石川, 林(泰), 松村, 井口(正), 竹門	16. 5. 11～18. 5.10 (研協課共同利用掛)
企画専門委員会	☆井合, 多々納, 戸田, 林(春), 佐々, 吹田, 石川, 林(泰), 松村, 井口(正), 竹門	〃
厚生委員会	☆藤田, 田中(賢), 川方, 安田, 西村 [技], 山崎[専]	16. 4. 1～17. 3.31
セクハラ対策委員会	☆高山, 総務課長, 防災研専門員	15. 7. 1～ (総務課庶務掛)

放射線障害防止委員会	☆所長, 千木良, 岡	14. 3. 4～
労働安全衛生委員会	☆所長, 梅田, 松波, 吉村, 平野 [技], 辰己 [技]	16. 4. 1～

(備考: ☆は委員長)

(備考欄のカッコ内の課・掛は宇治地区事務部の対応協力課・掛)

10.5 防災研究所フォーラム実施状況

10.5.1 防災研究所フォーラム 京都会場開催一覧

[平成14年度]

回	開催日	講師	役職	所属	フォーラム内容
1	1月14日	河田 恵昭	教授	巨大災害	21世紀COEプログラムの目指すところ
2	1月15日	林 春男	教授	巨大災害	防災学入門
3	1月17日	池淵 周一	教授	水資源	ダムの弾力的運用
4	1月21日	橋本 学	教授	地震予知	地震を知る：宇宙から見る大地の動き
5	1月22日	関口秀雄・ 後藤仁志	教授・助教授	災害観測	波と砂浜のダイナミクス：複雑流体への入門
6	1月23日	中島 正愛	教授	地震災害	構造実験の歩みー手動ジャッキからコンピュータオンライン制御まで
7	1月24日	川方 裕則	助手	巨大災害	モノが壊れる前に何が起こるか？地震に先立つ現象を探す。
8	1月28日	片尾 浩	助教授	地震予知	微小地震は大地の鼓動
9	1月29日	藤田 正治	助教授	水災害	流砂系における土砂問題とその管理
10	1月30日	岩田 知孝	教授	地震災害	1995年兵庫県南部地震と2000年鳥取西部地震の強震動の違い
11	1月31日	畑山 満則	助手	総合防災	情報処理による防災・災害対応活動の支援
12	2月4日	渋谷 拓郎	助教授	地震予知	西日本の地下を地震波で覗く
13	2月5日	千木良 雅弘	教授	地盤災害	山崩れはどこで起こるか
14	2月6日	吹田 啓一郎	助教授	地震災害	鉄骨造建物に見る地震被害の特徴と耐震対策
15	2月7日	田中 聡	助手	総合防災	被災者の証言からみえる世界一阪神・淡路大震災から世界貿易センタービル災害までー
16	2月12日	井合 進	教授	地盤災害	地盤の液状化ー予測と対策
17	2月13日	諸岡 繁洋	助教授	地震災害	構造物の非線形振動と地震応答
18	2月18日	大志万 直人	教授	地震予知	電気と磁気で知る地下の構造
19	2月19日	井上 和也	教授	水災害	都市の水害
20	2月25日	伊藤 潔	教授	地震予知	地震活動は温度で決まる
21	2月26日	牛山 素行	非常勤講師	水災害	豪雨防災情報をめぐる最近の話題
22	2月27日	松波 孝治	助教授	地震災害	地震動と木造建物被害に関する最近の話題
23	2月28日	萩原 良巳	教授	総合防災	京都市市街地における袋小路と震災リスク
24	3月 4日	梅田 康弘	教授	地震予知	大きな地震は、どうやって大きくなるのか
25	3月 5日	寶 馨	教授	水災害	韓国洪水災害について
26	3月 6日	田中 仁史	教授	地震災害	世界の地震被害
27	3月 7日	多々納 裕一	教授	総合防災	災害のリスクマネジメント
28	3月12日	高橋 保	教授	水災害	土石流概論
29	3月13日	澤田 純男	助教授	地震災害	土木構造物の耐震設計基準に関する最近の動向
30	3月14日	林 康裕	助教授	総合防災	近年の建築物地震被害とその教訓
31	3月18日	川崎 一朗	教授	地震予知	サイレント・アースクエイク
32	3月20日	岡田 憲夫	教授	総合防災	市民参加方式による安全なまちづくりのための情報提示・コミュニケーション技術の現状と課題
33	3月26日	戸田 圭一	教授	水災害	2002年のヨーロッパ水害
34	3月27日	入倉 孝次郎	客員教授	地震災害	南海地震によってひき起こされる強い揺れ
35	3月28日	鈴木 祥之	教授	総合防災	木造建物の地震時の揺れと耐震性能

京都会場参加者人数

月別(回数)	官公庁	大学教職員	学生	マスコミ	小中高学校教員	企業・法人	その他	計	平均(人/回)
1月(11回)	8	24	48	1	15	32	18	146	13.3
2月(12回)	10	15	47	2	7	45	14	140	11.7
3月(12回)	17	15	61	7	7	65	9	181	15.1
	35	54	156	10	29	142	41	467	13.3

[平成 15 年度]

回	開催日	講師	役職	所属	フォーラム内容
1	4月1日	大見 士朗	助手	地震予知	ゆっくり揺れる小さな地震の謎 - 内陸の深部低周波地震 -
2	4月2日	小尻 利治	教授	水資源	総合流域管理に向けて一分布型流出モデルの作成
3	4月3日	佐々 恭二	教授	斜面災害	斜面災害研究センター&世界の地すべり
4	4月4日	植田 洋匡	教授	大気災害	人・自然・地球共生プロジェクト「広域水循環の予測と対策技術」
5	4月8日	重富 國弘	助手	地震予知	大地のつぼ：逢坂山の地下水が教えてくれるもの
6	4月9日	友杉 邦雄	助教授	水資源	わが国における異常少雨現象の生起特性と予測
7	4月10日	福岡 浩	助教授	斜面災害	GPSを用いた斜面健康診断法
8	4月11日	岩嶋 樹也	教授	大気災害	大気メタンの話
9	4月15日	飯尾 能久	助教授	地震予知	内陸直下型地震はどうして起きる
10	4月16日	岡 太郎	教授	水資源	水資源としての地下水の役割と課題
11	4月17日	竹内 篤雄	助手	斜面災害	斜面災害と地下水－その調査法－
12	4月18日	丸山 敬	助教授	大気災害	日本における強風災害について
13	4月22日	渡辺 邦彦	助教授	地震予知	鳥取・山崎、活断層を歩く
14	4月23日	浜口 俊雄	助手	水資源	直接観測ことの困難な地下水の管理運用と防災問題
15	4月24日	末峯 章	助教授	斜面災害	四国の結晶片岩地すべり
16	4月30日	城戸 由能	助教授	水資源	水環境と防災（1）
17	5月1日	古谷 元	非常勤講師	斜面災害	地すべり・斜面崩壊を発生させた地下水の流れを知る
18	5月2日	向川 均	助教授	大気災害	天気予報とカオス
19	5月6日	西上 欽也	助教授	地震予知	野島断層の8年間
20	5月7日	竹門 康弘	助教授	水資源	治水と利水の環境リスクを考える1～生態系影響評価の方法
21	5月8日	諏訪 浩	助教授	地盤災害	カラコルム山中で晴天時に土石流が繰り返す。なぜ？
22	5月9日	井口 敬雄	助手	大気災害	大気中における二酸化炭素の収支について
23	5月13日	大谷 文夫	助手	地震予知	花折断層は動いているか
24	5月15日	釜井 俊孝	助教授	地盤災害	住宅地の斜面災害
25	5月16日	堀口 光章	助手	大気災害	雲、降水、風に関する気象観測
26	5月20日	Mori James	教授	地震予知	世界の地震
27	5月22日	三村 衛	助教授	地盤災害	沈み続ける埋立地－大阪湾岸の都市地盤－
28	5月23日	河井 宏允	教授	大気災害	台風にならなくても強風による建物被害発生メカニズムと対策
29	5月28日	田中 賢治	助手	水資源	地表面での水・熱収支の観測とモデル化の現状－陸面過程モデルSiBUCの開発
30	5月29日	王 功輝	助手	斜面災害	地震豪雨時高速長距離運動地すべりに関する水の役割
31	5月30日	石川 裕彦	助教授	大気災害	メソスケール気象と災害
32	6月3日	中村 佳重郎	助手	地震予知	所変われば(時とともに)重力も変わる
33	6月4日	石垣 泰輔	助教授	災害観測	京都周辺の伝統的な水害対策～水や段蔵の効果～
34	6月5日	井口 正人	助教授	火山活動	インドネシアの火山噴火予知
35	6月6日	Kenneth C. Topping	客員教授	巨大災害	都市のリスクマネジメント：災害軽減およびサステナビリティ向上における都市計画
36	6月10日	山下 太	元COE研究員	地震予知	大地にだって電流は流れる ～流れやすさの違いが語るもの～
37	6月11日	澤田 豊明	助教授	災害観測	山から海への石ころの旅
38	6月12日	石原 和弘	教授	火山活動	大規模噴火の予知と火山情報
39	6月13日	矢守 克也	助教授	巨大災害	災害を語り継ぐ－風化と記憶の防災心理学－
40	6月17日	松村 一男	助教授	地震予知	地震を測る
41	6月18日	山下 隆男	助教授	災害観測	沿岸域の気象と波・流れ(1)－大気と海洋と災害と－
42	6月19日	福島 大輔	COE研究員	火山活動	日本全土を襲った超巨大噴火
43	6月20日	田中 孝義	教授	巨大災害	京都と火災－平安～江戸時代－
44	6月24日	竹内 文朗	助教授	地震予知	重力等による断層の浅い部分の探査（山崎、福井）
45	6月25日	林 泰一	助教授	災害観測	沿岸域の気象と波・流れ(2)－台風の話－
46	6月26日	井口 正人	助教授	火山活動	離島火山(国境地帯)の火山活動
47	6月27日	SIDLE, Roy C.	教授	地盤災害	Large versus Small Sediment Disasters: which are most important?

48	7月1日	佐藤 忠信	教授	地震災害	構造物のヘルスマonitoring
49	7月2日	加藤 茂	助手	災害観測	沿岸域の気象と波・流れ (3) コンピューターで再現できるの？
50	7月3日	間瀬 肇	助教授	水災害	沖から来る海の波の変形
51	7月4日	竹門 康弘	助教授	水資源	治水と利水の環境リスクを考える (2) 生態系復元の考え方
52	7月8日	森井 互	助手	地震予知	トンネルの中で感じる大地の息吹
53	7月9日	芹沢 重厚	助手	災害観測	沿岸域の気象と波・流れ (4) 気象海象観測
54	7月10日	吉岡 洋	助手	水災害	大阪湾の底泥の巻き上がり
55	7月11日	荒木時彦	助手	大気災害	近畿南部の地殻活動
56	7月15日	尾上 謙介	助手	地震予知	近畿南部の地殻活動
57	7月16日	上野 鉄男	助手	災害観測	余笹川の1998年の水害と治水対策について
58	7月17日	立川 康人	助教授	水災害	洪水を予測する
59	7月18日	中川 一	教授	災害観測	都市と水害
60	7月22日	吉村 令慧	助手	地震予知	地球内部の電気的性質を推定する観測とモデリングの現状
61	7月23日	武藤 裕則	助手	災害観測	環境防災学事始～水制の役割～
62	7月24日	児島 利治	助手	水災害	衛星から見た2002年韓国洪水災害
63	7月25日	柳谷 俊	助教授	地震予知	地震と岩盤を調べる、はかる
64	7月29日	徐 培亮	助手	地震予知	全地球測位システム (GPS) : 日常生活から防災まで
65	7月30日	河田 恵昭	教授	巨大災害	南海地震について
66	7月31日	高山 知司	教授	水災害	沿岸に発生する長周期波の特性とその対策
67	9月2日	吉富ポール	COE研究員	巨大災害	危機管理分野でのGISの活用
68	9月3日	岡田 憲夫	教授	総合防災	防災のためのリスクマネジメント・事始め
69	9月4日	多々野 裕一	教授	総合防災	フランスにおける自然災害保険
70	9月5日	長江剛志	助手	総合防災	証券市場を活用した災害リスクファイナンス
71	9月9日	岩田 知孝	教授	地震災害	地震の大きさと地震動の大きさ
72	9月10日	田中 仁史	教授	地震災害	鉄筋コンクリート建物の耐震設計および免震構造
73	9月11日	澤田純男	助教授	地震災害	トルコ・アダバザルの地盤構造と地震被害
74	9月12日	松波孝治	助教授	地震災害	地盤の違いによる地震の揺れの強さ
75	9月16日	橋本 学	教授	地震予知	最近の日本列島の地殻活動解説
76	9月17日	川崎 一朗	教授	地震予知	宮城県沖地震震源域周辺のテクトニクス
77	9月18日	西村 宗	大大特研究員	地震予知	1996年日向灘地震と西南日本のテクトニクス
78	9月19日	大見 士朗	助手	地震予知	2001年芸予地震とフィリピン海スラブ
79	9月24日	堤 大三	助手	地盤災害	斜面土層内のプレファレンシャルフローのモデル化斜面安定への影響への検討
80	9月25日	斎藤隆志	助手	地盤災害	南極氷床深層掘削計画に参加して
81	9月26日	諏訪 浩	助教授	地盤災害	がけ崩れでなぜ命を落とすのか、がけ崩れにも前兆がある
82	9月30日	戸田 圭一	教授	水災害	身近な川の恐ろしさ-キャンプ場や地下街も危ないの-
83	10月1日	間瀬 肇	助教授	水災害	人工生命ニューラルネットワークの応用
84	10月2日	吉岡 洋	助手	水災害	風波砕波による気泡の取り込みについて
85	10月3日	立川 康人	助教授	水災害	洪水から街を守るための計画について
86	10月7日	山下 隆男	助教授	災害観測	高潮の発生機構と数値予知-高潮観測から得られた新たな知見と最新の数値モデル-
87	10月8日	仁木 将人	COE研究員	災害観測	沿岸海域環境システムとそのモデリング
88	10月9日	佐々 真志	JSPP特別研究員	災害観測	水際不飽和地盤のダイナミクス
89	10月10日	Rahman, Munsu	外国人研究者	災害観測	WATER RELATED DISASTERS IN BANGLADESH
90	10月14日	田中 賢治	助手	水資源	詳細な大気陸面結合モデルの開発-現状と課題
91	10月15日	池淵 周一	教授	水資源	地球温暖化と水災害シナリオ
92	10月16日	大石 哲	非常勤講師	水資源	身近な防災問題としての気候変動
93	10月17日	坪木 和久	客員助教授	水資源	集中豪雨のメカニズムとその予測
94	10月21日	立木 茂雄	客員教授	巨大災害	防災と市民力
95	10月23日	近藤 民代	COE研究員	巨大災害	災害対応業務の現行計画の問題点と改善方策-IDEF0手法およびフローチャート手法を用いた災害対応業務の分析を通して-
96	10月24日	水越 薫	客員助教授	巨大災害	企業を対象とした地震リスクマネジメントの方法と課題
97	10月28日	渋谷 拓郎	助教授	地震予知	2000年鳥取県西部地震前後の地震活動と地殻構造

98	10月29日	野口 竜也	助手	地震予知	山陰地方の微細地殻構造
99	10月30日	吉村 令慧	助手	地震予知	鳥取県西部地震震源域の比抵抗構造
100	10月31日	渡辺 邦彦	助教授	地震予知	山陰の地震観測：防災に向けた地域との連携
101	11月4日	為栗 健	助手	火山活動	桜島火山における爆発的噴火の発生メカニズム
102	11月5日	山本 圭吾	助手	火山活動	桜島火山の噴火活動に伴う地盤変動・重力変動
103	11月6日	神田 径	助手	火山活動	地磁気観測からわかる火山の状態
104	11月7日	末喜 大介	助手	火山活動	火山学と考古学 一時間の目盛一
105	11月11日	末峯 章	助教授	斜面災害	地すべり現地調査の話
106	11月12日	竹内 篤雄	助手	斜面災害	温度と電気を使って地下水を診断する
107	11月13日	佐々 恭二	教授	斜面災害	築館と水俣の突発災害調査
108	11月14日	福岡 浩	助教授	斜面災害	地すべりの移動観測技術と善徳地すべりの超長期精密観測
109	11月18日	安國 良一	客員教授	巨大災害	京の災害絵図・瓦版を読む
110	11月19日	秋月 有紀	派遣研究員	巨大災害	災害時の避難誘導等に関する標識の視認性 -大邱地下鉄火災事故現場における標識の見えを事例として-
111	11月20日	久貝 智洋	COE研究員	巨大災害	災害資料データベースの構築に向けて
112	11月21日	野田 隆	非常勤講師	巨大災害	防災情報システムを考える
113	11月25日	萩原 良巳	教授	総合防災	淀川水循環圏における震災リスク軽減
114	11月26日	畑山 満則	助手	総合防災	震災時の避難行動を考慮した空間とその配置の評価
115	11月27日	鈴木 祥之	教授	総合防災	伝統木造建物の振動実験と耐震性
116	11月28日	林 康裕	助教授	総合防災	建物の耐震設計で考えている地震動の強さ
117	12月2日	中島 正愛	教授	地震災害	「免震（めんしん）」の仕組みと応用
118	12月3日	本田 利器	助手	地震災害	不確かな地盤での地震動の不確かさを評価する
119	12月4日	佐藤 忠信	教授	地震災害	都市基盤施設のライフサイクルコストの評価とその応用
120	12月5日	吹田 啓一郎	助教授	地震災害	低コストで地震に強い建物を目指して
121	12月9日	橋本 学	教授	地震予知	今、なぜ南海地震か？
122	12月10日	大志万 直人	教授	地震予知	電磁気でわかる西日本の地下構造
123	12月11日	梅田 康弘	教授	地震予知	地下水が教える南海地震の発生
124	12月16日	丸山 敬	助教授	大気災害	ビル風はどうやって予測するか？
125	12月17日	堀口 光章	助手	大気災害	地表近くの大気の流れ
126	12月18日	塩竈 秀夫	COE研究員	大気災害	ジェット気流と低気圧
127	12月19日	寺尾 徹	非常勤講師	大気災害	アジアの季節風とチベット・バングラデシュでの観測
128	12月24日	藤田 正治	助教授	水災害	魚類にとって排砂とは？
129	12月25日	児島 利治	助手	水災害	衛星画像でみる豪雨災害・山地災害
130	12月26日	高山 知司	教授	水災害	高潮の正確な推定法と対策
131	1月6日	澤田 豊明	助教授	災害観測	中国の土石流と人々の暮らし
132	1月7日	宮本 順司	教務補佐員	災害観測	水中堆積物のダイナミクスー液状化土塊の高速流動と凝固
133	1月8日	村田 文絵	非常勤研究員	災害観測	熱帯アジアでの気象観測
134	1月9日	馬場 康之	助手	災害観測	沿岸域の流れに関する現地観測、水理模型実験
135	1月13日	竹門 康弘	助教授	水資源	外来生物による災害と対応策
136	1月14日	城戸 由能	助教授	水資源	水環境と防災（2）
137	1月15日	開発 一郎	客員教授	水資源	地上・衛星から観る土壌水分
138	1月16日	浜口 俊雄	助手	水資源	防災に関する計算モデルの定め方と諸問題 一逆さまのアプローチ
139	1月20日	片尾 浩	助教授	地震予知	兵庫県南部地震の前震・本震・余震・誘発地震
140	1月21日	大谷 文夫	助手	地震予知	兵庫県南部地震前後の地殻変動
141	1月22日	西上 欽也	助教授	地震予知	兵庫県南部地震震源域周辺の構造
142	1月23日	儘田 豊	大大特研究員	地震予知	断層を地震波で探る
143	1月27日	浦川 豪	COE研究員	巨大災害	災害対応におけるGISの活用
144	1月28日	田中 聡	助手	総合防災	NY世界貿易センター地区再建に向けた合意形成過程ー5000人のワークショップとその舞台裏ー
145	1月29日	宮澤 理稔	助手	地震予知	地震波でわかる地殻の活動
146	1月30日	飯尾 能久	助教授	地震予知	兵庫県南部地震はなぜ起きたか？
147	3月2日	畑山 満則	助手	総合防災	地域防災：コミュニティと情報共有
148	3月3日	萩原 良巳	教授	総合防災	インド・バングラデシュの環境災害
149	3月4日	清水 秀丸	COE研究員	総合防災	木造建物の振動実験結果から見る耐震性能評価
150	3月5日	岡田 憲夫	教授	総合防災	災害に対する地域の備えの能力としてみたコミュニティのリスクマネジメント

151	3月10日	寺石 眞弘	助手	地震予知	日向灘における地震活動と地殻変動観測
152	3月11日	許斐 直	助手	地震予知	中央構造線の「活断層評価」について―徳島の地からの発言―
153	3月12日	竹内 文朗	助教授	地震予知	福井地震から半世紀
154	3月16日	岩田 知孝	教授	地震災害	長周期地震動
155	3月17日	P. Chusilp	COE研究員	地震災害	Seismic Resistance and Damage Control of Weld-Free Steel Structures
156	3月18日	入倉 孝次郎	客員教授	地震災害	地震の震源像と強震動予測研究 ―到達点とその課題―
157	3月19日	松波 孝治	助教授	地震災害	近畿圏強震動データの統合化とその活用に向けて
158	3月24日	竹門 康弘	助教授	水資源	河口堰が河川下流域の環境と魚類群集に与える影響
159	3月25日	小尻 利治	教授	水資源	ダム貯水池操作支援システムについて
160	3月26日	友杉 邦雄	助教授	水資源	ダム貯水池操作における水文気象予測情報の活用法
161	3月30日	児島 利治	助手	水災害	洪水流出モデル構築におけるGISの利用
162	3月31日	立川 康人	助教授	水災害	洪水流出予測手法の基礎

京都会場参加者人数

月別(回数)	官公庁	大学教職員	学生	マスコミ	小中高等学校教員	企業・法人	その他	計	平均(人/回)
4月(16回)	8	30	37	2	3	66	23	169	10.6
5月(15回)	12	46	31	0	8	51	26	174	11.6
6月(16回)	2	46	57	0	6	36	15	162	10.1
7月(19回)	11	27	52	3	6	39	23	161	8.5
9月(16回)	8	18	52	1	1	35	17	132	8.3
10月(18回)	10	31	54	1	1	27	11	135	7.5
11月(16回)	8	9	21	0	4	53	17	112	7.0
12月(14回)	22	23	50	3	7	27	10	142	10.1
1月(16回)	3	29	19	0	13	13	19	96	6.0
3月(16回)	31	38	50	2	6	83	20	230	14.4
	115	297	423	12	55	430	181	1513	9.3

[平成 16 年度]

回	開催日	講師	役職	所属	フォーラム内容
1	4月1日	寶 馨	教授	水災害研究部門	「緑のダム」の洪水調節効果について
2	4月2日	藤田 正治	助教授	水災害研究部門	山地の土砂移動をモニタリングする
3	4月6日	石垣 泰輔	助教授	災害観測実験センター	京都周辺における伝統的な水害対策（2）－桂川中流域・亀岡市における調査－
4	4月7日	加藤 茂	助手	災害観測実験センター	大潟海岸における冬季気象・海象観測（主に大潟波浪観測所観測栈橋を援用した観測について）
5	4月8日	林 泰一	助教授	災害観測実験センター	バングラデシュのサイクロン、洪水、竜巻
6	4月9日	山下 隆男	助教授	災害観測実験センター	インドネシア、西カリマンタン、カプアス川流域・海岸系の物質輸送（1）－水銀汚染の実態－
7	4月13日	篠原 宏志	非常勤講師	火山活動研究センター	三宅島：2000年の火山活動と火山ガス
8	4月14日	福島 大輔	COE研究員	火山活動研究センター	火山と共生するまちづくり ―地域をまるごと博物館とする試み―
9	4月15日	森 健彦	元COE研究員	火山活動研究センター	二酸化硫黄放出量計測器（DOAS）の開発と実践
10	4月16日	石原 和弘	教授	火山活動研究センター	火山のハザードマップ：「ハザードマップは安全情報」
11	4月20日	矢守 克也	助教授	巨大災害研究センター	神戸の知恵を形に――震災人材バンクの調査から――
12	4月21日	林 春男	教授	巨大災害研究センター	率先市民主義
13	4月22日	吉川 肇子	非常勤講師	巨大災害研究センター	防災ゲーム入門（その1）
14	4月23日	林 勲男	客員教授	巨大災害研究センター	パプアニューギニア津波災害：人道・復興支援と被災者の生活再建
15	4月27日	柳谷 俊	助教授	地震予知研究センター	間隙弾性理論と地下水－水と岩盤のうるわしい関係－
16	4月28日	伊藤 潔	教授	地震予知研究センター	近畿地方の地下構造と地震活動
17	4月30日	橋本 学	教授	地震予知研究センター	Δ C F F
18	5月6日	向川 均	助教授	大気災害研究部門	ストームトラックの科学
19	5月7日	丸山 敬	助教授	大気災害研究部門	宮古島を襲った台風0314号の被害から学ぶこと
20	5月11日	佐々恭二	教授	斜面災害研究センター	大都市圏での地震・豪雨による斜面災害を防ぐために
21	5月12日	福岡 浩	助教授	斜面災害研究センター	世界の高速長距離土砂流動現象
22	5月13日	井合 進	教授	地盤災害研究部門	液状化と地盤情報
23	5月14日	諏訪 浩	助教授	地盤災害研究部門	1984年長野県西部地震による御岳大崩壊と岩屑なだれ
24	5月18日	田中哮義	教授	巨大災害研究センター	地震と火災
25	5月19日	河田恵昭	教授	巨大災害研究センター	広域災害の危機管理について
26	5月20日	原田賢治	COE研究員	巨大災害研究センター	海岸林の津波減災効果について
27	5月21日	川方裕則	助手	巨大災害研究センター	石を壊しながら地震を考える
28	5月25日	多々納裕一	教授	総合防災研究部門	存続可能性を考慮した地震保険設計に関する考察
29	5月26日	林 康裕	助教授	総合防災研究部門	京町家は地震に大丈夫か？（その1）京町家の揺れ方
30	5月27日	鈴木祥之	教授	総合防災研究部門	京町家は地震に大丈夫か？（その2）京町家の構造と耐震調査
31	5月28日	田中 聡	助手	総合防災研究部門	フィリピンにおける実大住宅破壊実験
32	6月1日	佐藤忠信	教授	地震災害研究部門	地盤の液状化・流動過程のシミュレーション技術に関する最近の話題

33	6月2日	田中仁史	教授	地震災害研究部門	鉄筋コンクリート造建物の耐震性能評価法の最近の動向
34	6月3日	澤田純男	助教授	地震災害研究部門	京都市域の強震動予測
35	6月4日	本田利器	助手	地震災害研究部門	地震波の合成～時間特性と周波数特性はどちらも大事～
36	6月8日	MORI, James Jiro	教授	地震予知研究センター	カルフォルニア・ノースリッジ地震、阪神淡路大震災発生から10年ー地震学の研究における変化ー
37	6月9日	松村一男	助教授	地震予知研究センター	「地震活動の時系列」
38	6月10日	森井 互	助手	地震予知研究センター	地殻変動連続観測が測っているもの
39	6月11日	中村佳重郎	助手	地震予知研究センター	重力の経年変化について
40	6月15日	河井 宏允	教授	大気災害研究部門	風荷重基準と耐風設計
41	6月16日	石川 裕彦	助教授	大気災害研究部門	大気陸面間のエネルギー交換と境界層乱流
42	6月17日	植田 洋匡	教授	大気災害研究部門	西アジアの水循環の動態と対策技術
43	6月18日	井口 敬雄	助手	大気災害研究部門	数値モデルを用いた大気中二酸化炭素収支の研究
44	6月22日	城戸由能	助教授	水資源研究センター	水道水中の有害物質
45	6月23日	浜口俊雄	助手	水資源研究センター	地下ダム設計のための地下水流動シミュレーション ～疑似三次元解析手法の紹介～
46	6月24日	田中賢治	助手	水資源研究センター	農地灌漑を考慮した全球土壌水分分布の推定
47	6月25日	池淵周一	教授	水資源研究センター	健全な水循環系への転換
48	6月29日	堤 大三	助手	水災害研究部門	斜面での根系成長と土壌水分に関する検討
49	6月30日	高山 知司	教授	水災害研究部門	台風0314号による韓国高潮災害の教訓
50	7月1日	間瀬 肇	助教授	水災害研究部門	日本の海岸と災害
51	7月2日	戸田 圭一	教授	水災害研究部門	地下浸水を追ってー京都から博多までー
52	7月7日	澤田豊明	助教授	災害観測実験センター	流砂を観る
53	7月8日	山下隆男	助教授	災害観測実験センター	沿岸域での防災と環境保全（1）まちづくりを基盤とした津波防災と環境保全
54	7月9日	根田昌典	助手	災害観測実験センター（京都大学大学院理学研究科水圏地球物理学）	海洋変動のリモートセンシング
55	7月13日	三村 衛	助教授	地盤災害研究部門	京都盆地の地盤と災害耐力～あなたはどんな地盤に住んでいるのか～
56	7月14日	斎藤隆志	助手	地盤災害研究部門	南極氷床氷縁部における消耗観測の展開
57	7月15日	釜井俊孝	助教授	地盤災害研究部門	古墳が語る災害史
58	7月16日	飛田哲男	助手	地盤災害研究部門	2003年12月26日イラン・バム地震被害調査報告
59	7月20日	尾上 謙介	助手	地震予知研究センター	大地の” ゆがみ ” を測る
60	7月21日	重富 國宏	助手	地震予知研究センター	資料・証言にみる昭和・安政南海地震前の井水涸れ
61	7月22日	徐 培亮	助手	地震予知研究センター	測地手法で地球の変動を測る：伝統的な技術からSpace Technologyまで
62	7月23日	西上 欽也	助教授	地震予知研究センター	活断層調査の最新トピックス
63	7月27日	秋月有紀	派遣研究員	巨大災害研究センター（立命館大学COE推進機構客員研究員）	美しくかつ災害時に役立つサイン計画

64	7月28日	田村圭子	研究員	巨大災害研究センター	ステークホルダー参画型「防災戦略計画」策定手法
65	7月29日	浦川 豪	COE研究員	巨大災害研究センター	マルチハザード社会の安全・安心を守るためのGISの活用方策-Enterprise GISを基盤としたCombat GIS-
66	7月30日	樋本圭佑	特別研究員	巨大災害研究センター	延焼シミュレーションに基づく高山市三町伝建地区の防火性能評価
67	9月1日	岩嶋 樹也	教授	大気災害研究部門	オゾンをめぐる問題：これからの紫外線と光化学スモッグ
68	9月2日	堀口 三章	助手	大気災害研究部門	乱流の組織構造
69	9月3日	丸山 敬	助教授	大気災害研究部門	強風による屋根の被害について
70	9月8日	橋本 学	教授	附属地震予知研究センター	近畿地方の地殻変動：明治から平成
71	9月9日	片尾 浩	助教授	附属地震予知研究センター	丹波山地における最近の微小地震活動の静穏化
72	9月10日	森井 互	助手	附属地震予知研究センター	近畿地方の地殻変動：GPSでは検出できない微小歪
73	9月14日	友杉邦雄	助教授	附属水資源研究センター	中小河川における豪雨出水の予測について
74	9月15日	野沢 徹	客員助教授：国立環境研究所大気圏環境研究領域主任研究員	附属水資源研究センター	温暖化予測研究の現状
75	9月16日	大石 哲	非常勤講師：山梨大学大学院医学工学総合研究部社会システム工学系助教授	附属水資源研究センター	GPSを用いた水蒸気変動解析
76	9月17日	安藤 朝夫	客員教授：東北大学大学院情報科学研究科教授	附属水資源研究センター	地球温暖化問題と経済モデルのインターフェイス
77	9月21日	田村 修次	助教授	地震災害研究部門	地盤の液状化と建築基礎に作用する地震時土圧
78	9月22日	吹田啓一郎	助教授	地震災害研究部門	実在する鉄骨建物の品質と耐震性能の実証実験
79	9月28日	矢守克也	助教授	附属巨大災害研究センター	防災ゲーム入門（その2）
80	9月29日	原 武士	教務補佐員	附属巨大災害研究センター	高精度三次元データを用いた崩壊危険斜面に関するハザードマップの簡易的作成手法の開発－新砂防法を考慮した京都市におけるケーススタディー－
81	9月30日	吉富 望	研究員	附属巨大災害研究センター	災害と危機管理におけるGISの利用
82	10月5日	多田泰之	COE研究員	水災害研究部門	土層中に発達したパイプと斜面の安定性
83	10月6日	牛山素行	非常勤講師：東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター	水災害研究部門	2004年新潟豪雨の特徴と2004年の各地の豪雨災害に見られる課題
84	10月7日	立川康人	助教授	水災害研究部門	2004年7月福井豪雨に関する速報と解決すべき課題
85	10月8日	川池健司	非常勤講師：長崎大学工学部助手	水災害研究部門	都市域の浸水予測について
86	10月12日	道奥康治	非常勤講師：神戸大学工学部教授	災害観測実験センター	ダム貯水池の体内検診：水質汚濁の謎解きと対症療法
87	10月13日	上野鉄男	助手	災害観測実験センター	水害と土地利用のあり方を考える — 余笹川の1998年水害の教訓 —
88	10月14日	関口秀雄	教授	災害観測実験センター	不飽和盛土斜面における熱・水分移動の実態に迫る
89	10月15日	中川 一	教授	災害観測実験センター	流域土砂管理の一方策

90	10月19日	千木良雅弘	教授	地盤災害研究部門	豪雨による表層崩壊のメカニズムー岩石の風化 帯とその中の浸透水の挙動ー
91	10月21日	SIDLE, Roy C.	教授	地盤災害研究部門	The problems of roads and trails in the mountains;examples from Southeast Asia
92	10月22日	諏訪 浩	助教授	地盤災害研究部門	山くずれと流砂ー十津川流域の現在ー
93	10月27日	渋谷拓郎	助教授	地震予知研究センター	山崎断層, 29年間の地震活動ー地震の予測に向けて, 地震活動からのアプローチー
94	10月28日	大見士朗	助手	地震予知研究センター	北アルプス脊梁部の地震と火山
95	11月2日	末峰 章	助教授	斜面災害研究センター	山地地下水の実態
96	11月4日	汪 発武	助手	斜面災害研究センター	地すべり運動範囲予測
97	11月5日	王 功輝	助手	斜面災害研究センター	高速長距離運動地すべりにおける液状化現象
98	11月9日	多々納 裕一	教授	総合防災研究部門	総合的な水害リスクマネジメントについて
99	11月10日	岡田 憲夫	教授	総合防災研究部門	21世紀型防災計画への挑戦と参加型適用型アプローチの役割
100	11月11日	畑山 満則	助手	総合防災研究部門	時空間地理情報システムを基盤とする地域情報の管理と災害時での利用に関する考察
101	11月12日	林 康裕	助教授	総合防災研究部門	来るべき大地震に対する建築物の安全性と備え
102	11月17日	野田 隆	非常勤講師	巨大災害研究センター	災害時における自治体対応の組織的編制について
103	11月18日	立木 茂雄	客員教授	巨大災害研究センター	災害時の緊急対策本部と自主防災組織・ボランティアとの協働
104	11月19日	Robert Olshansky	客員教授	巨大災害研究センター	Rebuilding communities after Earthquakes-what we can do now-
105	11月24日	佐藤忠信	教授	地震災害研究部門	構造物を耐震設計するための地震動はどのようにして作られているか
106	11月25日	岩田知孝	教授	地震災害研究部門	長周期地震動 (その2)
107	11月26日	松波孝治	助教授	地震災害研究部門	局所的に変わる地震被害分布と表層地盤の性質
108	11月30日	吉村 令慧	助手	地震予知研究センター	地下の電氣的構造を調べるー花折・琵琶湖西岸断層系周辺を例としてー
109	12月1日	大志万 直人	教授	地震予知研究センター	電磁気で見る地震の巣
110	12月2日	大谷 文夫	助手	地震予知研究センター	伸縮計でみる地震発生ー断層の動きとひずみステップ
111	12月3日	梅田 康弘	教授	地震予知研究センター	紀伊半島南東沖の地震と南海トラフの巨大地震
112	12月7日	須藤靖明	京都大学理学研究科研究科助教授	火山活動研究センター	火山活動と文学作品
113	12月8日	井口 正人	助教授	火山活動研究センター	火山のレントゲン写真
114	12月10日	石原 和弘	教授	火山活動研究センター	地形図にみる火山災害と集落の変遷
115	12月14日	齋藤 隆志	助手	地盤災害研究部門	安定同位体手法による山地斜面の水循環調査
116	12月15日	AYELE, Tewodros Taddese	研究員	地盤災害研究部門	Shear behaviour of decomposed granite soil: The case of Takarazuka Landslide
117	12月16日	釜井 俊孝	助教授	地盤災害研究部門	埋もれる都市の地盤防災
118	12月17日	飛田 哲男	助手	地盤災害研究部門	地盤の液状化と構造物被害
119	12月21日	藤原 洋一	JST/CREST研究員	水資源研究センター	気候変動による流域水資源への影響について
120	12月22日	茂木 耕作	COE研究員	水資源研究センター	積乱雲の発達に対する陸面過程の影響ー都市の存在は雨を強めるか?ー
121	12月24日	中北 英一	教授	水資源研究センター	温暖化, 都市化と異常降雨ー何がどこまでわかっているのか, これからどう考えればよいのかー
122	1月6日	安田誠宏	助手	水災害研究部門	津波の越流氾濫と地下空間への浸入

123	1月7日	高山知司	教授	水災害研究部門	高潮・高波災害の現状と問題
124	1月11日	穂積 祐	COE研究員	大気災害研究部門	海洋性砂漠の緑地化による影響評価
125	1月12日	西村 宏昭	非常勤講師	大気災害研究部門	台風の強風による建築物・工作物の被害
126	1月13日	向川 均	助教授	大気災害研究部門	異常気象とブロッキング
127	1月14日	石川 裕彦	助教授	大気災害研究部門	数値気象モデルを用いた気象災害の研究
128	1月25日	水越 熏	客員助教授	巨大災害研究センター	企業の地震リスクマネジメントー震災による事業中断損失の評価と対策の最適化ー
129	1月26日	藤吉 洋一郎	非常勤講師	巨大災害研究センター	防災から減災へ
130	1月27日	鈴木 進吾	特別研究員	巨大災害研究センター	津波防災対策の不確定性と減災効果の評価手法
131	1月28日	安國 良一	客員教授	巨大災害研究センター	1 7 8 8 京都大火災
132	3月1日	竹門康弘	助教授	水資源研究センター	ダムが下流域生態系に与える影響
133	3月2日	城戸由能	助教授	水資源研究センター	平常時と緊急時に利用可能な都市の水資源
134	3月3日	浜口俊雄	助手	水資源研究センター	サウジアラビア南西部の水資源開発の可能性 ～その1～
135	3月4日	田中賢治	助手	水資源研究センター	数値気象モデルによる日本の降雨分布の再現性（1）
136	3月8日	竹内文朗	助教授	地震予知研究センター	北陸地方の小さい地震
137	3月9日	小林知勝	非常勤研究員	地震予知研究センター	地震波で火山活動をみる～2000年三宅島火山活動を通して～
138	3月10日	廣瀬一聖	非常勤研究員	地震予知研究センター	地震・火山噴火に先立つ現象を地殻変動記録から探る
139	3月11日	重富國宏	助手	地震予知研究センター	逢坂山観測所における地殻変動連続観測
140	3月15日	澤田純男	教授	地震災害研究部門	2004年紀伊半島沖地震から得た教訓
141	3月16日	田中仁史	教授	地震災害研究部門	地震と津波：日本の場合
142	3月17日	本田利器	助手	地震災害研究部門	スマトラ地震 バンダアチェ調査速報
143	3月18日	WEITZMANN Reudiger	特別研究員	地震災害研究部門	Design of base isolated structures using simplified and optimization strategies
144	3月22日	立川康人	助教授	水災害研究部門	平成16年福井豪雨災害が与えた課題と得られた教訓
145	3月23日	堤 大三	助手	水災害研究部門	豪雨による斜面崩壊と土壌水移動について
146	3月24日	安田誠宏	助手	水災害研究部門	スマトラ地震による津波被害の現地調査報告
147	3月25日	間瀬 肇	助教授	水災害研究部門	高潮・高波の数値解析手法と技術
148	3月29日	河井宏允	教授	大気災害研究部門	平成16年の強風災害の特徴と教訓
149	3月30日	堀口光章	助手	大気災害研究部門	中立に近い安定度の大气境界層における乱流構造の観測
150	3月31日	井口敬雄	助手	大気災害研究部門	大気中における二酸化炭素濃度変動の研究への植生モデルの応用

京都会場参加者人数

月別（回数）	官公庁	大学教職員	学生	マスコミ	小中高等学校教員	企業・法人	その他	計	平均（人／回）
4月（17回）	20	15	19	4	6	30	24	118	6.9
5月（14回）	8	27	51	14	2	44	68	214	15.3
6月（18回）	9	21	76	22	0	30	24	182	10.1
7月（17回）	20	29	31	20	0	26	27	153	9.0
9月（15回）	12	17	26	14	1	24	15	109	7.3
10月（13回）	7	21	51	3	4	28	20	134	10.3
11月（14回）	26	7	42	11	1	18	25	130	9.3
12月（13回）	5	11	42	3	8	21	12	102	7.8
1月（10回）	7	11	16	10	4	14	13	75	7.5
3月（19回）	6	21	31	9	8	28	23	126	6.6
	120	180	385	110	34	263	251	1343	9.0

10.5.2 防災研究所フォーラム 東京会場開催一覧

[平成 14 年度]

回	開催日	講師	役職	所属	フォーラム内容
1	1月7日	河田 恵昭	教授	巨大災害	21世紀COEプログラムの目指すところ
2	1月21日	岡田 憲夫	教授	総合防災	時代が求める防災とリスクマネジメントとの融合
3	2月4日	飯尾 能久	助教授	地震予知	西南日本における大地震の発生予測へ向けてー南海・東南海地震および内陸大地震ー
4	2月18日	高山 知司	教授	水災害	防波堤の被災とその原因
5	3月4日	佐藤 忠信	助教授	地震災害	設計用地震動の位相特性のモデル化に関する最近の話題
6	3月18日	三村 衛	助教授	地盤災害	都市地盤情報データベースと防災への活用

東京会場参加者人数

	官公庁	大学教職員	学生	マスコミ	小中学校教員	企業・法人	その他	計	平均(人/回)
参加者数	69	8	2	16	0	193	11	299	49.8

[平成 15 年度]

回	開催日	講師	役職	所属	フォーラム内容
7	4月1日	林 春男	教授	巨大災害	WTC災害の教訓
8	4月15日	佐々 恭二	教授	地盤災害	斜面災害研究センター新設と国際斜面災害研究計画の推進
9	5月6日	橋本 学	教授	地震予知	「東海・南海地震」を考える
10	5月20日	入倉 孝次郎	教授	地震災害	地震災害軽減のための強震動予測ー強震動予測レシピの考え方ー
11	6月3日	井上 和也	教授	水災害	都市の水害について
12	6月17日	岡 太郎	教授	水資源	都市化に伴う水害危険度の増大と対策
13	7月15日	植田 洋匡	教授	大気災害	広域水循環予測と対策技術の高度化
14	9月2日	井合 進	教授	地盤災害	本格化するグローバルスタンダード時代の中での地盤地震災害への取り組み
15	9月16日	石原和弘	教授	火山活動	火山の噴火予知と火山情報
16	10月7日	河井宏充	教授	大気災害	日本における強風災害の実態と対策について
17	12月2日	大志万直人	教授	地震予知	電気と磁気で知る地下の構造
18	12月16日	中川 一	教授	災害観測	土砂災害ー発生のメカニズムと対策ー
19	1月6日	関口 秀雄	教授	災害観測	液状化土の物理：安全な水際空間を目指して
20	1月20日	川崎 一朗	教授	地震予知	地震直前予知は可能か？：サイレント地震の視点からの最近の成果と展望
21	3月2日	千木良 雅弘	教授	地盤災害	斜面崩壊発生場の予測ー地質と地形からのハザードマップ作成に向けてー
22	3月16日	MORI, James Jiro	教授	地震予知	カルフォルニア・ノースリッジ地震、阪神淡路大震災発生から10年ー地震学の研究における変化ー

東京会場参加者人数

	官公庁	大学教職員	学生	マスコミ	中高等学校教員	企業・法人	その他	計	平均(人/回)
参加者数	74	9	3	19	0	299	11	415	25.9

[平成 16 年度]

回	開催日	講師	役職	所属	フォーラム内容
23	6月1日	水越 熏	客員助教授	巨大災害	企業における地震リスクマネジメントの現状と課題
24	6月15日	広瀬 弘忠	運営協議会委員	巨大災害	災害時の人間心理と行動
25	7月20日	Sidle C. Roy	教授	地盤災害	Interactions of Land Use and Sediment Hazards - Alaska to Southeast Asia-
26	9月21日	中島 正愛	教授	地震災害	耐震技術のグローバル化と日本の将来戦略
27	10月5日	寶 馨	教授	水災害	山林の洪水調節機能に関する流域水文学的検討ー「緑のダム」はどの程度効果があるかー
28	10月19日	戸田 圭一	教授	水災害	都市水害とその予測
29	11月2日	萩原 良巳	教授	総合防災	京都の袋小路と震災リスク
30	12月7日	多々納 裕一	教授	総合防災	災害リスク情報の伝達：現状と課題
31	12月21日	岩嶋 樹也	教授	大気災害	メタンをめぐる問題：人間活動と大気メタン
32	1月18日	伊藤 潔	教授	地震予知	地震発生と地下構造
33	3月1日	鈴木 祥之	教授	総合防災	木造建物の耐震技術について
34	3月15日	田中 哮義	教授	巨大災害	地震火災の延焼予測モデルについて

東京会場参加者人数

	官公庁	大学教職員	学生	マスコミ	小中高等学校教員	企業・法人	その他	計	平均(人/回)
参加者数	9	10	18	5	0	125	14	181	15.1

10.6 防災研究所全国共同研究一覧

表 10.6.1 特定共同研究

課題番号	研究課題(プロジェクト)名	研究代表者	所内担当者	年度	旅 費 (円)	研究費 (円)	参加 人数
13P-1	防災のためのデジタル・ミュージアムの構築	林 春男(京都大学 防災研究所)		13	860,000	530,000	15
				14	670,000	520,000	
				15	650,000	500,000	
13P-2	南海トラフと中央構造線における歪配分の解明に関する研究	田部井隆雄(高知大学 理学部)	橋本 学 大谷文夫	13	940,000	470,000	16
				14	730,000	480,000	
				15	820,000	500,000	
14P-1	耐震基準統合化に対するわが国の戦略と基盤整備	中島正愛(京都大学 防災研究所)	吹田啓一郎	14	710,000	490,000	18
				15	800,000	500,000	
14P-2	都市域における氾濫災害危険度評価法の研究開発	高山知司(京都大学 防災研究所)	間瀬 肇 中川 一 戸田圭一 吉岡 洋	14	690,000	510,000	21
				15	750,000	500,000	
				16	780,000	550,000	
15P-1	伝染性疾患の流行と気候・気象および気象災害の関係に関する統計的研究	林 泰一(京都大学 防災研究所)		15	400,000	500,000	8
				16	470,000	670,000	
15P-2	大都市圏の地震時斜面災害危険度評価法の研究開発	佐々恭二(京都大学 防災研究所)		15	680,000	500,000	12
				16	750,000	500,000	
16P-1	光ファイバーネットワークを利用した準リアルタイム水防災技術に関する共同研究	中川 一(京都大学 防災研究所)		16	470,000	580,000	18
16P-2	防災性と文化性を備えた木造都市創出の実践的方法論に関する研究	田中孝義(京都大学 防災研究所)		16	620,000	500,000	8

表 10.6.2 一般共同研究

課題番号	研究課題(プロジェクト)名	研究代表者	所内担当者	年度	旅 費	研究費	参加 人数
13G-1	平常時及び非常時における消火用水を考慮した下水処理水の河川還元再利用に関する基礎的研究	保野健治郎(日本上下 水道設計株式会社 都 市環境研究所)	池淵周一	13	300,000	350,000	7
				14	280,000	390,000	
13G-5	災害リスクコントロールを目的とした都市構造の診断手法の開発	古川浩平(山口大学工 学部社会建設工学科)	岡田憲夫	13	440,000	270,000	3
				14	400,000	380,000	

13G-6	火山島重力測定における海洋潮汐影響量の評価と測定データの再評価	大久保修平(東京大学地震研究所)	山本圭吾	13	420,000	300,000	7
				14	320,000	390,000	
13G-7	抗土圧構造物の地震時挙動と耐震性診断に関する研究	古関潤一(東京大学生産技術研究所)	関口秀雄	13	440,000	300,000	8
				14	380,000	300,000	
13G-8	流域水循環の動態の研究 一野洲川流域を対象とした集中観測とモデル開発一	立川康人(京都大学防災研究所)		13	310,000	300,000	16
				14	250,000	290,000	
13G-9	山地流域における降雨の流出と土砂動態一試験流域におけるモニタリングによるアプローチ	藤田正治(京都大学防災研究所)	澤田豊明	13	810,000	570,000	20
				14	670,000	580,000	
13G-10	人間活動に起因する環境変動を考慮した地域水系の健全性評価	東海明宏(産業技術総合研究所化学物質リスク管理研究センター)	小尻利治	13	400,000	300,000	4
				14	350,000	170,000	
13G-11	地震波散乱理論を背景とした統計的グリーン関数のエンベロープ表現の研究	干場充之(気象庁地震火山部地震津波監視課精密地震観測室)	澤田純男	13	190,000	438,000	3
				14	130,000	350,000	
14G-1	泥火山・マッドダイアピルが引き起こす地盤災害のメカニズムとその対策	田中和広(山口大学理学部)	千木良雅弘	14	680,000	480,000	6
				15	700,000	500,000	
14G-2	火山性地震・微動のデータベース作成と発生過程の比較研究	西村太志(東北大学大学院理学研究科)	井口正人	14	810,000	410,000	16
				15	800,000	400,000	
14G-3	均質な地表面上での不均質なフラックス分布の測定に関する研究	樋口篤志(名古屋大学地球水循環研究センター)	田中賢治	14	580,000	440,000	16
				15	610,000	400,000	
14G-4	高波浪時の大気海洋相互作用の観測研究	石川裕彦(京都大学防災研究所)		14	570,000	400,000	21
				15	540,000	360,000	
14G-5	高粘性金属ダンパーによる無損傷化建築構造物の動的载荷実験	甲津功夫(大阪大学大学院工学研究科)	吹田啓一郎	14	360,000	350,000	6
				15	350,000	350,000	
14G-6	噴煙・地震の長期間同時モニタリングによる硫黄岳の脱ガス活動定量化の試み	松島喜雄(産業技術総合研究所地球科学情報研究部門)	井口正人	14	780,000	250,000	7
14G-7	跡津川断層帯におけるクリープ活動の検証	福田洋一(京都大学大学院理学研究科)	伊藤 潔	14	570,000	380,000	7
				15	560,000	350,000	

14G-8	RC 造連層耐震壁と杭基礎の地震時相互作用を考慮した終局時破壊機構の解明	田中仁史(京都大学防災研究所)		14	300,000	290,000	5
14G-9	都市域における宅地盛土斜面の地震災害予測	木村克己(産業技術総合研究所)	釜井俊孝	14	510,000	360,000	15
14G-10	衛星合成開口レーダーによる斜面変動検出の精度検証	福岡 浩(京都大学防災研究所)		14	150,000	240,000	3
14G-11	発展途上国の防災に資する防災人類学の基本的枠組みの構築	端 信行(京都橘女子大学)	河田恵昭	14	530,000	350,000	7
14G-12	京都盆地の構造と地盤災害ポテンシャル評価に関する研究	竹村恵二(京都大学大学院理学研究科)	三村 衛	14	520,000	350,000	11
15G-1	内陸地震空白域の地殻深部比抵抗構造に関する研究	塩崎一郎(鳥取大学工学部)	大志万直人	15	750,000	400,000	12
15G-2	南アジアに大気災害をもたらすメソスケール雲システムの数値モデリング	寺尾 徹(大阪学院大学情報学部)	石川裕彦	15	710,000	400,000	11
				16	680,000	500,000	
15G-3	サイレント地震発生場の総合的研究	渡邊 了(富山大学理学部)	川崎一朗	15	320,000	330,000	5
				16	300,000	100,000	
15G-4	適切な流域水循環形成のための対話の場の構築と水文学的側面からの貢献ー野洲川流域を対象としてー	立川康人(京都大学防災研究所)		15	280,000	300,000	12
				16	270,000	480,000	
15G-5	3次元写真計測による地すべり斜面診断	岡田康彦(独立行政法人防災科学技術研究所)	末峯 章	15	350,000	200,000	3
				16	350,000	300,000	
15G-06	1889 年十津川崩壊災害の防災科学的総合研究	石井孝行(大阪教育大学教育学部)	諏訪 浩	15	550,000	170,000	5
				16	400,000	280,000	
15G-07	浅い地すべりと励起土石流の規模と頻度に及ぼす水文地形学的プロセスの影響	Roy C. Sidle (京都大学防災研究所)		15	500,000	400,000	10
				16	470,000	520,000	
15G-08	諏訪之瀬島火山におけるストロンボリ式噴火の力学過程の観測研究	八木原 寛(鹿児島大学理学部 附属南西島弧地震火山観測所)	為栗 健	15	350,000	200,000	3

15G-09	火山噴火様式と火山噴出物中の揮発性成分の挙動に関する研究	野上健治(東京工業大学火山流体研究センター)	石原和弘	15	550,000	300,000	5
15G-10	河川域・海岸域を統合した長期広域土砂動態の調査研究	浅野敏之(鹿児島大学工学部)	中川 一	15	450,000	350,000	3
15G-11	海の考慮による強震動予測の高精度化に関する研究	畑山 健(独立行政法人消防研究所)	岩田知孝	15	430,000	180,000	3
15G-12	台風のライフサイクルに関する総合的な調査・研究	余田成男(京都大学大学院理学研究科)	林 泰一	15	500,000	310,000	9
15G-C1	東ユーラシア域における異常気象の発生に対する北極振動の影響とその予測可能性の解明	廣岡俊彦(九州大学大学院理学研究院)	向川 均	15	650,000	400,000	8
15G-C2	地盤データベースを活用した堆積平野地盤の高精度地質学的分析と都市地盤防災への適用に関する研究	竹村恵二(京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設)	三村 衛	15	350,000	500,000	11
16G-01	絶対ひずみ計測による跡津川断層クリープ活動の実時間モニター	新谷昌人(東京大学地震研究所)	伊藤 潔	16	750,000	400,000	8
16G-02	断層破砕帯の深部構造解明のための地震波動モデリング手法の開発	竹中博士(九州大学大学院理学研究院)	西上欽也	16	450,000	260,000	5
16G-03	白山地域における甚之助谷巨大地すべりの安定性評価及び運動範囲予測	汪 発武(京都大学防災研究所)	佐々恭二、福岡 浩	16	600,000	360,000	5
16G-04	都市域の水際線構造物の耐震性能向上技術の開発	井合 進(京都大学防災研究所)		16	500,000	380,000	5
16G-05	火山ガス放出量と爆発メカニズム	平林順一(東京工業大学火山流体研究センター)	井口正人	16	620,000	200,000	7
16G-06	ENVISAT 衛星データを用いた干渉SAR による阿蘇山及び九重山周辺の地表面変動の研究	小林茂樹(九州東海大学工学部宇宙地球情報工学科)	橋本 学	16	200,000	320,000	6
16G-07	陸上土石流・水中土石流堆積物から堆積過程を読み取る	増田富士雄(京都大学大学院 理学研究科)	千木良雅弘	16	600,000	300,000	6
16G-08	リユース型建築工法実現のための鋼構造柱脚システムの開発	田沼吉伸(北海道工業大学)	中島正愛	16	620,000	300,000	11

16G-09	マハラジャ宮殿を中心としたインド・ジョドプール市の石造建築物群の地震リスク評価	Sanjay PAREEK（日本大学工学部建築学科）	林 康裕	16	560,000	200,000	12
16G-10	桜島火山のマグマ供給系の時間発達に関する研究	宇都浩三(独立行政法人産業技術総合研究所)	味喜大介	16	300,000	220,000	6
16G-11	GPS, 光波, 傾斜計による地盤変動連続複合観測による火山浅部熱水活動の評価	篠原宏志(独立行政法人産業技術総合研究所)	井口正人	16	600,000	240,000	6
16G-12	地盤情報データベースの高度化と地域防災への貢献に関する研究	三村 衛(京都大学防災研究所)		16	580,000	300,000	14
16G-13	流域・河口海岸系における物質輸送・循環特性とその数値解析システムに関する研究	水谷法美(名古屋大学大学院工学研究科地圏環境工学専攻)	芹澤重厚	16	520,000	300,000	12
16G-C1	京都盆地水系における水文・環境観測と水・物質循環の解明	椎葉充晴(京都大学大学院工学研究科)	城戸由能	16	750,000	450,000	21
16G-C2	日本海沿岸域における大気―海洋間の二酸化炭素交換に関する観測的研究	岩田 徹(岡山大学自然科学研究科)	山下隆男	16	420,000	280,000	6

表 10.6.3 萌芽的共同研究

課題番号	研究課題(プロジェクト)名	研究代表者	所内担当者	年度	旅 費 (円)	研究費 (円)	参加 人数
14H-1	インドネシア・スルボンにおける対流活動日周期変化	山中大学(神戸大学大学院自然科学研究科)	植田洋匡	14	0	200,000	5
14H-2	強震動シミュレーションにおける海の影響評価に関する研究	畑山 健(独立行政法人消防研究所)	岩田知孝	14	280,000	0	4
14H-3	社会資本整備の投資タイミング	高木朗義(岐阜大学工学部)	多々納裕一	14	270,000	0	6
14H-4	地震断層の強度回復過程の観測研究	田所敬一(名古屋大学大学院理学研究科附属地震火山観測研究センター)	西上欽也	14	180,000	60,000	2
15H-1	大規模山体変形のメカニズムと速度の解明	目代邦康(筑波大学陸域環境研究センター)	千木良雅弘	15	150,000	110,000	2

15H-2	雨滴粒径分布がウォッシュロード量に与える影響に関する研究	大石 哲(山梨大学工学部)	中川 一 澤田豊明	15	190,000	80,000	3
15H-3	地下ダム建造進捗に沿った塩水侵入の3次元挙動解明と効果的対策	浜口俊雄(京都大学防災研究所)		15	60,000	110,000	2
16H-1	ステッピングモーターを駆動装置に用いた小型振動試験機の開発	飛田哲男(京都大学防災研究所)		16		270,000	2

表 10.6.4 特定研究集会

課題番号	研究集会名:開催場所:開催日	研究代表者 (所属機関)	所内担当者	旅 費	研究費	参加人数
14S-1	市民参加方式による安全なまちづくりのための情報提示・コミュニケーション技術の現状と課題:京都大学防災研究所:平成14年10月15日(火)～平成15年2月20日(木)	岡田憲夫(京都大学防災研究所)		700,000	210,000	25
14S-2	自然・文化遺産と地すべり災害軽減に関する研究集会:京大木質科学研究所 木質ホール:平成15年3月14日(金)～3月15日(土)	佐々恭二(京都大学防災研究所)		700,000	220,000	70
15S-1	都市水害モデルの総合比較に関するワークショップ:京都大学防災研究所:平成15年10月24日(金)	戸田圭一(京都大学防災研究所)		550,000	240,000	30
15S-2	地震リスク評価能力向上のための次世代戦略:京大木質科学研究所木質のール:平成16年1月24日(土)～1月26日(日)	林 康裕(京都大学防災研究所)		550,000	180,000	19
15S-3	対流圏長周期変動と異常気象:京大木質科学研究所木質ホール:平成15年10月30日(木)～10月31日(金)	向川 均(京都大学防災研究所)		500,000	180,000	61
16S-1	社会的防災力の強化とNPOの役割:特定非営利活動法人 日本災害救援ボランティアネットワーク(会議室)および隣接会場:平成16年10月1日(金)～10月3日(日)	杉万俊夫(京都大学大学院人間・環境学研究科)	岡田憲夫	680,000	240,000	20
16S-2	京のみやこの防災学:京都大学防災研究所:平成16年7月30日(金)	萩原良巳(京都大学防災研究所)	戸田圭一	400,000	240,000	40

表 10.6.5 一般研究集会

課題番号	研究集会:開催場所:開催日	研究代表者(所属機関)	所内担当者	旅 費	研究費	参加人数
14K-01	国際水資源ダイナミックス—国際水紛争と水の貿易収支:京大会館:平成14年11月15日(金)	池淵周一(京都大学防災研究所)		440,000	260,000	60
14K-02	山間過疎地域における震災復興と生活再建に関するシンポジウム:鳥取県日野郡日野町文化センター:平成14年10月6日(日)	北原昭男(鳥取環境大学)	松波孝治	530,000	200,000	250
14K-03	盆地における霧の発生および維持機構とその予知予測に関する研究集会:京都大学防災研究所、広島県三次市:平成15年1月17日(金)	宮田賢二(広島女子大学)	林 泰一	650,000	190,000	21
14K-04	プレート間カップリングの時空間変化に関する比較研究:京大化学研究所大セミナー室:平成14年11月26日(火)~27日(水)	松澤 暢(東北大学大学院理学研究科)	梅田康弘、大志万直人	720,000	130,000	53
14K-05	地震の始まりと終り方:京大化学研究所大セミナー室、京都大学防災研究所:平成15年2月24日(月)~25日(火)	芝崎文一郎(独立行政法人建築研究所国際地震工学センター)	James Jiro Mori	500,000	160,000	62
14K-06	変動水圧と水中地盤に関するシンポジウム:京大化学研究所大セミナー室:平成14年12月20日(金)	名合宏之(岡山大学環境理工学部)	高山知司	570,000	180,000	60
14K-07	地殻変動、地球ダイナミックスの観測とモデル計算の最近の成果、今後の課題:京都大学防災研究所:平成14年12月19日(木)~20日(金)	佐藤忠弘(国立天文台地球回転研究系)	古澤 保	520,000	70,000	77
14K-08	地震発生域及びその周辺の電気伝導度構造の研究:京都大学木質科学研究所木質ホール:平成14年12月25日(水)~26日(木)	山口 覚(神戸大学理学部)	大志万直人	400,000	170,000	72
14K-09	災害数理学の現状と将来展望:京都大学防災研究所、武蔵工業大学:平成14年11月11日(月)~12日(火)	佐藤忠信(京都大学防災研究所)		550,000	140,000	16
14K-10	震源過程研究の最前線:関西セミナーハウス:平成14年9月14日(土)~16日(月)	加藤 護(京都大学総合人間学部)	James Jiro Mori、入倉孝次郎	550,000	140,000	88
14K-11	流域の土砂流出環境を読む—工学と地形学の双方のアプローチから—:京大防災研究所穂高砂防観測所:平成14年9月12日(木)~14日(土)	眞板秀二(筑波大学農林工学系)	澤田豊明 中川 一里深好文	500,000	60,000	29

14K-12	治水と河川生態環境－川づくりはいかにあるべきか－：キャンパスプラザ京都：平成 15 年 1 月 29 日(水)	綾 史郎(大阪工業大学)	中川 一	300,000	160,000	57
15K-01	豪雨による表層崩壊発生危険度評価に関する新たな展開：京都大学化学研究所共同研究棟：平成 15 年 6 月 20 日(金)～21 日(土)	千木良雅弘(京都大学防災研究所)		550,000	200,000	22
15K-02	東南アジアにおける河川域の災害環境－メコン河を例として－：京都大学木質科学研究所木質ホール：平成 15 年 12 月 15 日(月)	風間 聡(東北大学大学院工学研究科)	武藤裕則	500,000	130,000	22
15K-03	流域・河口海岸系における物質輸送と環境、防災に関するシンポジウム：京都大学木質科学研究所木質ホール：平成 15 年 8 月 11 日(月)	杉本隆成(東京大学海洋研究所)	山下隆男	500,000	200,000	100
15K-04	地殻のレオロジーと地震発生との関係－歪集中と深部低周波微動のメカニズム－：京都大学化学研究所共同研究棟：平成 15 年 11 月 25 日(火)～26 日(水)	小菅正裕(弘前大学理工学部)	川崎一郎 大志万直人	500,000	160,000	34
15K-05	長周期イベントの理解へ向けての現状と今後：京都大学化学研究所共同研究棟：平成 15 年 12 月 15 日(月)～16 日(火)	中尾 茂(東京大学地震研究所)	川崎一郎	450,000	140,000	33
15K-06	火山流体の分布とその挙動：かんぼの宿洞爺(北海道虻田郡虻田町洞爺湖温泉)：平成 15 年 12 月 2 日(火)～4 日(木)	小川康雄(東京工業大学火山流体研究センター)	神田 径 石原和弘	550,000	170,000	52
15K-07	文化財建築の火災からの保護に関する国際シンポジウム：京都市国際交流会館：平成 15 年 4 月 6 日(日)～7 日(月)	北後明彦(神戸大学都市安全研究センター)	田中哮義	400,000	200,000	14
15K-08	伝統的河川工法の特徴とその課題：京大防災研：災害観測実験研究センター宇治川水理実験所：平成 15 年 5 月 1 日(木)～2 日(金)	大本照憲(熊本大学大学院自然科学研究科)	石垣泰輔	250,000	170,000	14
15K-09	防災 GIS の現状と展望に関する分野横断的研究フォーラム 2003：キャンパスプラザ京都：平成 15 年 12 月 3 日(水)	寶 馨(京都大学防災研究所)	畑山満則	400,000	170,000	81
15K-10	溪流－河川－海岸系の安全かつ健全な環境に必要とされる流送土砂の量と質の解明に向けて：防災研災害観測実験センター 穂高砂防観測所：平成 15 年 10 月 23 日(木)～25 日(土)	藤田裕一郎(岐阜大学流域圏科学研究センター)	澤田豊明	500,000	60,000	21

16K-01	地震火山防災教育の教材開発と普及 に向けての現状と今後:京都大学防 災研究所:平成16年7月31日(土)～ 8月1日(火)	根本泰雄(大阪市立大学 大学院理学研究科)	川崎一朗 橋本 学 川方裕則	560,000	180,000	28
16K-02	歴史的市街地・密集市街地における 戦前木造建築物群の集団的な耐震改 修促進手法の検討:京都大学防災研 究所:平成16年12月3日(金)	中村 仁(大阪市立大学 大学院工学研究科)	鈴木祥之	550,000	180,000	21
16K-03	メモリアルコンファレンス イン 神 戸 X:阪神・淡路大震災記念人と防 災未来センター:平成17年1月15日 (土)～16日(日)	河田恵昭(京都大学防災 研究所)		350,000	240,000	400
16K-04	陸域震源断層の深部すべり過程のモ デル化:京都大学防災研究所:平成16 年9月27日(月)～28日(火)	藤本光一郎(東京学芸大 学)	飯尾能久	500,000	120,000	22
16K-05	流体-不飽和土系ダイナミクスの最 近の進歩と環境防災への適用に関す る研究集会:京都大学防災研究所:平 成16年9月2日(木)～3日(金)	関口秀雄(京都大学防災 研究所)		420,000	180,000	35
16K-06	台風災害低減へ向けた挑戦ーわたし たちは今何をなすべきかー:京都大 学防災研究所:平成16年11月10日 (水)～11日(木)	中澤哲夫(気象庁気象研 究所)	林 泰一	470,000	180,000	42
16K-07	低周波地震の発生過程:京都大学防 災研究所附属火山活動研究センタ ー:平成16年12月2日(木)～3日(金)	西村太志(東北大学大学 院理学研究科)	井口正人	420,000	170,000	18
16K-08	水文観測の不十分な流域における水 文予測とその予測の不確かさの評 価:京都大学防災研究所:平成16年9 月19日(日)	立川康人(京都大学防災 研究所)		420,000	170,000	40
16K-09	都市基盤施設のライフサイクルコス ト評価技術の現状と将来展望:東京 工業大学:平成16年10月10日(日) ～11日(月)	佐藤忠信(京都大学防災 研究所)		420,000	150,000	23
16K-10	地球磁場観測に関する国際ワークシ ョップ:文部科学省研究交流センタ ー(つくば市):平成16年11月15 日(月)～17日(水)	田中良和(京都大学大学 院理学研究科)	大志万直人	420,000	60,000	28
16K-11	岩盤・地盤と間隙水との力学的相互 作用:京都大学化学研究所大セミナ ー室:平成16年9月16日(木)～17日 (金)	徳永朋祥(東京大学大学 院工学系研究科)	柳谷 俊	400,000	160,000	20

16K-12	持続可能な水資源開発と水環境保全のための物質循環の解明:京都大学木質科学研究所木質ホール:平成16年11月26日(金)	小尻利治(京都大学防災研究所)	城戸由能	340,000	200,000	50
--------	---	-----------------	------	---------	---------	----

表 10.6.6 特定課題分担研究

課題番号	研究課題(プロジェクト)名	研究代表者	所内担当者	年度	旅 費 (円)	研究費 (円)	参加 人数
15D-01	近畿圏ボアホールデータの解析と断層トラップ波探査手法の高度化	桑原保人(独立行政法人産業技術総合研究所)	西上欽也	15	600,000		4
				16	338,400	320,000	
15D-02	再決定による震源の精密化とb値の空間分布のマッピング	澁谷拓郎(京都大学防災研究所)		15	600,000		1
				16	195,200	240,000	
15D-03	日本列島下の地殻の粘弾性構造と変形についての研究	古本宗充(金沢大学理学部)	川崎一朗	15	1,000,000		3
				16	400,000	400,000	
15D-04	S波震源スペクトルの構築と統計的強震動予測に関する研究	笹谷 努(北海道大学大学院理学研究科)	岩田知孝	15	560,000		1
				16	480,000	240,000	
15D-05	近畿圏強震動データ統合化システムの構築	松波孝治(京都大学防災研究所)		15	540,000		2
				16	24,000	720,000	
15D-06	西日本の堆積盆地構造と強震動評価	川瀬 博(九州大学大学院人間環境学研究院)	岩田知孝	15	800,000		1
				16	80,000	720,000	
15D-08	短周期震源スペクトルのスケールリングに関する研究	泉谷恭男(信州大学工学部)	岩田知孝	15	70,000		1
				16	56,000		
15D-09	地震動記録を用いた堆積盆地構造モデルの高精度化に関する研究	釜江克宏(京都大学原子炉実験所)	岩田知孝	15	720,000		2
				16	288,000	440,000	
15D-10	定量的な強震動予測のための震源のモデル化に関する研究	寛 楽磨(神戸大学理学部)	岩田知孝	15	350,000		1
				16	96,000	424,000	
15D-11	伝播経路と地盤の散乱と減衰を考慮した統計的波形合成法の開発	堀家正則(大阪工業大学)	岩田知孝	15	500,000		2
				16	240,000	240,000	
15D-12	動的破壊モデルによる震源インバージョン手法の開発	澤田純男(京都大学防災研究所)		15	700,000		3
				16	400,000	384,000	
15D-13	複雑な断層面形状を伴う地震破壊の動力学的特性の解明	亀 伸樹(九州大学大学院理学研究院)	岩田知孝	15	800,000		4
				16	552,000	238,400	

10.7 研究成果リスト一覧

10.7.1 総合防災研究部門

(A1) 完全査読論文

- 朱牟田善治, 多々納裕一, 山野紀彦: 地震による電気事業者の営業損失の評価モデル, 第 11 回地震工学シンポジウム, CD-ROM-, (2002).
- 林 康裕, 鈴木祥之, 後藤正美, 小嶋伸仁: 2001 年芸予地震における木造家屋被害の分析, 日本建築学会構造系論文集, 548, 35-42, (2002).
- 堀江啓, 牧紀男, 重川希志依, 田中 聡, 林春男: 外観目視による建物被災度評価手法の検討 —建物被災度判定トレーニングシステムの構築—, 地域安全学会論文集, 4, 167-174, (2002).
- 梶谷義雄, 岡田憲夫, 多々納裕一: 災害復旧過程における人間活動の時空間分析に関する研究, 土木計画学研究・論文集, 19(2), 305-312, (2002).
- 梶谷義雄, 角本繁, 林 康裕, 吉川耕治, 畑山満則, 臼井真人: 1999 年トルコ地震におけるドゥジェ市の被害実態と復興状況, 地域安全学会論文集, 4, 121-126, (2002).
- 神谷大介, 萩原良巳: 都市域における環境創成による震災リスク軽減のための計画代替案の作成に関する研究, 環境システム論文集, 30, 119-125, (2002).
- 川除隆広, 多々納裕一, 岡田憲夫: 個人旅行費用を用いた木津川河川空間利用便益のリスク分析, 土木計画学研究・論文集, 19(2), 283-289, (2002).
- 北原昭男, 林 康裕, 奥田辰雄, 鈴木祥之: 2000 年鳥取県西部地震における木造建物の構造特性と被害, 日本建築学会構造系論文集, 561, 161-167, (2002).
- 児島隆生, 松野文俊, 畑山満則: 地理情報と GPS 測位値を融合した自律移動ロボットのナビゲーション, GIS-理論と応用, 10(1), 75-83, (2002).
- 真野明, 深見和彦, 渡邊康玄, 多々納裕一, 渡口正史: ヨーロッパの 2000—2001 年冬気候とフランスブルターニュ地方の水害特性, 自然災害科学, 21(3), 245-258, (2002).
- 西村和司, 清水康生, 萩原良巳: 下水処理水の利用による震災被害の軽減と水辺創成, 地域学研究, 32(1), 101-113, (2002).
- 坂本麻衣子, 萩原良巳: 開発と環境のコンフリクトにおける合意形成に関する研究, 地域学研究, 32(3), 147-160, (2002).
- 坂本麻衣子, 萩原良巳: 水資源の開発と環境の社会的コンフリクトにおける均衡状態到達プロセスに関する研究, 環境システム論文集, 30, 207-214, (2002).
- 佐藤祐一, 萩原良巳, 内藤正明: 水資源開発に伴うコンフリクトと合意形成を考慮した意思決定システムの提案, 環境システム論文集, 30, 215-222, (2002).
- 清水康生, 萩原良巳, 西村和司: グラフ理論による大都市域水循環圏ネットワークの安定性評価, 環境システム論文集, 30, 265-270, (2002).
- 清水丞, 萩原清子, 萩原良巳: 認識データを用いた水辺の環境評価, 水文・水資源学会誌, 15(2), 152-163, (2002).
- 田中 聡, 重川希志依: 災害エスノグラフィーをもちいた 2001 年 9 月 11 日ニューヨーク世界貿易センタービル災害における災害過程の分析, 地域安全学会論文集, 4, 221-230, (2002).
- 浦 憲親, 蒲田幸江, 鈴木祥之: 壁土の供試体作製及び強度試験法に関する基礎実験, 日本建築学会構造系論文集, 559, 23-30, (2002).
- 張継権, 早川誠而, 山本晴彦, 岡田憲夫: 1991 年台風 17 号・19 号と 1999 年台風 18 号による農業被害の比較, 日本作物学会紀事, 71(2), 239-249, (2002).
- Zhang, J., Okada, N., Tatano, H., Hayakawa, S.: Risk Assessment and Zoning of Flood Damage Caused by Heavy Rainfall in Yamaguchi Prefecture, Japan, Flood Defense 2002”, Science Press, 162-170, (2002).
- Zhu, W., Huang, Z., Suzuki, Y.: Stochastic averaging and Lyapunov exponent of quasi partially integrable Hamiltonian systems, International Journal of Non-Linear Mechanics, 37(3), 419-437, (2002).
- グエン フク デイン, 多々納裕一, 岡田憲夫: 存続可能性を制約条件とした自然災害保険システムの設計方法に関する研究, 土木計画学研究・論文集, 20(2), 323-330, (2003).
- 畑山満則, 寺尾京子, 金行方也, 萩原良巳: 京都市市街地における災害弱地域と高齢者コミュニティに関する分析, 環境システム論文集, 31, 387-394, (2003).
- 林 康裕, 森井雄史, 鬼丸貞友, 吉川正隆: 限界耐力計算法における地盤増幅係数 G_s 評価に関する研究, 日本建築学会構造系論文集, 567, 41-46, (2003).
- 林 康裕: 木造住宅の地震被害率と建築年代の関係に関する考察—兵庫県南部地震と鳥取県西部地震の被害経験を踏まえて—, 日本建築学会総合論文誌, 71-75, (2003).
- 堀江啓, 林春男, 田中 聡, 長谷川浩一, 牧紀男, 沖村孝: 地震による木造建物の破壊状態を反映する被害関数の構築, 地域安全学会論文集, 5, 123-132, (2003).
- Horie, K., Maki, N., Kohiyama, M., LU, H., Tanaka, S., Hashitera, S., Shigekawa, K., Hayashi, H.: Process of Housing Damage Assessment—The 1995 Hanshin-Awaji Earthquake Disaster Case-, Natural Hazards, 29, 341-370, (2003).
- 梶谷義雄, 本久仁美, 多々納裕一, 岡田憲夫: 人間活動時空間分布に着目した大規模災害時の被害ポテンシャル評価に関する研究, 土木計画学研究・論文集, 20(2), 355-364, (2003).
- 神谷大介, 森野真理, 萩原良巳, 内藤正明: 屋久島における生活の安定感と生物保全意識との因果関係, ランドスケープ研究, 775-778, (2003).
- 神谷大介, 萩原良巳, 畑山満則: 避難行動に着目した自然的空間の減災価値評価に関する研究, 環境システム論文集, 31, 67-73, (2003).
- KOHIYAMA, M., YAMASHITA, N., SATO, T., LU, H., MAKI, N., TANAKA, S., HAYASHI, H.: Expansion of the Nishinomiyai Built Environment Database—Simulation of seismic motion distribution of 1995 Hyogo-ken Nanbu Earthquake-, Natural Hazards, 29, 501-522, (2003).
- Li, S., Suzuki, Y., Noori, M.: Identification of Hysteretic Structural Systems with Slip by Bayesian Method and Bootstrap Filter, Advances in Stochastic Structural Dynamics, CRC Express, 333-344, (2003).

- LU, H., Kohiyama, M., Horie, K., Maki, N., Hayashi, H., Tanaka, S., : Building Damage and Casualties after an Earthquake –Relationship between Building Damage Pattern and Casualty Determined Using Housing Damage Photographs in the 1995 Hanshin-Awaji Earthquake Disaster, *Natural Hazards*, 29, 387-403, (2003).
- 森井雄史, 林 康裕: 表層地盤の地震動増幅特性と入射地震動特性が木造建物応答に及ぼす影響, *日本建築学会構造系論文集*, 568, 75-82, (2003).
- 森野真理, 萩原良巳, 坂本麻衣子: 地域社会における生息地の保全インセンティブに関する分析, *環境システム論文集*, 31, 9-17, (2003).
- 西村和司, 萩原良巳, 清水康生, 坂本浩一: 安全性による大都市域水循環ネットワークの震災リスク, *環境システム論文集*, 31, 83-89, (2003).
- 坂本麻衣子, 萩原良巳: 水資源開発計画における開発と環境の集団コンフリ, *土木計画学研究・論文集*, 20(2), 295-304, (2003).
- 鈴木祥之, 斎藤幸雄, 榎原健一, 野島千里: 伝統構法木造建物の耐震補強事例, *構造工学論文集*, 49, 627-633, (2003).
- 鈴木祥之, 前野将輝, 西塔純人, 北原昭男, 後藤正美, 須田達, 大下達哉: 伝統木造軸組の実大振動実験・静的水平力載荷実験, *日本建築学会構造系論文集*, 574, 135-142, (2003).
- 田中 聡, 玉置泰明, 永井博子, 鈴木三郎郎, 堀江啓, 吉村美保, 林春男: 発展途上国における Non-Engineered 住宅の地震防災に関する基礎的考察 -フィリピン・マリキナ市における Non-Engineered 住宅を事例として-, *地域安全学会論文集*, 5, 11-19, (2003).
- 多々納裕一: 災害リスクの特徴とそのマネジメント戦略, *社会技術研究論文集*, 141-148, (2003).
- 有木寛江, 林 康裕, 南宏一, 井上豊: 限界耐力計算法による設計建築物の保有耐力の分析 ~表層地盤の増幅特性と相互作用効果の評価について~, *日本建築学会技術報告集*, 18, 61-66, (2003).
- 有木寛江, 林 康裕, 南宏一, 井上豊: 限界耐力計算法により設計された建築物の構造特性, *日本建築学会技術報告集*, 18, 115-120, (2003).
- Zhang, J., Hori, T., Tatano, H., Okada, N., Zhng, C., Matsumoto, T.: GIS and Flood Inundation Model-based Flood Risk Assessment in Urbanized Floodplain, *GIS & RS in Hydrology, Water Resources and Environment*, 1-8, (2003).
- 福島陽介, 萩原良巳, 畑山満則, 萩原清子, 山村尊房, 酒井彰, 神谷大介: バングラデシュにおける飲料水ヒ素汚染に関する社会調査とその分析, *環境システム論文集*, 32, 21-28, (2004).
- 郭耕杖, 林 康裕, 神原浩: アンケート調査に基づく病院の地震被害と震度との関係, *日本建築学会構造系論文集*, 586, 63-69, (2004).
- Hagihara, K., Hagihara, Yo.: The Role of Environmental Valuation in Public Policymaking; the Case of Waterside Area in Japan, *Environment and Planning C: Government and Policy*, 22, 3-13, (2004).
- Hagihara, Ki., Hagihara, Yo., Asahi, C.: Marginal Willingness to Pay for Public Investment under Urban Environmental Risk: the Case of Municipal Water Use., *Environment and Planning C: Government and Policy*, 22, 349-362, (2004).
- HARTMANN, J., Okada, N., LEVY, J.: Integrated disaster risk management strategy to prevent exposure to hazardous substances due to inundation triggered releases: a concept for Japan, *Journal of Natural Disaster Science*, 2(26), 87-93, (2004).
- 畑山満則, 萩原良巳: 京都市における高齢者の災害リスク軽減のための施設を核とするコミュニティ形成, *地域学研究*, 34(1), 467-480, (2004).
- 畑山満則, 岡田憲夫, 河野俊樹: 利用者の受容性を考慮した情報処理技術のインプリメンテーションプロセスー鳥取県智頭町を対象としてー, *土木計画学研究・論文集*, 21(1), 127-135, (2004).
- 林 康裕, 吹田啓一郎, 井上真紀: 1995 年兵庫県南部地震に基づく鉄骨造建物の被害率曲線, *日本建築学会構造系論文集*, 585, 193-198, (2004).
- 神谷大介, 酒井彰, 山村尊房, 畑山満則, 福島陽介, 萩原清子, 萩原良巳: バングラデシュ都市住民の衛生意識と適正技術導入の要件, *環境システム論文集*, 32, 157-164, (2004).
- 神谷大介, 萩原良巳, 畑山満則: 都市域における水辺創成による震災リスクの軽減に関する研究, *地域学研究*, 34(1), 71-82, (2004).
- 神原浩, 田村和夫, 林 康裕: アンケート調査に基づく建物の非構造部材被害と地震動強さとの関係, *日本建築学会構造系論文集*, 578, 155-161, (2004).
- Li, S., Yu, H., Suzuki, Y.: Identification of Non-linear Hysteretic Systems with Slip, *Computers & structures*, 82(2-3), 157-165, (2004).
- Li, S., Yu, H., Suzuki, Y.: Improvement of parameter estimation for non-linear hysteretic systems with slip by a fast Bayesian bootstrap filter, *International Journal of Non-Linear Mechanics*, 39(9), 1435-1445, (2004).
- Li, S., Yu, H., Suzuki, Y.: Identification of Hysteretic Systems with Slip Using Bootstrap Filter, *Mechanical Systems and Signal Processing*, 18(4), 781-795, (2004).
- 森井雄史, 林 康裕: 2001 年芸予地震における三原市の地震動推定と木造住宅被害の分析, *日本建築学会構造系論文集*, 584, 65-71, (2004).
- 森井雄史, 林 康裕: 2000 年鳥取県西部地震における日野町の地震動特性の分析, *日本建築学会構造工学論文集*, 50B, 485-490, (2004).
- 森野真理, 萩原良巳, 神谷大介, 坂本麻衣子: 自然の非利用価値に対する「誇り」の影響, *地域学研究*, 34(3), 311-324, (2004).
- 村上ひとみ, 三樹亮介, 林 康裕, 北原昭男: 2000 年鳥取県西部地震における被災者の住宅復旧方法選択ー統計資料とアンケート調査による要因分析ー, *自然災害学会論文集*, 49-64, (2004).
- 西村和司, 萩原良巳: 大都市域水循環ネットワークの震災リスク評価指標に関する研究, *地域学研究*, 34(1), 83-96, (2004).
- Okada, N.: Urban Diagnosis and Integrated Disaster Risk Management, *Journal of Natural Disaster Science*, 2(26), 49-54, (2004).
- Saadat, S., Noori, M., Gregory, G., Buckner, D., Furukawa, T., Suzuki, Y.: Structural health monitoring and damage detection using an intelligent parameter varying (IPV) technique, *International Journal of Non-Linear Mechanics*, 39(10), 1687-1697, (2004).
- Sakai, A., Hagihara, Yo., Asada, K., Zhang, S.: Management of rainfall-related environmental risks in urban area, *Journal of Risk Research*, 7, 731-744, (2004).

- Sakakibara, H., Kajitani, Y., Okada, N.: Road Network Robustness for Avoiding Functional Isolation in Disasters, ASCE, 5(130), 560-567, (2004).
- 坂本麻衣子, 萩原良巳, Hipel, Keith W.: インド・バングラデシュのガンジス河水利用コンフリクトにおける Third Party の役割に関する研究, 環境システム論文集, 32, 29-36, (2004).
- 坂本麻衣子, 萩原良巳: バングラデシュとインドのガンジス河をとりまく水資源コンフリクトにおける第三者機関の役割に関するモデル分析, 地域学研究, 34(3), 31-44, (2004).
- Sakamoto, M., Hagihara, Yo.: An Attempt to Develop a Dynamic System Model of Social Conflict by the Combination of Behavior Decision Model and Game Theory, Asian Social Psychology, 7, 263-284, (2004).
- 佐藤祐一, 萩原良巳: 住民意識に基づく河川開発代替案の多元的評価モデルに関する研究, 環境システム論文集, 32, 117-126, (2004).
- 佐藤祐一, 萩原良巳: 水資源開発におけるステイクホルダー間のコンフリクトと合意形成を考慮した代替案の評価モデルに関する研究, 水文・水資源学会誌, 17(6), 635-647, (2004).
- 佐藤祐一, 萩原良巳: 河川開発と環境保全のコンフリクト存在下における意思決定システムに関する研究, 地域学研究, 34(3), 107-121, (2004).
- 染巧梅, 魏一鳴, 范英, 岡田憲夫: 中国能源需求和能源強度予測的情景分析模型及其応用, CHINESE JOURNAL OF MANAGEMENT, 1(1), 62-66, (2004).
- 高橋郁夫, 林 康裕: 地盤-建物相互作用による建物の地震応答低減効果-近年の地震観測記録を用いた検討-, 日本建築学会構造工学論文集, 50B, 473-483, (2004).
- Tatano, H., Kamiya, H., Tsuchiya, S.: Knowledge Acquisition Cost and Anti-seismic Mitigation Investment by Individual Households, Proceedings of the 2004 IEEE Systems, Man, and Cybernetics Conference, CD-ROM-, (2004).
- 土屋哲, 多々納裕一: SCGE モデルを用いた基幹交通網に関する地震リスクのパブリックマネジメント, 社会技術研究論文集, 228-237, (2004).
- 山田真澄, 鈴木祥之, 後藤正美, 清水秀丸: 単位木造フレームを用いた動的・静的実験による木造軸組の耐震性能評価, 日本建築学会構造系論文集, 582, 95-102, (2004).
- Zhang, J., Okada, N., Tatano, H., Hayakawa, S.: Damage Evaluation of Agro-meteorological Hazards in the Maize-Growing Region of Songliao Plain, China: Case Study of Lishu County of Jilin Province, Natural Hazards, Kluwer Academic Publishers, 1(31), 209-232, (2004).
- 坂本麻衣子, 萩原良巳: 長良川河口堰問題を対象とした開発と環境のコンフリクトに関する分析, 水文・水資源学会誌, 18(1), 44-54, (2005).
- Sakamoto, M., Hagihara, Yo.: Conflict Management on the Ganges Water Resources between Bangladesh and India, 水文・水資源学会誌, 18(1), 11-21, (2005).
- 林 康裕: 性能等価応答スペクトルに基づく建築物の地震荷重評価, 2002 年日本地震工学シンポジウム, 651-656, (2002).
- Hou, Z., Suzuki, Y., Shimizu, H.: Damage Detection of a Wooden House During Shaking Table Testing Using Wavelet-based Approach, Proceedings of the Third World Conference on Structural Control, 2, 1121-1127, (2002).
- 岩佐裕一, 榎原健一, 鈴木祥之: 仕口ダンパーを用いた伝統木造軸組の耐震補強-実大振動実験と応答解析-, 第 11 回日本地震工学シンポジウム論文集, 1815-1820, (2002).
- 窪田崇斗, 畑山満則: 自治体空地管理型業務のための平常時・災害時連続運用対応システムの開発, 地域安全学会論文集, 4, 275-280, (2002).
- Li, H., Suzuki, Y., Peng, J., Li, S.: DAMAGE CONTROL OF HYSTERETIC STRUCTURES BY USING INSTANTANEOUS OPTIMAL CONTROL ALGORITHM WITH A SPECIAL WEIGHING MATRIX, Proceedings of the Eleventh Japan Earthquake Engineering Symposium, 1743-1748, (2002).
- 森井雄史, 林 康裕, 鈴木祥之: 観測記録に基づく京都市域の地震動特性に関する研究, 第 11 回日本地震工学シンポジウム論文集, 29-34, (2002).
- Okada, N., Sakakibara, H.: Game Theory-Derived Policy Implications For the Yoshino River Weir Conflict in Tokushima, Japan., Proceedings of the 2002 IEEE International Conference on Systems, Man and Cybernetics, 6-, (2002).
- Sakakibara, H., Okada, N., Tatano, H.: Modeling the Role of a Coordinator as a Medium of Communication in 2-Player Conflicts, Group Decision and Negotiation, 4(11), 311-327, (2002).
- Sakakibara, H., Okada, N., Tatano, H.: The Application of Robustness Analysis to the Conflict with Incomplete Information, IEEE Transaction on Systems, Man and Cybernetics Part C Applications and Reviews, 1(32), 14-23, (2002).
- Sakamoto, M., Hagihara, Yo.: Model Analysis of the Process for Building Consensus under the Conflict Situation between Development and Environment, International Conference on Water Resources and Environment Research, 1, 514-523, (2002).
- 鈴木祥之, 北原昭男, 須田達, 前野将輝, 西塔純人: 伝統木造軸組の実大振動実験による動特性, 第 11 回日本地震工学シンポジウム論文集, 1349-1354, (2002).
- 鈴木祥之, 前野将輝, 大下達哉, 清水秀丸, 北原昭男: 伝統木造軸組の実大振動実験による柱-貫接合部のモーメント抵抗メカニズム, 第 11 回日本地震工学シンポジウム論文集, 1355-1360, (2002).
- 鈴木祥之, 後藤正美, 大下達哉, 前野将輝: 伝統木造軸組の柱傾斜復元力特性に関する実大静的・動的実験, 第 11 回日本地震工学シンポジウム論文集, 1361-1366, (2002).
- 鈴木祥之, 清水秀丸, 須田達, 北原昭男: 実大振動実験による軸組構法 2 階建木造住宅の動特性と耐震性能-筋かい付及び土壁付木造軸組の振動台実験-, 第 11 回日本地震工学シンポジウム論文集, 1377-1382, (2002).
- 鈴木祥之, 後藤正美, 山田真澄: 単位木造フレームを用いた振動台実験による木造軸組の耐震性能評価, 第 11 回日本地震工学シンポジウム論文集, 1517-1522, (2002).
- 鈴木祥之, 斎藤幸雄, 榎原健一, 五十子幸樹, 野島千里: 木造軸組の耐震性能評価法-小変形から大変形・倒壊の領域ま

(A2) 一般査読論文

後藤正美, 山田真澄, 鈴木祥之: 静的実験による耐震性能評価, 第 11 回日本地震工学シンポジウム論文集, 1511-1516, (2002).

で評価する限界耐力計算一, 第 11 回日本地震工学シンポジウム論文集, 1523-1528, (2002).

鈴木祥之, 小嶋伸仁, 須田達, 大西功人, 武田憲明: 木造住宅の地域特性と耐震性能評価, 第 11 回日本地震工学シンポジウム論文集, 2031-2036, (2002).

田中 聡, 林春男, 重川希志依: 災害エスノグラフィーをもちいた災害対応フェーズの同定とその分析, 第 11 回日本地震工学シンポジウム, CD-ROM, (2002).

山本雅史, 東野雅彦, 木林長仁, 長瀬正, 佐分利和宏, 鈴木祥之: 粘性体制震壁を用いた伝統木造軸組の制震に関する振動台実験, 第 11 回日本地震工学シンポジウム論文集, 1809-1814, (2002).

畑山満則: リスク対応型自治体情報管理システムの開発と防災訓練での実証評価, FIT2003 情報科学技術フォーラム講演論文集, CDROM-, (2003).

Hatayama, M., Kakumoto, S., Kajitani, Y., Yoshikawa, K.: A Study about Implementation Process of Spatial Temporal GIS to the Local Government - A Case Study for Duzce Municipality in Turkey -, the 8th Int. Conf. on Computers in Urban Planning and Urban Management, CDROM-, (2003).

畑山満則, 角本 繁: リスク対応型自治体情報管理システムの開発と神戸市長田区総合防災訓練での適用実験, 地域安全学会論文集, 5, 115-160, (2003).

畑山満則, 土肥規男, 小田泰充: DRM 標準フォーマット 21 を用いた道路地図データベースの管理, 土木情報利用技術論文集, 12, 65-72, (2003).

Hipel, K., Okada, N., Fukuyama, K.: The Internationalization of Engineering Education: A Tale of Two Countries, IEEE TRANSACTIONS ON SYSTEMS, MAN, AND CYBERNETICS, 137-148, (2003).

Kajitani, Y., Kakumoto, S., Hayashi, Y., Yoshikawa, K., Hatayama, M.: An Analysis of Damages and Recovery Status in Duzce City after 1999 Turkey Earthquakes employing Spatial-Temporal GIS, the 8th Int. Conf. on Computers in Urban Planning and Urban Management, CDROM-, (2003).

梶谷義雄, 本久仁美, 岡田憲夫, 多々納裕一: 人間活動時空間分布に着目した大規模災害時の被害ポテンシャル評価に関する研究, 土木計画学・論文集, (2003).

Sakamoto, M., Hagihara, Yo.: A Model Analysis of Social Group Conflict, IEEE International Conference on Systems, Man and Cybernetics, 4352-4357, (2003).

土屋哲, 多々納裕一, 岡田憲夫: 空間応用一般均衡アプローチによる東海地震の警戒宣言時の交通規制に伴う経済損失の評価, 地域安全学会論文集, 5, 319-325, (2003).

具典淑, 鈴木祥之, 欧 進萍: 圧電フィルムを用いたヘルスマニタリングに関する実験的研究, 第 3 回日本制震(振)シンポジウム論文集, (2004).

梶谷義雄, 多々納裕一, 岡田憲夫, 松田曜子: 時空間統計モデルを用いた人口分布変動に基づく災害復興過程の分析, 土木学会論文集 No.772, IV-65, 772, 143-151, (2004).

田中正吾, 岡田憲夫: 大規模地震に対する地域のプリペアドネス向上のための参加型コミュニティ・マネジメントに関する研究, 地域安全学会・論文集, 6, 347-355, (2004).

(A3) アブストラクト査読論文

森野真理, 萩原良巳, 内藤正明: 屋久島低地部の猿害対策にむけた自己継続型生物保全システムの提案, 環境システム研究講演論文発表会・講演集, 30, 303-309, (2002).

Nojima, C., Katagihara, K., Ikahata, N., Sunakoda, K., Suzuki, Y.: An Experimental Study of Damping Characteristics in Wooden Frame using Visco-elastic Dampers and Friction Dampers, Proc. of Structural Engineering World Conference (SEWC), (2002).

Pareek, ., Hayashi, Y., Sawada, S.: Study on Rocking Response of Slender Building, Proc. of 12th Symposium Earthquake Engineering, 737-744, (2002).

Murakami, H., Mitsugi, R., Hayashi, Y.: Study on Rocking Response of Slender Building, 7th US-Japan Workshop on Urban Earthquake Hazard Reduction, (2003).

酒井彰, 山村尊房, 萩原良巳: 水と衛生にかかわる適正概念について, 環境システム研究講演論文発表会・講演集, 31, 491-496, (2003).

清水康生, 萩原良巳, 渡辺晴彦: 大都市域水循環の水管理に関する考察, 環境システム研究講演論文発表会・講演集, 31, 431-438, (2003).

Tanimoto, K., Matsushita, M., Tatano, H.: Developing Model to Estimate the Benefit by Upgrading Water Transmission System? A Case Study in Kobe City?, Third DPRI-IIASA Meeting on Integrated Disaster Risk Management, (2003).

Tsuchiya, S., Tatano, H., Okada, N.: Transport-related Impact Assessment of the Tokai Earthquake Warning Declaration, , Proceedings of DPRI-IIASA, the 3rd International Symposium on Integrated Disaster Risk Management, CD-ROM-, (2003).

山村尊房, 萩原良巳, 坂本麻衣子, 畑山満則, 酒井彰, 萩原清子: バングラデシュのヒ素汚染問題におけるシステム論的アプローチに関する基礎的考察, 環境システム研究講演論文発表会・講演集, 31, 309-314, (2003).

Hayashi, Y.: Study on Rocking Response of Slender Building, Proc. Of the 5th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, Matsue Japan, 652-655, (2004).

Hayashi, Y.: Study on Rocking Response of Slender Building, , 1255, (2004).

Hou, B., Ishikawa, K., Shimode, H., Shimizu, H., Suzuki, Y., .: Simulation of Two Story Timber Houses Subjected to Earthquake Motions, Proc. of the 3rd International Conference on Advances in Structural Engineering and Mechanics, 191-196, (2004).

Kaneko, M., Hayashi, Y.: Study on Rocking Response of Slender Building, Proc. of 13th WCEE, 3299, (2004).

Maeno, M., Suzuki, Y., Ohshita, T., Kitahara, A.: SEISMIC RESPONSE CHARACTERISTICS OF TRADITIONAL WOODEN FRAME BY FULL-SCALE DYNAMIC AND STATIC TESTS, Proc. of 13th World Conference on Earthquake Engineering, 1184, (2004).

Maeno, M., Suzuki, Y., Saito, S.: Moment Resistance of Traditional Wooden Structure by Dynamic and Static Tests, Proceedings of the 8th World Conference on Timber Engineering, 493-498, (2004).

Morii, T., Hayashi, Y.: Study on Rocking Response of Slender Building, Proc. of 13th WCEE, 1377, (2004).

Okada, N., Sakakibara, H.: Conflict Management as a part of

Integrated Disaster Risk Management – Issues, Socio-Cultural Contexts, and Methodological Leverages, Proceedings of the 2004 IEEE Systems, Man, and Cybernetics Conference, 1024-1028, (2004).

Shimizu, H., Suzuki, Y., Suda, T., Kitahara, A.: Seismic Performance of Wood Houses by Full-Scale Shaking Tests of Two-Storied Post-and-Beam Wooden Frames, Proc. of 13th World Conference on Earthquake Engineering, 1487, (2004).

Yamada, M., Suzuki, Y., Gotou, M.: SEISMIC PERFORMANCE EVALUATION OF JAPANESE WOODEN FRAMES, Proc. of 13th World Conference on Earthquake Engineering, 753, (2004).

山村尊房, 萩原良巳, 畑山満則, 酒井彰, 萩原清子, 神谷大介, 福島陽介, 坂本麻衣子, Hoque, Bilqis A.: バングラデシュのヒ素汚染対策アプローチのための現地調査結果, 環境システム研究講演論文発表会・講演集, 32, 557-563, (2004).

(B) 解説・総説

岡田憲夫: 21 世紀におけるアジア型防災戦略を考える: パラダイム転換と日本の役割, 国際協力銀行, 180-200, (2002).

岡田憲夫: リスクマネジメントの時代と社会基盤整備の潮流, 地質と調査, 4, 2-6, (2002).

岡田憲夫: 防災問題のリスクマネジメントとその新しい世界の潮流, 日本リスク研究学会, 14(1), 1-2, (2002).

南宏一, 林 康裕, 有木寛江, 井上豊: 限界耐力計算法による構造設計の内容の分析と考察、建築の試験・研究情報誌 G B R C・技術解説, (財) 日本総合試験所, 28(2), 11-21, (2003).

鈴木祥之, 奥田辰雄, 須田達, 野島千里, 片岡弘行, 永谷芳郎: 14 章 設計例・限界耐力設計法, 月刊建設技術, (2003).

鈴木祥之, 斎藤幸雄, 榎原健一, 野島千里: 8 章 限界耐力設計法, 月刊建設技術, (2003).

鈴木祥之: 伝統木造建築の構造設計の考え方, 建築研究協会誌, 17-28, (2003).

鈴木祥之: 木造文化の再構築のために, 中小商工業研究, 中小商工業研究所, 77, 86-97, (2003).

鈴木祥之: 地震災害から建物を守る, 防災学講座・地震災害論, 京都大学防災研究所 (編集), 山海堂, 143-158, (2003).

林 康裕: 超高層建物 (上), 毎日新聞, (2004).

林 康裕: 超高層建物 (下), 毎日新聞, (2004).

岡田憲夫: 持続的な国土と地域づくりのための総合的な災害リスクマネジメント, 人と国土 21-特集防災対策, 4(30), 16-22, (2004).

鈴木祥之, 斎藤幸雄, 河合直人, 榎原健一, 榊田洋子, 野島千里, 北山宏貴, 鈴木直幹, 須田達, 井上隆二, 石田勝之: 木造軸組構法建物の限界耐力計算に基づく耐震設計法・耐震補強設計法, GBRC, 29(1), 2-13, (2004).

鈴木祥之: 町家の耐震性と耐震補強について, 京都大学防災研究所公開講座「防災情報の作成と伝達」, 13-24, (2004).

鈴木祥之: 伝統構法木造軸組建物の耐震設計・耐震補強法, 公開シンポジウム「住みたい、建てたい、地震に強い快適木造住宅」, 日本木材学会中国四国支部 2004 年度研究発表大会記念行事, 12-19, (2004).

鈴木祥之: 住宅の大地震に対する備え, 災害に強いまちづくり講座, 京都市防災協会, (2004).

鈴木祥之: 構造物の健康管理と損傷度の検出法, 第 19 回「大学と科学」公開シンポジウム「ここまで進んだ日米の都市

地震防災」, 31-33, (2004).

鈴木祥之: 木造建物の耐震設計と耐震補強, 第 8 回震災技術展シンポジウム「来るべき大地震に対する構造物の備えの現状と課題 ～ 南海トラフの地震に対してだけ備えていて良いのか～」, 日本地震工学会, (2004).

多々納裕一: 社会技術としてのリスクマネジメントの確立に向けて, JACIC 情報 74, 2(19), 1-1, (2004).

多々納裕一: 自治体におけるリスクマネジメント, 国際文化研修 2004 夏, 18-21, (2004).

多々納裕一: ライフサイクル費用とリスク工学, 土と基礎 地盤工学会誌, 52(8), 35-42, (2004).

鈴木祥之: 木造建物の耐震設計・耐震補強法, JSCA シンポジウム「阪神・淡路大震災から 10 年」, (2005).

鈴木祥之: 木造建物は大地震に対して安全・安心か? ① 木造建物は安全になったか?、阪神・淡路大震災 10 年事業シンポジウム「くらしといのちを守る」, 日本建築学会近畿支部, 1-8, (2005).

(C) 著書

鈴木祥之 (編著): 木造軸組構法の耐震設計法 一改正基準法の法体系から最新の限界耐力設計法まで, 日本建築学会近畿支部 (木造部会), (2002).

鈴木祥之 (編著): 木構造と木造文化の再構築を目指して, 木構造と木造文化の再構築特別研究委員会, 日本建築学会, (2002).

多々納裕一: 経済被害, 防災事典 築地書館, 96-96, (2002).

多々納裕一: 心理的被害, 防災事典 築地書館, 198-198, (2002).

土岐憲三, 河田恵昭, 岡田憲夫(他): 防災事典, 日本自然災害学会, (2002).

Abdullah, A., Okada, N., Yusoff, K.: Water Environmental Planning, International Islamic University Malaysia, (2003).

林 康裕, 金子美香: 15 章家具, 16 章コンピュータ機器, 17 章医療機器, 日本建築学会編, 267-296, (2003).

今本博健, 岡田憲夫, 河田恵昭, 林 春男: 防災計画論, 京都大学防災研究所論編, 山海堂, (2003).

小林正美, 竹内典之, 高橋康夫, 井井修一, 鈴木祥之, 渡邊史夫: 木造都市の設計技術, コロナ社, 282, (2003).

鈴木祥之 (分担執筆): 防災学講座・地震災害論, 京都大学防災研究所 (編集), 山海堂, 224, (2003).

鈴木祥之 (編著): 木造軸組構法建物の限界耐力計算による耐震設計・耐震補強設計マニュアル, 木造軸組構法建物の限界耐力計算による耐震設計法編集委員会, (財) 日本建築総合試験所, (2003).

多々納裕一: 金融リスクとプロジェクトマネジメント, 新領域土木工学ハンドブック, 175-177, (2003).

多々納裕一: 災害リスクと社会資本, 新領域土木工学ハンドブック, 177-179, (2003).

多々納裕一: 不確実性下の便益評価問題, 新領域土木工学ハンドブック, 925-927, (2003).

六郷恵哲編集, 岡田憲夫: コンフリクトの構図、切り口としてのゲーム理論, 合意形成論, 土木学会編, 80-96, (2004).

鈴木祥之 (監修): 木造住宅耐震診断・補強の手引き, (財) 滋賀県建築住宅センター, 97, (2004).

鈴木祥之（編著）：伝統構法を生かす木造耐震設計マニュアルー限界耐力計算による耐震設計・耐震補強設計法，木造軸組構法建物の耐震設計マニュアル編集委員会、学芸出版社、240、(2004).

Tatano, H., Yamaguchi, K., Okada, N.: Risk Perception, Location Choice, and Land-use Patterns under Disaster Risk: Long-term Consequences of Information Provision in A Spatial Economy, Springer-Verlag, 163-180, (2004).

(D) 紀要・報告書

Hipel, K., Okada, N., Fukuyama, K.: International Exchange Programs in Engineering between the University of Waterloo in Canada and Tottori and Kyoto Universities in Japan., Technical Report Dept of Systems Design Engineering University, University of Waterloo, 1-24, (2002).

岡田憲夫，梶谷義雄，多々納裕一：人間活動分布の時空間解析に関する研究ーニッチ分析による，京都大学防災研究所年報，45B, 1-10, (2002).

Otani, S., Suzuki, Y., Kawahima, K.: Proc. of Workshop on Smart Structural systems organized for U.S-Japan Cooperative Research Programs on Smart Structural Systems(Auto-adaptive Media) and Urban Earthquake Disaster Mitigation., (2002).

鈴木祥之（編著）：2002年度日本建築学会大会（北陸）研究協議会資料「木構造と木造文化の再構築を目指して」，日本建築学会木構造と木造文化の再構築特別研究委員会，(2002).

多々納裕一：水害保険と危機管理，(財)河川環境管理財団・河川整備基金「フランスにおける水害調査等報告書」，39-58, (2002).

多々納裕一，梶谷義雄，岡田憲夫：リスクプレミアムの測定方法に関する実証的考察，京都大学防災研究所年報，45B, 11-18, (2002).

萩原良巳，酒井彰，山村尊房，Hoque, Bilqis A.: バングラデシュ都市スラム地区における都市衛生状況改善の試み，京都大学防災研究所年報，46B, 31-36, (2003).

萩原良巳，渡辺晴彦，清水康生：大都市域水循環圏の水管理に関する考察，京都大学防災研究所年報，46B, 37-44, (2003).

萩原良巳，畑山満則，神谷大介：震災リスク軽減のための水辺環境の創成計画に関する研究，京都大学防災研究所年報，46B, 45-52, (2003).

萩原良巳，畑山満則，寺尾京子，金行方也：京都市旧市街地における災害弱地域と高齢者のコミュニティに関する研究，京都大学防災研究所年報，46B, 53-60, (2003).

萩原良巳，畑山満則：コミュニティの活性化・不活性化が災害時の情報伝達に及ぼす影響に関する研究，京都大学防災研究所年報，46B, 61-66, (2003).

萩原良巳，萩原清子，Hoque, Bilqis A., 山村尊房，坂本麻衣子，宮城島一彦：バングラデシュにおける災害問題の実態と自然・社会特性との関連，京都大学防災研究所年報，46B, 15-30, (2003).

畑山満則：阪神・淡路大震災の経験を基にしたリスク対応型地域空間情報システムの開発，情報処理学会研究報告，2003-IS-86, 15-22, (2003).

Hayashi, Y., Murakami, H., Morii, T.: Damage and Restoration of Houses in the 2000 Western Tottori Prefecture Earthquake, Japan,

Proc. of the 2003 Joint Seminar and Stakeholders Symposium on Urban Disaster Management and Implementation, 161-164, (2003).

Hayashi, Y.: Comparison of Wooden House Damage Between 1995 Kobe Earthquake and 2000 Tottori Earthquake of Japan, The Third DPRI-IIASA International Symposium on Integrated Disaster Risk Management Coping with Regional Vulnerability, (2003).

林 康裕，森井雄史：建物の地震被害から見た強震動評価、地震災害軽減のための強震動予測マスターモデルに関する研究、第2回シンポジウム論文集、151-158, (2003).

林 康裕，村上ひとみ：地盤条件と地震環境，木造住宅の耐震性能評価・耐震補強調査ー萩市浜崎伝統的建造物群保存地区における調査報告、日本建築学会近畿支部（木造部会），1-10, (2003).

Okada, N., Hatayama, M.: Implementation as a Trickle-down Process of Knowledge and Technology to a Local Community, 京都大学防災研究所年報，46B, 67-74, (2003).

鈴木祥之，村上ひとみ：「木造住宅の耐震性能・耐震補強調査ー萩市浜崎伝統的建造物群保存地区における調査報告ー」，日本建築学会近畿支部・木造部会，(2003).

萩原良巳，畑山満則，岡田祐介：京都の水辺の歴史的変遷と都市防災に関する研究，京都大学防災研究所年報，47B, 1-14, (2004).

萩原良巳，萩原清子，酒井彰，山村尊房，畑山満則，神谷大介，坂本麻衣子，福島陽介：バングラデシュにおける飲料水のヒ素汚染に関する社会調査，京都大学防災研究所年報，47B, 15-34, (2004).

萩原良巳，酒井彰，萩原清子，山村尊房，Hoque, Bilqis A., 畑山満則，神谷大介，福島陽介：バングラデシュ都市住民の生活特性と衛生意識，京都大学防災研究所年報，47B, 35-42, (2004).

HARTMANN, J., Okada, N., LEVY, J.: Assessing the Composite Risk of River Contamination-Perspectives, Problems, Methodology, 京都大学防災研究所年報，47C, 289-297, (2004).

Nagae, T., Tatano, H., Okada, N.: Optimal Maintenance of Infrastructures under Natural Disaster Risk, Annuals of the Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University, 47C, 299-304, (2004).

Okada, N., Tatano, H., Hagiwara, Y., Suzuki, Y., Hayashi, Y., Hatayama, M., Hartman, J., Nagae, T., Shimizu, H.: Integrated Research on Methodological Development of Urban Diagnosis for Disaster Risk and its Applications, 京都大学防災研究所年報，47C, 1-8, (2004).

Sakamoto, M., Hagihara, Yo.: Conflict Management on the Ganges Water Resources Between Bangladesh and India, 京都大学防災研究所年報，47B, 43-55, (2004).

土屋哲，多々納裕一，岡田憲夫：巨大地震災害時の交通施設の機能低下に起因する社会経済損失の計量化に関する研究，京都大学防災研究所年報，47B, 57-67, (2004).

Suzuki, Y.: Monitoring and Damage Detection Systems of Structures, US-Japan Cooperative Research in Urban Earthquake Disaster Prevention, Grant-in-Aid for Scientific Research on Priority Areas, 11209206, (2004).

有木寛江, 林 康裕, 南宏一, 井上豊: 限界耐力計算による建築物の耐震設計の最近の動向, 第1回・性能規定型耐震設計に関する研究発表会, 35-38, (2004).

(E) 講義・講演会テキスト

林 康裕: 地震被害から見た地震荷重, 2002 年度日本建築学会大会, 構造部門(振動)PD 資料, 2-11, (2002).

林 康裕: 建物性能把握と強震観測, 日本建築学会 第3回強震データの活用に関するシンポジウム、建物の強震観測に関する将来像, 27-31, (2002).

林 康裕: 設計用入力地震動はどうあるべきか, シンポジウム「建築基準法改正後の実務設計がどう変わったか その実例と解説」, 日本建築学会近畿支部・建築業協会関西支部, 87-94, (2002).

林 康裕: 南海地震推定波の分析, 「シンポジウム 20XX 年の南海地震を考える」, 日本建築学会近畿支部耐震構造研究部会, 71-76, (2002).

Okada, N.: Disaster Prevention Strategies of an Asia Model in the 21st Century: A Paradigm Shift and the Role of Japan, 国際協力銀行, 第3回JBICシンポジウム報告書, 161-209, (2002).

林 康裕: 耐震設計の現状と今後のあり方, 第7回構造物と地盤の動的相互作用シンポジウム, 125-130, (2003).

林 康裕: 建築物性能評価と設計用地震動, 地震荷重一性能設計への展望一, 日本建築学会構造委員会 振動運営委員会 地震荷重小委員会シンポジウム, 54-59, (2003).

林 康裕: 近年の被害地震における建物の非構造部材被害と地震動強さとの関係, 近年の被害地震におけるコンクリート構造物の耐震性能評価に関する研究委員会 報告書・論文集, JCI-C62, 371-374, (2004).

(F) 新聞・雑誌記事

林 康裕: 「ネットワーク 1.17」, MBS ラジオ, -, (2002).

岡田憲夫: 「震災リスクって何ですか?」, 最強のリスクマネジメント 東洋経済新聞社, 108-109, (2003).

林 康裕: 「災害列島の今 4」, 神戸新聞, (2004).

林 康裕: 「南海地震に備える-研究室からのメッセージ下」, 毎日新聞, (2004).

林 康裕: 「南海地震に備える-研究室からのメッセージ上」, 毎日新聞, (2004).

(G1) 講演会概要集

阿部淳平, 畑山満則, 亀田弘行: 災害時の安否確認のための地域コミュニティにおける独居老人管理システムの開発, 平成 14 年度関西支部年次学術講演会講演概要, IV-82-1-IV-82-2, (2002).

風呂迫ウララ, 杉山亮太, 山田真澄, 後藤正美, 鈴木祥之: 単位木造フレームを用いた動的・静的実験による木造軸組の耐震性能評価 その 4. 荒壁パネルを用いた木造軸組の耐震性能評価, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 347-, (2002).

後藤正美, 山田真澄, 鈴木祥之: 単位木造フレームを用いた動的・静的実験による木造軸組の耐震性能評価 その 1. 実験概要, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 341-, (2002).

グエン フク ディン, 多々納裕一, 岡田憲夫: 存続可能性を制約条件とした自然災害保険システムの設計方法に関する研究, 土木計画学研究・講演集, 26, CD-ROM-, (2002).

萩原良巳: 下水道のブレイクスルー, 下水文化研究, 13, 20-38, (2002).

Hagihara, Yo., Shimizu, Y.: A Study of Earthquake Disaster Mitigation and Waterfront Recreation in Urban Area Utilizing of Reclaimed Water, Joint Seminars on Urban Disaster Management, CBTDC and DPRI of Kyoto University, 153-158, (2002).

原田規行, 前野将輝, 後藤正美, 鈴木祥之: 伝統木造軸組における接合部仕口の復元力特性, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 231-, (2002).

Hatayama, M.: An Application of RoboCupRescue Simulator in Local Government, SICE Annual Conference 2002 PROCEEDINGS, CDROM-, (2002).

畑山満則, 井上芳明, 石黒周: リスク・コミュニケーションへの RoboCupRescue シミュレータの適応に関する考察, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門学術講演会 SICE SI2002 講演論文集, 1, 267-268, (2002).

林康裕, 鈴木祥之: 性能等価スペクトルに基づく木造建物の地震荷重評価, 日本建築学会大会学術講演梗概集, B-1, 33-, (2002).

Hori, T., Ji-Quan, Z., Tatano, H., Okada, N., Ikebuchi, S.: Micro-zonation-based Flood Risk Assessment in Urbanized Floodplain, Second Annual IIASA-DPRI Meeting for Integrated Disaster Risk Management., (2002).

一ノ瀬博明, 鈴木祥之, 山田真澄, 野島千里: 木造軸組の単位フレームを用いた振動台実験による制震補強法の検証 その 2 仕口タイプ粘弾性ダンパーによる木造軸組の制震補強, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 293-, (2002).

Kajitanai, Y., Okada, N., Tatano, H.: Statistical Analysis of Spatial Temporal Distributions of Human Activities after an Earthquake Disaster, Second Annual IIASA-DPRI Meeting for Integrated Disaster Risk Management., 1-15, (2002).

梶谷義雄, 岡田憲夫, 多々納裕一, 本久仁美: 時空間情報システムを用いた人間活動分布の潜在的危険度評価に関する研究, 土木計画学研究・講演集, 26, (2002).

Kakumoto, S., Kosugi, Y., Hatayama, M., Kameda, H.: Development of Spatial Temporal Geographic Information System and Risk Adaptive Regional Management Information System -- Toward Development of GIS based on Asian Culture for Disaster Prevention --, SICE Annual Conference 2002 PROCEEDINGS, CDROM-, (2002).

小嶋伸仁, 大西功人, 武田憲明, 鈴木祥之: 木造住宅の地域特性と耐震性能評価 日本各地の住宅の現状, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 393-, (2002).

李書進, 鈴木祥之: スリップを伴う履歴型構造物系の同定, 日本建築学会大会学術講演梗概集, B-1, 295-, (2002).

前野将輝, 大下達哉, 清水秀丸, 鈴木祥之: 伝統木造軸組の実大振動実験 (その 21) 柱一貫接合部のモーメント抵抗メカニズム, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 241-, (2002).

森井雄史, 林 康裕: 表層地盤の地震動増幅特性と入射地震動特性が木造家屋被害に及ぼす影響, 2002 年地域安全学会梗概集, 67-70, (2002).

- 森井雄史, 林康裕, 鈴木祥之: 観測記録に基づく京都市域の地震動増幅特性に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, B-2, 231-, (2002).
- Morino, M., Sakamoto, M., Suzuki, S., Yamagiwa, J., Hagihara, Y., Naito, M.: Food Plant Richness in the Favorite Habitat for Macaca Fuscata Yakui in the Yakushima Island, Japan, Society for Conservation Biology 16th Annual Meeting, (2002).
- 村上ひとみ, 三樹亮介, 林 康裕, 北原昭男: 2000 年鳥取県西部地震による被災住宅の復旧に関する意志決定, 2002 年地域安全学会梗概集, 99-102, (2002).
- 野島千里, 樫原健一, 鈴木祥之: 木造軸組の耐震性能評価法変位増分法, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 397-, (2002).
- 鬼丸貞友, 林 康裕, 吉川正隆, 森井雄史: 限界耐力計算法における地盤増幅係数 G_s に関する研究 (その 2 実地盤への適用例), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造(B-1), 37-38, (2002).
- 大西功人, 武田憲明, 鈴木祥之: 地域の特色ある伝統構法木造住宅の構造調査 広島県東広島市・黒瀬町地域, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 403-, (2002).
- 大下達哉, 前野将輝, 後藤正美, 鈴木祥之: 伝統木造軸組の実大振動実験 (その 22) 静的・動的実験による柱傾斜復元力特性, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 243-, (2002).
- 西塔純人, 前野将輝, 須田達, 鈴木祥之: 伝統木造軸組の実大振動実験 (その 20) 試験体 (第 3 期) の振動台実験による動特性, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 239-, (2002).
- Sakamoto, M., Hagihara, Yo.: A Model Analysis of the Social Group Conflict Incidental to Public Development Project, DPRI-IIASA International Symposium, (2002).
- Sakamoto, M., Hagihara, Yo.: A Model Analysis of Conflict Process towards Stable Conditions incidental to Regional Development on Water Resources, Regional Science Association International Conference, (2002).
- 島野幸弘, 浜口弘樹, 椿英顯, 東野雅彦, 北原昭男, 鈴木祥之: タイトル: 計測震度を用いた建物内什器類の地震時損傷レベル予測手法の提案, 日本建築学会大会学術講演梗概集, B-2, 53-, (2002).
- 清水康生, 萩原良巳: 水循環システムのネットワークモデルと評価指標, 水資源に関するシンポジウム論文集, 6, 319-324, (2002).
- 清水秀丸, 須田達, 北原昭男, 鈴木祥之, 後藤正美: 軸組構法 2 階建木造住宅の実大振動実験 土壁付き軸組試験体の結果, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 119-, (2002).
- 杉山亮太, 山田真澄, 後藤正美, 鈴木祥之: 単位木造フレームを用いた動的・静的実験による木造軸組の耐震性能評価 その 2. 短・長ほぞによる木造軸組の耐震性能, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 343-, (2002).
- 武田憲明, 大西功人, 鈴木祥之: 地域の特色ある伝統構法木造住宅の構造調査 鳥取県日野町地域, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 405-, (2002).
- Tatano, H., Okada, N.: A Simulation-Based Optimization Approach for Integrated Flood Risk Management, JSPS-VCC Seminar on Water Environmental Planning, 7.1-7.11, (2002).
- 角本繁, 吉川耕司, 畑山満則, 小杉幸夫: 自治体情報管理と全庁型 GIS の構築—平常業務システムからリスク対応型地域情報システムへ—, 地理情報システム学会講演論文集, 11, 173-176, (2002).
- 臼井真人, 吉川耕司, 角本繁, 畑山満則, 梶谷義雄: 時空間情報システムを用いたトルコ大地震の災害復興支援活動, 地理情報システム学会講演論文集, 11, 177-182, (2002).
- 白井和貴, 山中昌之, 山田真澄, 鈴木祥之, 石田光, 田中眞夫: 木造軸組の単位フレームを用いた振動台実験による制震補強法の検証 その 1 ガラスと粘弾性体を用いた透明制振壁, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 291-, (2002).
- 山田真澄, 鈴木祥之, 後藤正美: 単位木造フレームを用いた動的・静的実験による木造軸組の耐震性能評価 その 3. 小壁、全面壁による木造軸組の耐震性能, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 345-, (2002).
- 吉川正隆, 林 康裕, 鬼丸貞友, 森井雄史: 限界耐力計算法における地盤増幅係数 G_s に関する研究 (その 1 略算式の提案), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造(B-1), 35-36, (2002).
- 畑山満則, 神谷周浩, 土肥規男: 道路ネットワーク情報の履歴管理と道路ネットワークベースの地図システムとの連動に関する考察, 地理情報システム学会講演論文集, 11, 335-338, (2002).
- 後藤正美, 山田真澄, 越道一也, 鈴木祥之: 単位木造フレームを用いた動的・静的実験による木造軸組の耐震性能評価その 7 連続壁の復元力特性, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 119-, (2003).
- 郭耕杖, 林 康裕, 神原浩: 2003 年宮城県沖・宮城県北部地震における地震動強さと病院被害の関係, 2003 日本地震工学会大会梗概集, 特 138-139, (2003).
- 郭耕杖, 鈴木祥之: 不確定復元力特性を有する木造軸組の耐震性能評価, 日本建築学会大会学術講演梗概集, B-1, 31-, (2003).
- Hagihara, Yo., Hatayama, M., Kamiya, D.: A Spatial Planning of Water Side Area for Earthquake Disaster Mitigation in Urban Area, Joint Seminar and Stakeholders Symposium on Urban Disaster Management and Implementation, (2003).
- 原田規行, 岡村雅克, 後藤正美, 鈴木祥之, 岩本いづみ: 木造軸組構法の耐震性能評価に関する実験的検討その 2 接合部要素実験, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 419-, (2003).
- 原田規行, 西村督, 後藤正美, 鈴木祥之: ほぞ接合部の力学性能の実験的検討, 日本地震工学会大会-2003 梗概集, o06-10-, (2003).
- 畑山満則, 岡田憲夫, 河野俊樹: 利用者の受容性を考慮した情報処理技術のインプリメンテーションプロセス—鳥取県智頭町を対象として—, 土木計画学研究・講演集, 28, CDROM-, (2003).
- 畑山満則, 萩原良巳: 京都市市街地における災害弱地域と高齢者の生活行動・コミュニティに関する分析, 日本地域学会 第 40 回年次大会 学術発表論文集, 163-170, (2003).
- 畑山満則, 石黒周: 情報処理システムを用いた市民参加型防災まちづくりプロセスに関する一考察, 562-565, (2003).
- 林 康裕: 木造建物の地震被害予測に関する一考察, 第 22 回自然災害学会学術講演会 講演梗概集, 43-44, (2003).

- 林 康裕, 森井雄史: 地震時の地盤増幅特性の簡略的評価, 第 38 地盤工学研究発表会梗概集, 2107-2108, (2003).
- 林康裕, 森井雄史, 中村仁, 村上ひとみ, 後藤正美, 鈴木祥之: 2003 年 7 月 26 日宮城県北部地震の木造建物被害調査 その 1 地震動特性と被害, 日本地震工学大会-2003 梗概集, s03-22-, (2003).
- 堀由紀子, 鈴木祥之, 林康裕, 小笠原昌敏, 村上ひとみ, 斎藤幸雄, 棚橋秀光: 萩市浜崎地区の伝統木造建物の耐震性能評価と耐震補強 (その 1) 建物特性と耐震補強, 日本地震工学大会-2003 梗概集, o06-16-, (2003).
- 細入夏加, 鈴木祥之: 現在に継承されてきた木造軸組の木工技法に関する調査, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 395-, (2003).
- 細入夏加, 鈴木祥之, 林康裕, 村上ひとみ, 斎藤幸雄, 野島千里, 須田達: 萩市浜崎地区の伝統木造建物の耐震性能評価と耐震補強 (その 2) 構造特性と耐震性能評価, 日本地震工学大会-2003 梗概集, o06-14-, (2003).
- 岩本いづみ, 前野将輝, 大西功人, 後藤正美, 鈴木祥之: 単位木造フレームを用いた動的・静的実験による木造軸組の耐震性能評価その 9 差鴨居を有する伝統木造軸組の曲げモーメント分布, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 123-, (2003).
- 岩本いづみ, 清水秀丸, 前野将輝, 鈴木祥之: 伝統木造軸組の復元力特性の評価 (その 2) 柱一横架材接合部の復元力特性, 日本地震工学大会-2003 梗概集, o06-07-, (2003).
- Kajitani, Y., Okada, N., Tatano, H., Motohisa, H.: Development of Search and Rescue Simulator Based Spatial-Temporal Information System, Proceedings of The 2003 Joint Seminar and Stakeholders Symposium on Urban Disaster Management and Implementation, CBTDC, 155-160, (2003).
- 柿沼誠之, 畑山満則, 岡田憲夫: 複合型高齢者福祉サービスを対象とした異業種連携のための情報共有プロセスに関する考察, 土木学会全国大会第 58 回年次学術講演会講演概要集, CDROM-, (2003).
- 柿沼誠之, 畑山満則, 岡田憲夫: 情報共有プロセスに着目した複合型高齢者福祉サービス導入過程に関する一考察, 平成 15 年度関西支部年次学術講演会講演概要, IV-79-1-IV-79-2, (2003).
- Kamiya, D., Hagihara, Yo., Hatayama, M.: A Study of Environmental Creation Planning for Earthquake Disaster Mitigation in Urban Area, DPRI-IIASA International Symposium, (2003).
- 神谷大介, 畑山満則, 萩原良巳: 避難行動に着目した地域環境評価に関する研究, 土木学会全国大会第 58 回年次学術講演会講演概要集, CDROM-, (2003).
- 土屋哲, 多々納裕一, 岡田憲夫: 東海地震の警戒宣言下において交通規制を主原因とした社会経済損失の計量化, 土木学会年次講演会, (2003).
- 神谷大介, 萩原良巳, 畑山満則: 都市域における減災のための環境創成計画に関する研究, 土木計画学研究・講演集, 28, CDROM-, (2003).
- 神谷大介, 萩原良巳, 畑山満則: 都市域における環境創生による災害リスクの軽減に関する研究, 日本地域学会 第 40 回年次大会 学術発表論文集, 171-180, (2003).
- 金行方也, 神崎幸康, 萩原良巳, 清水康生: 京都市旧市街地の災害弱地域の基礎的診断, 平成 14 年度関西支部年次学術講演会講演概要, IV-89-1-IV-89-2, (2003).
- 神原浩, 林 康裕, 田村和夫: アンケート調査に基づく非構造部材被害と地震動強さの関係, 2003 日本地震工学学会大会梗概集, 444-445, (2003).
- 神原浩, 田村和夫, 林 康裕, 菅野俊介: アンケート調査に基づく建物の非構造部材被害と地震動強さとの関係 その 2 建物被害率と地震動強さとの関係, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造(B-2), 57-58, (2003).
- 神崎幸康, 萩原良巳: 震災リスク軽減のための高齢者の生活行動シミュレーション, 平成 14 年度関西支部年次学術講演会講演概要, IV-80-1-IV-80-2, (2003).
- 梶原健一, 野島千里, 鈴木祥之: 限界耐力計算による耐震設計での制震ダンパーの適用, 日本地震工学大会-2003 梗概集, o09-03-, (2003).
- 小嶋伸仁, 村上ひとみ, 野島千里, 斎藤幸雄, 鈴木祥之, 瀧本浩一: 萩市浜崎地区における軸組木造住宅の地震安全性調査概要, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 307-, (2003).
- 小嶋伸仁, 鈴木祥之: 居住者の危険意識と住宅の耐久性, 日本地震工学大会-2003 梗概集, o06-12-, (2003).
- 前野将輝, 鈴木祥之: 伝統木造軸組の実大振動実験 (その 24) 柱脚部のモーメント抵抗, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 421-, (2003).
- 前野将輝, 鈴木祥之: 伝統木造軸組の柱傾斜復元力特性と柱一貫接合部のモーメントの合成, 日本地震工学大会-2003 梗概集, o06-08-, (2003).
- 文字祐介, 萩原良巳: 都市域における減災水辺公園の創生に関する研究, 平成 15 年度関西支部年次学術講演会講演概要, IV-71-1-IV-71-2, (2003).
- 森井雄史, 林 康裕: 2001 年芸予地震における三原市の地震動と構造物被害の解釈, 第 22 回自然災害学会学術講演会講演梗概集, 41-42, (2003).
- 森井雄史, 林 康裕: 鳥取県西部地震における日野町木造建物被害の分析 (その 1), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造(B-2), 67-68, (2003).
- 森井雄史, 林 康裕, 北原昭男, 村上ひとみ: 鳥取県西部地震における日野町木造建物被害の分析 (その 3), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造(B-2), 71-72, (2003).
- 向坊恭介, 鈴木祥之: 不確定復元力特性を有する木造軸組の耐震性能評価, 日本建築学会大会学術講演梗概集, B-1, 347-, (2003).
- 向坊恭介, 森井雄史, 須田達, 長能正武, 林康裕, 鈴木祥之: 2003 年 7 月 26 日宮城県北部地震の木造建物被害調査 その 2 木造建物及び地盤の振動特性, 日本地震工学大会-2003 梗概集, s03-23-, (2003).
- 村上ひとみ, 斎藤幸雄, 野島千里, 小嶋伸仁, 鈴木祥之, 林康裕: 萩市伝建地区の木造住宅耐震調査一地域におけるリスク・コミュニケーション手法一, 日本地震工学大会-2003 梗概集, o11-03-, (2003).
- 野島千里, 梶原健一, 鈴木祥之: 木造軸組に付加する制震装置の評価法について, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 133-, (2003).
- 西村督, 原田規行, 後藤正美, 鈴木祥之: ほぞ接合部の力学モデルの提案, 日本地震工学大会-2003 梗概集, o06-11-, (2003).

- 西村和司, 清水康生, 萩原良巳: グラフ理論による大都市域水循環システムの安定性分析, 平成 14 年度関西支部年次学術講演会講演概要, IV-97-1-IV-97-2, (2003).
- 野島千里, 鈴木祥之, 樫原健一: 木造建物のダンパーによる制震補強, 日本地震工学会-2003 梗概集, o02-07-, (2003).
- 野島千里, 樫原健一, 斎藤幸雄, 鈴木祥之: 限界耐力計算における変位増分法, 日本地震工学会-2003 梗概集, o09-02-, (2003).
- 坂本麻衣子, 萩原良巳: 環境と開発のコンフリクトにおける集団の意見分布に関するモデル分析, 平成 14 年度関西支部年次学術講演会講演概要, IV-72-1-IV-72-2, (2003).
- 岡村雅克, 原田規行, 後藤正美, 鈴木祥之, 岩本いつみ: 木造軸組構法の耐震性能評価に関する実験的検討その 1 鴨居付き軸組実験, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 417-, (2003).
- 大西功人, 鈴木祥之, 山田真澄, 岩本いつみ, 後藤正美: 単位木造フレームを用いた動的・静的実験による木造軸組の耐震性能評価その 8 差鴨居を有する伝統木造軸組の耐震性能評価, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 121-, (2003).
- 大西功人, 山田真澄, 岩本いつみ, 後藤正美, 鈴木祥之: 差鴨居を有する伝統木造軸組の耐震性能評価, 日本地震工学会-2003 梗概集, o06-09-, (2003).
- 西塔純人, 前野将輝, 大下達哉, 鈴木祥之: 伝統木造軸組の実大振動実験(その 25) 組物を含む柱の復元力特性の評価, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 423-, (2003).
- 西塔純人, 前野将輝, 清水秀丸, 鈴木祥之: 伝統木造軸組の復元力特性の評価 (その 1) 軸組のスケールと鉛直荷重の変化による影響, 日本地震工学会-2003 梗概集, o06-06-, (2003).
- 斎藤幸雄, 鈴木祥之, 樫原健一, 野島千里: 限界耐力計算による木造建物耐震設計の現状と問題点, 日本地震工学会-2003 梗概集, o09-01-, (2003).
- 坂本功, 目黒公郎, 鈴木祥之, 岡田恒, 神谷文夫, 箕輪親宏, 五十田博: 既存木造住宅の耐震性向上に関する総合的研究その 1 研究概要, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 199-, (2003).
- Sakamoto, M., Hagihara, Yo.: Model Analysis of Conflict between Bangladesh and India over the Ganges River Water Resources, DPRI-IIASA International Symposium, (2003).
- Sato, Y., Hagihara, Yo.: Decision-making System under the Conflict Situation between Water Resources Development and Environmental Conservation, DPRI-IIASA International Symposium, (2003).
- 清水秀丸, 須田達, 北原昭男, 鈴木祥之, 後藤正美: 軸組構法 2 階建木造住宅の実大振動実験合板付き軸組試験体の結果, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 681-, (2003).
- 清水秀丸, 奥田辰雄, 小嶋伸仁, 岩本いつみ, 斎藤幸雄, 鈴木祥之: 2003 年 7 月 26 日宮城県北部地震の木造建物被害調査 その 3 被災木造建物の耐震性能評価, 日本地震工学会-2003 梗概集, s03-24-, (2003).
- 須田達, 森井雄史, 林 康裕: 鳥取県西部地震における日野町木造建物被害の分析 (その 2), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造(B-2), 69-70, (2003).
- 須田達, 森井雄史, 林康裕, 鈴木祥之: 地震被害に基づく木造建物の限界変形性能の評価 (2000 年鳥取県西部地震に基づく検討事例), 日本地震工学会-2003 梗概集, o06-15-, (2003).
- 杉山亮太, 後藤正美, 鈴木祥之, 山田真澄, 風呂迫ウララ: 単位木造フレームを用いた動的・静的実験による木造軸組の耐震性能評価その 6 受け材を用いた荒壁パネル耐力壁の耐震性能評価, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 117-, (2003).
- 田村和夫, 神原浩, 林 康裕, 菅野俊介: アンケート調査に基づく建物の非構造部材被害と地震動強さとの関係 その 1 アンケート調査の概要, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造(B-2), 55-56, (2003).
- Tanimoto, K., Matsushita, M., Tatano, H.: Lifecycle Cost Evaluation of Maintenance Policy ? The case of water transmission system in Kobe, Proceedings of First International Symposium on System & Human Science ? For Safety, Security, and Dependability ?, 147-152, (2003).
- Tatano, H., Honma, T., Okada, N.: Economic Restoration Path after a Large Catastrophic Event: Heterogeneous Damages and their Effects on Economic Growth, Proceedings of The 2003 Joint Seminar and Stakeholders Symposium on Urban Disaster Management and Implementation, CBTDC, 209-214, (2003).
- Tatano, H., Okada, N.: Economic Impact of Catastrophic Event in a Regional Economy: Implication for Anti-Disaster Investment Policy, Proceedings of the China-Japan Symposium on Policy and Methodology for Urban Earthquake Disaster Management, 144-158, (2003).
- 多々納裕一: 災害リスクマネジメント分野の研究動向, 日本リスク研究学会第 16 回春季講演シンポジウム講演集「大都市における総合的な災害リスクマネジメントを考える」, 11-19, (2003).
- 寺尾京子, 畑山満則, 萩原良巳, 金行方也: 京都市市街地における災害弱地域分析と高齢者コミュニティに着目した災害リスク軽減化に関する考察, 地理情報システム学会講演論文集, 12, 471-474, (2003).
- 寺尾京子, 畑山満則, 萩原良巳: 京都市旧市街地における災害弱地域と高齢者のコミュニティに関する研究, 平成 15 年度関西支部年次学術講演会講演概要, IV-21-1-IV-21-2, (2003).
- Tsuchiya, S., Tatano, H., Okada, N.: Economic Losses Caused by Traffic Regulation with Tokai Earthquake Warning Declaration, Proceedings of The 2003 Joint Seminar and Stakeholders Symposium on Urban Disaster Management and Implementation, CBTDC, 132-139, (2003).
- 土屋哲, 多々納裕一, 岡田憲夫: 東海地震警戒宣言時の地域間交通機能損傷による経済被害に関する研究, 第 22 回日本自然災害学会年次学術講演会, 237-238, (2003).
- 土屋哲, 多々納裕一, 岡田憲夫: 東海地震の警戒宣言に伴う社会経済損失の推計とその軽減方策に関する研究, 平成 15 年度関西支部年次学術講演会講演概要, (2003).
- 山田真澄, 鈴木祥之, 後藤正美, 廣嶋政幸: 単位木造フレームを用いた動的・静的実験による木造軸組の耐震性能評価その 5 木造軸組の破壊モードに及ぼす軸力の影響, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 115-, (2003).

- Yamamura, S., Sakai, A., Hoque, B.: Discussion on the Vulnerability Concerned with Water and Sanitation Related Risks in Bangladesh, DPRI-IIASA International Symposium, (2003).
- 有木寛江, 林 康裕, 南宏一, 井上豊: 限界耐力計算法による耐震設計, 2003 日本地震工学会大会梗概集, 特44-47, (2003).
- 新居藍子, 須田達, 林康裕, 鈴木祥之: 京町家の構造特性評価に関する研究 その1 地震観測に基づく振動特性の分析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 253-, (2004).
- 新居藍子, 須田達, 林康裕, 鈴木祥之: 地震観測に基づく京町家の振動特性の分析, 9-, (2004).
- 荒木政和, 栄野隼一, 橋詰匠, 瀧口純一, 角本繁, 畑山満則: GPS/INS/ODV/3D-GIS複合による駐車車両の自動認識一時空間GISを用いた変化域抽出法に関する研究 第一報, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門学術講演会 SICE SI2004 講演論文集, CDROM-, (2004).
- 福島陽介, 萩原良巳, 畑山満則, 萩原清子, 山村尊房, Bilqis Amin Hoque: バングラデシュにおける飲料水ヒ素汚染に関する社会実態調査, 平成16年度関西支部年次学術講演会講演概要, IV-48-1-IV-48-2, (2004).
- Gopalakrishnan, C., Okada, N.: Reflections on Implementation Science, IIASA-DPRI IMDRiM Ravello Forum, 1-23, (2004).
- 後藤正美, 小杉早希子, 鈴木祥之: ほぞ接合部の木材めり込み特性の実験的検討 その1 (実験計画), O-2-2-, (2004).
- 具典淑, 鈴木祥之, 欧進萍: ニューラルネットワーク手法を用いた木造軸組接合部の局部損傷同定に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, B-2, 831-, (2004).
- 郭耕杖, 林 康裕, 神原浩: アンケート調査に基づく病院の地震被害の分析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造(21547), 1093-1094, (2004).
- 萩原良巳, 萩原清子, 酒井彰, 山村尊房, 畑山満則, 坂本麻衣子, 福島陽介: バングラデシュにおける飲料水のヒ素汚染災害と社会環境の分析, 日本地域学会 第41回年次大会 学術発表論文集, CDROM-, (2004).
- 長谷川翠, 岡村雅克, 西村督, 後藤正美, 網田克明, 鈴木祥之, 鈴木有: 徳島県に建つ古民家の構造詳細調査及び実大実験 その1 調査の概要, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 51-, (2004).
- 畑山満則, 角本繁, 栄野隼一, 橋詰匠, 瀧口純一: 移動ロボット情報管理のための時空間アプリケーションスキーマの開発一時空間GISを用いた変化域抽出法に関する研究 第二報, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門学術講演会 SICE SI2004 講演論文集, CDROM-, (2004).
- 畑山満則: シミュレーション技術を用いた市民参加型防災まちづくりプロセスに関する考察, 土木学会全国大会第59年次学術講演会講演概要集, CDROM-, (2004).
- 畑山満則, 萩原良巳: 京都市市街地におけるコミュニティ構造と地域防災力に関する考察, 日本地域学会 第41回年次大会 学術発表論文集, CDROM-, (2004).
- 畑山満則, 岡田裕介, 萩原良巳: 京都の水辺の歴史的変遷と都市防災に関する研究, 平成16年度関西支部年次学術講演会講演概要, IV-27-1-IV-27-2, (2004).
- 林 康裕, 吹田啓一郎: 1995年兵庫県南部地震に基づく鉄骨造建物の被害率曲線, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造(21531), 1061-1062, (2004).
- 林康裕, 森井雄史, 鈴木祥之: 京町家の耐震診断用地震荷重, 10-, (2004).
- 細入夏加, 鈴木祥之, 林康裕, 斉藤幸雄, 村上ひとみ, 野島千里, 須田達: 萩市浜崎地区の伝統構法木造住宅の限界耐力計算による耐震性能評価, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 119-, (2004).
- 細入夏加, 清水秀丸, 鈴木祥之: 小壁を有する伝統木造軸組の耐震性能評価, 5-, (2004).
- 伊藤淳, 中治弘行, 角徹三, 鈴木祥之: 壁幅の異なる土塗り壁の損傷過程 その1 実験概要, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 421-, (2004).
- 岩本いづみ, 清水秀丸, 前野将輝, 鈴木祥之: 寺院建築における伝統木造軸組架構の耐震性能評価(その4) 静的実験による柱-横架材接合部の復元力特性, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 21-, (2004).
- 小杉早希子, 佐久間譲, 原田規行, 西村督, 後藤正美, 鈴木祥之: 梁-柱有限要素によるほぞ差接合部の木造軸組解析用モデルの検討 その1 ほぞ接合部の曲げ実験, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 335-, (2004).
- 小杉早希子, 後藤正美, 鈴木祥之: ほぞ接合部の木材めり込み特性の実験的検討 その2 (実験結果と考察), O-2-3-, (2004).
- 侯炳金, 石川浩一郎, 清水秀丸, 鈴木祥之: 2階建て木質軸組構造の弾塑性地震応答シミュレーション, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 203-, (2004).
- 前野将輝, 西塔純人, 清水秀丸, 鈴木祥之: 寺院建築における伝統木造軸組架構の耐震性能評価(その2) 架構の復元力特性と柱-横架材接合部の曲げ抵抗, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 17-, (2004).
- 松田曜子, 多々納裕一, 岡田憲夫: CVMを用いた自然災害リスクに対する家計のリスクプレミアムの計量化に関する考察, 土木計画学研究・講演集, 30, (2004).
- 箕輪親宏, 坂本功, 鈴木祥之, 目黒公郎, 岡田恒, 神谷文夫, 三宅辰哉, 五十田博: 既存木造住宅の耐震性向上に関する総合的研究 その15 平成15年度の研究概要, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 165-, (2004).
- 森井雄史, 林 康裕: 2001年芸予地震における三原市の木造住宅被害の分析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造(21551), 1101-1102, (2004).
- 向井一将, 林康裕, 秦正徳, 鈴木祥之: 京町家における蟻害・腐朽に関する実態調査, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 151-, (2004).
- 向坊恭介, 林康裕, 森井雄史, 飯場正紀, 鈴木祥之: 常時微動計測に基づく低層RC造建物の振動特性の分析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, B-2, 637-, (2004).
- 向坊恭介, 鈴木祥之: 床剛性が構造物の不規則応答に及ぼす影響, (2004).
- 長江剛志, 多々納裕一: 災害による不連続的劣化を考慮した施設の最適点検・補修戦略問題, 土木計画学研究・講演集, 30, CD-ROM-, (2004).
- 中治弘行, 伊藤淳, 角徹三, 鈴木祥之: 壁幅の異なる土塗り壁の損傷過程 その2 変形の増大にともなう損傷状態の変化, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 423-, (2004).

中治弘行, 鈴木祥之, 後藤正美, 岩本いづみ, 秦正徳, 山田耕司, 清水秀丸: 東三河伝統構法木造住宅の水平加力実験, 16-, (2004).

野島千里, 榎原健一, 鈴木祥之: 木造軸組の耐震性能評価法変位増分法 その2:多層建物の平屋モデル化検証, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 117-, (2004).

野中悠貴, 宮澤健二: 既存軸組構法住宅の耐震性能に関する研究 (その1: 構造仕様の調査), 14-, (2004).

小笠原茂宏, 角本繁, 畑山満則, 栄野隼一, 橋詰匠, 瀧口純一: 移動ロボットによる環境計測データの時空間 GIS への統合ー時空間GISを用いた変化域抽出法に関する研究 第三報, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門学術講演会 SICE SI2004 講演論文集, CDROM-, (2004).

岡田憲夫: 先行的・適応的マネジメントとしてみた総合防災計画論: 挑戦と課題, 第23回日本自然災害学会講演会, 141-142, (2004).

岡田裕介, 畑山満則, 萩原良巳: 京都の水辺の歴史的変遷と地域防災力に関する考察, 地理情報システム学会講演論文集, 13, 155-158, (2004).

岡村雅克, 長谷川翠, 西村督, 後藤正美, 網田克明, 鈴木祥之, 鈴木有: 徳島県に建つ古民家の構造詳細調査及び実大実験 その2 実験の概要, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 53-, (2004).

岡村雅克, 清水秀丸, 細入夏加, 鈴木祥之: 土塗り小壁の静的加力実験, 6-, (2004).

西塔純人, 前野将輝, 清水秀丸, 鈴木祥之: 寺院建築における伝統木造軸組架構の耐震性能評価(その3) 柱傾斜復元力特性, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 19-, (2004).

阪井健仁, 中村仁, 小島和佳子, 奥田辰雄, 村上ひとみ, 斉藤幸雄, 林康裕, 鈴木祥之: 密集市街地における戦前木造住宅の耐震改修を手がかりとした住民主体のまちづくりの展望 大阪市福島区野田地区における密集市街地まちづくりの実践的研究 その1, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1, 421-, (2004).

酒井彰, 神谷大介, 山村尊房, 畑山満則, 福島陽介, 萩原清子, 萩原良巳: バングラデシュにおける衛生改善に関する地域適正技術導入のための意識分析, 日本地域学会 第41回年次大会 学術発表論文集, CDROM-, (2004).

佐久間謙, 小杉早希子, 原田規行, 西村督, 後藤正美, 鈴木祥之: 梁-柱有限要素によるほぼ差接合部の木造軸組解析用モデルの検討 その2 実験と解析との比較, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 337-, (2004).

清水秀丸, 林康裕: 2003年7月26日宮城県北部の地震における被災木造住宅の耐震性能評価, 日本建築学会大会学術講演梗概集, B-2, 1089-, (2004).

清水秀丸, 岩本いづみ, 鈴木祥之: 実大振動台実験による差鴨居を有する伝統木造軸組の耐震性能評価, 4-, (2004).

須田達, 新居藍子, 森井雄史, 林康裕, 鈴木祥之: 京町家の構造特性評価に関する研究 その2 限界耐力計算に基づく耐震性能評価法の検討, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 255-, (2004).

須田達, 森井雄史, 林康裕, 鈴木祥之: 京町家の構造詳細調査に基づく耐震性能評価, 11-, (2004).

鈴木祥之, 西塔純人, 前野将輝, 清水秀丸: 寺院建築における伝統木造軸組架構の耐震性能評価(その1) 実験の概要, 日

本建築学会大会学術講演梗概集, C-1, 15-, (2004).

棚橋秀光, 鈴木祥之: パステルナーク・モデルによる直交異方性木材のめり込み変位の定式化, 日本地震工学会大会ー2004梗概集, O-2-1-, (2004).

陶忠, 鈴木祥之: Complex Finite Strip Method with Bubble Functions in the Single -Wave Post - Buckling Analysis of Thin -Walled Members, 日本建築学会大会学術講演梗概集, B-1, 347-, (2004).

Tatano, H., Honma, T., Okada, N., Tsuchiya, S.: ECONOMIC RESTORATION AFTER A CATASTROPHIC EVENT: Heterogeneous Damages in Infrastructure and Private Capital and Their Effects on Economic Growth, 51st Annual North American Meetings of the Regional Science Association International, 1-6, (2004).

Tatano, H., Okada, N.: A Japan's Challenge toward Anticipatory and Participatory Urban Disaster Risk Management: Case Study of Tonankai Earthquake Disaster Initiative, Paper Submitted to IUPEA Conference, Louisville, USA, (2004).

土屋哲, 多々納裕一, 岡田憲夫: SCGE モデルによる巨大地震リスクに対する交通ネットワークの評価, 第18回 ARSC 研究発表大会, 1-8, (2004).

土屋哲, 多々納裕一, 岡田憲夫: 交通ネットワークを考慮した SCGE モデルによる地震災害の被害計量化の枠組み, 土木計画学研究・講演集, 30, CD-ROM-, (2004).

Tsuchiya, S., Tatano, H., Okada, N.: A SCGE Framework of Economic Loss Assessment Caused by Transport Infrastructure Damage from Catastrophic Earthquakes, 51st Annual North American Meetings of the Regional Science Association International, 7-12, (2004).

津田千尋, 服部大介, 宮澤健二: 既存軸組構法住宅の耐震性能に関する研究 (その2: 水平加力実験), 15-, (2004).

浦山利博, 角本繁, 古戸孝, 山田博幸, 畑山満則: 多重仮説データを管理できる時空間データベース構造の開発ー大震災被害軽減化のための時空間情報システム (7)ー, 地理情報システム学会講演論文集, 13, 233-236, (2004).

(G2) 学術誌(査読無し)

林 康裕: 限界耐力計算法③動的相互作用, 技術ノート, 建築雑誌, 54-55, (2002).

林 康裕: 建物の耐震性能の把握度, 特集巨大地震を前にして, 建築雑誌, 24-25, (2003).

畑山満則: 震災総合シミュレーションシステムの開発, 日本ロボット学会誌, 22(5), 574-578, (2004).

林 康裕: 来るべき巨大地震をどのように考えるか, Structure Kansai, No.80, (2004).

林 康裕: 今伝えたいトピックス「迫り来る巨大地震災害に備えて」, 建築雑誌, 42-43, (2004).

林 康裕: 阪神淡路大震災から10年, 土と基礎, 53(1), 8-11, (2004).

10.7.2 地震災害研究部門

(A1) 完全査読論文

- Dalguer, L., Irikura, K., Zhang, W., Riera, J.: Distribution of dynamic and static stress changes during 2000 Tottori (Japan) earthquake: Brief interpretation of the earthquake sequences; foreshocks, mainshock and aftershocks, *Geophysical Research Letter*, 16(29), 1758, doi:10.1029/2001GL014333-, (2002).
- 池田隆明, 釜江克宏, 三輪滋, 入倉孝次郎: 経験的グリーン関数法を用いた 2000 年鳥取県西部地震の震源のモデル化と強震動シミュレーション, *日本建築学会構造系論文集*, 561, 37-45, (2002).
- 井上一郎, 吹田啓一郎, 竹内一郎, 宇野暢芳, 森田周平: エネルギー吸収機能を有する柱梁高力ボルト接合構造の力学挙動, *日本鋼構造協会, 鋼構造論文集*, 34(9), 37-44, (2002).
- Iwata, T., Sekiguchi, H.: Rupture process of the 1999 Kocaeli, Turkey, earthquake estimated from strong-motion waveforms, *Bull. Seism. Soc. Am.*, 92, 300-311, (2002).
- 金尾伊織, 中島正愛, 劉大偉: 繰り返し載荷を受ける鋼標準梁・RBS 梁の必要横補剛条件, *日本建築学会構造系論文集*, 第 556 号, 131-137, (2002).
- 小泉尚嗣, 佃栄吉, 高橋誠, 横田裕, 岩田知孝, 入倉孝次郎, 上砂正一, 高木清, 長谷川昌志: 黄檗断層の地下構造調査, *地震第 2 輯*, 55, 153-166, (2002).
- Komazawa, M., Morikawa, H., Nakamura, H., Akamatsu, J., Nishimura, K., Sawada, S., Erken, A., Onalp, A.: Bedrock Structure in Adapazari, Turkey—A Possible Cause of Severe Damage by the 1999 Kocaeli Earthquake-, *Soil Dynamics and Earthquake Engineering*, 22, 829-836, (2002).
- 李相周, 吹田啓一郎, 井上一郎: 穿孔による RBS 工法を用いた H 形断面梁の塑性変形能力, *日本鋼構造協会, 鋼構造論文集*, 36(9), 47-54, (2002).
- Morikawa, H., Sawada, S., Kawanishi, K.: Analytical Representation of Phase Characteristics for Source Time Function Modeled by Stochastic Impulse Train, *Soil Dynamics and Earthquake Engineering*, 22, 821-828, (2002).
- 諸岡繁洋, 國枝治郎, 荻原幸夫: 円孔ボイドスラブの曲げ剛性および応力集中評価, *日本建築学会構造系論文集*, 558, 133-137, (2002).
- 諸岡繁洋, 佐々木一洋: 水平調和外力を受ける多角形アーチ型構造の幾何学的非線形応答下界荷重推定法, *日本建築学会構造系論文集*, 559, 151-156, (2002).
- Nakashima, M., Kanao, I., Liu, D.: Lateral Instability and Lateral Bracing of Steel Beams Subjected to Cyclic Loading, *Journal of Structural Engineering-ASCE*, Vol. 128, No. 10, 1308-1316, (2002).
- 沖村孝, 佐藤忠信, 南部光広, 若林亮, 岸本英明: 地盤情報データベースを活用した神戸地域地震動解析, *土木学会論文集*, 121-134, (2002).
- Pavlenko, O., Irikura, K.: Changes in Shear Moduli of Liquefied and Nonliquefied Soils during the 1995 Kobe Earthquake and Its Aftershocks at Three Vertical-Array Sites, *Bulletin of the Seismological Society of America*, 5(92), 1952-1969, (2002).
- Pavlenko, O., Irikura, K.: Types of elastic nonlinearity of sedimentary soils, *Geophysical Research Letter*, 19(29), 1930, doi:10.1029/2002GL014794-, (2002).
- Pavlenko, O., Irikura, K.: Nonlinearity in the response of soils in the 1995 Kobe earthquake in vertical components of records, *Soil Dynamics and Earthquake Engineering*, 9-12(22), 967-976, (2002).
- 佐藤忠信, 室野剛隆, 川西智浩: 位相特性に着目した観測地震動の内挿-集集地震 (1999) の観測記録を用いて-, *土木学会論文集*, I-60(710), 225-234, (2002).
- 佐藤忠信, 文龍, 渦岡良介: 傾斜地盤の液状化・流動過程のシミュレーション, *土木学会論文集*, III-61(722), 109-119, (2002).
- 佐藤忠信, 文龍, 渦岡良介: 砂の榴弾塑性構成式による液状化・流動過程の統一的解析, *土木学会論文集*, 53-64, (2002).
- Sato, T., Muro, Y., Nishimura, A.: Phase Spectrum Modeling to Simulate Design Earthquake Motion, *Journal of Natural Disaster Science*, 24(2), 91-100, (2002).
- Sekiguchi, H., Irikura, K., Iwata, T.: Source inversion for estimating continuous slip distribution on the fault — Introduction of Green's functions convolved with a correction function to give moving dislocation effects in subfaults -, *Geophysical Journal International*, 2(150), 377-391, (2002).
- 篠原達巳, 中島正愛, 諸岡繁洋: ロープで連結された建物群の振動性状, 第 11 回日本地震工学シンポジウム, No. 361, (2002).
- 吹田啓一郎, 狩野直樹, 井上一郎: 高力ボルト接合されたパネル降伏型 H 形断面柱梁接合部の耐力, *日本建築学会構造系論文集*, 559, 219-224, (2002).
- Tamura, S., Tokimatsu, K., Abe, A., Sato, M.: Effects of Air Bubbles on B-value and P-wave Velocity of a Partly Saturated Sand, *Soils and Foundations*, 42(1), 121-129, (2002).
- 田村修次, 時松孝次, 宮崎政信, 八幡夏恵子, 土屋富男: 大型せん断土槽を用いた液状化実験における基礎根入れ部に加わる土圧, *日本建築学会構造系論文集*, 554, 95-100, (2002).
- 田村修次, 時松孝次, 内田明彦, 船原英樹, 阿部秋男: 大型せん断土槽を用いた液状化実験における基礎根入れ部に加わる土圧合力と構造物慣性力の関係, *日本建築学会構造系論文集*, 559, 129-134, (2002).
- Yang, J., Sato, T., Savidis, S., Li, X.: Horizontal and vertical components of earthquake ground motions at liquefiable sites, *Soil Dynamics and Earthquake Engineering*, 229-240, (2002).
- Yoshida, I., Sato, T.: Health Monitoring Algorithm by the Monte Carlo Filter Based on Non-Gaussian Noise, *Journal of Natural Disaster Science*, 24(2), 101-107, (2002).

- Aguirre, J., Irikura, K.: Reliability of Envelope Inversion for the High-Frequency Radiation Source Process Using Strong Motion Data: Example of the 1995 Hyogoken Nanbu Earthquake, *Bulletin of the Seismological Society of America*, 5(93), 2005-2016, (2003).
- Asano, K., Iwata, T., Irikura, K.: Source Characteristics of Shallow Intraslab Earthquakes Derived from Strong-Motion Simulations, *Earth Planets Space*, 55, e5-e8, (2003).
- Beltzer, I., Sato, T.: Neural classification of finite elements, *Computers & Structures*, 2331-2335, (2003).
- Beltzer, I., Sato, T.: Probability distribution of wave velocity in heterogeneous media due to random phase configuration, *Wave Motion*, 38, 221-227, (2003).
- Dalguer, L., Irikura, K., Riera, J.: Generation of New Cracks Accompanied by the Dynamic Shear Rupture Propagation of the 2000 Tottori (Japan) Earthquake, *Bulletin of the Seismological Society of America*, 5(93), 2236-2252, (2003).
- Dalguer, L., Irikura, K., Riera, J.: Simulation of tensile crack generation by three-dimensional dynamic shear rupture propagation during an earthquake, *Journal of Geophysical Research*, B3(108), 2144, doi:10.1029/2001JB001738-, (2003).
- Di, Y., Sato, T.: Liquefaction analysis of saturated soils taking into account variation in porosity and permeability with large deformation, *Computers and Geotechnics*, 30, 623-635, (2003).
- 岩田知孝, 三宅弘恵: シナリオ地震に基づく強震動予測の現状, *自然災害科学*, 22, 229-231, (2003).
- 川口淳, 桑原進, 中島正愛: 建築鉄骨工事検査技術の現状と問題, *鋼構造論文集*, 37(10), 15-29, (2003).
- Kohiyama, M., Yamashita, N., Sato, T., Hneggian, L., Maki, N., Nishimura, A.: Expansion of the Nishinomiya Built Environment Database-Simulation of seismic ground motion distribution and correlation with damage in the 1995 Hyogo-ken Nanbu Earthquake, *Natural Hazards*, 501-522, (2003).
- 劉大偉, 金尾伊織, 中島正愛: 繰返し载荷を受けるH形鋼梁の塑性変形能力に及ぼす局部座屈の影響, *鋼構造論文集*, 37(10), 61-70, (2003).
- Liu, D., Nakashima, M., Kanao, I.: Behavior to Complete Failure of Steel Beams Subjected to Cyclic Loading, *Journal of Engineering Structures*, Vol. 25, 525-535, (2003).
- Luco, N., Mori, Y., Funahashi, Y., Cornell, C., Nakashima, M.: Evaluation of Predictors of Nonlinear Seismic Demands using "Fishbone" Models of SMRF Systems, *Earthquake Engineering & Structural Dynamics*, Vol. 32, 2267-2288, (2003).
- Matsunami, K., Zhang, W., Irikura, K., Xie, L.: Estimation of Seismic Site Response in the Tangshan Area, China, Using Deep Underground Records, *Bulletin of the Seismological Society of America*, 3(93), 1065-1078, (2003).
- Miyake, H., Iwata, T., Irikura, K.: Source Characterization for Broadband Ground-Motion Simulation: Kinematic Heterogeneous Source Model and Strong Motion Generation Area, *Bull. Seism. Soc. Am.*, 93, 1730-1745, (2003).
- 諸岡繁洋: 円孔ボイドスラブの弾性力学性状, *日本建築学会構造系論文集*, 565, 79-85, (2003).
- Moya, A., Irikura, K.: Estimation of Site Effects and Q Factor Using a Reference Event, *Bulletin of the Seismological Society of America*, 4(93), 1730-1745, (2003).
- Nakashima, M., Chusilp, P.: A Partial View on Japanese Post-Kobe Seismic Design and Construction Practices, *International Journal of Earthquake Engineering and Engineering Seismology*, Vol. 4, No.1, 3-14, (2003).
- Nakashima, M., Liu, D., Kanao, I.: Lateral-Torsional and Local Instability of Steel Beams Subjected to large Cyclic Loading, *Journal of Steel Structures*, Korean Society of Steel Construction, Vol. 3, No.3, 179-189, (2003).
- Pavlenko, O., Irikura, K.: Estimation of Nonlinear Time-dependent Soil Behavior in Strong Ground Motion Based on Vertical Array Data, *Pure and Applied Geophysics*, 12(160), 2365-2379, (2003).
- Petukhin, A., Irikura, K., Ohmi, S., Kagawa, T.: Estimation of Q-Values in the Seismogenic and Aseismic Layers in the Kinki Region, Japan, by Elimination of the Geometrical Spreading Effect Using Ray Approximation, *Bulletin of the Seismological Society of America*, 4(93), 1498-1515, (2003).
- Sato, T., Murono, Y.: Simulation for Earthquake Motion from Phase Information, *Journal of Natural Disaster Science*, 25(2), 93-101, (2003).
- 吹田啓一郎: 鋼構造ラーメン骨組の耐震設計における梁端接合部の耐力要求値, *日本建築学会構造系論文集*, 567, 165-171, (2003).
- 吹田啓一郎, 井上一郎, 竹内一郎, 宇野暢芳: 座屈拘束された方杖ダンパーによる柱梁高力ボルト接合構造の力学挙動, 571, 153-160, (2003).
- Tada, M., Fukui, T., Nakashima, M., Roeder, C.: Comparison of Strength Capacity for Steel Building Structures in the United States and Japan, *International Journal of Earthquake Engineering and Engineering Seismology*, Vol. 4, No.1, 37-50, (2003).
- 時松孝次, 田村修次, 宮崎政信, 吉澤睦博: 大型せん断土槽を用いた液状化実験における基礎根入れ部に加わる土圧合力の評価, *日本建築学会構造系論文集*, 570, 101-106, (2003).
- 鶴来雅人, 澤田純男, 宮島昌克, 北浦勝: サイト増幅スペクトルに基づく震度増加量の推定法, *土木学会論文報告集*, I-64(738), 191-205, (2003).
- Zhang, W., Iwata, T., Irikura, K., Sekiguchi, H., Bouchon, M.: Heterogeneous distribution of the dynamic source parameters of the 1999 Chi-Chi, Taiwan, earthquake, *J. Geophys. Res.*, 108, 2232, doi:10.1029/2002JB001889, (2003).

- 浅野公之, 岩田知孝, 入倉孝次郎: 2003年5月26日に宮城県沖で発生したスラブ内地震の震源モデルと強震動シミュレーション, 地震第2輯, 57, 171-185, (2004).
- Birgoren, G., Sekiguchi, H., Irikura, K.: Rupture model of the 1999 Düzce, Turkey, earthquake deduced from high and low frequency strong motion data, Geophysical Research Letter, L05610, doi:10.1029/2003GL019194-, (2004).
- Di, Y., Sato, T.: A practical numerical method for large strain liquefaction analysis of saturated soils, Soil Dynamics and Earthquake Engineering, 251-260, (2004).
- 林 康裕, 吹田啓一郎, 井上真木: 1995年兵庫県南部地震に基づく鉄骨造建物の被害率曲線, 日本建築学会構造系論文集, 585, 193-198, (2004).
- Honda, R., Sakai, H., Sawada, S.: Non-iterative time integration scheme for nonlinear dynamic FEM analysis, Earthquake Engineering and Structural Dynamics, 33, 111-132, (2004).
- 本田利器: スペクトル確率境界要素法の提案と幾何形状に不確定性を有する弾性解析への適用, 土木学会論文集, 759(I-67), 111-120, (2004).
- 本田利器: Taylor 展開近似における次数の影響を考慮した Spectral Stochastic BEM の性能の評価, 境界要素法論文集, 21, 65-70, (2004).
- 岩田知孝, 三宅弘恵: 強震動予測レシビに基づくシナリオ地震による強震動シミュレーション-琵琶湖西岸断層系北部を起震断層として-, 自然災害科学, 23, 259-271, (2004).
- Kagawa, T., Irikura, K., Somerville, P.: Differences in ground motion and fault rupture process between the surface and buried rupture earthquakes, Earth, Planets and Space, 1(56), 3-14, (2004).
- 金尾伊織, 中島正愛, 竹原創平: 座屈・破断を考慮したブレース付骨組モデルと断層近傍強震動下の応答, 日本建築学会構造系論文集, 577, 117-122, (2004).
- 甲津功夫, 木時亮, 水谷聡志, 吹田啓一郎: 鉛ダンパー組込み梁継手を有する鋼構造架構の動的応答性状に関する実験的研究, 日本建築学会構造系論文集, 584, 161-167, (2004).
- 松宮智央, 吹田啓一郎, 中島正愛, 劉大偉, 井上真木, 竹原創平: ALC版が構造性能に及ぼす影響-実大3層鋼構造骨組を用いた耐震性能実証実験-, 日本建築学会構造系論文集, 581, 135-141, (2004).
- 松宮智央, 中島正愛, 吹田啓一郎, 劉大偉, 周鋒, 福本直晃: 実大鋼構造ラーメンの繰返し載荷挙動に対して弾塑性数値解析がもつ予測精度-実大3層鋼構造骨組を用いた耐震性能実証実験-, 日本建築学会構造系論文集, 585, 215-221, (2004).
- 松宮智央, 吹田啓一郎, 中島正愛, 劉大偉, 井上真木, 竹原創平: ALC外壁版が構造性能に及ぼす影響, 日本建築学会構造系論文集, 581, 135-141, (2004).
- 松宮智央, 中島正愛, 吹田啓一郎, 劉大偉, 周鋒, 福本直晃: 実大鋼構造ラーメンの繰返し載荷挙動に対して弾塑性数値解析がもつ予測精度, 日本建築学会構造系論文集, 585, 215-221, (2004).
- 森保宏, 山中貴史, 中島正愛: 降伏後のモード形を考慮した鋼構造骨組の変位応答評価法, 構造工学論文集, 425-434, (2004).
- Morikawa, H., Sawada, S., Akamatsu, J.: A Method to Estimate Phase Velocities of Rayleigh Waves Using Microseisms Simultaneously Observed at Two Sites, Bulletin of the Seismological Society of America, 94(3), 961-976, (2004).
- Nakashima, M., Kato, M., Okazaki, T.: Collaboration between Practice and Research for Development of Steel Construction in Japan, Journal of Steel Structures, Vol. 4, No. 4, 249-262, (2004).
- Pan, P., Nakashima, M., Tada, M.: Effects of Vertical Ground Motions on Response of Base-Isolated Structures, Journal of Engineering Structures, Vol. 50B, 572-585, (2004).
- 酒井久和, 澤田純男: 有効応力解析に基づく基盤入射波の推定, 土木学会論文報告集, I-66(752), 289-297, (2004).
- 佐藤忠信, 室野剛隆: 位相情報を利用した非定常地震動のシミュレーション法, 土木学会論文集, I-66(752), 159-168, (2004).
- Satoh, T., Kawase, H., Iwata, T., Higashi, S., Sato, T., Huang, H.: S-wave velocity structures of sediments estimated from array microtremor records and site responses in the near-fault region of the 1999 Chi-Chi, Taiwan earthquake, J. Seism., 8, 545-558, (2004).
- 吹田啓一郎, 佐藤有希, 長田暢浩: 1980年代初頭に建設された既存鉄骨建物の溶接品質と現有耐震性能, 日本建築学会構造系論文集, 586, 179-186, (2004).
- 周鋒, 吹田啓一郎, 松宮智央, 倉田真宏: スプリットティ接合による鋼構造柱脚の載荷実験, 日本建築学会構造系論文集, 581, 117-125, (2004).
- 竹内一郎, 金尾伊織, 吹田啓一郎, 中島正愛: 方杖ダンパーにより接合された鋼梁の横座屈挙動と必要横補剛, 日本建築学会構造系論文集, 585, 185-192, (2004).
- 田村修次, 小林健一: 杭頭加振実験に基づく液化化過程における杭の水平地盤反力のメカニズム, 日本建築学会構造系論文集, 577, 55-61, (2004).
- 友藤洋, Pan, Peng, 劉大偉, 中島正愛: 混合・変換制御を用いたサブストラクチャ・オンライン応答実験, 日本建築学会構造系論文集, 585, 85-92, (2004).
- Uang, C., Nakashima, M., Tsai, K.: Research and Application of Buckling-Restrained Braced Frames, Journal of Steel Structures, Vol. 4, No. 4, 301-313, (2004).
- 安井信行, 吹田啓一郎, 井上一朗: 斜方隅肉溶接継目の破壊機構と最大耐力, 日本建築学会構造系論文集, 579, 111-118, (2004).
- 吉田郁政, 佐藤忠信: 適応型モンテカルロフィルターを用いた損傷同定について, 土木学会論文集, I-67(759), 251-269, (2004).
- Zhang, W., Iwata, T., Irikura, K., Pitarka, A., Sekiguchi, H.: Dynamic rupture process of the 1999 Chi-Chi, Taiwan, earthquake, Geophys. Res. Lett., 31, L10605, doi:10.1029/2004GL019827-, (2004).

Honda, R.: Stochastic BEM with spectral stochastic approach in elastostatic and elastodynamic problems with geometrical uncertainty, Engineering Analysis with Boundary Elements, , 33, 415-427, (2005).

加登美喜子, 日下彰宏, 中島正愛: 耐震設計規定と耐震性能評価の実践に関する日米比較, 鋼構造論文集, 71-86, (2005).

諸岡繁洋, 篠原達巳, 御澤昇明, 中島正愛: 遊隙連結系の等価線形化と応答制御への適用, 日本建築学会構造系論文集, 587, 61-68, (2005).

Pan, P., Zamfirescu, D., Nakashima, M., Nakayasu, N., Kashiwa, H.: Base-Isolation Design Practice in Japan: Introduction to the Post-Kobe Approach, Journal of Earthquake Engineering, Vol. 9, No. 1, 147-171, (2005).

吹田啓一郎, 中島正愛: 鋼構造建築における耐震設計基準の日米比較, 鋼構造論文集, 45(12), 1-7, (2005).

Yamada, N., Iwata, T.: Long-period ground motion simulation in the Kinki area during the MJ 7.1 foreshock of the 2004 off the Kii peninsula earthquakes, Earth Planets Space, 57(3), 197-202, (2005).

(A2) 一般査読論文

壇一男, 佐藤俊明, 入倉孝次郎: アスペリティモデルに基づく強震動予測のための震源モデルの特性化手法, 第 11 回日本地震工学シンポジウム論文集, 555-560, (2002).

本田利器, 澤田純男: 群遅延時間を陽に含む関数を用いた時刻歴波形の展開/合成, 第 1 1 回日本地震工学シンポジウム, 517-520, (2002).

本田利器, 澤田純男: 不確定場における三次元波動伝播解析, 日本地震工学シンポジウム論文集, 11, 0185-, (2002).

池田隆明, 釜江克宏, 三輪滋, 入倉孝次郎: ハイブリッド法による 2000 年鳥取県西部地震の強震動シミュレーション, 第 11 回日本地震工学シンポジウム論文集, 579-582, (2002).

入倉孝次郎, 三宅弘恵, 岩田知孝, 釜江克宏, 川辺秀憲: 強震動予測のための修正レシピとその検証, 第 11 回日本地震工学シンポジウム論文集, 567-572, (2002).

岩田知孝, 関口春子: 2000 年鳥取県西部地震の震源過程と震源域強震動, 第 11 回日本地震工学シンポジウム論文集, 125-128, (2002).

釜江克宏, 入倉孝次郎: トルコ・コジャエリ, 台湾・集集地震の震源の特性化と強震動シミュレーション, 第 11 回日本地震工学シンポジウム論文集, 545-550, (2002).

劉大偉, 金尾伊織, 中島正愛: 繰り返し载荷を受ける鋼柱の完全崩壊実験, 第 11 回日本地震工学シンポジウム論文集, #258-, (2002).

松宮智央, 中島正愛, 浅野幸一郎: 断層近傍強震動を受ける鋼構造骨組の地震応答とモーダル分解による評価, 第 11 回日本地震工学シンポジウム論文集, #257-, (2002).

宮腰研, Petukhin, Anatoly, 岩田知孝, 関口春子: 1997 年鹿児島県北西部地震におけるやや短周期域の震源モデル, 第 11 回日本地震工学シンポジウム論文集, 129-132, (2002).

森伸一郎, 門脇慶典, 澤田純男: 砂の液状化における累積損傷度理論の適用性に関する一実験, 第 1 1 回日本地震工学

シンポジウム, 701-706, (2002).

盛川仁, 赤松純平, 駒沢正夫, 中村佳重郎, 西村敬一, 澤田純男: トルコ・アダパザル周辺の基盤構造について, 第 1 1 回日本地震工学シンポジウム, 301-306, (2002).

室野剛隆, 村上昌彦, 佐藤忠信: 断層近傍地震動の位相特性の経験的なモデル化, 第 11 回日本地震工学シンポジウム, 1, 521-526, (2002).

中島正愛, 川口淳, 桑原進: 鉄骨品質の基本問題—コスト意識の高揚なくして鋼構造に未来はありうるか—, 鉄骨シンポジウム論文集—品質・生産性を考慮した鉄骨の設計・施工技術, 日本鋼構造協会, 1-6, (2002).

中村晋, 澤田純男, 吉田望, 末富岩雄: 拡張ベーズ法を用いた時間領域で同定された表層地盤の減衰特性, 第 1 1 回日本地震工学シンポジウム, 211-216, (2002).

規矩大義, 澤田純男, 安田進, 吉田望: 1999 年トルコ・コジャエリ地震の被害域アダパザルにおける地盤調査, 第 1 1 回日本地震工学シンポジウム, 43-46, (2002).

Pareek, S., Hayashi, Y., Sawada, S.: Building Damage in Gandhidham during the Bhuj Earthquake of 2001, Earthquake Engineering 12SEE-2002, 737-744, (2002).

佐藤忠信, 荻山和樹: 加速度観測に基づく線形同定法, 第 11 回日本地震工学シンポジウム, 2, 1965-1968, (2002).

澤田純男, 片岡慶太, 盛川仁: 波線理論に基づく伝播経路の位相スペクトル特性, 第 1 1 回日本地震工学シンポジウム, 511-516, (2002).

篠原達巳, 中島正愛, 諸岡繁洋: ロープで連結された建物群の振動性状, 第 11 回日本地震工学シンポジウム論文集, #361-, (2002).

末富岩雄, 吉田望, 澤田純男: 強震時における減衰の周波数依存性の扱いに関する一考察, 第 1 1 回日本地震工学シンポジウム, 217-222, (2002).

田村修次, 足立星児, 藤原慶子: 1847 年善光寺地震における家屋被害と微動から推定される地盤特性, 第 11 回日本地震工学シンポジウム論文集, 419-424, (2002).

田村修次, 小林健一: 大型せん断土槽を用いた杭頭加振実験による杭の水平地盤反力の評価, 集, 2002, pp. 1229-1234., 第 11 回日本地震工学シンポジウム論文集, 1229-1234, (2002).

鶴来雅人, 澤田純男, 宮島昌克, 北浦勝: 関西地域におけるサイト増幅特性の再評, 構造工学論文集, 48A, 577-586, (2002).

鶴来雅人, 香川敬生, 三明雅幸, 羽田浩二, 入倉孝次郎: 基盤入射波スペクトルに見られる高周波数限界に関する検討—2000 年鳥取県西部地震の本震及び余震—, 第 11 回日本地震工学シンポジウム論文集, 109-112, (2002).

Xie, Q., Xue, S., Nakashima, M.: Optimal Sensor Placement for Building Structural Damage Assessment, 第 11 回日本地震工学シンポジウム論文集, #368-, (2002).

八幡夏恵子, 鈴木康嗣, 宮田章, 田村修次: 液状化地盤—杭支持構造物の杭応力に対する慣性力の影響 (大型せん断土槽を用いた振動台実験), 第 11 回日本地震工学シンポジウム論文集, 1213-1216, (2002).

吉田望, 澤田純男, 中村晋: 地盤の地震応答解析の精度に対する手法の影, 第 1 1 回日本地震工学シンポジウム, 763-768, (2002).

- 後藤浩之, 澤田純男, 盛川仁, 規矩大義: トルコ・コジャエリ地震におけるアダバザル盆地の強震動シミュレーション, 土木学会地震工学論文集, 27(38), (2003).
- 本田利器, 村上裕宣: 三次元不確定波動場のスペクトル確率有限要素解析の並列計算, 応用力学論文集, 6, 789-798, (2003).
- 本城勇介, 日下部治, 市川篤司, 佐藤尚次, 山本修司, 香月智, 谷和夫, 山口栄輝, 杉山俊幸, 澤田純男, 谷村幸裕, 上東泰, 佐々木義裕: 「性能設計概念に基づいた構造物設計コード作成のための原則・指針と用語 (通称「code PLATFORM ver. 1」)」の開発, 構造物の安全性および信頼性 JCOSAR2003 論文集, 5, 715-722, (2003).
- 松本敏克, 澤田純男, 大鳥靖樹, 渡邊英一: 地中 RC 構造物の耐震性能評価における損傷確率の実務的評価法, 構造物の安全性および信頼性 JCOSAR2003 論文集, 5, 715-722, (2003).
- 中島正愛, 加登美喜子: 静的解析・設計における最大変形の評価 — その限界と効用 —, 地震荷重—性能設計への展望—論文集, (2003).
- Nakashima, M.: Issues to be Resolved in Practical Implementation of Real-Time Hybrid Testing, Proceedings of the 2003 Structural Congress, ASCE, (2003).
- Sato, T., Muroño, Y., Murakami, M.: Modeling of Phase Spectra For Simulation of Near-Fault Design Earthquake, Advancing Mitigation Technologies and Disaster Response for Lifeline Systems, Technical Council on Lifeline Earthquake Engineering Monograph No. 25, 769-778, (2003).
- Yang, J., Savidis, S., Sato, T., Li, X.: Influence of Vertical Acceleration on Soil Liquefaction: New Findings and Implications, Proceedings of the Soil and Rock America 2003 12th Panamerican Conference on Soil Mechanics and Geotechnical Engineering, 963-968, (2003).
- 吉田望, 澤田純男, 竹島康人, 三上武子, 澤田俊一: 履歴減衰特性が地盤の地震応答に与える影響, 土木学会地震工学論文集, 27(158), (2003).
- Yoshida, I., Sato, T.: Exclusive non-Gaussian Process Noise for Damage Detection Using Monte Carlo Filter, Proceeding of the Third World Conference on Structural Control, 2, 213-218, (2003).
- Birgoren, G., Irikura, K.: Stochastic Green's Function Technique with Phase Dependent Site Response: Case of the Düzce Basin, Turkey, IUGG Special Volume, Earthquake, Hazard, Risk, and Strong Ground Motion, 259-276, (2004).
- Di, Y., Sato, T.: Arbitrary Lagrangian-Eulerian Formulation for Large Deformation Analysis of Saturated Soils, Proceedings of The 11th International Conference on Soil Dynamics & Earthquake Engineering /The 3rd International Conference on Earthquake Geotechnical Engineering, 1, 110-117, (2004).
- Lee, E., Sato, T.: Numerical Simulation of Induced Ground after Liquefaction using Adaptive Remeshing Scheme, Proceedings of The 11th International Conference on Soil Dynamics & Earthquake Engineering /The 3rd International Conference on Earthquake Geotechnical Engineering, 2, 605-610, (2004).
- Miwa, S., Sato, T.: Damage Process of Pile Foundation in Liquefied Ground During Strong Ground Motion, Proceedings of The 11th International Conference on Soil Dynamics & Earthquake Engineering /The 3rd International Conference on Earthquake Geotechnical Engineering, 1, 776-783, (2004).
- Nakamura, S., Yoshida, N., Sawada, S.: Applicability of Proposed 1-D nonlinear Dynamic Response Analysis Method in Frequency Domain, Proceedings of the 11th International Conference on Soil Dynamics & Earthquake Engineering and the 3rd International Conference on Earthquake Geotechnical Engineering, 2, 188-193, (2004).
- Sawada, S., Toki, K., Murakami, S.: A New Seismic Design Method for Embankment using Single-side Strength-demand Spectra, Proceedings of the 11th International Conference on Soil Dynamics & Earthquake Engineering and the 3rd International Conference on Earthquake Geotechnical Engineering, 2, 323-328, (2004).
- Suetomi, I., Sawada, S., Yoshida, N., Ishida, E., Goto, Y.: Upper Limit of Amplification Factor Caused by Shear Strength in Nonlinear Ground Response, Proceedings of the 11th International Conference on Soil Dynamics & Earthquake Engineering and the 3rd International Conference on Earthquake Geotechnical Engineering, 2, 165-172, (2004).
- Tang, X., Sato, T.: H^∞ -adaptivity applied to Liquefiable Soil in Nonlinear Analysis of Soil-Pile Interaction, Proceedings of The 11th International Conference on Soil Dynamics & Earthquake Engineering /The 3rd International Conference on Earthquake Geotechnical Engineering, 1, 760-767, (2004).
- Yoshida, N., Sawada, S., Nakamura, S.: Accuracy of Dynamic Response Analysis of Ground by Means of Damping and Nonlinear Characteristics, Proceedings of the 11th International Conference on Soil Dynamics & Earthquake Engineering and the 3rd International Conference on Earthquake Geotechnical Engineering, 1, 126-133, (2004).

(A3) アブストラクト査読論文

- Di, Y., Sato, T., Moon, Y.: A New Simulation Method for Liquefaction and Induced Ground Flow, 2nd Canadian Specialty Conference on Computer Applications in Geotechnique, 197-204, (2002).
- Muroño, Y., Sato, T., Murakami, M.: Modeling of Phase Spectra for Near-Fault Earthquake Motions, 12th European Conference on earthquake Engineering CD-ROM279, (2002).

- Sato, T., Murono, Y.: Simulation of Earthquake Motions Based on Phase Information, 12th European Conference on earthquake Engineering CD-ROM487, (2002).
- Yang, J., Sato, T., Savidis, S.: Effects of Saturation on Earthquake Response of Liquefiable Ground, 12th European Conference on earthquake Engineering CD-ROM133, (2002).
- Yoshida, I., Sato, T.: Identification of Damping Ratio Using Monte Carlo Filter Based on Exclusive Non-Gaussian Process Noise, 15th ASCE Engineering Mechanics Conference (CD-ROM) 387.pdf, (2002).
- 聲高裕治, 吹田啓一郎, 張ンシュン, 安藤正和, 宇野暢芳: H形鋼柱弱軸方向と梁の高力ボルト接合に関する研究, 鋼構造年次論文報告集, 641-648, (2003).
- Liu, D., Kanao, I., Nakashima, M.: Test on Complete Failure of Steel Columns Subjected to Cyclic loading, Proceedings of the Fourth International Conference on Behavior of Steel Structures in Seismic Areas (STESSA'2003), 169-174, (2003).
- Matsumiya, T., Liu, D., Nakashima, M., Suita, K.: Test on Collapse Behavior of 3D Full-Scale Steel Moment Frames Subjected to Cyclic Loading, Proceedings of the Seventh Pacific Conference of Steel Structures, (2003).
- Nakashima, M.: Issues to be Resolved in Practical Implementation of Real-Time Hybrid Testing, Proceedings of the 2003 Structures Congress & Exposition, (2003).
- Okazaki, T., Engelhardt, M., Nakashima, M., Suita, K., Tsai, K.: Behavior of Link-to-Column Connections in Steel Eccentrically Braced Frames, Proceedings of the Fourth International Conference on Behavior of Steel Structures in Seismic Areas (STESSA'2003), 351-356, (2003).
- Pan, P., Nakashima, M.: Effect of Vertical Vibration on Story Drift, Column Axial Force, and Beam Acceleration of Steel Moment Frames Subjected to Near-Fault Motions, Proceedings of the Fourth International Conference on Behavior of Steel Structures in Seismic Areas (STESSA'2003), 541-546, (2003).
- Sato, T., Yoshida, I., Masumoto, M.: Prioritization of Seismic Reinforcement for Road Bridges Based on the Concept of Life Cycle Cost, Life-Cycle Performance of Deteriorating Structures, 219-228, (2003).
- 佐藤有希, 吹田啓一郎: 既存鉄骨建物の柱梁接合部の耐震補強, 鋼構造年次論文報告集, 451-458, (2003).
- Suita, K., Inoue, K., Kanoh, N.: Mechanical Behavior of Bolted Beam-to-Column Connections with Panel Zone Yielding, Behavior of Steel Structures in Seismic Areas, 363-368, (2003).
- 吹田啓一郎, 立山英二: 梁長さが異なる溶接柱梁接合部の塑性変形能力, 鋼構造年次論文報告集, 601-606, (2003).
- 周鋒, 松宮智央, 倉田真宏, 吹田啓一郎: 高力ボルト接合による鉄骨柱脚の力学的挙動, 鋼構造年次論文報告集, 583-590, (2003).
- Asano, K., Iwata, T., Irikura, K.: Characterization Of Source Models Of Shallow Intralab Earthquakes Using Strong Motion Data, Proc. 13th World Conf. Earthq. Eng., 835, (2004).
- Cho, I., Tsurugi, M., Kagawa, T., Iwata, T., Zhao, B.: Modeling of the spectral amplitude characteristics at the strong motion observation sites in the Osaka basin, Japan, Proc. 13th World Conf. Earthq. Eng., 2058-, (2004).
- Numerical Simulation of Lateral Displacement Between Non-Liquefiable Ground and the Liquefied Subsoil Layer, Proceedings of the 17th ASCE Engineering Mechanics Conference June 13-16, 2004, University of Delaware, Newark, DE, No. 81, (2004).
- Goto, H., Sawada, S.: Numerical Simulation of Strong Ground Motion on Adapazari Basin during the 1999 Kocaeli, Turkey, Earthquake, 13th World Conference on Earthquake Engineering, (2004).
- Honda, R., Murakami, .: Parallel Computation of 3D wave Propagation by Spectral Stochastic Finite Element Method, Proceedings of 13th World Conference on Earthquake Engineering, No.569-, (2004).
- Iwata, T., Sekiguchi, H., Miyake, H., Zhang, W., Miyakoshi, K.: Dynamic Source Parameters And Characterized Source Model For Strong Motion Prediction, Proc. 13th World Conf. Earthq. Eng., 2392-, (2004).
- Matsumiya, T., Suita, K., Chusilp, P., Nakashima, M.: Full-Scale Test of Three-Story Steel Moment Frames for Examination of Extremely large Deformation and Collapse Behavior, Proceedings of the 13th World Conference on Earthquake Engineering, TH1-5 (3471), (2004).
- Miyake, H., Iwata, T., Irikura, K.: Controlling Factors Of Strong Ground Motion Prediction For Scenario Earthquakes, Proc. 13th World Conf. Earthq. Eng., 2801-, (2004).
- Mori, Y., Yamanaka, T., Luco, N., Nakashima, M., Cornell, C.: Predictors of Seismic Demand of SMRF Buildings Considering Post-Elastic Mode Shape,, Proceedings of the 13th World Conference on Earthquake Engineering, F2-2 (632), (2004).
- Murono, Y., Sato, T.: Application of Stochastic Characteristics of Phase Spectrum to Random Vibration Analysis of S.D.O.F System, 9th ASCE Specialty Conference on Probabilistic Mechanics and Structural Reliability, (2004).
- Nakashima, M., Pan, P., Tomofuji, H., Liu, D.: Hybrid Test on Base-Isolated Structures using Combined Force-Displacement Control, Proceedings of the 13th World Conference on Earthquake Engineering, F2-4 (3466), (2004).
- Ogigama, K., Sato, T.: Nonlinear structural system identification using shaking table test data of five-story model building, Proceedings of SPIE, Health Monitoring and Smart Nondestructive Evaluation of Structural and Biological Systems III, 5394(58), 475-484, (2004).

- Okazaki, T., Engelhardt, M., Nakashima, M., Suita, K.: Experimental Study on Link-to-Column Connections in Steel eccentrically Braced Frames,, Proceedings of the 13th World Conference on Earthquake Engineering, TH3-3 (275), (2004).
- Pan, P., Nakashima, M., Tada, M.: Effects of Vertical Ground Motions on Seismic Response of Base-Isolated Building Structures, Proceedings of 10th Anniversary Symposium on Performance of Response Controlled Buildings, #S2-13, (2004).
- Pan, P., Tada, M., Nakashima, M.: Online Hybrid Test by Internet Linkage of Distributed Test and Analysis Domains, Proceedings of International Symposium on Network and Center-Based Research for Smart Structures Technologies and Earthquake Engineering (SE04), 543-548, (2004).
- Pan, P., Nakayasu, N., Nakashima, M.: Response and Damage of Base-Isolated Buildings Subjected to Extremely Large Earthquakes, Proceedings of the 13th World Conference on Earthquake Engineering, P5(3493), (2004).
- Sakai, H., Sawada, S.: Estimation of Incident Seismic Wave Based on Effective Stress Analysis, 13th World Conference on Earthquake Engineering, (2004).
- Sato, T., Murono, Y.: Effect of Phase Spectrum Uncertainty on Earthquake Motion, 9th ASCE Specialty Conference on Probabilistic Mechanics and Structural Reliability, (2004).
- Sawada, S.: A Simplified Equation to Approximate Natural Period of Layered Ground on the Elastic Bedrock for Seismic Design of Structures, 13th World Conference on Earthquake Engineering, (2004).
- 中田啓一郎, 佐藤有希, 長田暢浩, 松宮智央, 中島正愛: 柱梁接合部に溶接欠陥を有する鋼構造実大骨組の損傷と終局挙動, 鋼構造年次論文報告集, 155-162, (2004).
- Takenaka, H., Fujii, Y., Miyakoshi, K., Kawase, H., Iwata, T.: Extraction of temporal slip velocity function of earthquake from the existing source inversion method, Proc. 13th World Conf. Earthq. Eng., 2679-, (2004).
- Tamura, S.: Contribution of viscous force to horizontal subgrade reaction during soil liquefaction on pile top vibration test, Proc. of 13th World Conf. on Earthq. Engrg, Reference No. 2908-, (2004).
- Tanaka, Y., Sato, T.: Efficient system identification algorithm using Monte Carlo filter and its application, Proceedings of SPIE, Health Monitoring and Smart Nondestructive Evaluation of Structural and Biological Systems III, 5394(57), 464-474, (2004).
- Tang, H., Sato, T.: Structural damage detection using neural network and H_{∞} filter algorithm, Proceedings of SPIE, Health Monitoring and Smart Nondestructive Evaluation of Structural and Biological Systems III, 5394(56), 454-463, (2004).
- Tsurugi, M., Sawada, S., Miyajima, M., Kitaura, M.: Site Amplification Factors on Seismic Intensity Scale Based on Amplification Spectra, 13th World Conference on Earthquake Engineering, (2004).
- Wada, A., Nakashima, M.: From Infancy to Maturity of Buckling-Restrained Brace Research and Application, Proceedings of the 13th World Conference on Earthquake Engineering, TH2-4 (1732), (2004).
- Yoshida, I., Sato, T.: Estimation of Fragility Curve by Using Limit Seismic Intensity and Markov Chain Monte Carlo, 9th ASCE Specialty Conference on Probabilistic Mechanics and Structural Reliability, (2004).
- Yoshida, N., Yasuda, S., Kiku, H., Sawada, S.: Laboratory Test of Liquefaction Characteristics of Sand under Level 2 Ground Motion, 13th World Conference on Earthquake Engineering, (2004).
- Dynamic Source Parameters of Characterized Source Model For Strong Ground Motion Prediction, Proc. International Symposium on Earthquake Engineering Commemorating 10th Anniversary of the 1995 Kobe earthquake, A-3-5-, (2005).

(B) 解説・総説

- 中島正愛: 建築物の耐震設計—快適な生活空間を提供しつつ人の命を地震からどう守るか, サイスマ, 5-8, (2002).
- 中島正愛: 新著・旧著紹介: チョブラ: 構造物の動的解析—その基礎から応用まで—, 建築の研究, 150, 22-, (2002).
- 中島正愛: 「芸予地震による体育館天井の落下被害の調査とその対策 (西山功他)」に対する評論, 日本建築学会技術報告集, 16, 405-, (2002).
- Nakashima, M.: Impact of U.S.-Japan Research Using Large-Scale Testing Facilities on Development of Pseudo Dynamic Testing, Proceedings of the US Berkeley - CUREE Symposium in Honor of Ray Clough and Joseph Penzien, 60-61, (2002).
- 岡崎太一郎, 中島正愛: UC Berkeley - CUREE Symposium in Honor of Ray Clough and Joseph Penzien, 震災予防, 1-2, (2002).
- 壁谷澤壽海, 田村幸雄, 寺本隆幸, 中島正愛, 翠川三郎: 巻頭座談会—建築構造学の夢と憂い, 建築雑誌, 1511(118), 8-17, (2003).
- Nakashima, M.: Post-Kobe Seismic Design and Construction Practices of Steel Building Structures, Proceedings of Taiwan-Japan Workshop on Seismic Disaster Simulation and Loss Estimation, (2003).
- Ruis, E., Comartin, C., 日下., 岡本., 近藤., 森高., 中島.: , Structures, 日本建築構造技術者協会, No. 65, 47-49, (2003).
- 中田啓一郎: 工夫あふれる鉄骨のジョイント, 建築技術, 647, 176-179, (2003).
- 中田啓一郎: 米国におけるノースリッジ地震の教訓, 鉄鋼技術, 188(17), 36-38, (2003).
- 川口淳, 桑原進, 中島正愛: 再考: 建築鉄骨の品質確保その1—品質問題の背景と鉄骨製作の現状と問題点, 鉄鋼技術, 188(17), 50-55, (2004).
- 中島正愛: 「明日を拓く技術」と「今を支える技術」の違いをみすえた大学教育を, Structures, 日本建築構造技術者協会, 36-37, (2004).

中島正愛：耐震設計のグローバルゼーションー海を越えた競争と連携ー，第50回構造工学シンポジウム建築・土木合同パネルディスカッション資料，36-41，(2004)。

中島正愛：耐震規準のグローバルゼーションとわが国の戦略，第7回地震時保有耐力法に基づく橋梁等構造の耐震設計に関するシンポジウム講演論文集，1-4，(2004)。

中島正愛：「再考：建築鉄骨の品質確保」その4 品質確保のための検査技術革新への道，鉄構技術，192(第17)，24-31，(2004)。

中島正愛：常時微動測定に基づく鉄骨造高層建物の振動特性に関する経年変化および時間変動(荒川利治、山本和也)に対する評論，日本建築学会技術報告集，第19，(2004)。

中島正愛，吹田啓一郎，小野徹郎：日米鋼構造耐震設計の相違ーノースリッジ・神戸から10年を経て、主旨説明，日本建築学会大会鋼構造PD資料，1-6，(2004)。

Nakashima, M., Suita, K., Matsumiya, T.: Experiment and Numerical Simulation on Collapse and Failure of Steel Frames and Members, Proceedings of International Conference in Commemoration of 5th Anniversary of the 1999 Chi-Chi Earthquake, (2004)。

(C) 著書

入倉孝次郎：キラールパルス波が引き起こした「震災の帯」，AERA Mook「地震がわかる」，朝日新聞社，114-118，(2002)。

Irikura, K.: Recipe for estimating strong ground motions from active fault earthquakes, Seismotectonics in Convergent Plate Boundary, Eds. Y. Fujinawa and A. Yoshida, Terra Scientific Publishing Company (TERRAPUB), Tokyo, 45-55, (2002)。

岩田知孝(他)：地震動のシミュレーション，アエラムック地震がわかる，58-60，(2002)。

中島正愛：防災事典(分担)，築地書館，(2002)。

中島正愛：鉄骨柱梁溶接接合部の塑性変形能力と載荷速度・温度上昇・材質特性変化の相関，平成13年度科学研究費補助金基盤研究(B)(2)成果報告書，68-，(2002)。

中島正愛：鋼構造(I.3)、建築の構造、ビジュアル版建築入門3(分担)，，126-133，(2002)。

入倉孝次郎：地震災害論，防災学講座，2，京都大学防災研究所編，山海堂(共著)，，(2003)。

岩田知孝(他)：兵庫県南部地震，THE地震展図録，(2003)。

中島正愛：鋼構造設計演習(編集)，技報堂出版，300-，(2003)。

中島正愛：建物と耐震設計(5章)、防災学講座2地震災害論、京都大学防災研究所編(分担)，山海堂，122-144，(2003)。

岩田知孝(他)：地盤震動，日本建築学会，(2004)。

中島正愛：構造物の耐震性を高めるための最近の技術、ここまで進んだ日米の都市地震防災，第19回「大学と科学」公開シンポジウム，24-26，(2004)。

中島正愛：高力ボルト接合設計施工ガイドブック(編集)，日本建築学会，145-，(2004)。

Nakashima, M., Matsumiya, T., Liu, D., Suita, K.: Roles of Large-Scale Tests for Assessment of Seismic Performance, Proceedings on an International Workshop, Bled, Slovenia, 269-280, (2004)。

Uang, C., Nakashima, M.: Steel Buckling-Restrained Braced Frames, Chapter 16, Earthquake Engineering from Engineering Seismology to Performance-Based Engineering, Edited by Bozorgnia, Y. and Bertero, V. V., 16章-1-16章-37，(2004)。

木造建物群の並列結合による地震応答低減と耐震安全性向上，京都大学防災研究一般共同研究(13G-04)報告書，60-，。

(D) 紀要・報告書

入倉孝次郎，三宅弘恵，岩田知孝，釜江克宏，川辺秀憲：周期帯域に応じた強震動予測手法の高精度化，地震災害軽減のための強震動予測マスターモデルに関する研究 平成13年度研究成果報告書，205-215，(2002)。

Iwata, T., Sekiguchi, H.: Source process and near-source ground motion during the 2000 Tottori-ken Seibu earthquake, Reports on Assessments of Seismic local-site effects at plural test sites, MEXT, 231-241, (2002)。

本田利器：時間・周波数両領域の包絡線に基づく波形の合成について，地震工学研究発表会，27，No.141-，(2003)。

市田賢，佐藤忠信：構造物の入力時刻歴と構造パラメーターの同時同定法，京都大学防災研究所年報，46B，121-126，(2003)。

入倉孝次郎，三宅弘恵，岩田知孝，釜江克宏，川辺秀憲，Dalguer, Luis A.: 将来の大地震による強震動を予測するためのレシピ，京都大学防災研究所年報，B46，105-120，(2003)。

Di, Y., Sato, T.: Computational Modeling of Large Deformation of Saturated Soils Using An ALE Finite Element Method, Reprinted from the Annuals of the Disaster Prevention Research Institute Kyoto University, 171-182, (2004)。

Sato, T., Irikura, K., Nakashima, M., Tanaka, H., Matsunami, K., Sawada, S., Suita, K., Iwata, T., Honda, R.: Advanced Techniques for Evaluating Vulnerability of Urban Infrastructure by Integrating Multiple Evaluation Indexes, Reprinted from the Annuals of the Disaster Prevention Research Institute Kyoto University, 9-23, (2004)。

Yamada, N., Iwata, T.: Long-period Ground Motion Simulation in Kinki Area, Annuals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ, 47C, 149-155, (2004)。

(E) 講義・講演会テキスト

入倉孝次郎，三宅弘恵：想定される地震動，シナリオ地震の強震動予測，兵庫県南部地震以降の地震防災ー何が変わったか、これから何が必要なのかー，地震工学会講演会資料，9-37，(2002)。

竹中博士，藤井雄一郎，宮腰研，川瀬博，岩田知孝：震源インバージョンの結果から抽出した1997年鹿児島県北西部地震のすべり速度関数，「地震災害軽減のための強震動予測マスターモデルに関する研究」第2回シンポジウム論文集，93-98，(2002)。

岩田知孝，三宅弘恵：最近の高精度強震動予測技術，「強震動予測と設計用入力地震動」パネルディスカッション資料，日本建築学会構造委員会振動運営委員会，5-12，(2004)。

岩田知孝, 三宅弘恵, 浅野公之, Zhang, Wenbo, 鈴木亘, 関口春子: 不均質震源特性の抽出と分析, 「地震災害軽減のための強震動予測マスターモデルに関する研究」第3回シンポジウム論文集, 20-23, (2004).

Iwata, T.: Construction of source and subsurface structure models for strong motion prediction, Proc. International workshop on Strong Ground Motion Prediction and Earthquake Tectonics in Urban Areas, 24-27, (2004).

岩田知孝: プレート境界巨大地震による長周期地震動, 土木学会研究討論会資料, 巨大地震災害への対応特別委員会, 17-24, (2004).

田村修次: 液状化地盤において基礎部に作用する地震時土圧, パネルディスカッション資料 地震時土圧をどう考えるか, 日本建築学会構造委員会基礎構造運営委員会, 73-85, (2004).

(F) 新聞・雑誌記事

(G1) 講演会概要集

青木重哲, 田村修次: 1847 年善光寺地震における家屋被害と地盤の地震波増幅特性の関係—微動観測から推定した長野県更埴市の地盤特性—, 日本建築学会大会学術講演梗概集, B2, 1-2, (2002).

Di, Y., Moon, Y., Sato, T.: Numerical Simulation of seismic Response of Site Overlying on Liquefiable soil Layer, Proceedings of KAIST-Kyoto Univ. Joint Seminar on Earthquake Engineering, 47-52, (2002).

本田利器: Spectral 確率境界要素法による二次元波動伝播解析, 土木学会年次学術講演会概要集, 58, CS7-026-, (2002).

Ichida, S., Honda, R., Sato, T.: System identification Focused on Adaptability to Non-Stationarity, Proceedings of KAIST-Kyoto Univ. Joint Seminar on Earthquake Engineering, 150-155, (2002).

岩崎晃久, 竹内一郎, 井上一朗, 吹田啓一郎, 聲高裕治, 宇野暢芳: エネルギー吸収要素を組み込んだH形鋼柱梁接合部に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸), C-1, 639-640, (2002).

Kawanishi, T., Sato, T.: Simulation of Earthquake Motions using Observed Phase, Proceedings of KAIST-Kyoto Univ. Joint Seminar on Earthquake Engineering, 1-7, (2002).

小林健一, 田村修次: 大型せん断土槽を用いた杭頭加振実験における杭の水平地盤反力(その2 地盤反力の変位依存成分と速度依存成分), 地盤工学研究発表会, 1871-1872, (2002).

倉田真宏, 吹田啓一郎, 中島正愛: 鋼骨組の地震応答に及ぼす柱脚復元力特性の影響, 日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸), C-1, 767-768, (2002).

Matsumaru, T., Moon, Y., Zhang, F., Sato, T.: 3-Dimensional Effective Stress Analysis of Pile Foundation Subjected to Lateral Flow of Liquefied Ground, Proceedings of KAIST-Kyoto Univ. Joint Seminar on Earthquake

Engineering, 59-64, (2002).

Moon, Y., Sato, T., Uzuoka, R.: Analytical and Numerical Study on the Unified modeling of Liquefaction and Flow Processes, Proceedings of KAIST-Kyoto Univ. Joint Seminar on Earthquake Engineering, 53-58, (2002).

村上裕宣, 本田利器: Spectral 確率境界要素法による地盤の変形解析, 地盤工学研究発表会 概要集, 37, No.1074-, (2002).

村上裕宣, 本田利器: Spectral 確率有限要素法による三次元波動伝播解析, , 58, I-857-, (2002).

Murono, Y., Sato, T., Murakami, M.: Moderating of Phase Spectra for Simulation of Near-Fault Ground Motions, Proceedings of 15th KKCNN 2002 Symposium on Civil Engineering, 95-100, (2002).

Nakamura, M., Sawada, S.: Characteristics of Particle Motion of Seismic Motion near the Fault, Proceedings of KAIST-Kyoto Univ. Joint Seminar on Earthquake Engineering, 73-81, (2002).

Ogiyama, K., Sato, T.: A Linear Algorithm to Identify the Structural System Using the Acceleration Data, Proceedings of KAIST-Kyoto Univ. Joint Seminar on Earthquake Engineering, 133-139, (2002).

佐藤忠信, 坂上貴士, 吉田郁政: 各種統計的フィルタ理論の合成に基づく非線形構造同定アルゴリズムの開発, 第3回構造物の破壊過程解明に基づく地震防災性向上に関するシンポジウム, 1-6, (2002).

佐藤忠信, 本田利器, 竹川直希: 光ファイバを用いた地盤変形計測システムの大型振動台実験への適用, 第3回構造物の破壊過程解明に基づく地震防災性向上に関するシンポジウム, 83-88, (2002).

佐藤忠信, 坂上貴士, 吉田郁政: 構造同定問題へのモンテカルロフィルタの適用, 第51回理論応用力学講演会, 41-44, (2002).

Sato, T., Sakanoue, T., Yoshida, I.: Structural Identification Algorithm Combining Genetic Algorithm and Monte Carlo Filter, Proceeding of the US-Korea Workshop on Smart Infra-Structural Sysems, 301-308, (2002).

Sato, T., Ogiyama, K.: A Linear Algorithm to Identify Structural Systems Using the Concept of Adjusting Equivalent External Force, Proceedings of 15th KKCNN 2002 Symposium on Civil Engineering, 220-225, (2002).

Sato, T., Ichida, S.: Simultaneous Identification of System Parameters and Time History of External Force, Proceedings of 15th KKCNN 2002 Symposium on Civil Engineering, 226-231, (2002).

Sato, T., Sakanoue, T., Yoshida, I.: Development of the Algorithm to Identify Structural System Using Statistical Filter Theories, Proceedings of KAIST-Kyoto Univ. Joint Seminar on Earthquake Engineering, 141-149, (2002).

Sato, T., Murono, Y.: Simulation of Earthquake Motions Based on Phase Information, Proceedings of the 3rd International Workshop on Performance-Based Design and Retrofit of Transportation Facilities, 79-87, (2002).

- Sato, T., Moon, Y.: Unifiled Analysis by the Fluidal-Elasto-Plasttic Constitutive Equation of Liquefaction and Ground Flow Phenomenon, Proceedings of the Fourth china-Japan -USA Trilateral Symposium on Lifeline Earthquake Engineering, 9-25, (2002).
- Sato, T., Sakanoue, T., Yoshida, I.: New System Identification Algorithms Combining Monte Carlo Filter and Genetic Algorithm, Proceedings of the International Conference on Advances and New Challenges in Earthquake Engineering Research, Hong Kong Volume, 3, 579-586, (2002).
- Sato, T., Kawanishi, T.: Simulation of Earthquake Motions Using Observed Phase Spectra -case studies for the 1999 CHI-CHI earthquake-, Proceedings of the Second Japan-Taiwan Workshop on Lifeline Performance and Disaster Mitigation, 98-104, (2002).
- 佐藤有希, 中島正愛, 吹田啓一郎, 鈴木修一, 原田和典, 菅谷将司: 鋼構造柱梁接合部の塑性歪と温度の相関と変動その1, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (北陸), C-1, 743-744, (2002).
- 吹田啓一郎: 終局強度型耐震設計における梁端接合部の曲げ耐力要求値, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (北陸), C-1, 679-680, (2002).
- Takegawa, N., Sato, T., Honda, R.: Ground Deformation Measuring System Using Optical Fiber Sensors, Proceedings of KAIST-Kyoto Univ. Joint Seminar on Earthquake Engineering, 15-22, (2002).
- 竹内一郎, 宇野暢芳, 吹田啓一郎, 金尾伊織, 中島正愛: 方杖ダンパーで接合された鋼梁の横座屈と合成梁効果その1, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (北陸), C-1, 485-486, (2002).
- 田村修次, 長谷川泰弘, 小林健一: 大型せん断土槽を用いた杭頭加振実験における杭の水平地盤反力 (その1 相対変位および速度が地盤反力に及ぼす影響), 地盤工学研究発表会, 1869-1870, (2002).
- 田村修次: 交通振動が微動観測に及ぼす影響, 日本建築学会大会学術講演梗概集, B2, 259-260, (2002).
- Tang, X., Di, Y., Sato, T.: Dynamic Analysis of Saturated porous Medium by 3D FEM-FDM Coupled Method Considering large deformation, Proceedings of KAIST-Kyoto Univ. Joint Seminar on Earthquake Engineering, 83-88, (2002).
- 八幡夏恵子, 鈴木康嗣, 宮田章, 田村修次: 液状化地盤の杭応力に対する上部構造物の影響—大型せん断土槽を用いた振動台実験—, 日本建築学会大会学術講演梗概集, B1, 433-434, (2002).
- 安井信行, 井上一朗, 吹田啓一郎: 斜方隅肉溶接継目の破壊実験, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (北陸), C-1, 425-426, (2002).
- 張シシュン, 吹田啓一郎, 井上一朗, 竹内一郎, 宇野暢芳: H形鋼柱弱軸方向と梁の高力ボルト接合に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (北陸), C-1, 637-638, (2002).
- 安藤正和, 聲高裕治, 張シシュン, 井上一朗: エネルギー吸収要素を組み込んだH形鋼柱弱軸方向と梁の高力ボルト接合に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (北陸), C-1, 1003-1004, (2003).
- 青木重哲, 田村修次, 卯山直樹: 微動観測による松本市の地盤卓越周期と表層S波速度構造, 日本建築学会大会学術講演梗概集, B2, 219-220, (2003).
- Goto, H., Sawada, S.: Numerical Simulation of Strong Ground Motion around Adapazari Basin during the 1999 Kocaeli, Turkey, Earthquake, Proceedings of NTU/NCREE-KU Joint Seminar on Civil Engineering Research, 73-81, (2003).
- 本田利器, 大濱吉礼: 解析信号ウェーブレットを用いた入力地震動の合成, 土木学会年次学術講演会講演集, 1-299-, (2003).
- 井上真木, 吹田啓一郎: 1995 年兵庫県南部地震における鉄骨建物の外壁被害, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (北陸), C-1, 59-60, (2003).
- 入倉孝次郎: 東南海・南海地震による揺れの予測, 関西地震観測研究協議会・地震防災フォーラム 2002 ー来るべき東南海・南海地震に備えてー, 47-54, (2003).
- 入倉孝次郎, 三宅弘恵, 岩田知孝, 釜江克宏, 川辺秀憲, Dalguer, Luis A.: 内陸地震と海溝型地震に対する強震動予測レシビとその問題点, 地震災害軽減のための強震動予測マスターモデルに関する研究第2回シンポジウム論文集, 71-78, (2003).
- 木時亮, 甲津功夫, 吹田啓一郎: 鉛ダンパー組込み梁継手の力学的性能に関する基礎実験その2, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (北陸), C-1, 1015-1016, (2003).
- 小林健一, 田村修次: 大型せん断土槽を用いた杭頭加振実験における杭の水平地盤反力 (その3 弾性係数と粘性係数の特性), 地盤工学研究発表会, 1891-1892, (2003).
- 甲津功夫, 吹田啓一郎, 木時亮: 鉛ダンパー組込み梁継手の力学的性能に関する基礎実験その1, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (北陸), C-1, 1013-1014, (2003).
- 李相周, 聲高裕治, 吹田啓一郎, 井上一朗: 幅厚比の大きいH形断面梁のウェブ局部座屈拘束効果, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (北陸), C-1, 1011-1012, (2003).
- 卯山直樹, 田村修次: 微動観測による松本市牛伏寺断層近傍の地盤特性, 地盤工学研究発表会, 2083-2084, (2003).
- 卯山直樹, 田村修次: 微動観測に基づく牛伏寺断層の伏在位置の推定, 日本建築学会大会学術講演梗概集, B2, 215-216, (2003).
- 松宮智央, 倉田真宏, 周鋒, 吹田啓一郎: 高力ボルト接合による鉄骨柱脚の耐力と変形能力, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (北陸), 709-710, (2003).
- Murono, Y., Sato, T.: Effect of Phase Spectrum Uncertainty on Structural Response, Proceedings of The Sixteen KCCN Symposium on Civil Engineering, December 8-10, 2003, Korea, 185-190, (2003).
- 長田暢浩, 佐藤有希, 吹田啓一郎: 既存鉄骨建物の耐震性能と耐震補強その2, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (北陸), C-1, 939-940, (2003).
- 佐藤忠信, 市田賢: 独立成分解析を用いた構造物の動特性と入力同時推定法, 第4回構造物の破壊過程解明に基づく地震防災向上に関するシンポジウム論文集, 25-30, (2003).

- Sato, T., Tanaka, Y.: Efficient system identification algorithm applicable to large scale system, International Workshop on Advanced Sensors, Structural Health Monitoring, and Smart Structures 10-11 November 2003, Keio University, Japan, 167-172, (2003).
- Sato, T., Ogiyama, K., Chung, M.: Development and Application of a Wireless Data Acquisition System for Structural Identification, Proceedings of NTU/NCREE-KU Joint Seminar on Civil Engineering Research February 27, 2003, 1-6, (2003).
- Sato, T., Ichida, S.: Simultaneous Identification of Structural Parameters and Time History of External Excitation by Using ICA and MCF Algorithm, Proceedings of NTU/NCREE-KU Joint Seminar on Civil Engineering Research February 27, 2003, 7-14, (2003).
- Sato, T., Ogiyama, K.: A Linear Structural Identification Using the Concept of Equivalent External Force and Partial Structural Responses, Proceedings of NTU/NCREE-KU Joint Seminar on Civil Engineering Research February 27, 2003, 26-33, (2003).
- Sato, T., Matsumaru, T., Moon, Y., Zhang, F., Uzuoka, R.: 3-Dimensional Response of a Pile-Ground System during Liquefaction and Flow Process of the Ground, Proceedings of NTU/NCREE-KU Joint Seminar on Civil Engineering Research February 27, 2003, 55-64, (2003).
- Sato, T., Tanaka, Y.: Efficient System Identification Algorithm Applicable to Large Scale Systems, Proceedings of NTU/NCREE-KU Joint Seminar on Civil Engineering Research February 27, 2003, 82-90, (2003).
- Sato, T., Masumoto, M.: Prioritization of Seismic Reinforcement for Road Bridges Based on the Concept of Life Cycle Cost, Proceedings of NTU/NCREE-KU Joint Seminar on Civil Engineering Research February 27, 2003, 113-120, (2003).
- Sato, T., Tang, X.: Error Estimation and Adaptive Mesh Refinement in Update Lagrangian FEM for Liquefiable Soil, Proceedings of NTU/NCREE-KU Joint Seminar on Civil Engineering Research February 27, 2003, 175-185, (2003).
- Sato, T., Matsumaru, T., Zhang, F., Moon, Y., Uzuoka, R.: 3-Dimensional Simulation of Pile-Ground System During Liquefaction and Following Ground Flow Process, Proceedings of the Eighth U.S.-Japan Workshop on Earthquake Resistant Design of Lifeline Facilities and Countermeasures Against Liquefaction, 507-518, (2003).
- Sato, T., Murono, Y., Kawanishi, T.: Effect of Phase Spectrum Uncertainty on Fourier Amplitude Spectrum of Earthquake Motion, Proceedings of The Sixteen KCCN Symposium on Civil Engineering, December 8-10, 2003, Korea, 45-50, (2003).
- 佐藤有希, 吹田啓一郎, 長田暢浩: 既存鉄骨建物の耐震性能と耐震補強その3, 日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸), C-1, 941-942, (2003).
- 吹田啓一郎, 佐藤有希, 長田暢浩: 既存鉄骨建物の耐震性能と耐震補強その1, 日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸), C-1, 937-938, (2003).
- 田村修次, 肥田剛典: 微動の2点観測による振動原位置の推定, 地盤工学研究発表会, 2245-2246, (2003).
- Tanaka, Y., Sato, T.: Efficient system identification algorithm applicable to large-scale system, Structural Health Monitoring and Intelligent Infrastructure, 1, 387-392, (2003).
- Zhou, F., Kurata, M., Matsumiya, T., Suita, K.: Strength and deformation capacity of bolted column base connections, 日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸), C-1, 711-712, (2003).
- Chung, M., Ogiyama, K., Sato, T.: Development and Application of a Wireless Data Acquisition System for Structural Identification, 第5回構造物の破壊過程解明に基づく地震防災性向上に関するシボジウム論文集, 25-30, (2004).
- Goto, H., Sawada, S.: Numerical Simulation of Strong Ground Motion on Adapazari Basin during the 1999 Kocaeli, Turkey, Earthquake, Proceedings of the 17th KCCN Symposium on Civil Engineering, 601-606, (2004).
- 林 康裕, 吹田啓一郎: 1995年兵庫県南部地震に基づく鉄骨造建物の被害率曲線, 日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸), B-2, 1061-1062, (2004).
- 本田利器: 高次のHC空間への射影を考慮したスペクトル確率有限要素法, 土木学会年次学術講演会講演集, 59, 1-461-, (2004).
- Honda, R., Ghanem, R.: Spectral Stochastic Finite Element Method for Log-Normal Uncertainty, 応用力学論文集, 7, 391-398, (2004).
- 池永昌容, 松宮智央, 倉田真宏, 中島正愛: セルフセンタリング導入による鋼構造骨組の残留変形低減効果, 日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸), C-1, 765-766, (2004).
- 入倉孝次郎: 次の南海トラフ地震はどのような揺れと被害をもたらすのか, 関西地震観測研究協議会・地震防災フォーラム2003-来るべき東南海・南海地震に備えて(2)-, 1-9, (2004).
- 村上裕宣, 本田利器: 構造系と入力波の不確定性を考慮した非線形動的解析, 土木学会年次学術講演会講演集, 59, 1-285-, (2004).
- 水谷聡志, 甲津功夫, 吹田啓一郎, 木時亮: 鉛封入式ダンパーの力学性能に関する実験的研究その1-その3, 日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸), C-1, 703-708, (2004).
- Nagata, M., Sawada, S.: A Study to Evaluate Base-isolation Effects Caused by the Behavior of Frictional-pile Foundation, Proceedings of the 3rd KU-KAIST-NTU Student Seminar on Civil Engineering Research, 162-169, (2004).
- 酒井史紀, 田村修次: 人工加振源が微動アレイ観測に及ぼす影響, 日本建築学会大会学術講演梗概集, B2, 675-676, (2004).
- 佐藤忠信, 荻山和樹: 可搬型非線形構造同定システムの開発-5層モデルの振動台テストデータを用いた検証-, 第5回構造物の破壊過程解明に基づく地震防災性向上に関するシボジウム論文集, 37-42, (2004).

- Sato, T., Matsumaru, T.: A Method to Analyze Ground Spreading Caused by Liquefaction, Proceedings of the Third Taiwan-Japan Workshop on Lifeline Performance and Disaster Mitigation, 165-173, (2004).
- Sato, T., Omichi, Y., Ogawa, Y.: Seismic Reliability Analysis of a Large Scale Gas Network, Proceedings of the Third Taiwan-Japan Workshop on Lifeline Performance and Disaster Mitigation, 281-287, (2004).
- Sawada, S.: A Simplified Equation to Approximate Natural Period of Layered Ground on the Elastic Bedrock for Seismic Design, Proceedings of the 17th KKCN Symposium on Civil Engineering, 539-544, (2004).
- Sawada, S., Ngata, M., Muro, Y.: A Study of Base-isolation Effects Caused by the Behavior of Friction-Pile Foundations, Proceedings of The First Germany-Japan Workshop on Geotechnical Earthquake Engineering and Soil Dynamics -Advanced Pile Foundation System, (2004).
- 吹田啓一郎, 佐藤有希, 長田暢浩: 1980 年初頭に建設された既存鉄骨建物の溶接品質と非破壊検査, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (北陸), C-1, 703-704, (2004).
- 田村修次: 液状化地盤における基礎根入れが上部構造物応答に及ぼす影響, 地盤工学研究発表会, 1825-1826, (2004).
- 田村修次, 原田光信: 波の到来方向に基づく表層地盤の不均一性評価, 日本建築学会大会学術講演梗概集, B2, 593-594, (2004).
- 田代靖彦, 百野泰樹, 髙裕治, 井上一朗, 吹田啓一郎, 澤井祥晃, 安藤正和: 方杖ダンパーを用いた柱梁高力ボルト接合構造の実大骨組実験その1-その6, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (北陸), C-1, 997-1010, (2004).
- Goto, H., Sawada, S.: Dynamic Source Inversion Analysis based on the Formulation Avoiding Undesirable Sensitivity, Proceeding of the 4th Annual KU-KAIST-NTU Student Seminar on Civil Engineering Researches, Feb. 23-26, 2005, Jeju Island, Korea., (2005).
- Sawada, S., Nishikouri, K.: Elastic Bridge Column Accompanied With Friction Damping Mechanism Against Large Seismic Load, Proceeding of the 4th Annual KU-KAIST-NTU Student Seminar on Civil Engineering Researches, Feb. 23-26, 2005, Jeju Island, Korea., (2005).
- 澤田純男: 地震防災のための地域の地震観測, 記念シンポジウム「日本の強震観測50年」-歴史と展望-論文集, (2005).
- 澤田純男: 土木構造物の耐震性能設計における新しいレベル1の考え方, 第8回設計工学に関するシンポジウム講演論文集, 37-40, .
- モ, 6(3), 11-12, (2002).
- 入倉孝次郎, 三宅弘恵: 予測のための震源のモデル化, 月刊地球号外, 37, 62-77, (2002).
- 岩田知孝, 関口春子: 強震記録に基づく最近の地震の震源イメージ, 月刊地球, 号外 37, 47-55, (2002).
- 岩田知孝, 川瀬博: 兵庫県南部地震の同時シミュレーション-第2回表層地質が地震動に及ぼす影響に関する国際シンポジウムから-, 月刊地球, 号外 37, 170-178, (2002).
- 岩田知孝, 関口春子: 2000 年鳥取県西部地震の震源過程と震源域強震動, 月刊地球, 号外 38, 182-188, (2002).
- 関口春子, 岩田知孝: 2001 年芸予地震の破壊過程と強震動, 月刊地球, 号外 38, 239-246, (2002).
- 入倉孝次郎: 迫り来る東南海・南海地震に備えるための強震動の予測-最新の知見とその問題点-, 土木学会誌, 9(88), 27-29, (2003).
- 入倉孝次郎: 地震災害軽減研究のための新たな取り組み, 学術月報 特集: 防災の科学, 22-28, (2003).
- 田村修次, 東畑郁生: 第2回日本-カザフスタン共催セミナーの報告, 土と基礎, 51(4), 68-68, (2003).

(G2) 学術誌 (査読無し)

- 入倉孝次郎: 強震動研究の到達点および今後の展望, 月刊地球号外, 37, 213-223, (2002).
- 入倉孝次郎: 南海地震と東南海地震の強震動 (上), サイスマ, 6(2), 5-7, (2002).
- 入倉孝次郎: 南海地震と東南海地震の強震動 (下), サイスマ,

10.7.3 地盤災害研究部門

(A1) 完全査読論文

- Bardet, J., Tobita, T.: Practical solution of free-surface seepage problems, *Computers and Geotechnics*, 26(9), 451-475, (2002).
- Bardet, J., Tobita, T., Mace, N., Hu, J.: Regional modeling of liquefaction-induced ground deformations, *EERI Earthquake Spectra*, 18(1), 19-46, (2002).
- Chigira, M., Nakamoto, M., Nakata, E.: Weathering mechanisms and their effects on the landsliding of ignimbrite subject to vapor-phase crystallization in the Shirakawa pyroclastic flow, northern Japan, *Engineering Geology*, 66, 111-125, (2002).
- Chigira, M.: Geologic factors contributing to landslide generation in a pyroclastic area: August 1998 Nishigo Village, Japan, *Geomorphology*, 46, 117-128, (2002).
- Fujii, Y., Azuma, N., Tanaka, Y., Nakayama, Y., Kameda, T., Shinbori, K., Katagiri, K., Fujita, S., Takahashi, A., Kawada, K., Motoyama, H., Narita, H., Kamiyama, K., Furukawa, T., Takahashi, S., Shoji, H., Enomoto, H., Saitoh, T., Miyahara, M., Naruse, R.: Deep ice core drilling to 2503m depth at Dome Fuji, Antarctica, *Memoirs of National Institute of Polar Research*, 56, 102-116, (2002).
- Gomi, T., Sidle, R., Richardson, J.: Understanding processes and downstream linkages of headwater systems, *BioScience*, 52, 905-916, (2002).
- 三村 衛, 野田利弘, 山田英司, 高稲敏浩, 小高猛司, 島津多賀夫: 浅い基礎の設計理論と実際—パイルド・ラフト基礎を中心として—, *土と基礎*, 50, 15-17, (2002).
- 守随治雄, 釜井俊孝: マニラ市郊外の都市開発と地すべり—1999年 Antipolo 市 Cherry Hills 地すべりの発生メカニズム—, *地すべり学会誌*, 39(3), 40-46, (2002).
- Orban, J., Kozak, R., Sidle, R., Du.: Assessment of relative environmental risk from logyard run-off in British Columbia, *The Forestry Chronicle*, 78(1), 146-151, (2002).
- 鈴木浩一, 伊藤栄紀, 千木良雅弘: 風化花崗岩表層の緩みと斜面内部への降雨の浸透—物理探査と実測データを用いた検討—, *応用地質*, 43, 270-283, (2002).
- Todd, P., Sidle, R.: Plastic corals from Singapore: 1, Coral Reefs, 21(7), 391-392, (2002).
- Todd, P., Sidle, R.: Plastic corals from Singapore: 2, 21(7), 407-408, (2002).
- Chigira, M., Wang, W., Furuya, T., Kamai, T.: Geological causes and geomorphological precursors of the Tsaoiling landslide triggered by the 1999 Chi-Chi Earthquake, Taiwan, *Engineering Geology*, 68, 259-273, (2003).
- Gomi, T., Sidle, R., Bryant, M.: Characteristics of channel steps and reach morphology in headwater streams, southeast Alaska, *Geomorphology*, 51, 225-241, (2003).
- Gomi, T., Sidle, R.: Bedload transport in managed steep-gradient headwater streams of southeastern Alaska, *Water Resources Research*, 39(12), doi:10.1029/2003WR002440-, (2003).
- 井合 進: 地盤基礎構造物の設計に用いる地震作用—国際規格化に向けて, 第5回構造物の安全性・信頼性に関する国内シンポジウム, *JCOSSAR2003 論文集*, 174(27), 895-900, (2003).
- 井合 進, 菅野高弘, 一井康二: 耐震性能設計に向けて, *土と基礎*, 51(2), 10-12, (2003).
- 井合 進: 港湾施設の新しい耐震設計の考え方, *基礎工*, 5(31), 5-7, (2003).
- 菅香世子, 宮崎裕子, 千木良雅弘, 遠藤邦彦, 村上寛史: 神津島高処山火山の形成時期, *火山*, 48, 499-505, (2003).
- Kanatani, M., Kiku, H., Yasuda, S., Yoshida, N., Ishihara, K., Kokusho, T., Mimura, M., Goto, Y., Morimoto, I.: Damage on Waterfront Ground During the 1999 Kocaeli Earthquake in Turkey, *Soils and Foundations*, 43(5), 29-40, (2003).
- 木本秋津, 内田太郎, 水山高久, 小杉賢一朗, 堤 大三: 田上山地の裸地斜面における表面流の発生と土砂移動に関する原位置人工降雨実験, *砂防学会誌*, 55(6), 52-58, (2003).
- Mimura, M., Takeda, K., Yamamoto, K., Fujiwara, T., Jang, W.: Long-term Settlement of the Reclaimed Quasi-overconsolidated Pleistocene Clay Deposits in Osaka Bay, *Soils and Foundations*, 43(6), 141-153, (2003).
- 三輪 滋, 小堤 治, 池田隆明, 岡 由剛, 井合 進: 初期応力状態を考慮した有効応力解析による鋼矢板岸壁の地震被害の評価, *構造工学論文集*, Vol.49A, 369-380, (2003).
- Shoji, H., Miyamoto, A., Shimohara, K., Watanabe, O., Fujii, Y., Kamiyama, K., Motoyama, H., Azuma, K., Igarashi, M., Takata, M., Kohno, S., Fujita, S., Nakazawa, T., Aoki, S., Kawamura, K., Narita, H., Kawada, K., Azuma, N., Saito, T., Clausen, H.: General tendencies of stable isotopes and major chemical constituents of the Dome Fuji deep ice core, *Memoirs of National Institute of Polar Research*, 57, 1-24, (2003).
- Sidle, R., Dhakal, A.: Long-term modeling of landslides for different forest management practices, *Earth Surface Processes and Landforms*, 28, 853-868, (2003).
- Suwa, H., Akamatsu, J., Nagai, Y.: Energy radiation by elastic waves from debris flows, *Debris-Flow Hazards Mitigation* (Ed. By Rickenmann, D. & Chen, C., 3, 896-904, (2003).
- Suwa, H.: Repetition of debris flows on sunny days at a torrent in Karakorum, *Debris-Flow Hazards Mitigation* (Ed. By Rickenmann, D. & Chen, C., 3, 1025-1035, (2003).
- Wang, W., Furuya, T., Chigira, M.: Geological and Geomorphological Precursors of the Chiu-fen-erh-shan Landslide Triggered by the Chi-chi Earthquake in Central Taiwan, *Engineering Geology*, 69, 1-13, (2003).
- Watanabe, O., Kamiyama, K., Motoyama, H., Fujii, Y., Igarashi, M., Furukawa, T., Goto-Azuma, K., Saito, T., Kanamori, S., Kanamori, N., Yoshida, N., Uemura, R.: A bipolar comparison of deep ice cores from Antarctica (Dome Fuji) and Greenland (GRIP), *Memoirs of National Institute of Polar Research*, 57, 86-93, (2003).
- Yamaguchi, Y., Tanaka, S., Odajima, T., Kamai, T., Tsuchida, S.: Detection of a landslide movement as geometric misregistration in image matching of SPOT HRV data of two different dates, *Int. J. Remote Sensing*, 18(24), 3523-3534, (2003).
- Allison, C., Sidle, R., Ta.: Application of decision analysis forest road deactivation in unstable terrain, *Environmental Management*, 33, 173-185, (2004).
- Chigira, M., Duan, F., Yagi, H.: Using an airborne laser scanner for the identification of shallow landslides and susceptibility assessment in an area of ignimbrite overlain by permeable pyroclastics, *Landslides*, 203-209, (2004).

- Dhakal, A., Sidle, R.: Distributed simulation of landslides for different rainfall scenarios, *Hydrological Processes*, 18, 757-776, (2004).
- Dhakal, A., Sidle, R.: Pore water pressure assessment in a forest watershed: Simulations and distributed field measurements related to forest practices, *Water Resources Research*, 40, W02405, doi:1029/2003WR002017-, (2004).
- Gomi, T., Sidle, R., Swanson, D.: Hydrogeomorphic linkages of sediment transport in headwater streams, Maybeso Experimental Forest, southeast Alaska, *Hydrological Processes*, 18, 667-683, (2004).
- 郷隆之, 笠原亮一, 釜井俊孝: 地震時谷埋め盛土斜面の変形に関する振動台模型実験, 5(40), 40-47, (2004).
- Iai, S.: Seismic actions for designing geotechnical works - ISO23469, *Journal of Japan Association of Earthquake Engineering*, 3(4), 483-485, (2004).
- Iai, S.: International standard (ISO) on seismic actions for designing geotechnical works, *Proc. 11th International Conference on Soil Dynamics and Earthquake Engineering (11th ICSDEE) and the 3rd*, 302-309, (2004).
- Iai, S., Tobita, T.: Centrifuge model tests on group piles in liquefiable and non-liquefiable ground, *Proc. 13th World Conference on Earthquake Engineering, Vancouver, Paper No.652*, No.652, (2004).
- Iai, S., Tobita, T.: Recent earthquakes in Japan, *Proc. 5th International Conference on Case Histories in Geotechnical Engineering, CD-ROM, OSP15*, 15, (2004).
- 釜井俊孝, 守隨治雄, 笠原亮一, 小林慶之: 地震時における大規模宅地盛土斜面の不安定化予測, 5(40), 29-39, (2004).
- 釜井俊孝, 守隨治雄: 2001年芸予地震による呉市都市域の斜面災害, 5(40), 78-83, (2004).
- Kim, H., Sidle, R., Moore, R., Hudson, R.: Throughflow variability during snowmelt in a forested mountain catchment, coastal British Columbia, Canada, *Hydrological Processes*, 18, 1219-1236, (2004).
- Kitade, K., Kawamata, Y., Ichii, K., Iai, S.: Analysis of laterally loaded pile groups using 2-D FEM, *Proc. 11th International Conference on Soil Dynamics and Earthquake Engineering (11th ICSDEE) and the 3rd International Conference on Earthquake Geotechnical Engineering (3rd ICEGE)*, 850-856, (2004).
- Lavigne, F., Suwa, H.: Contrasts between debris flows, hyperconcentrated flows and stream flows at a channel of Mount Semeru, East Java, Indonesia, *Geomorphology*, 61(1), 41-58, (2004).
- Mimura, M., Jang, W.: Description of Time-dependent Behavior of Quasi-overconsolidated Osaka Pleistocene Clays Using Elasto-viscoplastic Finite Element Analyses, *Soils and Foundations*, 44(4), 41-52, (2004).
- 目代邦康, 千木良雅弘: 赤石山脈南部, 大谷崩から山伏にかけての山体重力変形地形, *地理学評論*, 77(2), 55-76, (2004).
- Sakals, M., Sidle, R.: A spatial and temporal model of root strength in forest soils, *Canadian Journal of Forest Research*, 34, 950-958, (2004).
- Sidle, R., On.: Hydrogeomorphology: an overview of an emerging science, *Hydrological Processes*, 18, 597-602, (2004).
- Sidle, R., Chigira, M.: The July 20, 2003, Landslides and Debris Flows in Southern Kyushu, Japan, *Eos, Transactions, American Geophysical Union*, 85(15), 145-151, (2004).
- Sidle, R., Sasaki, S., Otsuki, M., Noguchi, S., Abdul Rahim, N.: Sediment pathways in a tropical forest: effects of logging roads and skid trails, *Hydrological Processes*, 18, 703-720, (2004).
- Sidle, R., Taylor, D., Lu, X., Adger, W., Lowe, D., Delange, W., Donson, J., : Interactions of natural hazards and society in Austral-Asia: evidence in past and recent records, *Quaternary International*, 181-203, (2004).
- Sidle, R.: New concepts in hydrogeomorphic processes across various scales of time and space, *Transactions, Japanese Geomorphological Union*, 25(4), 331-340, (2004).
- Takeshima, Y., Sawada, S., Iai, S., et al.: Modelling of drainage behavior for dynamic effective stress analysis by undrained condition, *Proc. 13th World Conference on Earthquake Engineering, Vancouver, Paper*, (2004).
- 飛田哲男, 井合 進, 仲山賢司, 中道正人, 斉藤安立, 近藤徹: 杭・地盤系の動的応答の位相関係に関する実験的研究, 液化地盤中の杭の挙動と設計法に関するシンポジウム, 地盤工学会, 241-244, (2004).
- Tobita, T., Iai, S., Rollins, K.: Group pile behavior under lateral loading in centrifuge model tests, *International Journal of Physical Modelling in Geotechnics*, 4(4), 1-11, (2004).
- Todd, P., Sidle, R., Lewin-Koh, N.: An aquarium experiment for identifying the physical factors inducing morphological change in two massive scleractinian corals, *Journal of Experimental Marine Biology and Ecology*, 299(1), 97-133, (2004).
- WANG W., 釜井, 守隨: , *応用地質*, 44(6), 366-373, (2004).
- Wilford, D., Sakals, M., Innes, J., Sidle, R., Bergerud, W.: Recognition of debris-flow hazard through watershed morphometrics, *Landslides*, 1, 61-66, (2004).
- 堤 大三, Sidle, Roy C., 藤田正治, 水山高久: パイプ流存在下での斜面の安定性に関する数値実験, *水工学論文集*, 48, 337-342, (2004).
- Iai, S.: International Standard (ISO) on Seismic Actions for Designing Geotechnical Works, An overview, *Soil Dynamics and Earthquake Engineering*, 25, 606-615, (2005).
- Iai, S., Tobita, T., Nakahara, T.: Generalized scaling relations for dynamic centrifuge tests, *Geotechnique*, 55(4), 355-362, (2005).
- Iai, S., Ozutsumi, O.: Yield and cyclic behavior of a strain space multiple mechanism model for granular materials, *International Journal for Numerical and Analytical Methods in Geomechanics*, 4(29), 417-442, (2005).
- Iai, S.: Remediation of liquefiable soils for port structures in Japan - Analysis, design and performance, *Journal of Earthquake Engineering*, 77-103, (2005).
- Mimura, M., Jang, W.: Verification of the Elasto-viscoplastic Approach Assessing the Long-term Deformation of the Quasi-overconsolidated Pleistocene Clay Deposits, *Soils and Foundations*, 45(1), 37-49, (2005).

(A2) 一般査読論文

- Go, T., Kamai, T.: Deformation behavior of model embankment under strong-motion shaking experiment, Landslides (Proc. 10th Int. Conf. & Field Trip on Landslides), 65-76, (2002).
- Kamai, T., Shuzui, H.: Earthquake-induced landslide on 6th-century Emperor's tomb mound, Landslides (Proc. 10th Int. Conf. & Field Trip on Landslides), 103-112, (2002).
- Mimura, M., Yamamoto, K.: Development of Urban Geo-Database in Kansai and Assessment of Liquefaction Potential, Geotechnical Investigation in the Information Era, Proceedings of the Second IKRAM International Geotechnical Conference, 1, 235-252, (2002).
- Mimura, M., Jang, W.: Evaluation of Long-term Settlement of Pleistocene Deposits in Osaka Bay, Proceedings of International Symposium on Soft Soil Engineering in Coastal Areas, 1, 145-150, (2002).
- Mimura, M.: Characteristics of Some Japanese Natural Sands - Data from Undisturbed Frozen Samples-, Proceedings of International Workshop on Characterization and Properties of Natural Soils, 2, 1149-1168, (2002).
- Mimura, M., Takeda, K., Yamamoto, K., Fujiwara, T.: Long-term Settlement of Pleistocene Marine Deposits in Osaka Bay Due to Offshore Reclamation, Proceedings of the Second World Engineering Congress, Geotechnical Engineering and Transportation Volume, 17-24, (2002).
- 三村 衛, 小田和広, 大島昭彦, 武田弘一, 山本浩司, 長屋淳一, 藤原照幸: 大阪湾掘削圧密洪積粘土の時間依存性挙動と長期沈下について, 粘土地盤における最新の研究と実際—微視的構造の観察から超軟弱埋立地盤対策技術まで—に関するシンポジウム論文集, 1, 151-158, (2002).
- Chigira, M., Inokuchi, T.: Landslides triggered by August 1998 intense rainfall, northern Japan, Landslide News, 14/15, 11-15, (2003).
- Chigira, M.: Weathering, landslide, and hazard mapping in granitic areas, Proceedings of Comprehensive Seminar on Construction and Creation of Sustainable Society based on the Zero-Discharge Concept, Midterm Report of JSPS-VCC Core University Program, 173-181, (2003).
- Iai, S., Tobita, T.: Analysis of soil-pile interaction, Proceedings of the Eighth U.S.-Japan Workshop on Earthquake Resistant Design of Lifeline Facilities and Countermeasures Against Liquefaction, Technical Report MCEER-03-0003, 581-588, (2003).
- Mimura, M., Jang, W.: Description of Time-dependent Behavior of the Aged Stiff Clays, Proceedings of Korea Japan Joint Workshop, Characterization of Thick Clay Deposits, Reclamation and Port Construction, 1, 239-248, (2003).
- Mimura, M., Jang, W., Takeda, K., Yamamoto, K., Fujiwara, T.: Evaluation of Time-dependent Compression of the Structural Osaka Bay Pleistocene Clays, Proceedings of the Sino-Japanese Symposium on Geotechnical Engineering in Urban Construction, 154-161, (2003).
- Mimura, M., Jang, W.: Long-term Settlement of Reclaimed Marine Structural Pleistocene Clay Deposits, Proceedings Second International Conference on Advances in Soft Soil Engineering and Technology, 335-351, (2003).

飛田哲男, 井合 進, 原哲郎: 遠心場における群杭基礎の水
平載荷実験, 第48回地盤工学シンポジウム, 121-128, (2003).
エネルギー法を用いた有効応力解析法の開発, 土木学会地震
工学論文集, 27, 174-, (2003).

飛田哲男, 井合 進, 原哲郎: 群杭の地震時挙動に関する遠
心模型実験, 土木学会地震工学論文集, 27(191.27), (2003).

Tobita, T., Bardet, J.: Energy-based liquefaction analysis of
earthquake site response, Proceedings of the Eighth U.S.-Japan
Workshop on Earthquake Resistant Design of Lifeline Facilities
and Countermeasures Against Liquefaction, Technical Report
MCEER-03-0003, 625-636, (2003).

宮島昌克, 目黒公郎, 伯野元彦, 幸左賢二, 飛田哲男, 吉村美
保, 高島正典, Paola Mayorca, Abdolhossein Fallahi, 鉄田泰子,
林亜紀夫: 2003年12月26日イラン・バム地震被害調査
速報, 自然災害科学, 23(1), 117-126, (2004).

宮島昌克, 飛田哲男, Fallahi, Abdolhossein, Alaghebandian,
Reza: 2003年イラン・バム地震における構造物被害とア
ンケート震度, 日本地震工学会年次大会, a01-03-, (2004).

Tan, T., Karthikeyan, M., Phoon, K., Dasari, G., Mimura, M.: Use
of A Radioisotope Cone to Characterize A Lumpy Fill,
Proceedings of International Symposium on Site Characterization,
1, 801-808, (2004).

飛田哲男, 井合 進, 仲山賢司, 中道正人, 斉藤安立, 近藤徹:
杭・地盤系の動的応答の位相関係に関する実験的研究, 液
状化地盤中の杭の挙動と設計法に関するシンポジウム,
241-244, (2004).

Tobita, T., Miyajima, M., Fallahi, A., Alaghebandian, R.:
Questionnaire survey and microtremor measurements in stricken
areas of the 2003 Bam, Iran, earthquake, International Conference
on Earthquake - Memorial of Bam Disaster, (2004).

Yamamoto, K., Nagaya, J., Mimura, M., Takeda, K.: Long-term
Settlement Prediction of Pleistocene Clays in Osaka Bay Based on
Geotechnical Database, Proceedings of International Symposium
on Engineering Practice and Performance of Soft Ground,
415-420, (2004).

Mimura, M.: Long-term Settlement of Reclaimed marine
Structural Pleistocene Clay Foundations in Osaka Bay, Japan,
Proceedings of International Conference on Coastal Geotechnical
Engineering in Practice, 1, 19-30, (2005).

(A3) アブストラクト査読論文

Manik, T., Sidle, R.: Rainfall spatial distribution in Sumber Jaya
Watershed, Lampung, Indonesia. In: Integrated Modelling of
Biophysical, Social and Economic Systems for Resource
Management Solutions, Proceedings of MODSIM 2004, 2,
566-571, (2003).

Sidle, R., Dhakal, A.: Recent advances in the spatial and temporal
modeling of shallow landslides. In: Integrated Modelling of
Biophysical, Social and Economic Systems for Resource
Management Solutions, Proceedings of MODSIM 2003, 2,
566-571, (2003).

Chigira, M., Furuki, H.: Weathering of granitic rocks, the most
common masonry stone, Twelfth Asian Regional Conference on
Soil Mechanics and Geotechnical Engineering (12ARC),
1429-1431, (2004).

- Iai, S., Tobita, T.: Centrifuge model tests on group piles in liquefiable and non-liquefiable ground, Proc. 13th World Conference on Earthquake Engineering, No. 652-, (2004).
- Iai, S., Tobita, T.: Recent earthquakes in Japan, Proc. 5th International Conference on Case Histories in Geotechnical Engineering, OSP15-, (2004).
- Kamai, T.: Earthquake-induced landslide on ancient tomb mounds in Japan, Proc. 12th Asian Regional Conf. on Soil Mechanics & Geotechnical Engineering, 2, 1437-1439, (2004).
- Negishi, J., Zielger, A., Noguchi, S., Sidle, R., Abdul Rahim, N.: Storm flow generation in a tropical headwater zero-order basin in Peninsular Malaysia., In: Forests and Water in Warm, Humid Asia (R.C. Sidle et al., eds.), Proceedings of a IUFRO Forest Hydrology Workshop, 10-12 July 2004, (2004).
- Negishi, J., Sidle, R., Noguchi, S., Abdul Rahim, N., Stanforth, R.: Fern growth along the logging roads affects nutrient fluxes via road surface runoff in Peninsular Malaysia, In: Forests and Water in Warm, Humid Asia (R.C. Sidle et al., eds.), Proceedings of a IUFRO Forest Hydrology Workshop, 10-12 July 2004, (2004).
- Negishi, J., No., Sidle, R., : Observations on forest road recovery after 3 years of selective harvesting: implications to road rehabilitations, Proceedings of a JIRCAS Workshop, (2004).
- Sidle, R.: Sediment Dynamics at Multi-Spatial and Temporal Scales, In: Proceedings of a Workshop on Spatio-Temporal Processes, (2004).
- Sidle, R., Negishi, J., Abdul Rahim, N., Siew, R.: Erosion processes in steep forested terrain – truths, myths, and uncertainties related to land use in Southeast Asia, In: Forests and Water in Warm, Humid Asia (R.C. Sidle et al., eds.), Proceedings of a IUFRO Forest Hydrology Workshop, 10-12 July 2004, (2004).
- Ziegler, A., Negishi, J., Sidle, R., Preechapanaya, P., Sutherland, R., Giambelluca, T.: Reduction of Road-Generated Stream Suspended Sediment by a Riparian Buffer, In: Forests and Water in Warm, Humid Asia (R.C. Sidle et al., eds.), Proceedings of a IUFRO Forest Hydrology Workshop, (2004).

(B) 解説・総説

(C) 著書

- Chigira, M.: The Effects of environmental changes On Weathering, Gravitational Rock Deformation, and Landslides, In Sidle, R.C. ed. Environmental change and geomorphic hazards in forests. CABI Publishing, New York, 101-122, (2002).
- 千木良雅弘：群発する崩壊(228 ページ)，近未来社, (2002).
- 釜井俊孝，守隨治雄：斜面防災都市，1-200, (2002).
- Sidle, R.: Geomorphologic Hazards and Forest Environmental Change – an Introduction. In: R.C. Sidle (ed.) Environmental Change and Geomorphic Hazards in Forests, IUFRO Research Series,, 9, 1-6, (2002).
- Sidle, R., Dhakal, A., : Potential Effects of Environmental Change on Landslide Hazards in Forest Environments. In: R.C. Sidle (ed.) Environmental Change and Geomorphic Hazards in Forests, IUFRO Research Series, 9, 123-165, (2002).
- Sidle, R.: Future Directions for Geomorphologic Hazard Analysis

in Forests. In: R.C. Sidle (ed.) Environmental Change and Geomorphic Hazards in Forests, IUFRO Research Series,, 9, 227-234, (2002).

Sidle, R.: Environmental Change and Geomorphic Hazards in Forests,, IUFRO Research Series, No. 9, (2002).

諏訪 浩：地すべり移動体の運動像とその特性，地すべりと地質学, 78-91, (2002).

諏訪 浩，平野昌繁：御岳 1984 年崩壊，地すべりと地質学, 206-211, (2002).

千木良雅弘，目代邦康：大谷崩と山伏，日本地質学会発行, 83-94, (2003).

諏訪 浩：土石流の観測，ジオテクノート, 12, 23-40, (2003).

千木良雅弘：風化作用，日本地すべり学会編「地すべりに関する地形地質用語委員会編，地すべりー地形地質の認識と用語ー」, 144-151, (2004).

井合 進：液状化対策工法，地盤工学・実務シリーズ 18, 第 I 編第 5 章 5.5 液状化対策範囲の考え方, pp.209-214, 第 II 編第 4 章 4.5.1 締固め工法と排水工法の併用, pp.398-400, 地盤工学会, (2004).

釜井俊孝：地すべりー地形地質の認識と用語ー(I .7 不安定化機構), , 80-89, (2004).

Sidle, R.: Forests and Water in Warm, Humid Asia, , (2004).

(D) 紀要・報告書

釜井俊孝：都市域の宅地盛土斜面における地震災害予測図の作成，平成 11 年度ー平成 13 年度科学研究費補助金（代表者：釜井俊孝）研究成果報告書, , 1-97, (2002).

西山賢一，千木良雅弘：1982 年長崎豪雨災害で発生した斜面崩壊の地質的特徴，京都大学防災研究所年報, 45B, 47-59, (2002).

Mimura, M., Jang, W.: Evaluation of Time-dependent Behavior of Osaka Pleistocene Clay by Elasto-viscoplastic Finite Element Analysis, Annuals of Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University, 46B, 127-142, (2003).

西山賢一，千木良雅弘：1972 年天草豪雨で発生した斜面崩壊の地質的特徴，京都大学防災研究所年報, 46B, 149-158, (2003).

赤松純平，諏訪 浩，市川信夫，駒澤正夫：重力異常と脈動の震動特性からみた上高地盆地焼岳山麓の基盤構造，京都大学防災研究所年報, 47B, 877-882, (2004).

Chigira, M., Yokoyama, O.: Landslide mechanism of unwelded ignimbrite. Proceedings of the Malaysia-Japan Symposium on Geohazards and Geoenvironmental Engineering Recent Advances, JSPS/VCC Core University Program "Environmental Science" Group 8, 39-46, (2004).

千木良雅弘，Sidle, C. Roy：2003 年 7 月九州土砂災害の発生場ー水俣・菱刈地区ー，京都大学防災研究所年報, 47B, 91-98, (2004).

千木良雅弘，Sidle, C. Roy：平成 15 年 7 月豪雨による水俣・菱刈地区の斜面崩壊発生メカニズム，自然災害研究協議会西部地区部会報, 28, 67-70, (2004).

Mimura, M., Jang, W.: Generalized Assessment of Long-term Settlement of Quasi-overconsolidated Pleistocene Clay Deposits in Osaka Bay Using Elasto-viscoplastic finite element Procedure,, Annuals of Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University, 47B, 93-109, (2004).

(E) 講義・講演会テキスト

飛田哲男：2003年イラン・バム地震被害調査報告-震源近傍の地震動特性，土木学会，3-5，(2004)。

(F) 新聞・雑誌記事

(G1) 講演会概要集

Chigira, M.: Geological characteristics of rapid long-traveling flow phenomena triggered by rainfall and earthquake in Japan, Proceedings of International Symposium Landslide Risk Mitigation and Protection of Cultural and Natural Heritage, 31-44, (2002).

Chigira, M.: Geological and geomorphological precursors of gigantic landslides triggered by earthquakes, Proceedings of the 5th Taiwan-Japan Joint Seminar on Natural Hazards Mitigation, 387-403, (2002).

Chigira, M., Yokoyama, O.: Weathering profiles and landslide of ignimbrite, Proceedings of the 9th Conference of the International Association for Engineering Geology and the Environment, Durban, South Africa, 1780-1784, (2002).

Mimura, M., Jang, W.: Settlement Analysis of Reclaimed Clay Foundation at Noksan Site, Busan, 第37回地盤工学研究発表会発表講演集, 31-32, (2002).

三村 衛, 隅蔵雄一郎：大水深埋立人工島建設による更新統地盤の長期変形に関する研究，第37回地盤工学研究発表会発表講演集, 1003-1004, (2002)。

三村 衛, 勝見 武, 森 理人, 藤本陽平：CPTと室内試験による境港市・埋立地盤の液状化抵抗評価について，第37回地盤工学研究発表会発表講演集, 1949-1950, (2002)。

諏訪 浩, 赤松純平：土石流のエネルギー損失に占める弾性波成分，砂防学会出版物（砂防学会研究発表会概要集），35, 44-45, (2002)。

諏訪 浩, 赤松純平：土石流のエネルギー損失に占める弾性波成分，環境地質学シンポジウム論文集，12, 191-194, (2002)。

諏訪 浩, 赤松純平：土石流のエネルギー損失に占める弾性波成分，日本自然災害学会学術講演会講演概要集，21, 99-100, (2002)。

諏訪 浩, 赤松純平：土石流のエネルギー損失に占める弾性波成分，平成14年度日本応用地質学会関西支部研究発表会，(2002)。

Chigira, M.: Weathering, landslide, and hazard mapping in granitic rock areas, Proceedings of the Symposium on Geohazards organized by the Geological Society of Korea, Seoul, 1-11, (2003).

井合 進, 飛田哲男, 原哲郎：遠心場における群杭の震動実験-原位置実大実験との比較，第38回地盤工学研究発表会（秋田），721-, (2003)。

小杉賢一朗, 堤 大三, 藤野貴之, 水山高久, 長谷川秀三：水分計付貫入試験機を用いた斜面土壌水分空間分布の計測，平成15年度砂防学会研究発表会概要集, pp.160-161, (2003)。

三村 衛, 張 祐榮：数値解析による大阪湾洪積粘土の時間依存性挙動の評価について，第58回土木学会年次学術講演会講演概要集, 739-740, (2003)。

諏訪 浩, 水野高志, 伊藤 潔, 鈴木茂之, 山本裕雄：岡山県総社市の舞鶴層群採石場斜面で起きた崩壊の復元，砂防学会出版物（砂防学会研究発表会概要集），37, 54-55, (2003)。

諏訪 浩, 伊藤 潔, 水野高志, 鈴木茂之, 山本裕雄：岡山県総社市で起きた崩壊と，その前兆および余崩壊，日本自然災害学会学術講演会講演概要集, 22, 63-64, (2003)。

諏訪 浩, 水野高志, 伊藤 潔, 鈴木茂之, 山本裕雄：岡山県総社市の舞鶴層群採石場斜面で起きた崩壊の復元，平成15年度日本応用地質学会関西支部研究発表会，(2003)。

バーチカルドレーンの余長を利用したマットレジスタンス対策に関する研究（その2）三次元有効応力解析による対策効果の検証，第58回土木学会年次学術講演会講演概要集, 1209-1210, (2003)。

飛田哲男, 井合 進, 原哲郎：遠心場における群杭の震動実験-静的水平載荷実験との比較および液状化地盤中の挙動，第38回地盤工学研究発表会（秋田），722-, (2003)。

Tobita, T., Bardet, J.: An Energy-based model for simulating the undrained cyclic response of sands, 第58回土木学会年次学術講演会, III-103-, (2003)。

堤 大三, 小杉賢一朗, 水山高久：斜面における樹木根系成長と土壌水分移動のモデル化，第114回日本林学会大会学術講演集, 187-187, (2003)。

堤 大三, 小杉賢一朗, 水山高久, 長谷川秀三：根系成長と土壌水分移動モデルの実斜面への適用，平成15年度砂防学会研究発表会概要集, -, 208-209, (2003)。

バーチカルドレーンの余長を利用したマットレジスタンス対策に関する研究（その1）模型実験による効果の検証，第58回土木学会年次学術講演会講演概要集, 1207-1208, (2003)。

杭・地盤系の動的応答の位相関係に関する遠心模型実験，第39回地盤工学研究発表会（新潟），779-, (2004)。

井合 進, 飛田哲男, 山口啓太, Matthew Donahue, 斉藤安立, 近藤徹：群杭周辺地盤の水平断面内での変形挙動，第59回土木学会年次学術講演会（名古屋），467-, (2004)。

三村 衛, 張 祐榮, 池田侑哉：擬似過圧密領域での粘塑性変形を考慮した洪積粘土地盤の変形解析，第39回地盤工学研究発表会発表講演集, 909-910, (2004)。

三村 衛, 張 祐榮, 池田侑哉：擬似過圧密領域における過剰間隙水圧消散遅れと沈下の進行に関する考察，第59回土木学会年次学術講演会講演概要集, 71-72, (2004)。

仲山賢司, 井合 進, 飛田哲男, 中道正人, 斉藤安立, 近藤徹：位相差に着目した杭基礎の動的応答特性，第59回土木学会年次学術講演会（名古屋），473-, (2004)。

諏訪 浩：十津川流域の侵食と流砂，砂防学会出版物（砂防学会研究発表会概要集），40, 68-69, (2004)。

諏訪 浩：十津川流域の侵食と流砂，日本自然災害学会学術講演会講演概要集, 23, 133-134, (2004)。

諏訪 浩：十津川流域の侵食と流砂，平成16年度日本応用地質学会関西支部研究発表会, 31-32, (2004)。

諏訪 浩：御岳大崩壊と岩屑なだれのメカニズム，平成16年度日本地すべり学会中部支部シンポジウム「長野県西部地震と御岳崩れ20周年」予稿集, 8-22, (2004)。

飛田哲男, 井合 進, 山口敬太, Matthew Donahue, 中道正人, 斉藤安立, 近藤徹：杭周辺地盤の水平断面内での変形挙動に関する研究，第39回地盤工学研究発表会（新潟），946-, (2004)。

山本浩司, 濱田晃之, 三村 衛: 地盤情報データベースの地盤変形解析への適用例, 第39回地盤工学研究発表会発表講演集, 185-186, (2004).

張 祐榮, 三村 衛, 池田侑哉: 数値解析による大阪港埋立地の長期沈下挙動の評価, 第39回地盤工学研究発表会発表講演集, 911-912, (2004).

張 祐榮, 三村 衛, 池田侑哉: 数値解析による舞洲C護岸の長期変形の評価, 第59回土木学会年次学術講演会講演概要集, 73-74, (2004).

(G2) 学術誌 (査読無し)

三村 衛: 地盤情報データベースからみた京都盆地の液状化ポテンシャル, 自然災害科学, 22(3), 241-244, (2003).

千木良雅弘: 地質科学と地質技術者—欧米諸国の現状—地質科学総合研究連絡委員会 環境地質学専門委員会の活動から—, 学術の動向, 7, 76-77, (2004).

釜井俊孝, 守随治雄: 都市造成地盤のハザードマップ, 測量, 57(6), 38-42, (2004).

三村 衛: 沖積地盤の変形問題と数値解析によるアプローチ, 基礎工, 32(3), 37-40, (2004).

諏訪 浩: 十津川流域の侵食と流砂, 月刊海洋, 36(3), 200-204, (2004).

10.7.4 水災害研究部門

(A1) 完全査読論文

市川温, 立川康人, 堀智治, 寶 馨, 椎葉充晴: 流出計算で考慮すべき降水空間分布スケールに関する基礎的検討, 水工学論文集, 46, 133-138, (2002).

Ichikawa, Y., Hori, T., Shiiba, M., Tachikawa, Y., Takara, K.: Investigation on the scale of rainfall spatial variability to be considered in runoff simulation, Hydrosience and Hydraulin Engineering, 20-2, (2002).

Kawaike, K., Inoue, K., Toda, K., Nakai, T.: Effects of Sediment Yield on Inundation Flow in a Hillside City, Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering, 20(1), 151-166, (2002).

北野正夫, 有光 剛, 高山知司: うねりの発生特性と海域利用時の防災を目的としたうねりの簡易予測手法について, 海岸工学論文集, 49, 1431-1435, (2002).

Mase, H., Memita, T., Yuhi, M., Kitano, T.: Stem waves along vertical wall due to random wave incidence, Coastal Eng., 44(4), 339-350, (2002).

Shrestha, R., Tachikawa, Y., Takara, K.: Effects of Forcing Data Resolution in River Discharge Simulation, Annual of Hydraulic Engineering, JSCE, 46, 139-144, (2002).

立川康人, 尾崎雄一郎, Anderson, Kimaro Tumaini, 寶 馨: 野洲川流域における水循環の変遷について, 河川技術論文集, 8, 551-556, (2002).

立川康人, 寶 馨, 田中賢治, 水主崇之, 市川温, 椎葉充晴: 中国淮河流域における河川流量 シミュレーション, 水文・水資源学会誌, 3, 130-145, (2002).

高橋英紀, 高山知司, 永井紀彦: 多峯型方向スペクトル波が港内静穏度に及ぼす影響, 海岸工学論文集, 49, 691-695, (2002).

高山知司, 東良宏次郎: 防波堤の被災特性に関する統計解析, 海洋開発論文集, 18, 263-268, (2002).

高山知司, 帯包浩司, 間瀬 肇: 一方向非定常波浪の造波方法の開発, 海洋開発論文集, 18, 383-388, (2002).

牛山素行, 寶 馨, 立川康人, 近森秀高: 2002年8月31日～9月1日の台風15号による 韓国の豪雨災害, 自然災害科学, 21(3), 299-309, (2002).

吉岡 洋, 芹澤重厚, 高山知司: 高潮災害における副振動の影響, 海洋開発論文集, 18, 125-130, (2002).

Hanzawa, M., Yamagata, N., Nishihara, T., Takayama, T., Takahashi, S., Tomiyasu, R.: Pergormance of composite breakwaters from the viewpoint of expected sliding distance of caisson, Coastal Structures 2003, 283-294, (2003).

Hiraishi, T., Hirayama, K., Yasuda, T., Miyahara, T., Tatsumi, D.: Wave Overtopping Estimation based on Offshore Observation, International Association for Hydraulic Research, 563-570, (2003).

池末俊一, 田村一美, 木原一禎, 松浦正巳, 太田 真, 杉 泰広: ツイン型浮防波堤の波浪透過特性に関する実験と計算, 海岸工学論文集, 50, 666-670, (2003).

池末俊一, 熊本直樹, 木原一禎, 杉 泰広, 高山知司, 池上慎司: 3次元傾斜型透過堤の海水交換性能に関する実験と計算, 海岸工学論文集, 50, 671-675, (2003).

- 北野正夫, 殿最浩司, 真期俊行, 佐藤広章, 高山知司: 御坊沖における方向スペクトルの特性と港内静穏度を与える影響, 土木学会論文集, No. 733 / II-63, 119-130, (2003).
- Kim, T., Takayama, T.: Computational Improvement for Expected Sliding Distance of a Caisson-Type Breakwater by Introduction of a Doubly-Truncated Normal Distribution, Coastal Engineering Journal, 45(3), 387-419, (2003).
- Kim, T., Takayama, T.: A proposal for effective consideration of uncertain factors for reliability-based design of caisson-type breakwaters, Coastal Structures 2003, 305-316, (2003).
- 間瀬 肇, 宮平 彰, 桜井秀忠, 井上雅夫: 汀線近傍の護岸への不規則波の打上げに関する研究—算定打上げ高と不規則波の代表打上げ高の関係—, 土木学会論文集, No. 726 / II-62, 99-107, (2003).
- 永井紀彦, 平石哲也, 服部昌樹, 安田誠宏, 高山俊裕: オンサイト越波計の開発と現地適用性, 海岸工学論文集, 50, 626-630, (2003).
- 中平順一, 吉田武司, 高山知司, 間瀬 肇: 高潮・高波の簡易予測システムの構築とその運用, 海岸工学論文集, 50, 201-205, (2003).
- Ozbahceci, ., Takayama, T., Mase, H.: Wave grouping and spectral shape effects on the stability of rubble mound breakwater, Coastal Structures 2003, 113-125, (2003).
- 佐々真志, 高山知司, 水谷雅裕, 辻尾大樹: 実海域における海底砂質地盤の残留間隙水圧の発生と消散過程, 海岸工学論文集, 50, 846-850, (2003).
- Sayama, T., Takara, K., Tachikawa, Y.: Reliability evaluation of rainfall-sediment-runoff models, IAHS, Publication, 279, 131-141, (2003).
- 佐山敬洋, 寶 馨: 斜面侵食を対象とする分布型土砂流出モデル, 土木学会論文集, No. 726 / II-62, 1-9, (2003).
- Shrestha, R., Tachikawa, Y., Takara, K.: A new method to define flow direction using grid digital elevation models, Annual of Hydraulic Engineering, JSCE, 47, 241-246, (2003).
- Shrestha, R., Tachikawa, Y., Takara, K.: Model behavior of distributed hydrological modeling with different forcing data resolutions, IAHS, Publication, 282, 169-176, (2003).
- Tachikawa, Y., Komatsu, Y., Takara, K., Shiiba, M.: Stochastic modeling of error structure of real-time predicted rainfall and rainfall field Generation, IAHS, Publication, 282, 66-73, (2003).
- 立川康人, 太田裕司, 寶 馨: 立地均衡モデルを用いた淀川下流域における治水事業評価に関する考察, 河川技術論文集, 9, 317-322, (2003).
- 立川康人, 日和佐真丈, 寶 馨: ランダムカスケードモデルと降雨標高依存直線を用いた降雨空間分布の模擬発生, 水工学論文集, 47, 127-132, (2003).
- 高山知司, 木村雄一郎: 渤海湾内の波浪に関する簡易推算法の精度, 海洋開発論文集, 19, 899-904, (2003).
- 高山知司, 高橋英紀, 北野正夫, 永井紀彦: 多峰型方向スペクトルの発生特性とそのときの気象配置, 土木学会論文集, No. 726 / II-62, 73-85, (2003).
- 戸田圭一, 徳永智宏, 井上和也: 親水河川の出水時の危険度解析, 自然災害科学, 22(3), 285-297, (2003).
- 殿最浩司, 高山知司, 井上雅夫, 田中克彦: 越波流量の推定誤差を考慮した護岸の機能設計法について, 海岸工学論文集, 海岸工学論文集, 50, 771-775, (2003).
- Tsutsumi, D., Kosugi, K., Mizuyama, T.: Effect of Hydrotropism on Root System Development in Soybean (Glycine max): Growth Experiments and a Model Simulation, Journal of Plant Growth Regulation, 21, 441-458, (2003).
- Tsutsumi, D., Kosugi, K., Mizuyama, T.: Root System Development and Water Extraction Model Considering Hydrotropism, Soil Science Society of America Journal, 67, 387-401, (2003).
- 津田宗男, 高山知司, 高橋重雄: 被災事例に基づく衝撃波力に対するケーソン部材の設計上の留意点, 海洋開発論文集, 19, 523-528, (2003).
- 安田誠宏, 平石哲也, 稲垣茂樹: 臨海部の津波氾濫に関する模型実験, 海岸工学論文集, 50, 271-275, (2003).
- 安田誠宏, 平石哲也, 永瀬恭一, 島田昌也: 流体直接解析法による臨海部の浸水リスク解析, 海岸工学論文集, 50, 301-305, (2003).
- 吉岡 洋, 村山英俊, 高山知司, 芹澤重厚: 風による副振動の励起, 海洋開発論文集, 19, 893-898, (2003).
- 吉岡 洋, 松本昌幸, 芹澤重厚, 高山知司: 超音波反射強度から求めた砕波に伴う気泡連行特性, 海岸工学論文集, 50, 116-120, (2003).
- Chiang, S., Tachikawa, Y., Takara, K.: Rainfall-runoff simulation by using distributed instantaneous unit hydrograph derived from applying flow accumulation value of DEM, Annual of Hydraulic Engineering, JSCE, 48, 1-6, (2004).
- 江崎慶治, 高山知司, 金 泰民, 荒居祐基: ケーソンのフーチングに作用する抑圧力および揚圧力の検討, 海洋開発論文集, 20, 73-78, (2004).
- Hedges, T., Mase, H.: Modified Hunt's equation incorporating wave setup, Jour. Waterway, Port, Coastal, and Ocean Eng., ASCE, 130(3), 109-113, (2004).
- 川池健司, 井上和也, 戸田圭一, 野口正人: 低平地河川流域での豪雨による都市氾濫解析, 土木学会論文集, No. 761/II-67, 57-68, (2004).
- Kawaike, K., Inoue, K., Toda, K., Noguchi, M.: Inundation Flow Analysis due to Heavy Rainfall in Low-lying River Basin, Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering, 22(1), 1-14, (2004).
- Kim, T., Takayama, T.: Effect of Caisson Tilting on Sliding Distance of a Caisson, 海洋開発論文集, 20, 89-94, (2004).
- 小杉賢一郎, 堤 大三, 水山高久, 長谷川秀三: 斜面土壌水分空間分布計測のための土壌水分計付貫入計の開発, 砂防学会誌, 57(3), 3-13, (2004).
- Mase, H., Miyahira, A., Hedges, T.: Random wave runup on seawalls near shorelines with and without artificial reefs, Coastal Eng. Jour., JSCE, 46(3), 247-268, (2004).
- Nawarathna, B., Kazama, S., Sawamoto, M., Takara, K.: Method to delineate blocks in BTOPMC model for large scale watersheds, Annual of Hydraulic Engineering, JSCE, 48, 61-66, (2004).
- Pradhan, N., Tachikawa, Y., Takara, K.: A scale invariance model for spatial downscaling on topographic index in TOPMODEL, Annual of Hydraulic Engineering, JSCE, 48, 109-114, (2004).
- Shrestha, R., Tachikawa, Y., Takara, K.: Spectral analysis of spatial rainfall field to investigate uncertainty in Hydrological modeling, Annual of Hydraulic Engineering, JSCE, 48, 121-126, (2004).

Shrestha, R., Takara, K., Tachikawa, Y., Jha, R.: Water Resources Assessment in Poorly Gauged Mountainous Catchment using GIS and remote Sensing, *Hydrological Processes*, 18, 3061-3079, (2004).

Shrestha, R., Tachikawa, Y., Takara, K.: Performance analysis of different meteorological data and resolutions using MaScOD hydrological model, *Hydrological Processes*, 18, 3169-3187, (2004).

立川康人, 永谷言, 寶 馨: 飽和不飽和流れの機構を導入した流量流積関係式の開発, *水工学論文集*, 48, 7-12, (2004).

立川康人, 小松良光, 椎葉充晴, 寶 馨: 移流モデルによる予測降雨場の誤差構造のモデル化と降雨場の模擬発生, *土木学会論文集*, No. 754 / II-66, 9-18, (2004).

寶 馨: 世界の水問題の動向と研究展望, *土木学会論文集*, No. 761 / II-67, 1-18, (2004).

高山知司, 東良宏二郎, 金 泰民: 個別要素法を用いた混成堤野挙動計算, *海岸工学論文集*, 51, 756-760, (2004).

高山知司, 佐々真志, 水谷雅裕, 辻尾大樹, 谷口昇太郎: 防波堤マウンド下における残留間隙水圧の応答に関する現地観測, *海岸工学論文集*, 51, 821-825, (2004).

高山知司, 雨森洋司, 金 泰民, 間瀬 肇, 姜 閔求, 河合弘泰: 台風 0314 号による釜山沿岸の高潮・高波災害, *海岸工学論文集*, 51, 1371-1375, (2004).

Toda, K., Kuriyama, K., Oyagi, R., Inoue, K.: Inundation Analysis of Complicated Underground Space, *Journal of Hydroscience and Hydraulic Engineering*, 22(2), 47-58, (2004).

Tsutsumi, D., Kosugi, K., Mizuyama, T.: Three-dimensional modeling of hydrotropism effects on plant root architecture along a hillslope, *Vadose Zone Journal*, 3, 1017-1030, (2004).

堤 大三, Sidle, Roy C., 藤田正治, 水山高久: パイプ流存在下での斜面の安定性に関する数値実験, *水工学論文集*, 48, 337-342, (2004).

安田誠宏, 平石哲也, 永瀬恭一, 組田良則: 地震津波による臨海部の浸水危険度 Web 表示システムの開発, *海洋開発論文集*, 20, 27-32, (2004).

安田誠宏, 平石哲也, 河合弘泰, 永瀬恭一: 韓国南部馬山市における高潮浸水被害現地調査と地下浸水解析, *海岸工学論文集*, 51, 1366-1370, (2004).

吉岡 洋, 古倉嵩志, 高山知司, 芹澤重厚: 副振動に及ぼす波向きの影響, *海洋開発論文集*, 20, 797-802, (2004).

Chiang, S., Tachikawa, Y., Takara, K.: An approach to uncertainty identification in hydrological modeling, *Annual of Hydraulic Engineering*, JSCE, 49, 211-216, (2005).

藤田正治, 水山高久: 生成項を考慮した浮遊砂拡散方程式とその適用, *砂防学会誌*, 57(6), 3-12, (2005).

Kim, S., Tachikawa, Y., Takara, K.: Real-time prediction algorithm with a distributed hydrological model with Kalman filter, *Annual of Hydraulic Engineering*, JSCE, 49, 163-168, (2005).

大石哲, 佐山敬洋, 中川 一, 里深好文, 武藤康則, Sisinggih, Dian, 砂田憲吾: 雨滴粒径分布を考慮した雨滴衝撃エネルギー算出方法の開発と局所的土砂生産量との関係に関する研究, *水工学論文集*, 49, 1087-1092, (2005).

Pradhan, N., Tachikawa, Y., Takara, K.: Development of a transferable hydrologic modeling in topmodel framework across scale and region, *Annual of Hydraulic Engineering*, JSCE, 49,

217-222, (2005).

Shrestha, R., Tachikawa, Y., Takara, K.: Multiplicative random cascade hsa method for high resolution rainfall field modeling, *Annual of Hydraulic Engineering*, JSCE, 49, 253-258, (2005).

(A2) 一般査読論文

Fujita, M., Sawada, T., Mizuyama, T.: Monitoring of Sediment Movement in a Small Mountain Watershed, Congress Publication, INTERVRAEVENT 2002 in the Pacific Rim, 33-40, (2002).

Kawaike, K., Inoue, K., Toda, K., Sagara, R.: Inundation Analysis by Heavy Rainfall in Low-lying River Basin, *Hydraulic Information Management*, 223-232, (2002).

Kinoshita, A., Mizuyama, T., Fujita, M., Sawada, T.: The Impact on Fish of Sediment Flushing from a Sabo Dam, Congress Publication, INTERVRAEVENT 2002 in the Pacific Rim, 927-934, (2002).

北野利一, 間瀬 肇, 喜岡 渉, 矢野陽一郎: 一般化パレート分布による極値波浪解析—拡張形状母数の推定—, *海岸工学論文集*, 49, 161-165, (2002).

沖 和也, 村上啓介, 間瀬 肇: 小水深人工リーフ天端上を通過する波の変形—数値計算モデルの検証—, *海岸工学論文集*, 49, 41-45, (2002).

Ozbahceci, B., Takayama, T., Mase, H.: Occurrence probability of wave grouping for different shapes of wave energy spectra, *Proc. 12th Int. Offshore and Polar Eng. Conf.*, 37-42, (2002).

高橋 保, 中川 一, 里深好文, 川池健司: 砂防施設の効果の評価に関する研究, *水工学論文集*, 46, 200-205, (2002).

高橋 保, 中川 一, 里深好文, 王 浩民: 立体格子型砂防ダムによる土石流調節のシミュレーション, *水工学論文集*, 46, 689-694, (2002).

高橋 保, 中川 一, 里深好文: 貯水池逆流システムによるフラッシング排砂, *水工学論文集*, 46, 785-790, (2002).

Toda, K., Inoue, K.: Characteristics of Recent Urban Flood in Japan and Countermeasures against Them, *Flood Defense'2002*, 1365-1371, (2002).

Toda, K., Inoue, K., Tokunaga, T., Kawaike, K.: Flood Hazard Analysis in River Recreation Site due to Heavy Rainfall, *Hydraulic Information Management*, 143-152, (2002).

由比政年, 小橋公夫, 間瀬 肇, 石田 啓: 水路合流部における孤立波の衝突に関する実験および数値解析, *海岸工学論文集*, 49, 16-20, (2002).

Fujita, M., Kinoshita, A., Sawada, T., Mizuyama, T.: A Method for Evaluating the Influence on Fish of Sediment Flushing from Sabo Dams, *International Symposium on Disaster Mitigation and Basin-Wide Water Management*, 3.1B_06, (2003).

藤田正治, 澤田豊明, 水山高久: 山地流域における濁度変化と土砂動態, *水工学論文集*, 47, 739-745, (2003).

Ishigaki, T., Inoue, K., Toda, K.: Hydraulic Model Tests of Inundation in Urban Area with Underground Space, *Proc. of 30th IAHR Congress*, 487-493, (2003).

川池健司, 井上和也, 戸田圭一, 野口正人: 寝屋川流域を対象とした氾濫解析モデルの高度化, *水工学論文集*, 47, 919-924, (2003).

木下篤彦, 藤田正治, 水山高久, 澤田豊明: 排砂に伴う濁水によるイワナへの影響評価法, *水工学論文集*, 47, 1129-1135, (2003).

北野利一, 二宮太一, 喜岡渉, 間瀬 肇: 有義波高の統計的変動性-波別解析法に自由度を導入した理論解, 海岸工学論文集, 50, 161-165, (2003).

Kojima, T., Takara, K.: A grid-cell based distributed flood runoff model and its performance, IAHS, Publication, 282, 234-240, (2003).

間瀬 肇, Hedges, T. S., Shareef, M., 永橋俊二: 波の打上げを考慮した傾斜護岸に対する越波流量算定法に関する研究, 海岸工学論文集, 50, 636-640, (2003).

間瀬 肇: 設計波の算定について一浅海波浪変形予測の理論と数値解析法一, 海洋開発論文集, 19, 59-63, (2003).

中川 一, 戸田圭一, 牛山素行, 武藤裕則, 戸床文彦: 2001年7月台湾で発生した豪雨の特徴と土砂災害, 水工学論文集, 47, 595-600, (2003).

中嶋光浩, 由比政年, 間瀬 肇, 石田 啓: 複合防護施設周辺の複雑波浪場に対する高精度数値予測モデルの構築, 海岸工学論文集, 50, 51-55, (2003).

戸田圭一, 栗山健作, 大八木亮, 井上和也: 複雑な地下空間における浸水解析, 水工学論文集, 47, 877-882, (2003).

Toda, K., Inoue, K., Oyagi, R., Kuriyama, K.: Inundation Analysis of Complicated Underground Space with Subway, Proc. International Symposium on Disaster Mitigation and Basin-wide Water Management, 668-674, (2003).

日浦啓全, 海堀正博, 末峯 章, 里深好文, 堤 大三: 2004年台風10号豪雨による徳島県木沢村と上那賀町における土砂災害緊急調査報告(速報), 砂防学会誌, 57(4), 39-47, (2004).

間瀬 肇, 由比政年, 雨森洋司, 高山知司: 波・流れ共存場における砕波および回折効果を考慮した位相平均波浪変形予測モデルの構築, 海岸工学論文集, 51, 6-10, (2004).

中川吉人, 戸田圭一, 錦織俊之, 井上和也: 都市域における小規模貯留施設の氾濫抑制効果, 河川技術論文集, 10, 25-30, (2004).

相良亮輔, 錦織俊之, 井上和也, 戸田圭一: 枝線下水道を考慮した市街地氾濫解析, 水工学論文集, 48, 589-594, (2004).

Thang, N., Inoue, K., Toda, K.: Inundation Analysis Based on Unstructured Meshes for the Hanoi Central Area, Annual Journal of Hydraulic Engineering, 48, 601-606, (2004).

戸田圭一, 井上和也, 大八木亮, 中井勉, 竹村典久: 複雑な地下空間の浸水実験, 水工学論文集, 48, 583-588, (2004).

Toda, K., Inoue, K., Nakai, T., Oyagi, R.: Hydraulic Model Test of Inundation Water Intrusion in Underground Space, Proc. of 14th Congress of APD, IAHR, 1403-1409, (2004).

Yasuda, T., Hiraishi, T.: Experimental Study of Tsunami Inundation in Coastal Urban Area, Proceedings of the 31st International Offshore and Polar Engineering Conference, 412-1-412-7, (2004).

藤田正治, 澤田豊明, 志田正雄, 伊藤元洋: 高原川流域における土砂生産特性, 水工学論文集, 49, 1075-1080, (2005).

小松利光, 田中仁, 戸田圭一, 清水康行, 藤田正治, 石野和男, 風間総, 牛山素行, 勝濱良博, Herath, S., Nawarathna, B.: 2003年5月スリランカ南西部水害調査報告, 水工学論文集, 49, 433-438, (2005).

間島真嗣, 戸田圭一, 大八木亮, 井上和也: 都市域の地上・地下空間を統合した浸水解析, 水工学論文集, 49, 601-606, (2005).

(A3) アブストラクト査読論文

Anderson, K., Tachikawa, Y., Takara, K.: Development of a Hydrological model for predicting the effects of land use changes at Yasu River basin, Proc. of International Symp. on Comparative Regional Hydrology and Mission for IHP Phase VI of UNESCO, Kuala Lumpur, Oct. 2002, 35-44, (2002).

Kitano, T., Mase, H., Kioka, W.: Time domain decomposition of incident and reflected waves, Proc. 28th Int. Conf. Coastal Eng., ASCE, 1697-1708, (2002).

Kojima, T., Takara, K., Tachikawa, Y.: A distributed runoff model for flood prediction in ungaged basin, Proc. Kick-off Workshop of the IAHS decade on prediction in ungaged basins, Nov. 2002, Brasilia, (2002).

Kojima, T., Takara, K., Tachikawa, Y.: Comparison of three flood runoff models in the Shonai River basin, Japan, Proc. of International Symp. on Comparative Regional Hydrology and Mission for IHP Phase VI of UNESCO, Kuala Lumpur, Oct. 2002, 10-24, (2002).

Mase, H., Kitano, T.: Effect of missing large wave data on estimation accuracy of return wave heights, Proc. 28th Int. Conf. Coastal Eng., ASCE, 97-108, (2002).

Mase, H.: Hindcasting of waves due to typhoon in nearly closed bay, Proc. Solutions to Coastal Disasters, ASCE, 88-99, (2002).

Mohd Sidek, L., Takara, K., Mohd Desa, M., Ghani, A.: Evaluation of Infiltration Engineering and Storage Tank Systems For Improved Stormwater Management, International Conference on Urban Hydrology for the 21st Century, Kuala Lumpur, 14 - 16 October 2002, 535-548, (2002).

Oki, K., Mase, H., Sakai, T.: Application of Boussinesq wave model to random wave transformation over non-uniform beach, Proc. 13th IAHR-APD Congress, 739-744, (2002).

Shrestha, R., Tachikawa, Y., Takara, K.: Selection of scale for distributed Hydrological modeling in ungauged basin, Proc. Kick-off Workshop of the IAHS decade on prediction in ungaged basins, Nov. 2002, Brasilia, (2002).

Shrestha, R., Tachikawa, Y., Takara, K.: IC ratio concept in distributed Hydrological modeling for optimal performance, Proc. of International Symp. on Comparative Regional Hydrology and Mission for IHP Phase VI of UNESCO, Kuala Lumpur, Oct. 2002, 14-16, (2002).

Tachikawa, Y., Shrestha, R., Takara, K.: Effects of Forcing Data Resolution in Macro Scale River Discharge Simulation, Proc. of Annual of Korea Water Resources Association, Incheon, Korea, 1179-1186, (2002).

Tachikawa, Y., Shrestha, R., Takara, K.: Flood prediction for large scale catchment with atmospheric model output, Proc. of International Symp. on Urban Hydrology for the 21st century, Kuala Lumpur, Oct. 2002, 368-380, (2002).

Takahasi, T., Nakagawa, H., Satofuka, Y.: Sediment Flushing from Reservoirs Using a Reverse Flow System, Intern. Symp. On Hydraulic and Hydrological Aspect of Reliability and Safety Assessment of Hydraulic Structures, (2002).

Takahasi, T., Satofuka, Y.: Variation of Riverbed Composed of Sediment Mixture with Wide Distribution, Proc. 13th IAHR-APD Congress, 234-239, (2002).

- Takahasi, T., Nakagawa, H., Satofuka, Y., Ha.: Debris Flow Control by a Grid-Type Sabo Dam, Proc. 2nd intern. Symp. On Flood Defense, (2002).
- Takahasi, T.: Types and Mechanics of Debris Flow, Proc. Intern. Symp. on Landslide Risk Mitigation and Protection of Cultural and Natural Heritage, Kyoto, 605-624, (2002).
- Takahasi, T.: Metrological Conditions as Shallow Landslide Threshold, Proc. Intern. Symp. on Landslide Risk Mitigation and Protection of Cultural and Natural Heritage, Kyoto, 625-634, (2002).
- Takara, K., Sayama, T.: A Physically-Based Rainfall Sediment Runoff Model in a Catchment Scale -Application to the Upper Brantas River Basin, Indonesia-, Proc. of Third International Conference on Water Resources and Environmental Research (ICWRER), Dresden, Germany, pp. 22 - 25 Jul., Vol. II, 257-261, (2002).
- Takara, K., Sayama, T., Nakayama, D., Tachikawa, Y.: Development of rainfall-sediment-runoff model in the upper Brantas River, Indonesia, Proc. of Third Workshop on Remote Sensing of Hydrological Processes and Applications, 121-130, (2002).
- Takara, K., Sayama, T.: A physically-based rainfall-sediment-runoff model in a catchment scale -Application to the upper Brantas River basin, Indonesia-, Proceedings of Third International Conference on Water Resources and Environment Research (ICWRER2002), Dresden University of Technology, Dresden, Germany, vol. 2, 22-25 July 2002, (ed.) Gert H. Shumitz, 257-261, (2002).
- Anderson, K., Tachikawa, Y., Takara, K.: Land use changes and sustainable river basin management, Proc. of International Conference on Canaging Water Resources under Climatic Extreames and Natural Disasters, ed. K. Takara and T. Kojima, Sigatoka, Fiji, 27-28, Oct. 2003, IHP-VI Technical Documents in Hydrology, no. 2, Regional Steering Committee for Southeast Asis and the Pacific, UNESCO Jakarta Office, 151-162, (2003).
- Anderson, K., Tachikawa, Y., Takara, K.: Urbanization effects on flood flows in Yasu River basin Japan, Proceeding of the 2nd World Wide Workshop of Young Environmental Scientists, Domaine de Cherioux Vitry Sur Seine France, 207-212, (2003).
- Anderson, K., Tachikawa, Y., Takara, K.: The potential for use of ISBA land surface scheme in hydrological modeling, Proceedings of the first International Conference on Hydrology and Water Resources in Asia Pacific Region, Kyoto, Japan, 255-260, (2003).
- Griend, V., Tachikawa, Y., Takara, K.: Analysis and modeling of typhoon driven floods in Japan using a conceptual modeling approach, Proc. of International Conference on Canaging Water Resources under Climatic Extreames and Natural Disasters, ed. K. Takara and T. Kojima, Sigatoka, Fiji, 27-28, Oct. 2003, IHP-VI Technical Documents in Hydrology, no. 2, Regional Steering Committee for Southeast Asis and the Pacific, UNESCO Jakarta Office, 249-255, (2003).
- Kim, T., Takayama, T.: Effective Computation of Expected Sliding Distance using the Doubly -Truncated Normal Distribution and Laboratory Experiments on Sliding Distance and Tilting of Caisson, Annual Conference of KSCE, 2003, 5059-5063, (2003).
- Kitano, T., Kioka, W., Mase, H.: A new analysis method for extreme wave statistics by Poisson-GPD model, Proc. Asian and Pacific Coasts Conf., No.APAC034-, (2003).
- Kusakabe, S., Michiue, M., Hinokidani, O., Fujita, M.: Numerical Simulation of Flow Pattern and Bed Variation on Widening Steep Slope Channels, XXX IAHR Congress, Theme D, 335-342, (2003).
- Mase, H., Takayama, T.: Wave runups on a small-diameter pile - from field experience, Proc. Asian and Pacific Coasts Conf., No.APAC075-, (2003).
- Mase, H., Hedges, T.: Random wave runup on shallow foreshore seawalls, Proc. Asian and Pacific Coasts Conf., No.APAC076-, (2003).
- Mizuyama, T., Fujita, M., Nonaka, M.: Measurement of bed load with the use of hydrophones in mountain torrents, Erosion and Sediment Transport Measurement in Rivers, IAHS Publ.283, 222-227, (2003).
- Mizuyama, T., Kimoto, A., Yasuda, Y., Tomomatsu, Y., Touhei, M., Fujita, M.: Estimation of erosion and sediment outflow in the recent past, Erosion Prediction in Ungauged Basins, IAHS Publ.279, 68-76, (2003).
- Mohd Sidek, L., Wah, C., Takara, K., Ghani, A., Mohd Desa, M.: The Use of A Micro-Interactive Model for the Design and Simulation of Stormwater Drainage Systems Under Tropical Climate, Water & Drainage 2003 Conference: Managing our Water Resources – The Changing Value of Water, Kuala Lumpur, 28 – 29 April 2003, (2003).
- Nakajima, M., Yuhi, M., Mase, H., Ishida, H.: Improved Boussinesq model and its application to wave transformations over artificial reef on sloping beach, Proc. Coastal Structures 2003, ASCE, 837-849, (2003).
- Oki, K., Mase, H., Hedges, T.: The ExEBEd model for multidirectional random waves, Proc. Asian and Pacific Coasts Conf., No.APAC030-, (2003).
- Ozbahceci, B., Takayama, T., Mase, H., Ergin, A.: Wave grouping and spectral shape effects on the stability of rubble mound breakwaters, Coastal Structures 2003, ASCE, 113-125, (2003).
- Shrestha, R., Tachikawa, Y., Takara, K.: Catchments response of up-scale forcing data for distributed Hydrologic modeling input, Proc. of International Conference on Canaging Water Resources under Climatic Extreames and Natural Disasters, ed. K. Takara and T. Kojima, Sigatoka, Fiji, 27-28, Oct. 2003, IHP-VI Technical Documents in Hydrology, no. 2, Regional Steering Committee for Southeast Asis and the Pacific, UNESCO Jakarta Office, 65-71, (2003).
- Takara, K., Kojima, T.: Managing Water Resources under Climatic Extreames and Natural Disasters (Eds.), Proc. of International Conference on Canaging Water Resources under Climatic Extreames and Natural Disasters, ed. K. Takara and T. Kojima, Sigatoka, Fiji, 27-28, Oct. 2003, IHP-VI Technical Documents in Hydrology, no. 2, Regional Steering Committee for Southeast Asis and the Pacific, UNESCO Jakarta Office, (2003).
- 戸田圭一, 井上和也, 大八木亮, 栗山健作: 地下空間での浸水とその解析法, 地下空間シンポジウム論文・報告集, 8, 187-194, (2003).

- Chiang, S., Tachikawa, Y., Kojima, T., Takara, K.: A new hydrologic response function physically derived from dem and remote sensing image, Proc. of the 2nd Asia Pacific Association of Hydrology and Water Resources (APHW) Conference, July 5-8, 2004, Suntec Singapore International Convention Exhibition Centre, Singapore, 268-275, (2004).
- Kim, S., Tachikawa, Y., Takara, K.: Embedding Kalman filter into a Distributed Hydrological Model, IHP papers presented at the International Conference on Water Sensitive Urban Design 'Cities and Catchments', Adelaide, Australia, 22 - 23 Nov. 2004, IHP-VI Technical Documents in Hydrology No.3, 52-64, (2004).
- Kim, T., Takayama, T.: Improved Evaluation of the Expected Sliding Distance of a Caisson and Practical Parameters of Uncertain Factors, Second International Conference on Asian and Pacific Coasts, 82-, (2004).
- Kojima, T., Takara, K.: Identification of Flood Disaster Area Using Simulated High Resolution Image, Proc. of International Symposium on Monitoring, Prediction and Mitigation of Disasters by Satellite Remote Sensing (MPMD), Awaji, Hyogo, Japan, 19 - 21 Jan. 2004, 61-69, (2004).
- 児島利治, 立川康人, 寶 馨: 高分解能衛星画像を用いた斜面崩壊地の同定における 季節変化の影響, 第4回水文過程のリモートセンシングとその応用に関するワークショップ 論文集, 35-44, (2004).
- Mohd Sidek, L., Takara, K., Zakaria, N., Ghani, A., Abdullah, R.: A Life Cycle Costs (LCC) Assessment of Sustainable Urban Drainage System Facilities, 1st International Conference on Managing Rivers in 21st Century: Issues and Challenges, (Rivers'04), Pulau Pinang, Malaysia, pp. 329 - 343, 21st - 23rd September 2004, 329-343, (2004).
- Mohd Sidek, L., Takara, K., Zakaria, N., Ghani, A., Abdullah, R.: An Assessment of Stormwater Management Practices Using MSMA Manual in Malaysia. 1st International Conference on Managing Rivers in 21st Century, 1st International Conference on Managing Rivers in 21st Century: Issues and Challenges, (Rivers'04), Pulau Pinang, Malaysia, pp. 329 - 343, 21st - 23rd September 2004, 479-495, (2004).
- Nawarathna, B., Tachikawa, Y., Takara, K.: Selection of suitable hydrological response unit for large/small scale hydrologic modeling, Proc. of Sustainable Water Resource Management in Changing Environment, 348-354, (2004).
- Nawarathna, B., Tachikawa, Y., Takara, K.: Development of composite algorithms to create rainfall mosaics using 3-D weather radar during a typhoon event, Proc. of the 3rd Seminar on the Technology of Disaster Management on Urban Flood, Korea-Japan Joint Seminar on Urban Flood Disaster, Korea Univ., August 25, 2004, 281-287, (2004).
- Oki, K., Mase, H., Hedges, T.: Energy balance equation model with diffraction effect for random waves, Proc. 29th Int. Conf. Coastal Eng., ASCE, 881-893, (2004).
- Ozbahceci, B., Takayama, T., Mase, H.: Effect of extreme waves in an irregular wave train on the stability of rubble mound breakwaters, Proc. 29th Int. Conf. Coastal Eng., ASCE, 3727-3739, (2004).
- Pradhan, N., Tachikawa, Y., Takara, K.: Scaling of Topographic Index Distribution for Transferable Hydrologic Model Development in TOPMODEL Formulation, IHP papers presented at the International Conference on Water Sensitive Urban Design 'Cities and Catchments', Adelaide, Australia, 22 - 23 Nov. 2004, IHP-VI Technical Documents in Hydrology No.3, 91-97, (2004).
- Pradhan, N., Tachikawa, Y., Takara, K.: Transferable hydrologic model development, part 2: Scale adjustment of topographic index and scale invariant topmodel, Proc. of Sustainable Water Resource Management in Changing Environment, 348-354, (2004).
- Pradhan, N., Tachikawa, Y., Takara, K.: Scale Invariant TOPMODEL for the Solution of DEM Resolution Effects and Parameter Inconsistency in hydrological Modeling, Proc. of the 2nd Asia Pacific Association of Hydrology and Water Resources (APHW) Conference, July 5-8, 2004, Suntec Singapore International Convention Exhibition Centre, Singapore, 641-648, (2004).
- Sayama, T., Tachikawa, Y., Takara, K.: Dam Effects on Flood Attenuation: Assessment with a Distributed Rainfall-Runoff Prediction System, IHP papers presented at the International Conference on Water Sensitive Urban Design 'Cities and Catchments', Adelaide, Australia, 22 - 23 Nov. 2004, IHP-VI Technical Documents in Hydrology No.3, 98-108, (2004).
- Sayama, T., Takara, K., Tachikawa, Y., .: Application of Remotely Sensed Data to Sediment Load Estimation by a Distributed Rainfall-Sediment-Runoff Catchment Model, Proc. of International Symposium on Monitoring, Prediction and Mitigation of Disasters by Satellite Remote Sensing (MPMD), Awaji, Hyogo, Japan, 19 - 21 Jan. 2004, 39-45, (2004).
- Shrestha, R., Kojima, T., Tachikawa, Y., Takara, K.: Performance assessment of multi temporal MODIS/TERRA vegetation indices with field vegetation condition in Asian Mountainous regions, Proc. of 4th Workshop on Remote Sensing of Hydrological Processes & Applications, Gifu, Japan Dec. 17, 21-26, (2004).
- Shrestha, R., Kojima, T.: Analysis of Temporal Vegetation Activity Using MODIS/TERRA Vegetation Indexes in Asian Mountainous Region, Monitoring, Proc. of International Symposium on Monitoring, Prediction and Mitigation of Disasters by Satellite Remote Sensing (MPMD), Awaji, Hyogo, Japan, 19 - 21 Jan. 2004, 85-92, (2004).
- Tachikawa, Y.: Transferable hydrologic model development, part 1: A study for the size of catchment topographic representation and model-building unit, Proc. of Sustainable Water Resource Management in Changing Environment, 372-377, (2004).
- Tachikawa, Y., Sayama, T., Takara, K.: Physically based rainfall-runoff modeling and its role for flood disaster prevention/reduction, Proc. of the 3rd Seminar on the Technology of Disaster Management on Urban Flood, Korea-Japan Joint Seminar on Urban Flood Disaster, Korea Univ., August 25, 2004, 217-238, (2004).
- Tachikawa, Y., Kojima, T., Takara, K.: Flood Runoff Modeling and Prediction in Japan, Trends in Fundamental Tactics and Strategies if Central and Local Governments in Fire and Disaster Prevention in light of recent disasters in Gangwon Province, Samcheok National University, 249-260, (2004).

Takara, K.: Current Situation and Problems in Application of Remote Sensing to Disaster Monitoring, Proc. of International Symposium on Monitoring, Prediction and Mitigation of Disasters by Satellite Remote Sensing (MPMD), Awaji, Hyogo, Japan, 19 - 21 Jan. 2004, 185-199, (2004).

Takara, K.: Lessons from recent flood disasters in Japan, Proc. of the 3rd Seminar on the Technology of Disaster Management on Urban Flood, Korea-Japan Joint Seminar on Urban Flood Disaster, Korea Univ., August 25, 2004, 23-32, (2004).

Takara, K.: Disaster Prevention Research in Japan and in Kyoto University, Trends in Fundamental Tactics and Strategies of Central and Local Governments in Fire and Disaster Prevention in light of recent disasters in Gangwon Province, Samcheok National University, 117-154, (2004).

戸田圭一, 井上和也, 中井勉, 大八木亮: 多層化した地下空間の浸水実験, 地下空間シンポジウム論文・報告集, 9, 149-156, (2004).

Ya., Hiwasa, M., Takara, K.: Spatial rainfall field simulation with random cascade introducing orographic effects on rainfall, Proc. of the 2nd Asia Pacific Association of Hydrology and Water Resources (APHW) Conference, July 5-8, 2004, Suntec Singapore International Convention Exhibition Centre, Singapore, 617-624, (2004).

Yuhi, M., Mase, H., Ishida, H.: Interaction and deformation of solitary waves around channel junction, Proc. 29th Int. Conf. Coastal Eng., ASCE, (2004).

Chiang, S., Tachikawa, Y., Takara, K.: Prediction uncertainty identification in hydrologic modeling: a methodology for uncertainty recognition and quantification, Proc. of Monitoring, Prediction and Mitigation of Water-Related Disasters (MPMD2005), 12-15 Jan. 2005, 281-286, (2005).

Dayong, S., Takara, K., Tachikawa, Y.: GIS-based Simulation of Soft Geo-objects, Proc. of Monitoring, Prediction and Mitigation of Water-Related Disasters (MPMD2005), 12-15 Jan. 2005, 53-58, (2005).

Kim, S., Tachikawa, Y., Takara, K.: New Methods for Applying Kalman Filter Concept into a Distributed Hydrological Model, Proc. of Monitoring, Prediction and Mitigation of Water-Related Disasters (MPMD2005), 12-15 Jan. 2005, 245-250, (2005).

Mohd Sidek, L., Takara, K., Ghani, A., Mohd Desa, M.: Bio-Ecological Drainage Systems (BIOECODS) for Effective Stormwater Control in the Tropics, Proc. of Monitoring, Prediction and Mitigation of Water-Related Disasters (MPMD2005), 12-15 Jan. 2005, 625-632, (2005).

Nakagawa, H., Satofuka, Y., Muto, Y., Oishi, S., Sayama, T., Takara, K.: On sediment yield and transport in the Lesti River Basin, a tributary of the Brantas River, Indonesia - Experiences from field observations and remotely sensed data -, Proc. of International Symposium on Fluvial and Coastal Disasters, -Coping with Extreme Events and Regional Diversity-, Kyoto, Japan, 1 - 2 December 2005, (2005).

大八木亮, 間島真嗣, 戸田圭一, 井上和也: 京都市域の地下空間の浸水解析, 地下空間シンポジウム論文・報告集, 10, 141-146, (2005).

大八木亮, 間島真嗣, 戸田圭一, 谷美智成: 洪水氾濫時の地下階段部の危険性に関する実験的研究, 地下空間シンポジウム論文・報告集, 10, 147-154, (2005).

Pradhan, N., Tachikawa, Y., Takara, K.: Scale Issues in Hydrological Geomorphology and Developing Scale Invariance in Surface Flow Hydrology, Proc. of Monitoring, Prediction and Mitigation of Water-Related Disasters (MPMD2005), 12-15 Jan. 2005, 91-96, (2005).

Sayama, T., Tachikawa, Y., Takara, K.: Assessment of dam flood control using a distributed rainfall-runoff prediction system, Proc. of Monitoring, Prediction and Mitigation of Water-Related Disasters (MPMD2005), 12-15 Jan. 2005, 59-64, (2005).

Shrestha, R., Tachikawa, Y., Takara, K.: DEM Based Multi-Directional Flow Path Mapping Using the Raft Method, Proc. of Monitoring, Prediction and Mitigation of Water-Related Disasters (MPMD2005), 12-15 Jan. 2005, 85-90, (2005).

Toda, K., Inoue, K., Nishikori, T., Nakagawa, Y.: Inundation Analysis by Heavy Rainfall in Urban Area Considering Branch Sewer Effect, International Conference on Monitoring, Prediction and Mitigation of Water Related Disasters, 137-142, (2005).

Pradhan, N., Tachikawa, Y., Takara, K.: Transferring scale independent hydrological relationships for the prediction of ungauged basins, FMS2, .

(B) 解説・総説

Ibbitt, R., Takara, K., Desa, M., Pawitan, H.: Catalogue of Rivers for Southeast Asia and the Pacific Vol. 4, The UNESCO-IHP Regional Steering Committee for Southeast Asia and the Pacific, 2002, (2002).

Tachikawa, Y., James, R., Abdullah, K., Desa, M.: Catalogue of Rivers for Southeast Asia and the Pacific vol. 5, The UNESCO-IHP Regional Steering Committee for Southeast Asia and the Pacific, 2002, (2004).

立川康人: 流域水循環の数値モデルの発展と今後の展開, 電力土木, 311, 3-8, (2004).

(C) 著書

立川康人: 水理公式集例題プログラム集, 第1編例題 1-9, 水理公式集例題プログラム集, 土木学会、丸善(株), (2002).

立川康人: 防災学辞典, (2002).

寶 馨: 水理公式集例題プログラム集, 第1編例題 1-1, 2, 水理公式集例題プログラム集, 土木学会、丸善(株), (2002).

Tachikawa, Y., Shiiba, M., Takasao, T.: Development of a basin geomorphic information system using a TIN-DEM data structure, Chapter 3 in GIS for water resources and watershed management, ed. John G Lyon, 25-37, (2003).

寶 馨: 流域全体から「緑のダム」の治水効果を見る, 緑のダム, 蔵治光一郎・保屋野初子編, 築地書館, 78-103, (2004).

(D) 紀要・報告書

Anderson, K., Tachikawa, Y., Takara, K.: Groundwater Modelling Coupled with SVAT Model and its Application to the Yasu River Basin, Annuals of Disaster Prevention Research Institute, Kyoto Univ., 45B-2, 163-172, (2002).

- 井上和也, 戸田圭一, 川池健司, 栗山健作, 大八木亮: 地下空間における浸水過程の解析について, 京都大学防災研究所年報, 45B, 173-184, (2002).
- 西岡昌秋, 寶 馨: 季節性を持つ水文時系列に基づく PDS 法と AMS 法の比較, 京都大学防災研究所年報, 45B-2, 149-162, (2002).
- 立川康人: 移流モデルによる予測降雨場の誤差構造のモデル化と降雨場の発生, 京都大学防災研究所年報, 45B-2, 101-111, (2002).
- 戸田圭一, 井上和也, 徳永智宏, 川池健司: 賀茂川親水域の豪雨による危険性について, 京都大学防災研究所年報 45, 45B, 185-196, (2002).
- Anderson, K., Tachikawa, Y., Takara, K.: Hydrological Effects of land use change in the Yasu River basin, Annuals of Disaster Prevention Research Institute, Kyoto Univ., 46B, 193-201, (2003).
- 藤田正治, 澤田豊明, 水山高久: 山地小流域における土砂動態のモニタリング手法, 京都大学防災研究所年報, 46B, 213-224, (2003).
- 井上和也, 戸田圭一, 中井勉, 竹村典久, 大八木亮: 地下空間への浸水過程について, 京都大学防災研究所年報, 46B, 263-273, (2003).
- Kim, T., Takayama, T.: Improved Evaluation of Sliding Stability of a Caisson by Employment of a Doubly-Truncated Normal Distribution, 京都大学防災研究所年報, 46B, 287-301, (2003).
- 児島利治, 入谷貴也, 立川康人, 寶 馨: 衛星画像を用いた 2002 年韓国洪水災害における被災地の同定, 京都大学防災研究所年報, 46B, 203-211, (2003).
- 西岡昌秋, 寶 馨: Mann-Kendall 検定による水文時系列の傾向変動, 京都大学防災研究所年報, 46B, 181-192, (2003).
- 立川康人, 永谷言, 寶 馨: 分布型洪水流出モデルにおける空間分布入力情報の有効性の評価, 京都大学防災研究所年報, 46B, 233-248, (2003).
- 立川康人, 牛山素行, 寶 馨: 2002 年台風 RUSA(15 号)による韓国豪雨災害, 平成 14 年度河川災害に関するシンポジウム, 2003 年 3 月, 土木学会, 東京, 11-22, (2003).
- 寶 馨: 2002 年台風 RUSA による韓国の豪雨洪水土砂災害, 京都大学防災研究所年報, 46B, 73-80, (2003).
- 戸田圭一: 2002 年夏のヨーロッパでの水害—エルベ川流域を中心として—, 京都大学防災研究所年報 46, 46A, 81-87, (2003).
- 安田誠宏, 平石哲也: 臨海都市部の津波氾濫に関する模型実験, 港湾空港技術研究所報告, 42(3), 111-156, (2003).
- 安田誠宏, 服部昌樹, 平石哲也, 平山克也, 永井紀彦, 小川英明: 久里浜湾における越波被災の要因と特性—ナウファスを用いた臨海部の越波災害予知法の構築—, 港湾空港技術研究所報告, 42(2), 193-220, (2003).
- Chiang, S., Tachikawa, Y., Takara, K.: A Physically-based Hydrologic Response Function Derived from DEMs and Remote Sensing Image, Annuals of Disaster Prevention Research Institute, Kyoto Univ., 47B, 227-234, (2004).
- 藤田正治, 澤田豊明, 志田正雄, 伊藤元洋: 山地流域における土砂生産—高原川流域における観測研究—, 京都大学防災研究所年報, 47B, 143-150, (2004).
- Kim, S., Tachikawa, Y., Takara, K.: Real-time Updating of State Variables in a Distributed Hydrological Model, Annuals of Disaster Prevention Research Institute, Kyoto Univ., 47B, 273-282, (2004).
- 児島利治, 寶 馨, 増田亜未加: 高分解能補完画像を用いた洪水被災地同定手法の開発, 京都大学防災研究所年報, 47B, 203-210, (2004).
- Pradhan, N., Tachikawa, Y., Takara, K.: Development of Scale Invariant Physically Based Hydrological Model: Scale Invariant TOPMODEL, Annuals of Disaster Prevention Research Institute, Kyoto Univ., 47B, 252-271, (2004).
- 佐山敬洋, 立川康人, 寶 馨: ダム群流況制御を考慮した広域分布型流出予測システムの開発, 京都大学防災研究所年報, 47B, 211-226, (2004).
- Shrestha, R., Tachikawa, Y., Takara, K.: Downscaling Spatial Rainfall Field from Global Scale to Local Scale Using Improved Multiplicative Random Cascade Method, Annuals of Disaster Prevention Research Institute, Kyoto Univ., 47B, 235-251, (2004).
- 立川康人, 日和佐真丈, 寶 馨: 時空間分布を考慮した計画降雨の生成に関する研究, 京都大学防災研究所年報, 47B, 171-182, (2004).
- 寶 馨, 立川康人, 児島利治, 可児良昭, 池淵周一: 降雨流出に及ぼす山腹斜面の影響—いわゆる「緑のダム」の洪水調節効果の流域水文学的検討—, 京都大学防災研究所年報, 47B, 171-182, (2004).
- 高山知司, 雨森洋司, 金 泰民, 間瀬 肇, 姜 閔求, 河合弘泰: 台風 0314 号 (Maemi) による韓国の高潮・高波災害の特徴, 京都大学防災研究所年報, 47A, 99-111, (2004).
- Takayama, T., Mase, H.: Optimal Design Conditions for Storm Surge Barriers, 京都大学防災研究所年報, 47C, 39-44, (2004).
- Thang, N., Inoue, K., Toda, K., Kawaike, K.: A Model for Flood Inundation Analysis in Urban Area, Annuals of DPRI, Kyoto Univ., 47B, 303-315, (2004).
- 戸田圭一, 大八木亮, 井上和也, 間島真嗣: 都市水害時の地下空間の浸水過程について, 京都大学防災研究所年報, 47B, 293-302, (2004).
- 安田誠宏, 平石哲也: 臨海部の複層都市空間における MARS 法を用いた高精度な浸水解析, 港湾空港技術研究所報告, 43(3), 3-35, (2004).

(E) 講義・講演会テキスト

- Hiraishi, T., Hirayama, K., Yasuda, T., Miyahara, T., Tatsumi, D.: Numerical Harbor Wave Modeling based on NOWPHAS, Korea-Japan Joint Workshop on Coastal Wave Observation, (2002).
- 寶 馨: 世界の水問題とその研究展望, 土木学会 2002 年度 (第 38 回) 水工学に関する 夏期研修会講義集, A-8-1-A-8-11, (2002).
- 高山知司: 高潮推算法の現状と今後の課題, 2002 年度 (38 回) 水工学に関する夏期研修会講義集 B コース, pp.B-6-1-B-6-18, (2002).
- Takayama, T.: Reliability of Numerical Simulation for Storm Surge and Optimal Design Conditions for Storm Surge Barriers, Coastal Hazards 2003, 17-26, (2003).
- 安田誠宏: STREAM による臨海都市街地の高精度な浸水リスク解析, 第 13 回ユーザー事例発表会講演集, (2)-1-(2)-10, (2003).

Tachikawa, Y.: Catchment Hydrology, Precipitation and Water Resources, the textbook for twelfth IHP training course in 2002, (ed) E. Nakakita and H. Ueda, IHP, UNESCO, 147-170, (2004).

戸田圭一：都市水害とその予測，京都大学防災研究所公開講座，15，25-34，(2004)。

(F) 新聞・雑誌記事

(G1) 講演会概要集

Toda, K., Inoue, K., Kawaike, K., Tokunaga, T.: Flood Hazard Analysis by the Integrated River Basin Model, Proc.of 5th Taiwan-Japan Joint Seminar on Natural Hazards Mitigation, 109-117, (2002).

Yasuda, T., Hiraishi, T.: Physical and Numerical Study on Tsunami Inundation in Urban Seafloor, The 2nd Workshop on The Development of Integrated Disaster Reduction System on Compound Urban Floodings, 32-51, (2002).

吉岡 洋，高山知司，大和剛，林直樹：ADCPによる大阪湾底質のまき上がり現象の長期観測，日本沿岸域学会研究討論会 2002 講演概要集，40-43，(2002)。

Tsutsumi, D., Kosugi, K., Mizuyama, T.: A Three Dimensional Root System Development Model Considering Hydrotropism, and Its Application to Actual Plant (Pinus massoniana) on a Slope, Abstract of Third International Symposium on Dynamics of Physiological Processes in Woody Roots, -, 166-166, (2003).

Tsutsumi, D., Fujita, M., Sidle, R.: Preferential flow through fractures in weathered bedrock and slope stability: Numerical modeling, Proceedings of Geohazard 2004 workshop, -, 132-137, (2004).

堤 大三，Sidle, Roy C., 小杉賢一朗：斜面土層内におけるパイプ流のモデル化，第 115 回日本林学会大会学術講演集，139-139，(2004)。

堤 大三，藤田正治，宮寄俊彦：人工斜面土層内における選択流のモデル・シミュレーション，平成 16 年度砂防学会研究発表会概要集，438-439，(2004)。

Yasuda, T., Hiraishi, T., Kawai, H., Nagase, K.: Numerical Analysis of Storm Surge Inundation in Masan, Workshop on Waves and Storm Surges around Korean Peninsula, 75-79, (2004).

宮寄俊彦，堤 大三，藤田正治：パイプ構造をもつ人工斜面の降雨流出特性と土層安定性，平成 16 年度砂防学会研究発表会概要集，440-441，(2004)。

(G2) 学術誌（査読無し）

10.7.5 大気災害研究部門

(A1) 完全査読論文

荒木時彦，河井宏允，奥田泰雄：自然風中の高層建築物模型に作用する風圧力に関する研究，日本建築学会大会梗概集，20002 年 B-1 分冊，177-，(2002)。

Inatsu, M., Mukougawa, H.: Atmospheric response to zonal variations in mid-latitude SST: Transient and stationary eddies and their feedback, Abstracts for International Symposium on Stratospheric Variations and Climate, 77-78, (2002).

稲津将，向川 均，謝尚平：中緯度海面水温に対するストームトラックの応答，特定領域研究 (B)「成層圏力学過程とオゾンの変動およびその気候への影響」平成 13 年度公開シンポジウムプロシーディング，100-104，(2002)。

岩谷祥美，田村幸雄，須田健一，丸山 敬，中村修，日比一喜：ドップラーソーダを用いた地表面粗度の異なる地点の風速鉛直分布に関する研究，日本建築学会大会学術講演梗概集，101-102，(2002)。

河井宏允，西村宏昭：自然風中における屋根瓦に作用する風力について—その 2 ピーク風力と風向の関係—，日本建築学会大会学術講演梗概集，167-168，(2002)。

久保田拓志，寺尾徹，岩嶋樹也：熱帯対流圏気温偏差の季節依存性に関する気候シフト前後の違いについて，日本気象学会 2002 年秋季大会講演予稿集，383-383，(2002)。

丸山 敬：接近流の気流性状および地表面粗度形状が市街地上空の乱流境界層に及ぼす影響について，日本建築学会大会学術講演梗概集，99-100，(2002)。

向川 均，廣岡俊彦：成層圏突然昇温現象の予測可能性。—1998 年 11 月，12 月の事例解析—，特定領域研究 (B)「成層圏力学過程とオゾンの変動およびその気候への影響」平成 13 年度公開シンポジウムプロシーディング，94-99，(2002)。

Mukougawa, H., Hirooka, T.: Predictability on stratospheric sudden warming: A case study for 1998/99 winter, Abstracts for International Symposium on Stratospheric Variations and Climate, 62-65，(2002)。

中川美紀，丸山 敬，谷池義人，岡崎充隆，谷口徹郎：接地境界層内に設置された立方体周りの気流・風圧に関する研究，日本建築学会大会学術講演梗概集，179-180，(2002)。

西村宏昭，河井宏允：自然風中における屋根瓦に作用する風力について—その 1 観測概要と平均風力—，日本建築学会大会学術講演梗概集，165-166，(2002)。

小原久典，丸山 敬，宮下康一，吉田昭仁，田村幸雄：ドップラーソーダを用いた地表面粗度の異なる地点の風速の鉛直分布に関する研究(その 21)，日本建築学会大会学術講演梗概集，107-108，(2002)。

佐藤伸亮，岩嶋樹也，鬼頭昭雄：大気中二酸化炭素濃度漸増モデル実験における降水量極値の長期変動，日本気象学会 2002 年秋季大会講演予稿集，59-59，(2002)。

須田健一，宮下康一，中村修，岩谷祥美，丸山 敬，小田 聡，田村幸雄：ドップラーソーダを用いた地表面粗度の異なる地点の風速の鉛直分布に関する研究(その 20)，日本建築学会大会学術講演梗概集，105-106，(2002)。

樋本圭佑，田中孝義，丸山 敬：都市火災時における火の粉の飛散に関する基礎的研究，日本建築学会大会(東海)学術講演梗概集，125-126，(2003)。

河井宏允, 近藤宏二: 小地形まわりの風速増減係数 2 次元傾斜地, 尾根状地形の場合, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 103-104, (2003).

河井宏允, 西村宏昭: 瓦に作用する揚力の発生機構一軒のシールの影響, 日本風工学会誌, 95, 39-40, (2003).

久保田拓志, 寺尾徹, 岩嶋樹也: ENSO 終息直後の熱帯対流圏温度偏差に関する数値実験, 日本気象学会 2003 年春季大会講演予稿集, 480-480, (2003).

丸山 敬, 谷口徹郎, 岡崎充隆, 谷池義人: 接地境界層内に設置された立方体周りの気流・風圧に関する研究 (その 2), 本建築学会大会学術講演梗概集, 127-128, (2003).

Mukougawa, H., Hirooka, T.: Predictability of stratosphere-troposphere dynamical interaction during stratospheric sudden warming events, Proceedings of Joint Meeting for Seasonal Prediction of the East Asian Winter Monsoon, 36-39, (2003).

向川 均, 佐海弘和, 廣岡俊彦: 成層圏突然突然昇温の予測可能性 -1998/99 年冬季の事例解析-, 京都大学防災研究所年報, 46B, 383-396, (2003).

Oku, Y., Ishikawa, H., Ueda, H.: Estimation of land surface temperature on the Tibetan Plateau using GMS data, Preprints of 83rd American Meteorological Society Annual Meeting, Feb., 2003, Long Beach, USA, , (2003).

塩竈秀夫, 寺尾徹, 木田秀次, 岩嶋樹也: 南半球環状モードの遷移過程における長・短周期擾乱の役割, 日本気象学会 2003 年春季大会講演予稿集, 72-72, (2003).

Ueda, H., Fukui, T., Horiguchi, M.: Eddy Diffusivity and its Stability Dependence in Clear Free Atmosphere Measured by MU Radar System, Proceedings of the International Workshop on Physical Modeling of Flow and Dispersion Phenomena, 3-5 Sep. 2003, Prato, Italy, (2003).

荒木時彦: モンテカルロフィルタを用いた風直角方向の構造ヘルスモニタリングに関する基礎的研究, 日本建築学会大会梗概集, 2004 年 B-2 分冊, 809-, (2004).

岩嶋樹也, 森山茂, 福山薫: 都市とその周辺における大気メタン濃度差—欧州・北米・日本の諸都市についての比較—, 日本気象学会 2004 年秋季大会講演予稿集, 225-225, (2004).

金杉忠久, 河井宏允, 小島浩士: 全層換気ダブルスキnfアサードに作用する風力について (その 2 ピーク風圧), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 51-52, (2004).

金杉忠久, 河井宏允, 小島浩士, 西林達磨: 全層換気ダブルスキnfアサードに作用する風力について (その 2), 日本風工学会誌, 99, 153-154, (2004).

河井宏允, 金杉忠久, 小島浩士: 全層換気ダブルスキnfアサードに作用する風力について (その 1 実験概要と平均風圧), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 49-50, (2004).

河井宏允, 西村宏昭: 軒先瓦に作用する風力の観測結果, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 67-68, (2004).

河井宏允, 西林達磨, 金杉忠久, 小島浩士: 全層換気ダブルスキnfアサードに作用する風力について (その 1 平均風圧), 日本風工学会誌, 99, 151-152, (2004).

小島浩士, 河井宏允, 金杉忠久: 全層換気ダブルスキnfアサードに作用する風力について (その 3 ピーク風力係数), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 53-54, (2004).

久保田拓志, 向川 均, 岩嶋樹也: 気象庁 1 か月予報におけるマッデン-ジュリアン振動の予測可能性, 日本気象学会 2004 年秋季大会講演予稿集, 262-262, (2004).

久保田拓志, 寺尾徹, 岩嶋樹也: 熱帯対流圏温度偏差の変動と ENSO のずれの要因について, 日本気象学会 2004 年春季大会講演予稿集, 431-431, (2004).

丸山 敬: ラフネス上に発達する乱流境界層の LES による計算, 日本建築学会大会(北海道)学術講演梗概集, 45-46, (2004).

丸山 敬: 多孔質物体周りの流れの LES による数値計算, 日本流体力学会年会 2004 講演論文集, 552-553, (2004).

向川 均, 山下景子, 長谷部文雄: ストームトラックの変動に伴う対流圏界面高度の季節内長周期変動, 京都大学防災研究所年報, 47B, 339-348, (2004).

Shiogama, H., Mukougawa, H.: Modulation of the stratosphere-troposphere coupling process of the Northern Hemisphere annular mode associated with the ENSO cycle, 京都大学防災研究所年報, 47C, 243-254, (2004).

Oku, Y., Ishikawa, H., Su, Z.: Estimation of Land Surface Energy Fluxes over the Tibetan Plateau using GMS data, Proc. The CERES Intl. Symp. on Radiation Budget and Atmospheric Parameters Studied by Satellite and Ground Observation Data - Toward the Understanding of Long Term Trend in Asia, Feb. 17-18, Chiba Univ., Japan, , 12-18, (2005).

(A2) 一般査読論文

Kawai, H., Nishimura, H.: Wind Pressure on a Roof Tile, Proceedings of the Second International Symposium on Advances in Wind and Structures, 97-104, (2002).

河井宏允, 西村宏昭: 自然風中における屋根瓦に作用する風力の特性について, 第 17 回風工学シンポジウム論文集, 327-333, (2002).

丸山 敬, 田中孝義: 乱流境界層内の床面に置かれた二次元火災後方の温度変動性状について, 第 17 回風工学シンポジウム論文集, 185-190, (2002).

河井宏允, 丸山 敬, 石川裕彦, 荒木時彦: 2001 年 6 月から 7 月にかけて発生した強風被害について, 日本風工学会誌, 94, 99-105, (2003).

Kawai, H., Nishimura, H.: Wind Force on Roof Tiles in Natural Wind, Proceedings of the Tenth International Conference on Wind Engineering, 203-210, (2003).

Tamura, Y., Kawai, H., Uemata, Y., Kondo, K., Ohkuma, T.: Revision of AIJ Recommendations for Wind Loads on Buildings, The International Wind Engineering Symposium, 100-110, (2003).

植田洋匡: 気象災害の研究の最前線, 学術月報, 56(7), 29-32, (2003).

池内淳子, 谷口徹郎, 丸山 敬, 谷池義人: 自然風中における非定常な風向の解析方法について, 第 18 回風工学シンポジウム論文集, 193-198, (2004).

河井宏允, 金杉忠久, 小島浩士, 西林達磨: 全層換気ダブルスキnfアサードに作用する風力について, 第 18 回風工学シンポジウム論文集, 335-340, (2004).

Kawai, H.: Field measurement of wind pressure on buildings, International Workshop on Wind Engineering & Science, 170-181, (2004).

丸山 敬：LESによる粗面上の乱流境界層の数値計算，第18回風工学シンポジウム論文集，57-62，(2004)。
丸山 敬，河井宏允，奥田泰雄，林 泰一：宮古島を襲った台風0314号の後日調査，日本風工学会論文集，101，63-69，(2004)。
西村宏昭，河井宏允：屋根瓦の耐風設計用風力係数，第18回風工学シンポジウム論文集，427-433，(2004)。
奥田泰雄，林 泰一，横木 研，丸山 敬：2003年台風マエミー(0314)号による強風と宮古島での被害について，第18回風工学シンポジウム論文集，175-180，(2004)。

(A3) アブストラクト査読論文

Yoshino, J., Ishikawa, H., Ueda, H.: Numerical Study on the rapid decaying and re-intensification of the extratropical transition of Typhoon Bart(1999) over the Western North Pacific Ocean, International Conference on Mesoscale Convective Systems and Heavy Rainfall/snowfall in East Asia, 233-244, (2002).
Yoshino, J., Ishikawa, H., Ueda, H.: Characteristic parameters and formulative mechanism of the 24 September 1999 tornadic outbreaks in the outer rainband associated with Typhoon Bart(1999), International Conference on Mesoscale Convective Systems and Heavy Rainfall/snowfall in East Asia, 6-, (2002).
Maruyama, T., T. T., M. O., Y. T.: Field Experiment Measuring the Approaching Flows and Pressures on a 2.4m Cube, 5th International Colloquium on Bluff Body Aerodynamics and Applications Summary Papers, 453-456, (2004).

(B) 解説・総説

丸山 敬：日本における強風災害，こうしょう（高翔；自動車技術会関東支部報；特集風），8-11，(2002)。
向川 均：成層圏突然突然昇温の予測可能性 -1998年11月、12月の事例解析-，グロースベッター，41，95-111，(2003)。
向川 均，廣岡俊彦：成層圏循環の変動を利用した中長期予報は可能となるか？ -新たな視点の必要性-，科学，75(10)，1172-1176，(2005)。

(C) 著書

河井宏允：風と生活，こうしょう（自動車技術会関東支部報），1-4，(2002)。
河井宏允：高層ビルが風によって揺れやすいのは本当かー風と上手につき合う，建築雑誌，8月号，128-129，(2002)。
河井宏允，植田洋匡，岩嶋樹也，石川裕彦，丸山敬他：防災辞典，築地書館，(2002)。
植田洋匡：水の大循環サイクルと水資源，水文大循環と地域水代謝（丹保憲仁編），技報堂，25-44，(2002)。
松野太郎，大淵済，谷本陽一，向川 均：気候変動 多角的視点から，371-，(2003)。
丸山 敬，石川裕彦（他）：風水害論，京都大学防災研究所編，防災学講座1，株式会社山海堂，(2003)。
河井宏允：建築物荷重指針の動向と耐風設計の新しい風，JSSCテクニカルレポート，59，19-28，(2004)。
河井宏允他：建築物荷重指針，(2004)。
丸山 敬（他）：ながれの辞典，丸善，(2004)。
向川 均：高低気圧波のはたらき，オゾンのゆくえ -気候変

動とのかかわりをさぐる-，174-，(2004)。

Ueda, H., Kajino, M., Satsumabayashi, H.: Change of aerosol and precipitation in the mid troposphere over central Japan caused by Miyake volcano effluents, Air Pollution, WIT Press(London), XII, 141-150, (2004).

向川 均：ブロッッキング，気象ハンドブック第3版，179-186，(2005)。

(D) 紀要・報告書

An, J., Ueda, H., Matsuda, K.: Comparison of Air Pollutants simulated by the RAQM with observations, National Report of 5th Expert Meeting for Long-range Transboundary Air Pollutants in Northeast Asia, 27-29, (2002).
穂積祐，植田洋匡：2000年10月日本に豪雨をもたらした乾燥空気の起源，京都大学防災研究所年報，45B，357-367，(2002)。
堀口光章，林 泰一，植田洋匡：中立成層状態の大気境界層における組織的乱流構造，京都大学防災研究所年報，45B，347-355，(2002)。
岩嶋樹也，村松久史，寺尾徹：都市域とその周辺における大気微量成分濃度とその変動（Ⅲ）-琵琶湖とその周辺における大気メタン濃度の長期変動-，京都大学防災研究所年報，45B，209-220，(2002)。
梶野瑞王，植田洋匡：三宅島起源硫酸エアロゾルによる環境変化，京都大学防災研究所年報，45B，379-395，(2002)。
自然風中における屋根瓦に作用する風力，京都大学防災研究所年報，45B，389-397，(2002)。
久保田拓志，寺尾徹，岩嶋樹也：熱帯対流圏気温の持続性に関する数十年規模変動，京都大学防災研究所年報，45B，261-273，(2002)。
佐藤伸亮，岩嶋樹也，鬼頭昭雄：大気中二酸化炭素濃度漸増モデル実験における全球的水収支と降水量極値に関する解析，京都大学防災研究所年報，45B，245-259，(2002)。
吉野純，石川裕彦，植田洋匡：台風9918号により東海地方にとたらされた竜巻に関する数値実験，京都大学防災研究所年報，45B，359-388，(2002)。
吉野純，石川裕彦，植田洋匡：台風9918号により東海地方にもたらされた竜巻に関する数値実験，京都大学防災研究所年報，45B，369-388，(2002)。
穂積祐，植田洋匡，余偉明：大規模山岳における低気圧性渦の剥離，京都大学防災研究所年報，46B，347-359，(2003)。
岩嶋樹也，久保田拓志，鬼頭昭雄：大気中二酸化炭素濃度漸増モデル実験における降水量極値に関する解析，京都大学防災研究所年報，46B，479-486，(2003)。
久保田拓志，寺尾徹，岩嶋樹也：エルニーニョ終息直後の熱帯対流圏温度偏差に関する数値実験，京都大学防災研究所年報，46B，443-450，(2003)。
丸山 敬，谷口徹郎，岡崎充隆，谷池義人：自然風中に置かれた立方体周りの気流・風圧性状，京都大学防災研究所年報，46B，303-317，(2003)。
堀口光章，林 泰一，植田洋匡：中立成層状態の大気境界層における組織的乱流構造（第2報），京都大学防災研究所年報，46B，469-477，(2003)。
向川 均：対流圏季節内長周期変動の力学系的解析，研究集会報告 14ME-S5「流体現象における力学系的方法」，九州大学応用力学研究所，12-25，(2003)。

向川 均：ストームトラックの形成機構と時間平均循環場へのフィードバック効果の解明，平成 12 年度～平成 14 年度科学研究費補助金研究成果報告書（研究代表者 向川 均），101-，(2003).

奥勇一郎，石川裕彦：気象衛星ひまわりを用いたチベット高原上の地表面温度の算出，京都大学防災研究所年報，46B，561-573，(2003).

塩竈秀夫，寺尾徹，木田秀次，岩嶋樹也：南半球環状モードの遷移過程 パート 3：極向き遷移過程，京都大学防災研究所年報，46B，541-560，(2003).

Ueda, H., Satsumabayashi, H., Kajino, M.: Effects of Miyakejima volcanic effluents on airborne particles and precipitation in central Japan, *Annals of Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University*, 46B, 487-502, (2003).

山崎孝治，向川 均，谷本陽一，石渡正樹，稲津将，謝尚平，岡島秀樹，奥村夕子：季節内から数十年スケール気候変動の数値的研究，東京大学気候システム研究センター 平成 14 年度共同研究報告書，101-130，(2003).

吉野純，石川裕彦，植田洋匡：Piecewise potential vorticity inversionを用いた中緯度における台風 9918 号の衰弱・再発達過程に関する診断的解析，京都大学防災研究所年報，46B，423-442，(2003).

林 泰一，村田文絵，横木研，石川裕彦：宮古島を来襲した台風 0314 号について(1) —気象学特性について—，京都大学防災研究所年報，47B，485-490，(2004).

穂積祐，植田洋匡，余偉明：大規模山岳における低気圧性渦の形成，京都大学防災研究所年報，47A，435-453，(2004).

堀口光章，林 泰一，植田洋匡：信楽における大気境界層乱流の構造の観測，京都大学防災研究所年報，47B，417-423，(2004).

岩嶋樹也，村松久史，福山薫，森山茂：都市域とその周辺における大気微量成分濃度とその変動 (IV) —地表付近におけるオゾン・大気メタン濃度の気候学的特徴—，京都大学防災研究所年報，47B，327-338，(2004).

梶野瑞王，植田洋匡，Wilfried Winiwarter, Markus Amann：エアロゾル重量測定値における残存含水量，京都大学防災研究所年報，47B，425-433，(2004).

Kawai, H., Iwashima, T., Ueda, H., Maruyama, T., Ishikawa, H., Mukougawa, H., Horiguchi, M., Iguchi, T., Araki, T.: Analysis and prediction of zonal weather and atmospheric hazards, *Annals of the Disaster Prevention Research Institute*, 47C(C), 45-54, (2004).

久保田拓志，岩嶋樹也：全球的降水量局地の長期変動に関する解析—NCEP reanalysis再解析データの検討—，京都大学防災研究所年報，47B，365-377，(2004).

久保田拓志，向川 均，岩嶋樹也：熱帯対流圏の温度偏差に関する考察，京都大学防災研究所研究集会(特定)15S-3 「対流圏長周期変動と異常気象」報告書，36-46，(2004).

丸山 敬，河井宏允，奥田泰雄，林 泰一：宮古島を来襲した台風 0314 号について，京都大学防災研究所年報，47B，491-502，(2004).

向川 均，廣岡俊彦：対流圏—成層圏力学結合の予測可能性，京都大学防災研究所研究集会(特定)15S-3 「対流圏長周期変動と異常気象」報告書，117-123，(2004).

奥勇一郎，石川裕彦：中国の気象衛星 FY2B による大気観測，

京都大学防災研究所年報，47B，455-464，(2004).

Xu, X., Levy, J., Ueda, H.: Monitoring anthropogenic effects on land-surface phonologies in China from AVHRR using the discrete Fourier transform, *Annals of Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University*, 47C, 227-242, (2004).

吉野純，石川裕彦，植田洋匡：台風の温帯低気圧化時における上層・下層の渦位偏差間の相互作用に関する研究，京都大学防災研究所年報，47B，465-484，(2004).

久保田拓志，向川 均：気象庁 1 か月予報を用いたマッデン—ジュリアン振動の予測可能性についての研究，平成 16 年度「異常気象と長期変動」研究集会報告，145-153，(2005).

向川 均，廣岡俊彦：対流圏—下方伝播する北極振動の予測可能性—2003 年 1 月の事例解析—，平成 16 年度「異常気象と長期変動」研究集会報告，102-110，(2005).

塩竈秀夫，向川 均：北極振動の成層圏—対流圏結合過程に及ぼす ENSO の影響，平成 16 年度「異常気象と長期変動」研究集会報告，111-116，(2005).

(E) 講義・講演会テキスト

樋本圭佑，丸山 敬，田中峰義：高温浮力流に駆動される正方形平板の飛散性状シミュレーション，第 19 回生研 TSFD シンポジウム講演論文集，60-66，(2004).

(F) 新聞・雑誌記事

(G1) 講演会概要集

荒木時彦，河井宏允，奥田泰雄：自然風中の高層建築物模型に作用する風圧力に関する研究，日本建築学会大会梗概集，2002 年 B-1 分冊，177-，(2002).

Inatsu, M., Mukougawa, H.: Atmospheric response to zonal variations in mid-latitude SST: Transient and stationary eddies and their feedback, *Abstracts for International Symposium on Stratospheric Variations and Climate*, 77-78, (2002).

稲津将，向川 均，謝尚平：中緯度海面水温に対するストームトラックの応答，特定領域研究 (B) 「成層圏力学過程とオゾンの変動およびその気候への影響」平成 13 年度公開シンポジウムプロシーディング，100-104，(2002).

岩谷洋美，田村幸雄，須田健一，丸山 敬，中村修，日比一喜：ドップラーソーダを用いた地表面粗度の異なる地点の風速鉛直分布に関する研究，日本建築学会大会学術講演梗概集，101-102，(2002).

河井宏允，西村宏昭：自然風中における屋根瓦に作用する風力について—その 2 ピーク風力と風向の関係—，日本建築学会大会学術講演梗概集，167-168，(2002).

久保田拓志，寺尾徹，岩嶋樹也：熱帯対流圏気温偏差の季節依存性に関する気候シフト前後の違いについて，日本気象学会 2002 年秋季大会講演予稿集，383-383，(2002).

丸山 敬：接近流の気流性状および地表面粗度形状が市街地上空の乱流境界層に及ぼす影響について，日本建築学会大会学術講演梗概集，99-100，(2002).

向川 均，廣岡俊彦：成層圏突然昇温現象の予測可能性。—1998 年 11 月，12 月の事例解析—，特定領域研究 (B) 「成層圏力学過程とオゾンの変動およびその気候への影響」平成 13 年度公開シンポジウムプロシーディング，94-99，(2002).

- Mukougawa, H., Hirooka, T.: Predictability on stratospheric sudden warming: A case study for 1998/99 winter, Abstracts for International Symposium on Stratospheric Variations and Climate, 62-65, (2002).
- 中川美紀, 丸山 敬, 谷池義人, 岡崎充隆, 谷口徹郎: 接地境界層内に設置された立方体周りの気流・風圧に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 179-180, (2002).
- 西村宏昭, 河井宏允: 自然風中における屋根瓦に作用する風力について—その1 観測概要と平均風力—, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 165-166, (2002).
- 小原久典, 丸山 敬, 宮下康一, 吉田昭仁, 田村幸雄: ドップラーソーダを用いた地表面粗度の異なる地点の風速の鉛直分布に関する研究(その 21), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 107-108, (2002).
- 佐藤伸亮, 岩嶋樹也, 鬼頭昭雄: 大気中二酸化炭素濃度漸増モデル実験における降水量極値の長期変動, 日本気象学会 2002 年秋季大会講演予稿集, 59-59, (2002).
- 須田健一, 宮下康一, 中村修, 岩谷祥美, 丸山 敬, 小田 聡, 田村幸雄: ドップラーソーダを用いた地表面粗度の異なる地点の風速の鉛直分布に関する研究(その 20), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 105-106, (2002).
- 樋本圭佑, 田中孝義, 丸山 敬: 都市火災時における火の粉の飛散に関する基礎的研究, 日本建築学会大会(東海)学術講演梗概集, 125-126, (2003).
- 河井宏允, 近藤宏二: 小地形まわりの風速増減係数 2 次元傾斜地, 尾根状地形の場合, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 103-104, (2003).
- 河井宏允, 西村宏昭: 瓦に作用する揚力の発生機構—軒のシェルの影響, 日本風工学会誌, 95, 39-40, (2003).
- 久保田拓志, 寺尾徹, 岩嶋樹也: ENSO 終息直後の熱帯対流圏温度偏差に関する数値実験, 日本気象学会 2003 年春季大会講演予稿集, 480-480, (2003).
- 丸山 敬, 谷口徹郎, 岡崎充隆, 谷池義人: 接地境界層内に設置された立方体周りの気流・風圧に関する研究 (その 2), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 127-128, (2003).
- Mukougawa, H., Hirooka, T.: Predictability of stratosphere-troposphere dynamical interaction during stratospheric sudden warming events, Proceedings of Joint Meeting for Seasonal Prediction of the East Asian Winter Monsoon, 36-39, (2003).
- 向川 均, 佐海弘和, 廣岡俊彦: 成層圏突然突然昇温の予測可能性 —1998/99 年冬季の事例解析—, 京都大学防災研究所年報, 46B, 383-396, (2003).
- Oku, Y., Ishikawa, H., Ueda, H.: Estimation of land surface temperature on the Tibetan Plateau using GMS data, Preprints of 83rd American Meteorological Society Annual Meeting, Feb., 2003, Long Beach, USA, (2003).
- 塩竈秀夫, 寺尾徹, 木田秀次, 岩嶋樹也: 南半球環状モードの遷移過程における長・短周期擾乱の役割, 日本気象学会 2003 年春季大会講演予稿集, 72-72, (2003).
- Ueda, H., Fukui, T., Horiguchi, M.: Eddy Diffusivity and its Stability Dependence in Clear Free Atmosphere Measured by MU Radar System, Proceedings of the International Workshop on Physical Modeling of Flow and Dispersion Phenomena, 3-5 Sep. 2003, Prato, Italy, (2003).
- 荒木時彦: モンテカルロフィルタを用いた風直角方向の構造ヘルスモニタリングに関する基礎的研究, 日本建築学会大会梗概集, 2004 年 B-2 分冊, 809-, (2004).
- 岩嶋樹也, 森山茂, 福山薫: 都市とその周辺における大気メタン濃度差—欧州・北米・日本の諸都市についての比較—, 日本気象学会 2004 年秋季大会講演予稿集, 225-225, (2004).
- 金杉忠久, 河井宏允, 小島浩士: 全層換気ダブルスキnfアサードに作用する風力について (その 2 ピーク風圧), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 51-52, (2004).
- 金杉忠久, 河井宏允, 小島浩士, 西林達磨: 全層換気ダブルスキnfアサードに作用する風力について (その 2), 日本風工学会誌, 99, 153-154, (2004).
- 河井宏允, 金杉忠久, 小島浩士: 全層換気ダブルスキnfアサードに作用する風力について (その 1 実験概要と平均風圧), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 49-50, (2004).
- 河井宏允, 西村宏昭: 軒先瓦に作用する風力の観測結果, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 67-68, (2004).
- 河井宏允, 西林達磨, 金杉忠久, 小島浩士: 全層換気ダブルスキnfアサードに作用する風力について (その 1 平均風圧), 日本風工学会誌, 99, 151-152, (2004).
- 小島浩士, 河井宏允, 金杉忠久: 全層換気ダブルスキnfアサードに作用する風力について (その 3 ピーク風力係数), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 53-54, (2004).
- 久保田拓志, 向川 均, 岩嶋樹也: 気象庁 1 か月予報におけるマッデン-ジュリアン振動の予測可能性, 日本気象学会 2004 年秋季大会講演予稿集, 262-262, (2004).
- 久保田拓志, 寺尾徹, 岩嶋樹也: 熱帯対流圏温度偏差の変動と ENSO のずれの要因について, 日本気象学会 2004 年春季大会講演予稿集, 431-431, (2004).
- 丸山 敬: ラフネス上に発達する乱流境界層の LES による計算, 日本建築学会大会(北海道)学術講演梗概集, 45-46, (2004).
- 丸山 敬: 多孔質物体周りの流れの LES による数値計算, 日本流体力学会年会 2004 講演論文集, 552-553, (2004).
- 向川 均, 山下景子, 長谷部文雄: ストームトラックの変動に伴う対流圏界面高度の季節内長周期変動, 京都大学防災研究所年報, 47B, 339-348, (2004).
- Shiogama, H., Mukougawa, H.: Modulation of the stratosphere-troposphere coupling process of the Northern Hemisphere annular mode associated with the ENSO cycle, 京都大学防災研究所年報, 47C, 243-254, (2004).
- Oku, Y., Ishikawa, H., Su, Z.: Estimation of Land Surface Energy Fluxes over the Tibetan Plateau using GMS data, Proc. The CERES Intl. Symp. on Radiation Budget and Atmospheric Parameters Studied by Satellite and Ground Observation Data - Toward the Understanding of Long Term Trend in Asia, Feb. 17-18, Chiba Univ., Japan, (2005).

(G2) 学術誌 (査読無し)

- Iwashima, T., Yamamoto, R., Sakurai, Y.: Long-term trend of extremely heavy precipitation intensity in Japan in recent 100 years, Recent Research of Development of Meteorology, 1, 1-9, (2002).

丸山 敬：接地境界層の数値シミュレーションにおける粗面境界条件について，日本風工学会誌，99, 39-40, (2004).

岡田恒，奥田泰雄，喜々津仁密，松井正宏，田村幸雄，土谷学，山本学，林田宏二，近藤宏二，丸山 敬：台風 0314 号（マエミー）の宮古島での強風被害について，日本風工学会誌，99, 67-68, (2004).

石川裕彦：台風に伴う強風はモデルでどの程度再現できるか？—T9807(Vicki)の場合，日本風工学会誌，30(1), 19-22, (2005).

10.7.6 災害観測実験センター

(A1) 完全査読論文

Fujii, T., Maed, J., Ishida, N., Hayashi, T.: An analysis of a Pressure Pattern in Severe Typhoon Burt Hitting the Japanese islands in 1999 and a Comparison of the Gradient wind with the Observed Surface Wind, *Journal Wind Engineering and Industrial Aerodynamics*, 90, 1555-1568, (2002).

Ishigaki, T., Sh., Rameshwaran, P.: PIV and LDA Measurements of Secondary Flow in a Meandering Channel for Overbank Flow, *Journal of Visualization*, 5(2), 153-159, (2002).

Islam, M., Saiful, A., HAYASHI, T., Terao, T., Uyeda, H.: Application of a Method to Estimate rainfall in Bangladesh Using GMS-5 Data, *J. Natural Disas. Sci.*, 24(2), 83-89, (2002).

中川 一，角 哲也，三好岩生，高濱淳一郎，里深好文，横森源治：三峰川流域における土砂の生産と流出に関する観測，土木学会水理委員会河川技術論文集，8, 91-96, (2002).

中川 一，戸田圭一，牛山素行，武藤裕則，戸床文彦：2001 年 7 月台湾で発生した豪雨の特徴と土砂災害，土木学会水工学論文集，47, 595-600, (2003).

Nakagawa, H., Takahashi, T., Satofuka, Y., Kawaike, K.: Numerical simulation of sediment disasters caused by heavy rainfall in the Camuri Grande basin, Venezuela 1999, *Proc. of the 3rd International Conference on Debris-flow Hazards Mitigation: Mechanics, Prediction, and Assessment*, 671-682, (2003).

Rahman, M., Haque, M., Nakagawa, H., Muramoto, Y.: Local scour around spur-dikes in a braided river, *Proc. of the XXXth IAHR Congress*, 777-784, (2003).

Fujita, I., Muto, Y., Shimazu, Y., Tsubaki, R., Aya, S.: Velocity Measurements around Non-submerged and Submerged Spur Dykes by Means of Large-Scale Particle Image Velocimetry, *Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering*, 23(1), 51-61, (2004).

橋本 篤，大澤輝夫，安田孝志，林 泰一：MM5 の各大気境界層スキームによる風速計算制度の比較・検討，風力エネルギー，28(2), 62-69, (2004).

Islam, M., Hayashi, T., Uyeda, U., Terao, T., Kikuchi, K.: Diurnal Variation of Cloud Activity in Bangladesh and North of the Bay of Bengal in 2000, *Remote Sensing Environ*, 90, 378-388, (2004).

Islam, M., Terao, T., Uyeda, U., Hayashi, T., Kikuchi, K.: Spatial and Temporal Variation of Precipitation in and around Bangladesh, *J. Meteorol. Soc. , Japan*, 83, 21-39, (2004).

前野加代理，大森博雄，松本 淳，林 泰一：ネパールにおけるモンスーン季の降水の地域特性，地学雑誌，113(4), 512-523, (2004).

Miyamoto, J., Sassa, S., Sekiguchi, H.: Progressive Solidification of a Liquefied Sand Layer during Continued Wave Loading, *Geotechnique*, 54(10), 617-629, (2004).

中川 一，石垣泰輔：都市域を対象とした洪水氾濫模型実験と解析，土木学会水工学論文集，48, 571-576, (2004).

Nakagawa, H., Zhang, H.: Modeling of total sediment load transport in alluvial rivers, *Annual Journal of Hydraulic Engineering JSCE*, 48, 931-936, (2004).

Nakagawa, H., Zhang, H., Ishigaki, T., Muto, Y.: Prediction of 3D flow field with non-linear $k-\epsilon$ model based on unstructured mesh, *Journal of Applied Mechanics*, 7, 1077-1088, (2004).

- 岡野眞久, 俣野文孝, 片山裕之, 田島芳満, 中川 一: 水圧吸引土砂排除システムの排砂機能に関する研究, *ダム工学*, 14(4), 237-249, (2004).
- 奥田泰雄, 林 泰一, 横木 研, 丸山 敬: 2003年台風マエミー (0314号) による強風と宮古島での被害について, 第18回風工学シンポジウム論文集, 175-180, (2004).
- 大橋唯太, 寺尾 徹, 宮田賢二, 田中正昭, 堀口光章, 林 泰一: 局地循環による水蒸気輸送と盆地霧発生の関連性, *天気*, 51(7), 509-523, (2004).
- Rahman, M., Nakagawa, H., Haque, H.: Scouring around spur-dikes in alluvial floodplain rivers, *Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE*, 48, 1075-1080, (2004).
- 田中寅夫, 細 善信, 原田昌武, 林 泰一, モウサ・アシュラフ, 平原和朗: 水蒸気ラジオメータによって観測された宇治市における水蒸気分布の方位特性, *測地学会誌*, 50(2), 67-79, (2004).
- 道奥康治, 南條雅志, 石垣泰輔, 前野詩朗: 捨石水制が冠水した開水路流の二次元二層流モデル, *土木学会論文集*, No. 782/II-70, 31-51, (2005).
- 大石 哲, 佐山敬洋, 中川 一, 里深好文, 武藤裕則, Dian, Sisingih, 砂田憲吾: 雨滴粒径分布を考慮した雨滴衝撃エネルギー算出方法の開発と局所的土砂生産量との関係に関する研究, *土木学会水工学論文集*, 49, 1087-1092, (2005).
- Rahman, M., Nakagawa, H., Khaleduzzaman, A., Ishigaki, T.: Formation of navigational channel using Bandal-like structures, *Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE*, 49, 997-1002, (2005).
- Raji Hari, S., Nakagawa, H.: Predicting timing and location of rainfall triggering shallow landslides, *Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE*, 49, 43-48, (2005).
- Zhang, H., Nakagawa, H., Ishigaki, T., Muto, Y.: Prediction of 3D flow field and local scouring around spur dykes, *Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE*, 49, 1003-1008, (2005).

(A2) 一般査読論文

- Baba, Y., Yamashita, T., Kato, S.: Sea Surface Stress's Relation to Whitecap Dissipation in the Shoaling Zone, *ICCE2002*, 247-257, (2002).
- 馬場康之, 山下隆男, Yeganeh, Abbas, 五歩一隆重: 強風・高波浪時の海浜流底面流速場および広域漂砂量の平面分布の推算式, *海岸工学論文集*, 49, 591-595, (2002).
- 江藤剛治, 竹原幸生, 高野保英, 藤田一郎, 酒井信行, 綾史郎, 玉井昌宏, 宮本仁志, 武藤裕則: 赤外線ビデオカメラを用いた河川表面流の PTV 計測, *河川技術論文集*, 8, 465-470, (2002).
- Kim, H., Sekiguchi, H.: Plastic Deformation Behaviour of Composite Breakwaters under Earthquake Shaking, *Proceedings of International Conference on Physical Modelling in Geotechnics*, 587-592, (2002).
- Miyamoto, J., Sassa, S., Sekiguchi, H.: Wave-induced Liquefaction and Changes in Void Ratio Profile with Depth, *Proceedings of International Conference on Physical Modelling in Geotechnics*, 259-264, (2002).
- 宮本順司, 佐々真志, 関口秀雄: 波浪作用下における液状化の進展および凝固・圧密過程, *海岸工学論文集*, 49, 846-850, (2002).

- Muto, Y., Baba, Y., Fujita, I.: Velocity Measurements in Rectangular Embayments Attached to a Straight Open Channel, *Proc. Int'l Conf. on Fluvial Hydraulics (River Flow 2002)*, 2, 1213-1219, (2002).
- 武藤裕則, 馬場康之, 藤田一郎, 綾史郎: わんどの形成過程に関する一考察 ―死水域の速度分布―, *河川技術論文集*, 8, 383-388, (2002).
- 野村昌生, 綾史郎, 武藤裕則, 藤田一郎: 淀川水系における LSPIV の利用に関する研究 ―ITV 画像の利用を目指して―, *河川技術論文集*, 8, 471-476, (2002).
- 玉井昌宏, 竹原幸生, 江藤剛治, 酒井信行, 高野保英, 藤田一郎, 綾史郎, 宮本仁志, 武藤裕則: CCTV を利用した河川管理に関する要望と利用者把握システムの開発の試み, *河川技術論文集*, 8, 557-562, (2002).
- 藤田一郎, 武藤裕則, 嶋津良郎, 椿涼太, 綾史郎: LSPIV 法による水制周辺部の平水時および洪水時流れに関する検討, *水工学論文集*, 47, 595-600, (2003).
- Miyamoto, J., Sassa, S., Sekiguchi, H.: Preshearing Effect on the Wave-induced Liquefaction in Sand Beds, *Proceedings of Soil and Rock America 2003*, 1025-1032, (2003).
- 宮本順司, 佐々真志, 関口秀雄: 液状化地盤における進行性凝固・波浪エネルギー消散と境界層内物質輸送への適用, *海岸工学論文集*, 50, 851-855, (2003).
- 武藤裕則, 北村耕一, Khaleduzzaman, A.T.M., 中川 一: 水制周辺部の河床変形に関する実験的検討, *河川技術論文集*, 9, 197-200, (2003).
- Rahman, M., Nakagawa, H.: Scouring around spur-dikes in alluvial rivers, *Proc. of the International Symposium on Disaster Mitigation and Basin-Wide Water Management*, 289-298, (2003).
- Sassa, S., Miyamoto, J., Sekiguchi, H.: The Dynamics of Liquefied Sediment Flow Undergoing Progressive Solidification, *Proceedings of First International Symposium on Submarine Mass Movements and Their Consequences*, 95-102, (2003).
- 佐々真志, 李風英, 関口秀雄: 潮位変動に対する飽和/不飽和砂地盤の応答予測, *海岸工学論文集*, 50, 816-820, (2003).
- 丸山 敬, 河井宏允, 奥田泰雄, 林 泰一: 宮古島を襲った台風0314号の後日調査, *日本風工学会論文集*, 29(4), 63-69, (2004).
- 宮本順司, 佐々真志, 徳山領一, 関口秀雄: 水中堆積物の重力流れと凝固・堆積過程の観察, *海岸工学論文集*, 51, 401-405, (2004).
- 武藤裕則, 北村耕一, 馬場康之, 中川 一: ADCPを用いた水制域における流速分布計測, *水工学論文集*, 49, 637-642, (2005).

(A3) アブストラクト査読論文

- Hayashi, T., Ito, Y.: Development of a Mobile Acoustic Sounder(SODAR) and Its Application to the Field Observation, *Proc. 11th International Symposium on Acoustic Remote Sensing and Associated Technique of the Atmosphere and Oceans*, 111-114, (2002).
- Ishigaki, T., Funahashi, R.: Complex Flow Through Constriction Scoured by Oscillatory Open Channel Flow, *Proc. of 8th International Symposium on Flow Modeling and Turbulence Measurements*, 119-126, (2002).

- Ishigaki, T., Baba, Y.: LOCAL SCOUR BY SECONDARY FLOW AROUND CONSTRICTION IN OPEN CHANNEL, Proc. 13th Cong. of APD-IAHR, (2002).
- Ito, Y., Hayashi, T.: Wind Resources Evaluation over a Complex Terrain Using a Doppler Radar, Proc. 11th International Symposium on Acoustic Remote Sensing and Associated Technique of the Atmosphere and Oceans, 291-294, (2002).
- Kazama, S., Muto, Y., Nakatsuji, K., Inoue, K.: Study on the 2000 Flood in the Lower Mekong by Field Survey and Numerical Simulation, Proc. 13th APD-IAHR, (2002).
- Li, F., Sassa, S., Sekiguchi, H.: Modelling of the Elastoplastic Behaviour of Unsaturated Soils under Hydro-environmental Loading, Proceedings of 4th International Summer Symposium, JSCE, 207-210, (2002).
- Nakagawa, H.: Analysis of driftwood behavior debouched into a bay by using Eulerian and Lagrangian coupling model, Proc. of 2nd International Symposium on Flood Defence, 1649-1657, (2002).
- Sekiguchi, H., Sassa, S., Li, F.: Instability of Fluid-Granular Soil Systems subjected to Dynamic Environmental Loading, Proceedings of 5th Taiwan-Japan Joint Seminar on Natural Hazards Mitigation, 345-354, (2002).
- Takahashi, T., Nakagawa, H., Satofuka, Y., Wang, H.: Debris flow control by a grid-type Sabo dam, Proc. of 2nd International Symposium on Flood Defence, 1629-1636, (2002).
- Fujita, I., Muto, Y., Shimazu, Y., Tsubaki, R., Aya, S.: Velocity Measurements around Non-submerged and Submerged Spur Dykes by Means of Large-Scale Particle Image Velocimetry, Proc. 30th IAHR Cong., (2003).
- Ishigaki, T., Endo, A.: Characteristics of Flow and Bed Form in Skewed Open Channel, Proc. of The International Symposium on Shallow Flows, 35-40, (2003).
- Ishigaki, T., Toda, K., Inoue, K.: Hydraulic Model Tests of Inundation in Urban Area with Underground Space, Proc. of 30th Congress of IAHR, Thessaloniki, Greece, 487-493, (2003).
- 石垣泰輔, 田中尚人: 桂川に残る江戸初期の石積み水制に関する実験的検討, 土木学会土木史研究講演会, 23, 43-46, (2003).
- Khaleduzzaman, A., Nakagawa, H., Rahman, M., Ishigaki, T., Kitamura, K.: Flow and bed deformation around permeable groynes, Proc. of the 5th International Summer Symposium, JSCE, 181-184, (2003).
- Rahman, M., Nakagawa, H., Khaleduzzaman, A., Ishigaki, T.: Flow and scour-deposition around bandals, Proc. of the 5th International Summer Symposium, JSCE, 177-180, (2003).
- Sekiguchi, H., Kim, H., Miyamoto, J., Tomohiro, Y.: Dynamic Interaction between Fluid and Liquefying Soil under Earthquake Shaking, Proceedings of 12th Asian Regional Conference on Soil Mechanics and Geotechnical Engineering, 331-334, (2003).
- Zhang, H., Nakagawa, H., Ishigaki, T., Muto, Y.: Sediment transport and bed evolution modeling of the Yodo River system, Proc. of the 5th International Summer Symposium, JSCE, 173-176, (2003).
- Ishigaki, T., Nakagawa, H., Baba, Y.: Hydraulic model test and calculation of flood in urban area with underground space, Proc. of 14th Congress of APD-IAHR, 1411-1416, (2004).
- Ishigaki, T., Baba, Y.: LOCAL SCOUR INDUCED BY 3D FLOW AROUND ATTRACTING AND DEFLECTING GROINS, Second International Conference on Scour and Erosion, (2004).
- Ishigaki, T., Ueno, T., Rahman, M., Khaleduzzaman, A.: Scouring and flow structure around an attracting groin, Proc. of 2nd International Conference on Fluvial Hydraulics, Naples, 521-525, (2004).
- 石垣泰輔, 中川 一, 馬場康之, 技術室氾濫実験グループ: 地下空間を含む市街地洪水氾濫に関する水理模型実験 (続報), 日本自然災害学会, (2004).
- Nakagawa, H., Inoue, K., Ishigaki, T., Toda, K., Muto, Y.: Inundation by river water flooding in urban cities, -Experiments using a large scale inundation model and their analysis-, Proc. of the 3rd Civil Engineering Conference in the Asian Region, 163-166, (2004).
- Nakagawa, H., Zhang, H., Muto, Y.: Modeling of sediment transport in alluvial rivers with spur dykes, Proc. of the 9th International Symposium on River Sedimentation, 1484-1491, (2004).
- Raji Hari, S., Nakagawa, H.: Shallow landslide induced by transient rainfall, Proc. of the International Conference on Monitoring, Prediction and Mitigation of Water-Related Disasters, 507-512, (2005).
- Zhang, H., Nakagawa, H., Ishigaki, T., Muto, Y., Khaleduzzaman, A.: Flow and bed deformation around a series of impermeable and permeable spur dykes, Proc. of the International Conference on Monitoring, Prediction and Mitigation of Water-Related Disasters, 197-202, (2005).

(B) 解説・総説

- 石垣泰輔: 淀川沿いの伝統的な水害対策法—水屋・段蔵の効果について—, 河川, 日本河川協会, 11月号, 27-32, 2002. , 11月号, 27-32, (2002).
- 金尾健司, 西田修三, 武藤裕則: 生物学・生態学と連携した新たな河川技術を目指して (総説), 河川技術論文集, 8, 13-18, (2002).
- Sekiguchi, H.: Recent Advances in Modelling Soil Responses to Wave Loading, Proceedings of International Seminar on Practice and Advances in Geotechnical Engineering, 103-116, (2002).
- 関口秀雄: 流域における土砂環境防災の研究展望, 地質と調査, 3, 23-29, (2003).
- 石垣泰輔: 京都周辺の伝統的な水害対策とその有用性について, 水利科学, 48(1), 50-71, (2004).
- Sekiguchi, H., Nakagawa, H., Sawada, T., Ishigaki, T., Hayashi, T., Ueno, T., Muto, Y., Baba, Y., Kato, S., Serizawa, S.: Complex Fluid-Sediment Interactions in Fluvial and Coastal Environments, Annuals, Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University, 47C, 55-70, (2004).

(C) 著書

- 中川 一 (他): 防災事典, 築地書館, (2002).
- 中川 一 (他): 新領域土木工学ハンドブック, 朝倉書店, (2003).

中川 一 (他) : 地盤災害論, 山海堂, (2003).
中川 一 (他) : 水の事典, 朝倉書店, (2004).

(D) 紀要・報告書

馬場康之, 加藤 茂, 木原直人, 山下隆男: 広域海浜流の観測と定式化, 京都大学防災研究所年報, 45B, 459-466, (2002).
石垣泰輔, 馬場康之, 吉田由香: 京都周辺における伝統的水害防備法について, 京都大学防災研究所年報, 46B, (2002).
武藤裕則, 馬場康之, 綾史郎: , 京都大学防災研究所年報, 45B, 449-457, (2002).
中川 一, 戸田圭一, 牛山素行, 武藤裕則, 戸床文彦: 2001年7月台湾で発生した土砂災害, 京都大学防災研究所年報, 45B, 407-422, (2002).
高橋 保, 中川 一, 里深好文: 貯水池逆流システムを用いた堆砂排除法の研究, 財) 河川環境管理財団河川環境総合研究所大阪研究所報告書「好ましい河川環境に関わる土砂水理研究」, 3-1-3-37, (2002).
上野鉄男: 治水事業をめぐる諸問題とこれからの治水の課題と展望, 京都大学防災研究所年報, 45B, 433-448, (2002).
筆保弘徳, 林 泰一: 台風内で発生するメソβスケール Pressure dip の発達メカニズム, 京都大学防災研究所年報, 46B, 651-661, (2003).
林 泰一: バングラデシュ国の洪水発生の原因となる降雨特性の調査・研究, 文部省科学研究費(基盤研究(B)(2)No.123574020), 成果報告書, 1-72, (2003).
林 泰一: 車載型音波探査装置の開発試作とその気象学的応用に関する研究, 文部省科学研究費(基盤研究(A)(2)No.12354004), 成果報告書, 1-134, (2003).
石垣泰輔, 上野鉄男, 田中尚人: 京都周辺における伝統的水害防備法について(2)ー桂川中流域・亀岡における調査ー, 京都大学防災研究所年報, 46B, 585-590, (2003).
武藤裕則: 仙台東部地区の現状と水理的課題, 平成14年度土木学会水理委員会河川懇談会共同研究中間報告「土地利用を考慮した氾濫水理解析と予測」, 17-34, (2003).
中川 一, 石垣泰輔, 武藤裕則, 井上和也, 戸田圭一, 多河英雄, 吉田義則, 辰己賢一, 張 浩, 八木博嗣: 都市における洪水氾濫ー大規模な洪水氾濫模型装置を用いた実験と解析ー, 京都大学防災研究所年報, 46B, 575-584, (2003).
Rahman, M., Nakagawa, H., Ishigaki, T., Khaleduzzaman, A.: Channel stabilization using bandalling, Annuals of Disaster Prevention Research Institute, Kyoto Univ., 46B, 613-618, (2003).
上野鉄男: 余笹川の1998年水害と治水対策について, 京都大学防災研究所年報, 46B, 591-612, (2003).
矢尾拓也, 余田茂男, 林 泰一, 栽 吉信, 垣花和夫: メソ渦を伴った台風のレーダーエコー解析と MM5 シミュレーション, 京都大学防災研究所年報, 46B, 55-70, (2003).
Am, Sassa, S., Sekiguchi, H.: Analysis of Three-dimensional Sediment Gravity Flows, Annuals, Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University, 47B, 617-633, (2004).
馬場康之, 山下隆男: 広域海浜流(沿岸方向流速)の岸沖成分に関する考察, 京都大学防災研究所年報, 47B, 565-570, (2004).
林 泰一, 村田文絵, 横木 研, 石川裕彦: 宮古島を来襲した台風0314号について(1)ー気象学特性についてー, 京都大学防災研究所年報, 47B, 485-489, (2004).

石垣泰輔, 中川 一, 馬場康之, 技術室氾濫実験グループ: 地下空間を含む都市洪水氾濫に関する水理模型実験, 京都大学防災研究所年報, 47B, 527-544, (2004).
丸山 敬, 河井宏允, 奥田泰雄, 林 泰一: 宮古島を来襲した台風0314号について(2)ー被害の特性ー, 京都大学防災研究所年報, 48B, 491-502, (2004).
武藤裕則: ADCPによる河川流観測, 京都大学防災研究所年報, 47B, 571-580, (2004).
武藤裕則: ワンドおよび水制域の環境水理, 流水・土砂の管理と河川環境の保全・復元に関する研究, 150-175, (2004).
中川 一, 石垣泰輔, 武藤裕則, 馬場康之, 張 浩, : 住区内での浸水を考慮した洪水氾濫の実験と解析, 京都大学防災研究所年報, 47B, 517-526, (2004).
流水・土砂の管理と河川環境の保全・復元に関する研究, 河川整備基金事業, 財団法人 河川環境管理財団, 41-71, (2004).
Rahman, M., Nakagawa, H.: On the Formation of Stable River Course, Annuals of Disaster Prevention Research Institute, Kyoto Univ., 47B, 601-615, (2004).
上野鉄男: 余笹川流域の1998年8月水害の研究, 京都大学防災研究所年報, 47B, 545-564, (2004).

(E) 講義・講演会テキスト

(F) 新聞・雑誌記事

(G1) 講演会概要集

北村耕一, 中川 一, 石垣泰輔, 武藤裕則, Khaleduzzaman, A.T.M.: 連続わんど域における河床変動に関する実験的研究, 土木学会第58回年次学術講演会, (2003).
北村耕一, 中川 一, 石垣泰輔, 武藤裕則, Khaleduzzaman, A.T.M.: 連続わんど域における河床変動に関する実験的研究, 平成15年度土木学会関西支部年次学術講演会講演概要, (2003).
武藤裕則: 水制周辺部の流れと河床変形, 平成15年度環境水理部会研究集会 in 大阪講演概要, 20-21, (2003).
上野鉄男: 余笹川の1998年8月水害の考察, 第22回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, 113-114, (2003).
伊藤政博, 大江謹司, 小島和也, 山下隆男: 富士海岸における養浜砂の波による沖方向の移動実験, 海洋開発論文集, (2004).
中川 一: 都市と水害ーもしも鴨川が溢れたらー, 平成15年度京都府防災気象講演会要旨集, 10-27, (2004).
上野鉄男: 余笹川の1998年水害と土地利用との関係について, 第23回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, 123-124, (2004).

(G2) 学術誌(査読無し)

Nakagawa, H., Takahashi, T., Satofuka, Y., Kawaike, K.: Estimation of Efficacy of Sabo Facilities by Means of Numerical Simulation Method, Proc. of 5th Taiwan-Japan Joint Seminar on Natural Hazards Mitigation, 43-63, (2002).

- 朴 容佑, 山下隆男: ニューラルネットワークとカルマンフィルタを組み合わせた植物プランクトン群集密度変動リアルタイム予測, 海岸工学論文集, 50, 1161-1165, (2003).
- Kato, S., Yamashita, T., Abbas, Y.: LISST/ADCP OBSERVATION OF SUSPENDED LOAD PROFILES IN THE SURF ZONE, Recent Advances in Marine Science and Technology 2002, PACON International, 373-384, (2003).
- 加藤 茂, 山下隆男: 上越・大潟海岸で観測された広域海浜流の再現数値シミュレーション, 海岸工学論文集, 50, 391-395, (2003).
- Kim, K., Yamashita, T.: TIDAL SIMULATION IN ARIAKE SEA BY PARALLELIZED OCEAN MODEL, Recent Advances in Marine Science and Technology 2002, PACON International, 267-278, (2003).
- 中川 一: 河口域における災害水理 ～高潮と津波に対する防災面からのアプローチ, 河川, 680, 9-14, (2003).
- 木原直人, 山下隆男: 2 相流格子ボルツマン法の海岸工学への適用, 海岸工学論文集, 50, 1426-1430, (2003).
- Park, Y., Yamashita, T.: Real Time Prediction of phytoplankton blooms in Tanabe Bay, Recent Advances in Marine Science and Technology 2002, PACON International, 511-522, (2003).
- Yamashita, T.: Wind-Wave-Current System in Coastal Ocean, Coastal Engineering 2003, Sixth International Conference on Computer Modelling and Experimental Measurements of Seas and Coastal Regions, WIT Press, 63-72, (2003).
- 山下隆男, 林 健太郎, 朴 柱昱: 底質粒径の時空間変化を考慮した海浜変形予測について, 海岸工学論文集, 50, 541-545, (2003).
- ADIJAYA, M., Yamashita, T.: Mercury Pollutant in Kapuas River Basin: Current Status and Strategic Approaches, Annals of Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University, 47B, 635-640, (2004).
- Baba, Y., Larson, M., Hanson, H., Yamashita, T.: Simulation of Coastal Evolution Using an N-Line Model Including Wind-Induced Currents, Proceeding of 29th International Conference on Coastal Engineering, 2436-2448, (2004).
- Kato, S., Yamashita, T.: NUMERICAL SIMULATION OF STORM-INDUCED CURRENT SYSTEM IN COASTAL REGION, Proceeding of 29th International Conference on Coastal Engineering, 1638-1649, (2004).
- 金 庚玉, 山下隆男: 大気・波浪・海洋結合モデルによる台風 9918 号の高潮・高波の追算, 海岸工学論文集, 51, 236-240, (2004).
- Kim, K., Yamashita, T.: Wind-Wave-Surge Parallel Computation Model and Its Application to Storm Surge Simulation in Shallow Sea, Proceeding of 29th International Conference on Coastal Engineering, 1578-1590, (2004).
- 仁木将人, 山下隆男, 芹澤重厚, 山口弘誠, 福神和興: 田辺湾における夏季成層時の海水交換過程, 海岸工学論文集, 51, 896-900, (2004).
- Yamashita, T., Park, J., Ito, M.: Profile Change of Coarse and Fine Material Composite Beach, Proceeding of 29th International Conference on Coastal Engineering, 2353-2363, (2004).
- 山下隆男, 西口英利, 金 庚玉, 玉田 崇: 台風の風域場と降雨場の数値シミュレーション, 海岸工学論文集, 51, 1241-1245, (2004).
- 山下隆男: インドネシ, カプアス川・海岸系での水銀汚染調査と海域・流域開発の展望, 海岸工学論文集, 51, 1391-1395, (2004).
- 木原直人, 植田洋匡, 山下隆男: 海面直下に発達する熱対流の乱流構造に関する数値的研究, 海岸工学論文集, 51, 81-85, (2005).

10.7.7 地震予知研究センター

(A1) 完全査読論文

- Ito, K., Enescu, B.: Heterogeneous structure and b and p values relating to the rupture of the 2000 Tottori-ken Seibu earthquake, Proc. Int. Symp. Slip and Flow Processes in and below the seismogenic region, 491-496, (2001).
- 爆破地震動研究グループ：北海道日高衝突帯横断屈折・広角反射法地震探査(大滝一浦幌測線)，東大地震研究所彙報, 77, 139-172, (2002).
- Br., Tanaka, H., Iio, Y.: Acceleration of slip motion in deep extensions of seismogenic faults in and below the seismogenic region, Earth, Planets and Space, 54, 1195-1205, (2002).
- Enescu, B., Ito, K.: Spatial analysis of the frequency-magnitude distribution and decay rate of aftershock activity of the 2000 Western Tottori earthquake, Earth, Planets and Space, 54, 847-859, (2002).
- 橋本学：断層間の力学的相互作用を考慮した地震活動のシミュレーション，地学雑誌, 111, 298-307, (2002).
- Hiramatsu, Y., Yamanaka, H., Tadokoro, K., Nishigami, K., Ohmi, S.: Scaling law between corner frequency and seismic moment of microearthquakes: Is the breakdown of the cube law a nature of earthquakes?, Geophys. Res. Lett., 29, 521-524, (2002).
- Hiramatsu, Y., Furumoto, M., Nishigami, K., Ohmi, S.: Initial rupture process of microearthquakes recorded by high sampling borehole seismographs at the Nojima fault, central Japan, Phys. Earth Planet. Inter., 132, 269-279, (2002).
- Honkura, Y., Matsushima, M., Oshiman, N., Tuncer, M., Baris, S., Ito, A., Iio, Y., Isikara, A.: Small electric and magnetic signals observed before the arrival of seismic wave, Earth, Planets and Space, 54, e9-e12, (2002).
- Iio, Y., Horiuchi, S., Baris, S., Celik, C., Kyomen, J., Ucer, B., Honkura, Y., Isikara, A.: Aftershock distribution in the eastern part of the aftershock region of the 1999 Izmit, Turkey earthquake, Bulletin of the Seismological Society of America, 92, 411-417, (2002).
- Iio, Y., Sagiya, T., Kobayashi, Y., Shiozaki, I.: Water-weakened lower crust and its role in the concentrated deformation in the Japanese Islands, Earth and Planetary Science Letters, 203, 245-253, (2002).
- Iio, Y., Kobayashi, Y., Tada, T.: Large earthquakes initiate by the acceleration of slips on the downward extensions of seismogenic faults, Earth Planet. Sci. Lett., 202, 337-343, (2002).
- Iio, Y., Kobayashi, Y.: A physical understanding of large intraplate earthquakes, Earth, Planets and Space, 54, 1001-1004, (2002).
- Iio, Y., Kobayashi, Y.: Is the plastic flow uniformly distributed below the seismogenic region?, Earth, Planets and Space, 54, 1085-1090, (2002).
- Kasaya, T., Oshiman, N., Sumitomo, N., Uyeshima, M., Iio, Y., Uehara, D.: Resistivity structure around the hypocentral area of the 1984 Western Nagano Prefecture earthquake in the central Japan, Earth, Planets and Space, 54, 107-118, (2002).
- 片尾 浩：月齢と丹波山地の微小地震発生の相関について，地学雑誌, 111(2), 248-255, (2002).
- 片尾 浩, Yoshii, Koji：緊急観測によって得られた鳥取県西部地震直後の余震分布，地震, 54(2), 581-585, (2002).
- Kodaira, S., Kurashimo, E., J., Takahashi, N., Nakanishi, A., Miura, S., Iwasaki, T., Hirata, N., Ito, K., Kaneda, Y.: Structural factors controlling the rupture process of a megathrust earthquake at the Nankai trough seismogenic zone, Geophysical journal international, 149, 815-835, (2002).
- 蔵下英司, 徳永雅子, 平田直, 岩崎貴哉, 小平秀一, 金田義行, 伊藤 潔, 西田良平, 木村昌三, 井川猛：四国東部地域における地殻及び最上部マントルの地震波速度構造と沈み込むフィリピン海プレートの構造，地震 第2輯, 54, 489-505, (2002).
- Matsushima, M., Honkura, Y., Oshiman, N., Baris, S., Tuncer, M., Tank, S., Celik, C., Takahashi, F., Nakanishi, M., Yoshimura, R., Pektas, R., Komut, T., Ito, A., Iio, Y., Isikara, A.: Seismo-electromagnetic effect associated with the Izmit Earthquake and its aftershock, Bulletin of the Seismological Society of America, 92(1), 350-360, (2002).
- Nakamura, M., Yoshida, Y., Zhao, D., Katao, H., Nishimura, S.: Three-dimensional P- and S-wave Velocity Structures beneath the Ryukyu Arc, Tectonophysics, 369, 121-143, (2002).
- Nakamura, M., Katao, H.: Microearthquakes and faulting in the southern Okinawa Trough, Tectonophysics, 372, 167-177, (2002).
- Ohmi, S., Watanabe, K., Shibutani, T., Hirano, N., Nakao, S.: The 2000 Western Tottori Earthquake - seismic activity revealed by the regional seismic networks -, Earth, Planets and Space, 54(8), 819-830, (2002).
- Ohmi, S., Obara, K.: Deep Low-Frequency Earthquakes beneath the Focal Region of the Mw 6.7 2000 Western Tottori Earthquake, Geophysical Research Letters, 10.1029/2001GL014469-, (2002).
- 大見土朗：平成12年鳥取県西部地震の余震分布～震源座標の関数としての観測点補正値を用いた震源決定～，地震, 54, 575-580, (2002).
- Oshiman, N.: Towards effective observations of resistivity changes due to fluid movement related to faulting, Seismogenic Process Monitoring (Eds. H. Ogasawara, T. Yanagidani and M. Ando), 257-268, (2002).
- Oshiman, N., Yoshimura, R., Kasaya, T., Honkura, Y., Matsushima, M., Baris, S., Celik, C., Tuncer, M., Isikara, A.: Deep resistivity structure around the fault associated with the 1999 Kocaeli earthquake, Turkey, Seismotectonics at the Convergent (Eds. Y. Fujinawa and A. Yoshida), 293-303, (2002).
- Seismic reflection survey in Nagamachi-Rifu fault, Sendai, Northeastern Japan, Tohoku Geophysical Journal, 36, 311-356, (2002).
- Rydelek, P., Horiuchi, S., Iio, Y.: Spatial and temporal characteristics of low-magnitude seismicity from a dense array in western Nagano Prefecture, Japan, Earth, Planets and Space, 54, 81-89, (2002).
- Sagiya, T., Nishimura, T., Iio, Y., Tada, T.: Crustal deformation around the northern and central Itoigawa-Shizuoka Tectonic Line, Earth, Planets and Space, 54, 1059-1063, (2002).
- Shibazaki, B., Tanaka, H., Horikawa, H., Iio, Y.: Modeling slip processes at the deeper part of the seismogenic zone using a constitutive law combining friction and flow laws, Earth, Planets and Space, 54, 1211-1218, (2002).

- Shibutani, T., Nakao, S., Nishida, R., Takeuchi, F., Watanabe, K., Umeda, Y.: Swarm-like seismic activity in 1989, 1990 and 1997 preceding the 2000 Western Tottori Earthquake, *Earth, Planets and Space*, 54(8), 831-846, (2002).
- Tabei, T., Hashimoto, M., Miyazaki, S., Hirahara, K., Kimata, F., Matsushima, T., Tanaka, T., Eguchi, Y., Takaya, T., Hosoi, Y., Ohya, F., Kato, T.: Subsurface structure and faulting of the Median Tectonic Line, southwest Japan inferred from GPS velocity field, *Earth and Planets Space*, 54(11), 1065-1070, (2002).
- Umeda, Y.: 2000 western Tottori earthquake, *Earth Planets Space*, 54, 3-4, (2002).
- Uyeshima, M., Ichiki, M., Fujita, I., Utada, H., Nishida, Y., Satoh, H., Mishina, M., Nishitani, T., Yamaguchi, S., Shiozaki, I., Murakami, H., Oshiman, N.: Network-MT survey in Japan to determine nation-wide deep electrical conductivity structure, *Seismotectonics at the Convergent* (Eds. Y. Fujinawa and A. Yoshida), 107-121, (2002).
- Xu, P.: New Challenges in Connection with Precise GPS Positioning, *IAG Proceedings*, 125, 359-364, (2002).
- Xu, P.: Isotropic Probabilistic Models for Directions, Planes and Referentials, *Proceedings of The Royal Society London*, A458, 2017-2038, (2002).
- Yamanaka, H., Hiramatsu, Y., Katao, H.: Spatial distribution of atypical aftershocks of the 1995 Hyogo-ken Nanbu earthquake, *Earth Planets Space*, 54, 933-945, (2002).
- Yoshimura, R., Oshiman, N.: Edge-based finite element approach to the simulation of geoelectromagnetic induction in a 3-D sphere, *Geophysical Research Letters*, 29(3), Art.No.1039-, (2002).
- Chandrasekhar, E., Oshiman, N., Yumoto, K.: On the role of oceans in the geomagnetic induction by S_q along the 210° magnetic meridian region, *Earth, Planets and Space*, 55, 315-326, (2003).
- Enescu, B., Ito, K.: Values of b and p : their variations and relation to physical processes for earthquakes in Japan, *Annals, Disas. Prev. Res. Inst. Kyoto Univ.*, 46B, 709-719, (2003).
- Harada, M., Furuzawa, T., Teraishi, M., Ohya, F.: Temporal and spatial correlations of the strain field in tectonic active region, southern Kyushu, Japan, *Journal of Geodynamics*, 35, 471-481, (2003).
- 廣瀬一聖, 川崎一朗, 竹本修三, 田村良明: 歪記録に見られた地震活動に先行した潮汐定数の時間変化, *測地学会誌*, 49(4), 227-242, (2003).
- Iio, Y., Kobayashi, Y.: Is the plastic flow uniformly distributed below the seismogenic region?, *Tectonophysics*, 364, 43-53, (2003).
- 飯尾能久, 松澤 暢, 吉田真吾, 加藤照之, 平田 直: 非地震性すべりの時空間変化と大地震の発生予測—三陸沖における近年の進展を中心に—, *地震*, 56(2), 213-229, (2003).
- 北川有一, 小泉直嗣, 大谷 竜, 渡辺邦彦, 板場智史: 山崎断層沿いの産業技術総合研究所安富観測点で観測された顕著な地殻歪変化, *地震*, 56, 245-254, (2003).
- Kito, T., Shibutani, T., Hirahara, K.: Scattering objects in the lowermost mantle beneath northeastern China observed with a short-period seismic array, *Phys. Earth Planet. Int.*, 138, 55-69, (2003).
- 小村健太郎, 池田隆司, 飯尾能久, 新井崇史, 小林健太, 島田耕史, 田中秀実, 平野 聡, 松田達生: 断層破砕帯部の物理検層-野島平林 NIED 井の場合-, *物理探査*, 56, 401-414, (2003).
- Kusakabe, M., Ohwada, M., Satake, H., Nagao, K., Kawasaki, I.: Helium isotopic ratios and geochemistry of volcanic fluid from the Norikura volcanic chain, central Japan: implications for crustal structures and seismicity, *Society of Economic Geologists*, 75-89, (2003).
- Ma, K., Broodsky, E., Kanamori, H., Mori, J., Song, A.: Evidence for Fault Lubrication during the 1999 Chi-Chi, Taiwan, Earthquake (Mw7.6), *Geophysical Research Letters*, 30(10), 1029/2002GL015380-, (2003).
- 松澤孝紀, 武尾 実, 井出 哲, 飯尾能久, 伊藤久男, 今西和俊, 堀内茂木: 長野県西部地域における二重スペクトル比による S 波減衰の推定, *地震*, 56(2), 75-88, (2003).
- Mori, J., Abercrombie, R., Kanamori, H.: Stress drops and radiated energies of the Northridge aftershocks, *Journal of Geophysical Research*, 108, 10.1029/2001JB000474-, (2003).
- Nakamukae, M., 片尾, Nemoto, H., Nakagawa, Y.: , *地震*, 56(2), 303-309, (2003).
- Petukhin, A., Irikura, K., Ohmi, S., Kagawa, T.: Estimation of Q-values in the seismogenic and aseismic layers in the Kinki region, Japan, by elimination of the geometrical spreading effect using ray approximation., *Bulletin of the Seismological Society of America*, 93, 1498-1515, (2003).
- Shibazaki, B., Iio, Y.: On the physical mechanism of silent slip events along the deeper part of the seismogenic zone, *Geophysical Research Letters*, 30(9), doi:10.1029/2003GL017047-, (2003).
- Shito, A., Shibutani, T.: Nature of heterogeneity of the upper mantle beneath the northern Philippine Sea as inferred from attenuation and velocity tomography, *Phys. Earth Planet. Int.*, 140, 331-341, (2003).
- Shito, A., Shibutani, T.: Anelastic structure of the upper mantle beneath the northern Philippine Sea, *Physics of the Earth and Planetary Interiors*, 140, 319-329, (2003).
- Tabei, T., Ha., Miyazaki, S., Ohta, Y.: Present-day deformation across the southwest Japan arc: Oblique subduction of the Philippine Sea plate and lateral slip of the Nankai forearc, *Earth Planets and Space*, 55, 643-647, (2003).
- 高田圭太, 中田高, 野原壮, 原口強, 池田安隆, 伊藤 潔, 今泉俊文, 大月憲四郎, 鷺谷威, 堤浩之: 震源断層となりうる活断層とリニアメントの検討—中国地方を例として—, *活断層研究*, 23, 77-91, (2003).
- Tank, S., Honkura, Y., Ogawa, Y., Oshiman, N., Tuncer, M., Matsushima, M., Celik, C., Tolak, E., Isikara, A.: Resistivity structure in the western part of the fault rupture zone associated with the 1999 Izmit earthquake and its seismogenic implication, *Earth, Planets and Space*, 55, 437-442, (2003).
- Tsuruga, K., Yomogida, K., Ito, H., Nishigami, K.: Detection of localized small-scale heterogeneities in the Hanshin-Awaji region, by anomalous amplification of coda level, *Bull. Seis. Soc. Amer.*, 93, 1516-1530, (2003).
- Waga, S., Ha.: , *火山*, 48, 1-10, (2003).
- Xu, P.: A Hybrid Global Optimization Method:

- The Multidimensional Case, *Journal of computational and applied Mathematics*, 155, 423-446, (2003).
- Xu, P.: Numerical Solutions for Bounding Feasible Point Sets, *Journal of computational and applied Mathematics*, 156, 201-219, (2003).
- "Xu, P.: Nonlinear Filtering of Continuous Systems: Foundational Problems and New Results, *Journal of Geodesy*, 77, 247-256, (2003)."
- Yamauchi, M., Hirahara, K., Shibutani, T.: High resolution receiver function imaging of the seismic velocity discontinuities in the crust and the uppermost mantle beneath southwest Japan, *Earth, Planets and Space*, 55, 59-64, (2003).
- Aizawa, K., Yshimura, R., Oshiman, N.: Splitting of the Philippine Sea Plate and a magma chamber beneath Mt. Fuji, *Geophysical Research Letters*, 31, L09603-, (2004).
- Iio, Y., Sagiya, T., Kobayashi, Y.: Origin of the concentrated deformation zone in the Japanese Islands and stress accumulation process of intraplate earthquakes, *Earth, Planets and Space*, 56, 831-842, (2004).
- Iio, Y., Sagiya, T., Kobayashi, Y.: What controls the occurrence of shallow intraplate earthquakes?, *Earth, Planets and Space*, 56, 1077-1086, (2004).
- Iio, Y., Sagiya, T., Umino, N., Nishimura, T., Takahashi, K., Homma, T.: A comprehensive model of the deformation process in the Nagamachi-Rifu Fault Zone, *Earth, Planets and Space*, 56, 1339-1346, (2004).
- Imanishi, Ka., Takeo, M., Ellsworth, W., Ito, H., Matsuzawa, T., Kuwahara, Y., Iio, Y., Horiuchi, S., Ohmi, S.: Source Parameters and Rupture Velocities of Microearthquakes in Western Nagano, Japan, Determined Using Stopping Phases, *Bulletin of the Seismological Society of America*, 94, 1762-1780, (2004).
- Ito, K.: Seismic explosion surveys of crustal structure and deep fault zone planned in the Kinki District, Japan, *International Symposium on Strong Ground Motion Prediction and Seismic Exploration in Urban Areas*, 85-90, (2004).
- Ito, S., Ito, H., Horiuchi, S., Iio, Y.: Local attenuation in western Nagano, central Japan, estimated from seismograms recorded in three boreholes, *Geophysical Research Letters*, 31, L20604, doi:10.1029/2004GL020745-, (2004).
- Ito, T., Ha.: Spatiotemporal distribution of interplate coupling in southwest Japan from inversion of geodetic data, *Journal of Geophysical Research*, 109(B02315), doi:10.1029/2002JB002358, (2004).
- Kasaya, T., Oshiman, N.: Lateral inhomogeneity deduced from 3-D magnetotelluric modeling around the hypocentral area of the 1984 Western Nagano Prefecture earthquake, central Japan, *Earth, Planets and Space*, 56, 547-552, (2004).
- Kawasaki, I.: Silent earthquakes occurring in a stable-unstable transition zone and implications for earthquake prediction, *Earth Planet and Space*, 56, 813-821, (2004).
- Matsuzawa, T., Takeo, M., Ide, S., Iio, Y., Ito, H., Imanishi, K., Horiuchi, S.: S-wave energy estimation of small-earthquakes in the western Nagano region, Japan, *Geophysical Research Letters*, 31(3), L03602, doi:10.1029/2003GL018445-, (2004).
- Mizuno, T., Nishigami, K., Ito, H., Kuwahara, Y.: Deep structure of the Mozumi-Sukenobu fault, central Japan, estimated from the subsurface array observation of fault zone trapped waves, *Geophys. J. Int.*, 159, 622-642, (2004).
- Nishimura, S., Ha., Ando, M.: A rigid block rotation model for the GPS derived velocity field along the Ryukyu arc, *Physics of the Earth and Planetary Interiors*, 142, 185-203, (2004).
- Ohmi, S., Hirose, I., Mori, J.: Deep low-frequency earthquakes near the downward extension of the seismogenic fault of the 2000 Western Tottori earthquake, *Earth, Planets and Space*, 56, 1185-1189, (2004).
- Okubo, A., Oshiman, N.: Piezomagnetic Field in a Non-Uniform Elastic Medium – Piezomagnetic Field Associated with a Numerical Solution of the Mogi Model in a Non-Uniform Elastic Medium –, *Geophysical Journal International*, 159, 509-520, (2004).
- 関口渉次, 飯尾能久, 大見士朗, 伊藤久男, 堀内茂木: 稠密地震観測データを用いた長野県西部地域での3次元速度構造とその時間変化の可能性, *地震*, 57(2), 55-61, (2004).
- Takahashi, H., Nakao, S., Okazaki, N., Koyama, J., Sagiya, T., Ito, T., Ohya, F., Sato, K., Fujita, Y., Hashimoto, M., Hosoe, Y., Kato, T., Inuma, T., Fukuda, J., Matsushima, T., Kohno, Y., Kasahara, M.: GPS observation of the first month of postseismic crustal deformation associated with the 2003 Tokachi-oki earthquake (MJMA8.0), off southern Hokkaido, Japan, *Earth and Planets Space*, 56(3), 377-382, (2004).
- Takemoto, S., Araya, A., Akamatsu, J., Morii, W., Momose, H., Ohashi, M., Kawasaki, I., Higasi, T., Fukuda, Y., Miyoki, S., Uchiyama, T., Tatsumi, D., Hanada, H., Naito, I., Telada, S., Ichikawa, N., Onoue, K., Wada, Y.: A 100 m laser strainmeter system installed in a 1 km deep tunnel at Kamioka, Gifu, Japan, *Journal of Geodynamics*, 38, 477-488, (2004).
- Xu, P.: Determination of Stress Tensors from Fault-slip Data, *Geophysical Journal International*, 157, 1316-1330, (2004).
- Xu, P.: Random Tensors with Applications in the Earth Sciences, *Journal of Geodetic Society, Japan*, 50, 1-15, (2004).
- Yoshii, K., Ito, K., Miyamachi, H., Kanao, M.: Crustal structure derived from seismic refractions and wide-angle reflections in the Mizuho Plateau, East Antarctica, *Polar Geoscience*, 17, 112-138, (2004).
- Enescu, B., Ito, K., Radulian, M., Popescu, E., Bazaclu, O.: Multifractal and chaotic analysis of Vrancea (Romania) intermediate-depth earthquakes: Investigation of the temporal distribution of events, *Pure and Applied Geophysics*, 162, 249-271, (2005).
- Hashimoto, M., Onoue, K., Ohya, F., Hosoe, Y., Segawa, K., Sato, K., Fujita, Y.: Crustal deformations in Kii peninsula associated with the SE off the Kii peninsula earthquake sequence of September 5, 2004 derived from dense GPS observations, *Earth Planets Space*, 57, 185-190, (2005).
- Takuo, S., Yo., Satoshi Matsumoto, ., Hi., Takeshi Matsushima, ., Shiro Ohmi., Takeuchi, Fu., Uehira, K., Nishigami, K., Enescu, B., Hirose, I., Kano, Y., Kohno, Y., Korenaga, M., Mamada, Y., Miyazawa, M., Tatsumi, K., Ueda, T., Wada, H., Yukutake, Y.: Aftershock distribution of the 2004 Mid Niigata Prefecture Earthquake derived from a combined analysis of temporary online observations and permanent observations, *Earth Planets Space*, ., 57, 545-549, (2005).

- Tonegawa, T., Hirahara, K., Shibutani, T.: Detailed structure of the upper mantle discontinuities around the Japan subduction zone imaged by receiver function analyses, *Earth, Planets and Space*, 57, 5-14, (2005).
- Yamada, t., Mori, J., Ide, S., Kawakata, H., Iio, Y., Ogasawara, H.: Radiation efficiency and apparent stress of small earthquakes in a South African gold mine, *Journal of Geophysical Research*, 110, B01305, doi:10.1029/2004JB003221-, (2005).

(A2) 一般査読論文

- 西上欽也, 田所敬一, 永井 悟, 水野高志, 加納靖之, 平松良浩: 注水に伴う誘発地震の発生特性—野島断層注水実験を中心として—, *地学雑誌*, 111(2), 268-276, (2002).
- Tadokoro, K., Ando, M., Baris, S., Nishigami, K., Nakamura, M., Ucer, B., Ito, A., Honkura, Y., Isikara, A.: Monitoring of fault healing after the 1999 Kocaeli, Turkey, earthquake, *J. Seismol.*, 6, 411-417, (2002).

(A3) アブストラクト査読論文

- Komazawa, M., Morikawa, H., Nakamura, K., Akamatsu, J., Nishimura, K., Sawada, S., Erken, A., Onalp, A.: Bedrock structure in Adapazari, Turkey -- A possible cause of severe damage by the 1999 Kocaeli Earthquake --, *Soil Dynamics and Earthquake Engineering*, 22, 829-836, (2002).
- 中村佳重郎, 赤松純平: 京都盆地南部の巨椋池干拓地およびその周辺部の地盤の特性について, *The Proceedings of the twelfth symposium on geo-environments and geo-technics & International symposium for geological environment*, 237-242, (2002).
- 盛川仁, 赤松純平, 駒澤正夫, 中村佳重郎, 西村敬一, 澤田純男: トルコ・アダパザル周辺の基盤構造について, 第 11 回日本地震工学シンポジウム論文集, No.60-, (2002).

(B) 解説・総説

- 西上欽也: 地震発生域の不均質構造を探る—地震散乱波のトモグラフィ—解析—, *サイスモ (Monthly 地震レポート)*, 1, 6-8, (2002).
- 渡辺邦彦: 山崎断層の挙動と地震活動, *自然と環境*, 4, 2-15, (2002).
- 渡辺邦彦: 微小地震から見た近畿〜中国地方, *月刊地球*, 号外(38), 149-156, (2002).
- 飯尾能久, 小林洋二: 内陸大地震の発生の仕組み, *科学*, 73(9), 1012-1019, (2003).
- 河野芳輝, 川崎一朗: 「まるごと中部日本」一序文—, *月刊地球*, 25(12), 895-897, (2003).
- 川崎一朗: スロー・スリップ・イベントの地学的意義, *月刊地球*, 25(1), 75-79, (2003).
- 川崎一朗: 自由振動を用いた D"層サイレント地震の検出の試み, *月刊地球*, 25(7), 541-547, (2003).
- 川崎一朗: スロー・スリップ・イベントのすべり域と地震アスペリテティの空間的棲み分け, *月刊地球*, 25(10), 795-802, (2003).
- 梅田康弘: 南海地震の前の井戸水の減少について—増幅のメカニズム—, *地震予知連絡会報*, 70, 423-428, (2003).

- 板場智史, 渡辺邦彦, 西田良平, 野口竜也: 内陸における地震活動度の定量的評価, *月刊地球*, 号外(46), 146-153, (2004).
- 梅田康弘: 紀伊半島南東沖の地震—南海トラフの巨大地震との関連は?—, *地震調査研究推進本部ニュース SEISMO*, 12(8), 8-9, (2004).
- 渡辺邦彦: 地殻ブロック境界としての大規模活断層, *月刊地球*, 号外(46), 204-210, (2004).
- 川崎一朗, 松井佐久夫, 伊達伸: S-Pring-8 による地震記録を用いた地球コアの運動の追求, *光科学研究の最前線*, 158-159, (2005).

(C) 著書

- Nagai, N., Ando, M., Ogasawara, H., Ohkura, T., Iio, Y., Cho, A.: Location and temporal variations of shear wave splitting in a South African gold mine, *Seismogenic Process Monitoring, Seismogenic Monitoring in mines*, 185-198, (2002).
- Nishigami, K.: Seismological investigation of deep structure of active faults using scattered waves and trapped waves, *Seismogenic Process Monitoring*, Ed. by Ogasawara, H., T. Yanagidani, and M. Ando, Rotterdam, Balkema, , 245-256, (2002).
- Horiuchi, S., Iio, Y.: convergent plate boundary, , 383-391, (2003).
- 中村佳重郎他: 日本列島重力アトラス—西南日本および中央日本—(山本明彦, 志知龍一編), 東京大学出版会, (2004).

(D) 紀要・報告書

- 2001 年地殻比抵抗研究グループ: 鳥取県西部地震震源域周辺での深部比抵抗構造探査の概要, *京都大学防災研究所年報*, 45B, 489-497, (2002).
- Enescu, B., Ito, K.: Temporal and spatial variations of seismicity during the 1998 Hida Mountain earthquake swarms, *京都大学防災研究所年報*, 45B, 591-594, (2002).
- 伊藤 潔, 片尾 浩, 渡辺邦彦, 米崎文雄, 佐藤信光, 大家光裕: 京都府・日吉ダム周辺の地震活動と湛水前後の活動の変化, *京都大学防災研究所年報*, 45B, 499-508, (2002).
- 笠谷貴史, 大志万直人, 塩崎一郎, 中尾節郎, 矢部征, 近藤和男, 藤田安良, 宇都智史, 吉田賢一: 兵庫県北部域での地殻比抵抗構造, *京都大学防災研究所年報*, 45B, 571-576, (2002).
- 片尾 浩: 微小地震震源決定精度のマッピング, *京都大学防災研究所年報*, 45B, 509-516, (2002).
- 片尾 浩: 2001 年 8 月 25 日京都府南部の地震 (M5.1) について, *地震予知連絡会会報*, 67, 390-397, (2002).
- 寺石真弘, 大谷文夫, 園田保美, 古澤 保: 日向灘地殻活動総合観測線による地殻変動連続観測と地震活動, *京都大学防災研究所年報*, 45B, 535-544, (2002).
- 中尾節郎, 片尾 浩, 澁谷拓郎, 渡辺邦彦: 兵庫県北部の地震 (2001 年 1 月 12 日, Mj=5.4) と一連の地震活動について, *京都大学防災研究所年報*, 45B, 561-570, (2002).
- 大見士朗: 西南日本内陸の活断層に発生する深部低周波地震, *京都大学防災研究所年報*, 45B, 545-553, (2002).

- 岡本拓夫, 和田博夫, 平野憲雄, 竹内文朗, 伊藤 潔, 渡辺邦彦, 西上欽也, 前澤廣道: 北陸地方西方沿岸及びその周辺域における最近の地震活動について, 京都大学防災研究所年報, 45B, 595-600, (2002).
- Oshiman, N.: Investigations on geo-electromagnetic structure of active faults and monitoring their activities, Proceedings of the First China-Japan Workshop on Earthquake Disaster Mitigation (Eds. T. Kato and Zheng Sihua), 155-170, (2002).
- 寺石眞弘, 大谷文夫, 園田保美, 古沢 保: 日向灘地殻活動総合観測線による地殻変動連続観測と地震活動, 京都大学防災研究所年報, 45B, 535-543, (2002).
- 上野友岳, 伊藤 潔, 和田博夫, 吉井弘治, 松村一男: 跡津川断層系における人工地震による地殻構造調査(続), 京都大学防災研究所年報, 45B, 577-590, (2002).
- 和田博夫, 伊藤 潔, 大見士朗, 平野憲雄, 小泉誠: 飛騨地域における地震活動の線状配列, 京都大学防災研究所年報, 45B, 555-559, (2002).
- 渡辺邦彦: 山崎断層における地殻変動観測と地震活動, 西播磨地域地震防災研究会報告書(平成 14 年 7 月), 16-30, (2002).
- 米崎文雄, 佐藤信光, 大家充裕, 伊藤 潔, 片尾 浩, 渡辺邦彦: 微小地震解析及び解析に関する研究, 一京都府・日吉ダム周辺の地震活動と湛水前後の活動の変化, 水資源公団試験研究所, 1-20, (2002).
- 許斐 直, 松村一男, 新井聡郎, 松波孝治, 片尾 浩, 近藤和男: 四国東部および周辺地域における地震の発震機構(2), 京都大学防災研究所年報, 45B, 517-523, (2002).
- 相澤広記, 吉村令慧, 山崎健一, 神田 径, 大志万直人, 橋本武志, Hurst, T., 坂中伸也, 古川勇也, 小川康雄, Tank, S.B., 上嶋誠, 小河勉, 小山茂, 鍵山恒臣, 塩崎一郎, 宇都智史, 吉村光弘, 吉本和範: 富士山地下の地殻深部比抵抗構造(序報), 京都大学防災研究所年報, 46B, 729-737, (2003).
- 相澤広記, 吉村令慧, 山崎健一, 神田 径, 大志万直人, 橋本武志, Hurst, Anthony W., 坂中伸也, 古川勇也, 小川康雄, Tank, Bulent S., 上嶋誠, 小河勉, 小山茂, 鍵山恒臣, 塩崎一郎, 宇都智史, 吉村光弘, 吉本和範: 富士山地下の地殻深部比抵抗構造(序報), 京都大学防災研究所年報, 46B, 729-737, (2003).
- 古沢 保: 横坑定常観測と地震予知, 京都大学防災研究所年報, 46A, 11-17, (2003).
- 伊藤 潔, 上野友岳, 和田博夫, 大見士朗, 吉井弘治: 跡津川断層系付近における詳細な震源分布と地下構造, 京都大学防災研究所年報, 46B, 681-690, (2003).
- 片尾 浩: 特定方向に連動する地震活動検出の試み, 京都大学防災研究所年報, 46B, 721-728, (2003).
- 中尾節郎, 片尾 浩, Mori James Jiro, 澁谷拓郎, 渡辺邦彦, 伊藤 潔, Enescu, Bogdan: 鳥取県中西部の地震(2002 年 9 月 16 日, Mj5.3)と山陰の地震活動について, 京都大学防災研究所年報, 46B, 701-708, (2003).
- 大見士朗, 和田博夫, 伊藤 潔: 焼岳火山の深部地震活動, 京都大学防災研究所年報, 46B, 691-699, (2003).
- 大見士朗: 鳥取県西部の深部低周波地震の現状, 地震予知連絡会会報, 69, 593-596, (2003).
- 大見士朗: 西南日本内陸の活断層に発生する深部低周波地震～鳥取県西部地域を中心として～, 地震予知連絡会会報, 70, 538-543, (2003).
- 重富國宏: 安政南海地震の前の井水の減少, 地震予知連絡会会報, 70, 421-422, (2003).
- 塩崎一郎, 宇都智史, 大志万直人, 鍵山恒臣: 中国地方の第四期火山の深部比抵抗構造に関する研究 一特に、鳥取県西部地震(2000、M7.3)の余震域の東縁に位置する大山火山周辺の無地震域に着目して一, 東京大学地震研究所広報, 40, 2-8, (2003).
- 竹本修三, 新谷昌人, 赤松純平, 森井 互, 東敏博, 福田洋一, 尾上謙介, 市川信夫, 川崎一郎, 大橋正健, 寺田聡一, 百瀬秀夫: 神岡鉱山における 100 メートルレーザ伸縮計について, 京都大学防災研究所年報, 46B, 749-755, (2003).
- 和田博夫, 伊藤 潔, 大見士朗, 平野憲雄: 飛騨地域周辺の微小地震活動, 京都大学防災研究所年報, 46B, 671-680, (2003).
- 赤松純平, 駒澤正夫, 中村佳重郎, 西村敬一: 京都・奈良盆地系の重力基盤構造について, 京都大学防災研究所年報, 47B, 871-876, (2004).
- Hashimoto, T., Mogi, T., Nishida, Y., Ogawa, Y., Ujihara, N., Oikawa, M., Saito, M., Nu., Mizuhashi, S., Wakabayashi, T., Yoshimura, R., Hurst, A., Utsugi, M., Tanaka, Y.: Self-Potential Studies in Volcanic Areas (5) - Rishiri, Kusatsu-Shirane, and White Island -, Journal of the Faculty of Science, Hokkaido University, Series VII (Geophysics), 12(2), 97-113, (2004).
- 笠谷貴史, 山口覚, 大志万直人, 鍵山恒臣, 高村直也, 大西信人: ULF-MT 計を用いた長期電磁場観測, 海洋科学技術センター試験研究報告書, 海洋科学技術センター試験研究報告書, 49, 15-22, (2004).
- 片尾 浩: 丹波山地の微小地震の発震機構, 京都大学防災研究所年報, 47B, 673-677, (2004).
- 片尾 浩: 丹波山地の地震活動活発化～その後～, 地震予知連絡会会報, 71, 639-642, (2004).
- 片尾 浩: 丹波山地の微小地震活動低下と 2004 年 4 月 16 日亀岡付近 M3.7 の地震について, 地震予知連絡会会報, 72, 515-521, (2004).
- 片尾 浩: 月齢と地震活動の関係, 地震予知連絡会会報, 72, 627-628, (2004).
- 許斐 直, 松村一男, 近藤和男: 近畿・四国地域の中央構造線付近の微小地震の分布(序報), 京都大学防災研究所年報, 47B, 679-690, (2004).
- 許斐 直, 松村一男, 近藤和男: 近畿・四国地域の中央構造線付近の微小地震の分布(序報), 京都大学防災研究所年報, 47B, 679-690, (2004).
- 松尾成光, 尾上謙介, 重富國宏, 森井 互, 浅田照行, 細善信, 高橋輝雄, 石井 紘: メカニカル拡大システムを用いた短スパンひずみ計の開発, 京都大学防災研究所年報, 48B, (2004).
- 森井 互, 重富國宏, 尾上謙介, 中村佳重郎, 大谷文夫, 細善信, 和田安男: 近畿地方の最近の地殻変動について, 京都大学防災研究所年報, 48B, (2004).
- 中尾節郎, 片尾 浩, 澁谷拓郎: 山崎断層周辺の地震活動, 京都大学防災研究所年報, 47B, 713-720, (2004).
- Noguchi, T., Watanabe, K., Itaba, S., Nishida, R., Umeda, Y.: Preparation and Distribution of Earthquake Information for the Disaster Prevention Program of Tottori prefecture - Preparation of Database Using GIS -, Annuals of the Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University, 47C, 139-147, (2004)."

尾上謙介, 梅田康弘, 重富國宏, 浅田照行, 細善信, 近藤和男: 昭和南海地震前に井水異常が報告された時点での地下水観測データセットの構築, 京都大学防災研究所年報, 48B, (2004).

大見士朗, 廣瀬一聖, Mori, Jim: 鳥取県西部に発生する深部低周波地震の現状, 京都大学防災研究所年報, 47B, 691-696, (2004).

岡本拓夫, 和田博夫, 平野憲雄, 竹内文朗, 伊藤 潔, 渡辺邦彦, 西上欽也, 前澤廣道: 福井県嶺北地方における最近の地震活動, 京都大学防災研究所年報, 47B, 757-763, (2004).

澁谷拓郎: 島根・広島県境地域, 三瓶山東麓周辺の地震活動, 京都大学防災研究所年報, 47, 697-703, (2004).

重富國宏, 梅田康弘, 尾上謙介, 浅田照行, 細善信, 近藤和男, 辰己賢一: 資料・証言にみる南海地震前の井水涸れ及び異常潮位, 京都大学防災研究所年報, 48B, (2004).

竹本修三, 和田安男, 伊藤 潔, 福田洋一, 森井 互, 百瀬秀夫, 中村光邦: 地殻ひずみの観測に及ぼす局所的日照変化の影響, 一花山と立山観測室のデータ比較, 京都大学防災研究所年報, 47B, 725-734, (2004).

Umeda, Y., Ohshiman, N., Hashimoto, M., Ito, K., Mori, J., Watanabe, K., Ohmi, S., Shibutani, T.: A comprehensive and effective earthquake information system: Contribution to earthquake hazard mitigation for a local government, Annuals of Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University, 47C, 71-75, (2004).

和田博夫, 伊藤 潔, 大見士朗, 平野憲雄: 白山火山周辺の微小地震活動, 京都大学防災研究所年報, 47B, 705-711, (2004).

渡辺邦彦: 西日本の地殻ブロック構造と地震活動, 京都大学防災研究所年報, 47B, 665-672, (2004).

Yoshimura, R., Oshiman, N.: Simulation of Global-scale Electromagnetic Induction: Effects of Near-surface Structure and Distribution of the Transition Zone Thickness, XI th IAGA Workshop on Geomagnetic Observatory Instruments, Data Acquisition and Processing Proceedings, 302-302, (2004).

(E) 講義・講演会テキスト

岡本拓夫, 平野憲雄, 竹内文朗, 西上欽也: 福井地震断層付近で発生する地震の特徴について, 日本地震学会講演予稿集, 148-148, (2004).

竹内文朗, 平野憲雄, 松村一男, 西上欽也, 岡本拓夫: 1976-1996 年の北陸観測所震源マップの概要, 日本地震学会講演予稿集, 151-151, (2004).

川崎一朗: 南海・東南海地震の予知研究の新たな地平をめざす, 京都大学防災研究所公開講座 (第 16 回), 15-24, (2005).

竹内文朗, 中村佳重郎, 松村一男, 渡辺邦彦: 山崎断層での石の密度と重力, 日本地震学会講演予稿集.

(F) 新聞・雑誌記事

梅田康弘: 異常現象と前兆現象, 京都新聞, (2002).

梅田康弘: 花折断層に沿った鯖街道, 京都新聞, (2002).

梅田康弘: 京滋で有感地震 3 回, 京都新聞, (2002).

梅田康弘: 京都市の北、活動数は減る (アフガニスタンと台湾で被害地震), 京都新聞, (2002).

梅田康弘: 滋賀県の被害地震, 京都新聞, (2002).

梅田康弘: 小さい地震ほどたくさん起こる, 京都新聞, (2002).

梅田康弘: 断層からおいしい水, 京都新聞, (2002).

梅田康弘: 平野部に地震が少ないのはなぜか, 京都新聞, (2002).

梅田康弘: 有感地震の多かった 9 月, 京都新聞, (2002).

梅田康弘: 岩盤の境界で常にあつれき プレート運動・上, 毎日新聞, (2002).

梅田康弘: マントルの動きで裂け目 プレート運動・下, 毎日新聞, (2002).

梅田康弘: 特徴理解し 被害最小限に, 毎日新聞, (2002).

梅田康弘: 2003 年十勝沖地震, 京都新聞, (2003).

梅田康弘: 花折断層の地震発生確率, 京都新聞, (2003).

梅田康弘: 宮城県北部の地震, 京都新聞, (2003).

梅田康弘: 京都盆地の活断層, 京都新聞, (2003).

梅田康弘: 今年の被害地震, 京都新聞, (2003).

梅田康弘: 水が地震を引き起こす (1) 注入実験で判明, 京都新聞, (2003).

梅田康弘: 水が地震を引き起こす (2) そのメカニズム, 京都新聞, (2003).

梅田康弘: 琵琶湖西岸断層帯 (1) 地震確率, 京都新聞, (2003).

梅田康弘: 琵琶湖西岸断層帯 (2) 地震の連動性, 京都新聞, (2003).

梅田康弘: 余震の余震, 京都新聞, (2003).

梅田康弘: 2002 年に起きた地震, 京都新聞, (2003).

梅田康弘: 亀岡断層で M4.5、油断は禁物, 京都新聞, (2003).

梅田康弘: 地震少なくとも防災意識高く 「宮城県沖の地震」の教訓, 毎日新聞, (2003).

梅田康弘: 消波ブロックさらう津波の底力 03 年十勝沖地震, 毎日新聞, (2003).

梅田康弘: 南海地震井戸で予知, 毎日新聞, (2003).

川崎一朗: 鍵となるか「マッピング」, 毎日新聞 2004 年 12 月 16 日, (2004).

川崎一朗: サイレント地震, 月刊言語, 33(12), 2-3, (2004).

川崎一朗: 超低速の断層すべりを追う, 毎日新聞 2004 年 11 月 17 日, (2004).

梅田康弘: 12 月 1 日京都で M4.0 の地震, 京都新聞, (2004).

梅田康弘: イラン南東部の地震 耐震性で悔やまれる, 京都新聞, (2004).

梅田康弘: マグニチュード 決め方, 京都新聞, (2004).

梅田康弘: マグニチュード 生い立ち, 京都新聞, (2004).

梅田康弘: マグニチュード 頭打ち, 京都新聞, (2004).

梅田康弘: 紀伊半島沖の連続地震, 京都新聞, (2004).

梅田康弘: 紀伊半島南東沖の地震(続), 京都新聞, (2004).

梅田康弘: 最後の被害地震から 174 年, 京都新聞, (2004).

梅田康弘: 新潟県中越地震, 京都新聞, (2004).

梅田康弘: 丹波山地、続く地震の静穏期, 京都新聞, (2004).

梅田康弘: 地震活動の静穏期と活動期, 京都新聞, (2004).

梅田康弘: 琵琶湖西岸断層帯 予測震度, 京都新聞, (2004).

梅田康弘: 「南海」の揺れはるか大きく 紀伊半島南東沖の地震, 毎日新聞, (2004).

梅田康弘: スマトラ沖の巨大地震, 京都新聞, (2005).

梅田康弘: 京都府内の活断層評価, 京都新聞, (2005).

梅田康弘: 地震活動の活発化と静穏化の原因, 京都新聞, (2005).

梅田康弘: 地震直前、井戸水がかれた 「予知」の糸口を探る上, 毎日新聞, (2005).

梅田康弘：精神的・経済的負担の覚悟必要 「予知」の糸口を探る下，毎日新聞，(2005)。

(G1) 講演会概要集

- Iio, Y.: Three Dimensional P and S wave Velocity Structures in the Aftershock area of the 1984 Western Nagano Prefecture, Japan Earthquake - Implications for the Relationship between Structures and Earthquake Occurrences -, International Workshop on Physics of Active Fault, , S2-2-, (2002).
- Iio, Y., Kobayashi, Y., Tada, T.: Large earthquakes initiate by the acceleration of slips on the downward extensions of seismogenic faults, Westren Pacific Geophysical Meeting, , SE21A-05-, (2002).
- Iio, Y., Kobayashi, Y.: A physical understanding of the beginning of large intraplate earthquakes, Westren Pacific Geophysical Meeting, , SE32E-01-, (2002).
- 飯尾能久, 小林洋二：内陸地震の予知へ向けて－何が内陸地震の発生間隔を決めるのか？－，地球惑星科学関連学会 2002 年合同大会, , S084-003-, (2002).
- 飯尾能久, 小笠原宏：南アフリカ金鉱山における半制御地震発生実験 (31) (2002-2006 年度)，日本地震学会講演秋期大会, , A84-, (2002).
- 飯尾能久：内陸地震の発生過程について－断層の深部すべり等の観点から－，日本地震学会講演秋期大会, , B24-, (2002).
- Imanishi, Ka., Takeo, M., Ito, H., Ellsworth, W., Matsuzawa, T., Kuwahara, Y., Iio, Y., Horiuchi, S.: Source scaling relationships of small earthquakes estimated from the inversion method using stopping phases, AGU fall meeting, S41C-0102-, (2002).
- 松波孝治, 大見士朗：近畿における大都市圏強震動波形ネットワーク，地球惑星科学関連学会 2002 年合同大会予稿集, S042-P021-, (2002).
- 大見士朗：西南日本の活断層深部で発生する低周波地震，地球惑星科学関連学会 2002 年合同大会予稿集, G007-003*-, (2002).
- 大見士朗, 和田博夫, 伊藤 潔：最近の飛騨山脈の深部地震活動，日本地震学会講演予稿集 2002 年度秋期大会, C51-, (2002).
- Yoshimura, R., Oshiman, N.: Geoelectromagnetic induction in a 3-D sphere: azimuthally symmetric and asymmetric test computations, 2002 地球惑星科学合同大会予稿集, E016-001-, (2002).
- Horiuchi, S., Takai, K., Iio, Y., Ito, S., Zhao, D.: STRESS DROP, FOCAL MECHANISM AND SEISMIC VELOCITY DISTRIBUTIONS NEAR THE FAULT ZONE OF WESTERN NAGANO EARTHQUAKE, IUGG2003, 0830-186 SS02/04A/D-028-, (2003).
- 堀内茂木, 高井香里, 伊藤 忍, 飯尾能久：1984 年長野県西部地震の断層破砕帯の内と外で起こる地震の違い－応力降下量，発震機構，地震波形の比較－，日本地震学会講演予稿集秋期大会, , B085-, (2003).
- Iio, Y., Sagiya, T., Kobayashi, Y., Shiozaki, I.: Water-weakened lower crust and its role in the concentrated deformation in the Japanese islands, AGU fall meeting, T51A-06-, (2003).
- Iio, Y., Sagiya, T., Kobayashi, Y.: A NEW MODEL OF THE

EARTHQUAKE CYCLE AND STRESS ACCUMULATION OF INTRAPLATE EARTHQUAKES, IUGG2003, 1430 JSS01/01P/A03-002-, (2003).

Iio, Y., Sagiya, T., Kobayashi, Y.: A new model of the earthquake cycle and stress accumulation of intraplate earthquakes, IUGG2003, JSS01/A03-002-, (2003).

飯尾能久, 鷺谷 威, 小林 洋二：歪集中帯で起こっていること－上部地殻の非弾性変形－，地球惑星科学関連学会 2003 年合同大会, , S075-008-, (2003).

飯尾能久, 鷺谷 威, 小林洋二：内陸地震の発生過程のモデル化 (1)－列島規模の枠組みについて－，日本地震学会講演予稿集秋期大会, , B014-, (2003).

Ito, S., Ito, H., Iio, Y., Horiuchi, S.: RUPTURE INITIATION PROCESS OF SMALLER EARTHQUAKES FOUND FROM ATTENUATION-CORRECTED SEISMOGRAMS RECORDED AT THREE BOREHOLES, IUGG2003, 0830-053 SS01/03A/D-017-, (2003).

伊藤 忍, 堀内 茂木, 飯尾能久, 伊藤 久男：複数のボアホール地震記録によって得られた微小地震の初期破壊過程，地球惑星科学関連学会 2003 年合同大会, , S044-P013-, (2003).

柄谷 和輝, 芝崎 文一郎, 飯尾能久, 鷺谷 威, 堀川 晴央, 奥田 洋司：断層深部における非線形流動解析ソフトの開発，地球惑星科学関連学会 2003 年合同大会, , S075-P008-, (2003).

柄谷和輝, 芝崎文一郎, 田中秀実, 飯尾能久, 奥田洋司：FEM による地殻の非弾性変形のモデル化 (I)－非線形流動と塑性の共存－，日本地震学会講演予稿集秋期大会, , B004-, (2003).

Komazawa, M., Nakamura, K., Nishimura, K., Akamatsu, J., Shichi, R., Yamamoto, A.: 3D Gravity basement structure associated with active faults in middle part of Kinki district, West Japan, IUGG 2003, Sapporo, Japan, June 30 - July 11, 2003, (2003).

小村健太郎, 池田隆司, 飯尾能久, 松田達生：活断層ドリリングによる断層破砕帯の構造と応力，日本地震学会講演予稿集秋期大会, , C015-, (2003).

Ogasawara, H., Iio, Y., Nakatani, M., Takeuchi, J., Shimoda, N., Ishii, H., Yamauchi, T., Satoh, T., Kawakata, H., Kato, A., Ward, A., Murphy, S., McGill, R., Mendecki, A., Aswegen, G., Seesag, R.: An attempt to directly monitor stress buildup and triggered earthquakes within one fault distance in South African deep gold mines, AGU fall meeting, S41C-0102-, (2003).

Ogasawara, H., Iio, Y.: The Research Group FOR SEESADGM*, SEMI-CONTROLLED EARTHQUAKE-GENERATION EXPERIMENTS IN SOUTH AFRICAN DEEP GOLDMINE (2002 - 2006), IUGG2003, 1730 SS02/02P/A03-014-, (2003).

大見士朗：鳥取県西部地震震源域の深部低周波地震の現状，地球惑星科学関連学会 2003 年合同大会予稿集, S075-018-, (2003).

Omura, K., Ikeda, R., Iio, Y., Arai, T., Kobayashi, K., Shimada, K., Tanaka, H., Hirano, S., Matsuda, T.: Characteristics of logging data for fracture zones in Hirabayashi NIED borehole drilling through Nojima fault, AGU fall meeting, T22B-0521-, (2003).

Sagiya, T., Nishimura, T., Iio, Y.: COMPREHENSIVE DEFORMATION MODEL AROUND THE CENTRAL ITOIGAWA-SHIZUOKA TECTONIC LINE, CENTRAL JAPAN, IUGG2003, 1115 SS02/02A/A03-010-, (2003).

関口 涉次, 飯尾能久, 大見士朗, 伊藤 久男, 堀内 茂木: 稠密地震観測データを用いた長野県西部地域の3次元速度構造の時間変化, 地球惑星科学関連学会 2003 年合同大会, S053-P012-, (2003).

Shibazaki, B., Garatani, K., Iio, Y., Tanaka, H.: Numerical modeling of slip processes at the deeper part of the inland seismogenic fault (I), 地球惑星科学関連学会 2003 年合同大会, S075-P007-, (2003).

Shibutani, T.: Relationship between source process of the 2000 Western Tottori Earthquake and heterogeneous structure on the mainshock fault, IUGG2003 Program, SS01/03A/D-018-, (2003).

HIGH BOUGUER ANOMALY MEASURED NEAR AND AROUND THE YAMASAKI FAULT, SOUTHWEST JAPAN, IUGG 2003 poster, (2003).

卜部卓, 鶴岡弘, 平田直, 植平賢司, 大見士朗: IP/DVB 方式による地震データの衛星配信実験, 地球惑星科学関連学会 2003 年合同大会予稿集, S048-P010-, (2003).

鷺谷 威, 西村 卓也, 飯尾能久: 糸魚川-静岡構造線断層系中北部の応力蓄積過程, 地球惑星科学関連学会 2003 年合同大会, S075-P009-, (2003).

Yoshimura, R., Oshiman, N.: Global-scale electromagnetic induction: 3-D test computations and the response of a realistic structure, IUGG 2003 Abstracts Week B, B190-B190, (2003).

赤松純平, 西村敬一, 中村佳重郎, 駒澤正夫, 矢野孝雄, 盛川 仁: 中国雲南省麗江盆地の基盤構造とテクトニクスについて, 「ユーラシア(超)大陸の構造と形成に関するワークショップ」収録, 6-6, (2004).

Akamatsu, J., Jiang, L., Li, K., Nishimura, K., Komazawa, M., Nakamura, K., Yano, T., Morikawa, H.: Bedrock structure of Lijiang Basin, Yunnan, China and Its Implications for Seismic Hazard and Regional Tectonics, Proceedings of First Asia-Oceania Geosciences Society Annual Meeting, Singapore, July 5 - 9, 2004, (2004).

飯尾能久, 鷺谷 威, 海野徳仁, 西村卓也, 高橋邦彦, 本間高弘: 長町-利府断層帯における変形過程の総合モデル, 日本地質学会秋季大会, S32-, (2004).

Ohmi, S.: Deep-low Frequency Earthquakes on the Downward Extension of the Seismogenic Faults, Eos Trans. AGU, 85(28), West. Pac. Geophys. Meet. Suppl., Abstract, S13A-05, (2004).

Ohmi, S., Hirose, I., Mori, J.: Fluid Activity Around the Downward Extension of the Seismogenic Fault of the 2000 Western Tottori Earthquake Inferred From Deep Low-Frequency Earthquakes, Eos Trans. AGU, 85(47), Fall Meet. Suppl., Abstract, S42B-04, (2004).

大見士朗: 西南日本で発生する深部低周波イベントについて, 地球惑星科学関連学会 2004 年合同大会予稿集, I019-008*, (2004).

大見士朗, 渡辺邦彦, 梅田康弘, 浜田定則, 小林亮志: 地震情報を自治体の地震防災に利活用するためのシステムの試作, 地球惑星科学関連学会 2004 年合同大会予稿集, S046-027-, (2004).

大見士朗, 和田博夫, 伊藤 潔: 焼岳火山近傍で発生した Mj3.2 の地震(2003/12/30 12:09)とそれに引き続く深部地震活動, 地球惑星科学関連学会 2004 年合同大会予稿集, V055-015-, (2004).

大見士朗: 状態空間モデルによる深部低周波地震の信号抽出の試み, 日本地震学会講演予稿集2004 年度秋季大会, A007-, (2004).

澁谷拓郎: 再決定による震源の精密化と b 値の空間分布のマッピング-1. 山崎断層-, 2004 年地球惑星科学関連学会合同学会, S046-P020-, (2004).

澁谷拓郎: 山崎断層周辺の最近 29 年間の地震活動と夢前町付近の地震(2004 年 7 月 12 日, Mj=3.9)の意味合い, 日本地震学会講演予稿集 2004 年度秋季大会, A036-, (2004).

Yo.: What controls the occurrence of shallow intraplate earthquakes?, Symposium "Tectonics on Human Time Scales", 72-75, (2004).

吉村令慧, 山崎健一: 1984 年長野県西部地震震源域周辺での自然電位観測(序報), 2004 地球惑星科学合同大会予稿集, V087-P002-, (2004).

吉村令慧, 山崎健一, 大志万直人: 1984 年長野県西部地震震源域周辺での自然電位観測(2), 第118回地球電磁気・地球惑星圏学会講演会講演予稿集, D31-P012-, (2004).

吉村令慧, 山崎健一, 大志万直人: 御嶽山南東麓群発地震域周辺における自然電位分布, 日本地震学会講演予稿集 2004 年度秋季大会, P032-, (2004).

大見士朗, 和田博夫, 伊藤 潔, 堀貞喜: 2004 年 1 月以降の焼岳火山の深部低周波地震活動, 地球惑星科学関連学会 2005 年合同大会予稿集, V055-024-, (2005).

(G2) 学術誌(査読無し)

平田美佐子, 梅田康弘, 川方裕則: 2000 年鳥取県西部地震の初期破壊, 月刊地球/号外, 38, 162-166, (2002).

伊藤 潔: 地殻内地震発生層, 月刊地球, 号外(38), 114-121, (2002).

伊藤 潔, エネスク, ボグダン: 2000 年鳥取県西部地震と不均質構造, 月刊地球, 号外(38), 167-173, (2002).

西上欽也: 野島断層における繰り返し注水実験, 月刊地球, 号外(38), 95-101, (2002).

西上欽也, 土井一生, 水野高志, 田所敬一, 下川明子: 2000 年鳥取県西部地震の震源断層を探索, 月刊地球, 号外(38), 174-181, (2002).

尾上謙介, 細善信, 藤田安良, 土居光, 田中寅夫: 中央構造線における光波測量, 京都大学防災研究所年報, 46B, 525-533, (2002).

大見士朗: 西南日本内陸の活断層に発生する深部低周波地震, 西南日本内陸の活断層に発生する深部低周波地震, 109-113, (2002).

大見士朗: 鳥取県西部地震の震源域の深部低周波地震, 西南日本内陸の活断層に発生する深部低周波地震, 157-161, (2002).

大志万直人: 西日本の電気伝導度構造, 月刊地球, 号外(38), 82-90, (2002).

土井一生, 西上欽也, 田所敬一, 下川明子: 2000 年鳥取県西部地震の震源域およびその周辺における S 波反射体の三次元分布, 月刊地球, 25, 647-651, (2003).

Hashimoto, M.: 月刊地球, 25(2), 130-136, (2003).

Hashimoto, M.: 月刊地球, 25(4), 293-301, (2003).

Hashimoto, M.: 月刊地球/号外, 41, 18-26, (2003).

飯尾能久, 笠原 稔, 加藤照之, 平田 直, 宮崎真一: 日本列島及び周辺域の長期広域地殻活動, 月刊地球, 25(10), 743-748, (2003).

Ito, T., Ha.: , 月刊地球, 25, 114-119, (2003).

伊藤 潔, 和田博夫: 跡津川断層の地震活動と断層クリープ, 月刊地球, 25, 143-148, (2003).

伊藤 潔: 人工地震による中部地方の地震波速度構造, 月刊地球, 25, 945-952, (2003).

小笠原 宏, 飯尾能久, 中谷正生: 南ア金鉱山における半制御地震発生実験 (2002-2006) , 月刊地球, 25(10), 815-817, (2003).

芝崎文一郎, 飯尾能久, 田中秀実: 断層深部で発生するゆっくり地震の物理機構について—不安定—安定遷移領域の構成則—, 月刊地球, 25(10), 803-808, (2003).

田所敬一, 下川明子, 西上欽也, 水野高志, 土井一生: 稠密地震観測による鳥取県西部地震の震源断層破碎帯内のフラクチャ分布, 月刊地球, 25, 632-636, (2003).

梅田康弘: 書評:「菊池正幸編 地殻ダイナミクスと地震発生」, 地震ジャーナル, 36, 73-73, (2003).

和田博夫, 伊藤 潔: 中部地方北西部の地震活動域, 月刊地球, 25, 929-937, (2003).

飯尾能久: 地殻応力測定の意義, 月刊地球, 26, 2-12, (2004).

飯尾能久, 小林洋二: 内陸地震発生の仕組み—応力蓄積過程を中心に—, 月刊地球号外, 46, 31-51, (2004).

梅田康弘: 紀伊半島南東沖の地震—南海トラフの巨大地震との関連は?—, SEISMO, 8-9, (2004).

Kasahara, M., Takahashi, H., Okazaki, N., Nakao, S., Sagiya, T., Ito, T., Ohya, F., Sato, K., Fujita, Y., Hashimoto, M., Hoso, Y., Kato, T., Iinuma, T., Fukuda, J., Matsushima, T., Kohno, Y.: , 月刊地球／号外, 49, 105-111, (2005).

川崎一朗: 特集:Lamb の問題 100 年の歩み, 地震, 57, 315-316, (2005).

10.7.8 火山活動研究センター

(A1) 完全査読論文

Iguchi, M., Saito, E., Nishi, Y., Tameguri, T.: Evaluation of recent activity at Satsuma-Iwojima - Felt earthquake on June 8, 1996 -, Earth, Planets and Space, 54, 187-195, (2002).

Kanda, W., Mori, S.: Self-potential anomaly of Satsuma-Iwojima Volcano, Earth, Planets and Space, 54, 231-237, (2002).

Koike, K., Omura, M., Iguchi, M., Matsunaga, N., To., RE.: Detection of Distribution of the 1998 Pyroclastic Flows, Asian Journal of Geoinformatics, 2, 9-17, (2002).

Tameguri, T., Iguchi, M., Ishihara, K.: Mechanism of explosive eruptions from moment tensor analyses of explosion earthquakes at Sakurajima volcano, Japan, Bulletin of the volcanological society of Japan, 47(4), 197-215, (2002).

木股文昭, 森濟, 山本圭吾: RTKGPS による有珠山地殻変動リアルタイムモニター (2000 年 4 月 15~30 日) , 火山, 47, 167-170, (2002).

鬼澤真也, 大島弘光, 青山裕, 森濟, 前川徳光, 鈴木敦生, 岡田弘, 筒井智樹, 松尾紉道, 及川純, 大湊隆雄, 山本圭吾, 森健彦, 平貴昭, 宮町宏樹, 小山順二, 蓬田清, 渡辺顕二, 松原わかな, 岡田純(他): 有珠火山における人工地震探査—観測および初動の読み取り—, 東京大学地震研究所彙報, 78, 121-143, (2003).

西 潔, 石原和弘: 火山地域における震源計算の提案, 火山, 48, 407-413, (2003).

古川邦之, 齋藤武士, 鎌田浩毅, 檀原徹, 味喜大介, 石原和弘: 沖小島ボーリングコア試料の岩相記載と FT 年代—始良カルデラ南縁における先カルデラ活動史—, 火山, 49, 491-497, (2003).

綿貫陽子, 鎌田浩毅, 味喜大介, 石原和弘: 桜島火山大正噴火における二次溶岩流の分布と流出時期, 火山, 513-518, (2003).

(A2) 一般査読論文

石原和弘: 第 6 次火山噴火予知計画の狙い, 火山, 48, 109-113, (2003).

(A3) アブストラクト査読論文

(B) 解説・総説

石原和弘: 桜島の防災対策—火山学の視点から—, 消防科学, 70, (2002).

井口正人, 鍵山恒臣, 味喜大介: 薩南諸島の活火山における空中赤外熱測定, 月刊地球, 号外 39, 193-200, (2002).

Ishihara, K.: Activity of Sakurajima Volcano, Report on Volcanic Activities and Volcanological Studies in Japan for the Period from 1999 to 2002, 4-8, (2003).

Ishihara, K.: National project for prediction of volcanic eruptions, Report on Volcanic Activities and Volcanological Studies in Japan for the Period from 1999 to 2002, 71-72, (2003).

井口正人: 国際共同研究の推進, 火山, 48, 169-172, (2003).

小林哲夫, Kartadinata, M. Nuguraha, 井口正人: インドネシア, パンパンダヤン火山の 2002 年噴火, 火山, 49, 41-43, (2004).

(C) 著書

石原和弘：防災事典（火山編集主査），築地書館，(2002).
石原和弘：火山性地震・火山性微動，防災事典，47-48，(2002).
井口正人：メラピ火山，世界の富士山，30-33，(2004).
井口正人：スメル火山，世界の富士山，34-36，(2004).
井口正人：火山災害，地理情報科学事典，246-247，(2004).

(D) 紀要・報告書

宇津木 充，田中良和，神田 径，松島 健：口永良部島火山における空中磁気測量，薩摩硫黄島火山・口永良部島火山の集中総合観測—2000 年 8 月～2001 年 3 月—，121-127，(2002).
神田 径，森 真陽：薩摩硫黄島における自然電位・比抵抗調査，薩摩硫黄島火山・口永良部島火山の集中総合観測—2000 年 8 月～2001 年 3 月—，33-41，(2002).
神田 径，田中良和，宇津木 充：口永良部島火山における全磁力連続観測，薩摩硫黄島火山・口永良部島火山の集中総合観測—2000 年 8 月～2001 年 3 月—，109-119，(2002).
神田 径，森 真陽，坂中伸也，Srigutomo, Wahyu, 浅利晴紀，鍵山恒臣：口永良部島火山における MT 法比抵抗構造調査，薩摩硫黄島火山・口永良部島火山の集中総合観測—2000 年 8 月～2001 年 3 月—，129-135，(2002).
神田 径：コメント：火山噴火予知関連，磁気圏・電離圏シンポジウム（地球電磁気学将来計画シンポジウム），189-190，(2002).
山本英和，佐野剛，奥田隆，山本圭吾，吉川慎，外輝明，松本聡，八木原寛，平野舟一郎，金尾政紀，巻和夫，小林徹，神出裕一郎，高橋透，鶴我佳代子，佐藤峰司，橋野弘憲，諏訪謡子，武田嘉人，山下哲央（他）：岩手山における人工地震探査—観測および初動の読み取り—，東京大学地震研究所彙報，77，1-25，(2002).
為栗 健，井口正人，石原和弘：桜島火山における爆発的噴火の力学過程—爆発地震の震源過程と空気振動の関係—，京都大学防災研究所年報，45B，609-616，(2002).
為栗 健，井口正人，石原和弘：桜島火山における爆発的噴火の力学過程—爆発地震の震源過程と空気振動の関係—，京都大学防災研究所年報，45B，609-616，(2002).
井口正人，山本圭吾，味喜大介，高山鉄朗，寺石眞弘，園田保美，藤本繁男，鬼澤真也，鈴木敦生，八木原寛，平野舟一郎：口永良部島火山における最近の地盤変動—1995 年～2001 年—，京都大学防災研究所年報，45B，601-608，(2002).
井口正人：薩摩硫黄島火山における最近の火山活動—1975 年～2001 年—，薩摩硫黄島火山・口永良部島火山の集中総合観測，1-12，(2002).
井口正人，高山鐵朗，為栗 健，西 祐司，松島喜雄：薩摩硫黄島における火山性地震の特徴，薩摩硫黄島火山・口永良部島火山の集中総合観測，13-24，(2002).
井口正人，高山鐵朗，味喜大介，斉藤英二，西 祐司：鬼界カルデラの地盤変動，薩摩硫黄島火山・口永良部島火山の集中総合観測，29-32，(2002).
井口正人，鍵山恒臣：薩摩硫黄島火山における空中赤外熱測定，薩摩硫黄島火山・口永良部島火山の集中総合観測，43-50，(2002).
井口正人：口永良部島火山における火山活動—1992 年～2000 年—，薩摩硫黄島火山・口永良部島火山の集中総合観測，77-86，(2002).

井口正人，山本圭吾，高山鐵朗，前川徳光，西村太志，橋野弘憲，八木原寛，平野舟一郎：口永良部島火山における火山性地震観測，薩摩硫黄島火山・口永良部島火山の集中総合観測，99-108，(2002).
井口正人，山本圭吾，味喜大介，高山鐵朗，寺石眞弘，園田保美，鬼澤真也，八木原寛，平野舟一郎：口永良部島火山における地盤変動観測，薩摩硫黄島火山・口永良部島火山の集中総合観測，109-120，(2002).
井口正人，鍵山恒臣：口永良部島火山における空中赤外熱測定，薩摩硫黄島火山・口永良部島火山の集中総合観測，137-142，(2002).
山下幹也，小林勝幸，長浜庸介，平山繁幸，岩切誠一郎，伊藤壮介，吉川美由紀，中村めぐみ，大島光景，森脇健（他）：岩手山における人工地震探査—観測および初動の読み取り—，東京大学地震研究所彙報，77，1-25，(2002).
斉藤英二，浦井 稔，井口正人：薩摩硫黄島における GPS 観測，薩摩硫黄島火山・口永良部島火山の集中総合観測，25-28，(2002).
大島弘光，水橋正英，井口正人：口永良部島火山の地下水，薩摩硫黄島火山・口永良部島火山の集中総合観測，153-158，(2002).
田中 聡，浜口博之，山脇輝夫，西村太志，植木貞人，中道治久，宮町宏樹，筒井智樹，松尾のり道，及川純，大湊隆雄，宮岡一樹，鬼澤真也，森健彦，相澤幸司，中原恒，堀修一郎，佐藤俊也，河野俊夫，仁田交市（他）：岩手山における人工地震探査—観測および初動の読み取り—，東京大学地震研究所彙報，77，1-25，(2002).
味喜大介，井口正人：口永良部島新岳溶岩流の古地磁気学的年代推定，薩摩硫黄島火山・口永良部島火山の集中総合観測，159-168，(2002).
味喜大介，井口正人，江頭庸夫，Solihin, Agus：口永良部島新岳の溶岩流の古地磁気学的年代推定，薩摩硫黄島火山・口永良部島火山の集中総合観測，159-168，(2002).
Kriswati, E., Iguchi, M.: Inflation of the Aira Caldera prior to the 1999 Eruptive Activity at Sakurajima Volcano Detected by GPS Network in South Kyushu, 京都大学防災研究所年報，46B，817-826，(2003).
井口正人，神田 径，石原和弘，田中良和：火山爆発場としての口永良部島火山の浅部熱水系の推定，火山爆発のダイナミクス平成 14 年度研究成果報告書，63-69，(2003).
鬼澤真也，大島弘光，青山裕，森濟，前川徳光，鈴木敦生，岡田弘，筒井智樹，松尾紉道，及川純，大湊隆雄，山本圭吾，森健彦，平貴昭，宮町宏樹，小山順二，蓬田清，渡辺顕二，松原わかな，岡田純（他）：有珠火山における人工地震探査—観測および初動の読み取り—，東京大学地震研究所彙報，78，121-143，(2003).
神田 径，田中良和，宇津木 充，藤井郁子：地磁気から見た口永良部島火山の蓄熱場，火山爆発のダイナミクス平成 14 年度研究成果報告書，70-74，(2003).
神田 径，藤井郁子：カルマンフィルターによる火山性磁場変動検出の試み，京都大学防災研究所年報，46B，797-803，(2003).
長谷英彰，石戸経士，橋本武志，神田 径，佐藤佳子：九州火山の岩石のゼータ電位測定，京都大学防災研究所年報，46B，787-795，(2003).

山本圭吾, 大久保修平, 古屋正人, 新谷昌人, 松本滋夫, 高山鉄朗, 石原和弘: 桜島火山における絶対重力測定(1998 年〜2002 年), 京都大学防災研究所年報, 46B, 827-833, (2003).

為栗 健, 井口正人, 石原和弘: 桜島火山における爆発的噴火の力学過程, 火山爆発のダイナミックス平成 14 年度研究成果報告書, 75-81, (2003).

為栗 健, 井口正人, Triastuty, Hetty, Mulyana, Iyan, Hendrasto, Muhammad, Wirakusumah, Achmad D.: インドネシア・スメル火山における小規模爆発に伴う地震および空気振動観測, 京都大学防災研究所年報, 45B, 779-786, (2003).

為栗 健, 井口正人, Triastuty, Hetty, Mulyana, Ian, Hendrasto, Muhamad, Wirakusma, Achamad D.: インドネシア・スメル火山における小規模爆発に伴う地震および空気振動観測, 京都大学防災研究所年報, 46B, 609-616, (2003).

井口正人: 諏訪之瀬島火山におけるブルカノ式〜ストロンボリ式噴火の研究, 火山爆発のダイナミックス, 科学研究費補助金・特定領域研究(領域代表: 井田喜明) 平成 14 年度研究成果報告書, 59-62, (2003).

井口正人, 神田 径, 石原和弘, 田中良和: 火山爆発場としての口永良部島火山の浅部熱水系の推定, 火山爆発のダイナミックス, 科学研究費補助金・特定領域研究(領域代表: 井田喜明) 平成 14 年度研究成果報告書, 63-69, (2003).

相澤広記, 吉村令慧, 山崎健一, 神田 径, 大志万直人, 橋本武志, Hurst, Tony, 坂中伸也, 古川勇也, 小川康雄, Bulent Tank, S., 上嶋 誠, 小河 勉, 小山 茂, 鍵山恒臣, 塩崎一郎, 宇都智史, 吉村光弘, 吉本和範: 富士山地下の地殻深部比抵抗構造(序報), 京都大学防災研究所年報, 46B, 729-737, (2003).

味喜大介, 宇都浩三, 周藤正史, 石原和弘: 古地磁気と全岩化学組成からみた桜島火山観測井ボーリングコア中の溶岩の対比, 京都大学防災研究所年報, 第 46 号 B, 835-840, (2003).

齋藤晃, 水橋正英, 渡辺秀文, 鍵山恒臣, 萩原道徳, 中道治久, 長田昇, 小山悦郎, 井本良子, 小林知勝, 桧山洋平, 杉岡学, 石峯康浩, 山岡耕春, 奥田隆, 小池勝彦, 鈴木孝幸, 鶴我佳代子, 清水洋, 松本聡(他): 有珠火山における人工地震探査一観測および初動の読み取り一, 東京大学地震研究所彙報, 78, 121-143, (2003).

井口正人, 鍵山恒臣, 平林順一: 草津白根山における赤外線熱映像観測, 第 4 回草津白根火山の集中総合観測報告書, 49-57, (2004).

野上健治, 井口正人, 石原和弘, 平林順一, 味喜大介: 火山噴火様式と火山噴出物中の揮発性成分の挙動に関する研究, 京都大学防災研究所年報, 47B, 765-771, (2004).

Fukushima, D., Ishihara, K.: Practical research on educational dissemination for volcanic disaster prevention, Ann. Disast. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., 47C, 163-169, (2004).

Ishihara, K., Iguchi, Ma., Miki, D., Yamamoto, K., Kanda, W., Tameguri, T., Mori, Ta., Oshima, H., Hirabayashi, J., Nogami, K., Sudo, Y.: Studies on evaluation method of volcanic activity and the improvement of volcanic information: Preliminary report, Ann. Disast. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., 47C, 77-82, (2004).

Mori, T., Ishihara, K., Hirabayashi, J., Kazahaya, K., Mori, T.: SO2 gas monitoring by DOAS at Sakurajima and Suwanosejima volcanoes, Ann. Disast. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., 47C, 157-162, (2004).

井口正人, 為栗 健, 森健彦, 高山鉄朗, 八木原寛, 平野舟一郎, 大倉敬宏, 吉川慎: 活動火口近接観測による噴火機構の研究: 諏訪之瀬島火山の小規模噴火地震に伴う長周期パルス, 火山爆発のダイナミックス平成 15 年度研究成果報告書, 61-66, (2004).

大野正夫, 神田 径, 宇津木 充, 北田直人, 後藤秀作, 田中良和: 諏訪之瀬島御岳東部の温泉の地球化学, 火山爆発のダイナミックス平成 15 年度研究成果報告書, 110-111, (2004).

神田 径, 田中良和, 宇津木 充, 橋本武志, 北田直人, 後藤秀作, 大野正夫: 地磁気および自然電位による火山爆発場の観測的研究, 火山爆発のダイナミックス平成 15 年度研究成果報告書, 67-74, (2004).

西村太志, 井口正人, 大島弘光, 青山裕, 筒井智樹, 田中 聡, 藤田英輔, 熊谷博之, 中道治久, 及川純, 大湊隆雄, 小林知勝, 武尾実, 鬼澤真也, 高木憲朗, 中野優, 為栗 健, 須藤靖明, 森健彦, 馬越孝道(他): 日本の火山性地震・微動のデータベース, (2004).

八木原寛, 平野舟一郎, 井口正人, 為栗 健, 森健彦, 高山鉄朗, 大倉敬宏, 吉川慎: 諏訪之瀬島火山の火山性地震の発生位置: 速度構造および観測点補正値の推定と震源分布, 火山爆発のダイナミックス平成 15 年度研究成果報告書, 90-94, (2004).

為栗 健, 井口正人: 鉛直方向に配置した多点震源による爆発地震 D 相の解析, 火山爆発のダイナミックス平成 15 年度研究成果報告書, 75-78, (2004).

為栗 健, 井口正人, 八木原寛: 諏訪之瀬島火山において 2003 年 11 月に発生した噴火地震の初動解析, 京都大学防災研究所年報, 45B, 773-778, (2004).

為栗 健, 井口正人: 鉛直方向に配置した多点震源による爆発地震 D 相の解析, 火山爆発のダイナミックス, 科学研究費補助金・特定領域研究(領域代表: 井田喜明) 平成 15 年度研究成果報告書, 75-78, (2004).

為栗 健, 井口正人, 八木原寛: 諏訪之瀬島火山において 2003 年 11 月に発生した噴火地震の初動解析, 京都大学防災研究所年報, 47B, 773-777, (2004).

井口正人, 為栗 健, 森健彦, 高山鉄朗, 八木原寛, 平野舟一郎, 大倉敬宏, 吉川慎: 火口近接観測による噴火機構の研究: 諏訪之瀬島火山の小規模噴火地震に伴う長周期パルス, 火山爆発のダイナミックス, 科学研究費補助金・特定領域研究(領域代表: 井田喜明) 平成 15 年度研究成果報告書, 61-66, (2004).

平林順一, 及川光弘, 井口正人, 八木原寛, 森健彦, 篠原宏志: 諏訪之瀬島における爆発と火山ガスの蓄積, 火山爆発のダイナミックス, 科学研究費補助金・特定領域研究(領域代表: 井田喜明) 平成 16 年度研究成果報告書, 45-48, (2005).

井口正人, 平林順一, 八木原寛, 森健彦, 及川光弘: 諏訪之瀬島火山噴火に伴う表面現象と地震動の関係, 火山爆発のダイナミックス, 火山爆発のダイナミックス, 科学研究費補助金・特定領域研究(領域代表: 井田喜明) 平成 16 年度研究成果報告書, 62-65, (2005).

神田 径, 田中良和, 宇津木 充, 高倉伸一, 井上寛之, 中坊真, 日浦 一, 森 健彦, 吉川 慎, 後藤秀作, 長谷中利昭, 重野伸昭, 岡田靖章, 山口慎司, 酒井俊輔, 藤本悠太: 蓄熱中の火山の比抵抗構造, 火山爆発のダイナミックス平成 16 年度研究成果報告書, 73-76, (2005).

為栗 健, 井口正人: 爆発地震の引き波の解析から見た爆発的噴火の力学過程, 火山爆発のダイナミックス平成16年度研究成果報告書, 49-53, (2005).

為栗 健, 井口正人: 爆発地震の引き波の解析から見た爆発的噴火の力学過程, 火山爆発のダイナミックス, 科学研究費補助金・特定領域研究(領域代表: 井田喜明)平成16年度研究成果報告書, 49-53, (2005).

綿田辰吾, 及川純, 井口正人, 八木原寛: 諏訪之瀬島火山の空振記録, 火山爆発のダイナミックス, 科学研究費補助金・特定領域研究(領域代表: 井田喜明)平成16年度研究成果報告書, 71-72, (2005).

八木原寛, 平野舟一郎, 井口正人, 為栗 健, 高山鉄朗, 森健彦, 大倉敬宏, 吉川慎: 諏訪之瀬島火山の活動火口領域について推定した3次元地震波速度モデル, および火山性地震の発生位置, 火山爆発のダイナミックス平成16年度研究成果報告書, 66-70, (2005).

八木原寛, 平野舟一郎, 井口正人, 為栗 健, 高山鉄朗, 森健彦, 大倉敬宏, 吉川慎: 諏訪之瀬島火山の活動領域について推定した3次元地震波速度モデル, および火山性地震の発生位置, 火山爆発のダイナミックス, 科学研究費補助金・特定領域研究(領域代表: 井田喜明)平成16年度研究成果報告書, 66-70, (2005).

(E) 講義・講演会テキスト

石原和弘: 離島の火山活動と噴火予知, 水路新技術講演集, 69-78, (2002).

石原和弘: 桜島の噴火災害を検証する, 桜島国際砂防センターレポート, 2-5, (2004).

(F) 新聞・雑誌記事

(G1) 講演会概要集

井口正人, 神田 径, 石原和弘, 田中良和: 火山爆発場としての口永良部島火山の浅部熱水系の推定, 日本火山学会 2002年度秋季大会予稿集, A55-, (2002).

伊藤壮介, 山本圭吾, 石原和弘: 桜島火山直下のP波異常減衰域, 日本火山学会講演予稿集2002年度秋季大会, 71-, (2002).

神田 径, 田中良和, 宇津木 充: 口永良部島火山で観測された全磁力変化について, 地球惑星科学関連学会 2002年合同大会予稿集, V032-P046-, (2002).

Srigutomo, W., Kagiya, T., Kanda, W., Hashimoto, T., Munekane, H., Tanaka, Y., Utsugi, M., Ohminato, T.: Results of time domain electromagnetic survey in Unzen Volcano, Kyushu, Japan, 地球惑星科学関連学会 2002年合同大会予稿集, V054-012-, (2002).

為栗 健, 井口正人, 石原和弘: 桜島火山における爆発的噴火の力学過程, 地球惑星科学関連学会 2002年合同学会予稿集 CD-ROM, (2002).

山本圭吾, 石原和弘, 高山鉄朗: 桜島火山の噴火活動に伴う地盤傾斜変動, 地球惑星科学関連学会 2002年合同大会予稿集, V032-035-, (2002).

Aizawa, K., Oshima, N., Yoshimura, R., Yamazaki, K., Kanda, W., Hashimoto, T., Sakanaka, S., Ogawa, Y., Bulent Tank, S.,

Uyeshima, M., Ogawa, T., Koyama, S., Kagiya, T., Shiozaki, I., Uto, T.: The hydrothermal system of Mt.Fuji by self-potential, magnetotellurics, 地球惑星科学関連学会 2003年合同大会予稿集, V055-016-, (2003).

Fujii, I., Kanda, W.: New procedures to extract geomagnetic field variations caused by volcanic activities, Abstracts of XXIII General Assembly of IUGG, Week A, A.26-A.27, (2003).

藤井郁子, 神田 径: 火山性磁場変動解析手法の開発——ベイズモデル, 地球惑星科学関連学会 2003年合同大会予稿集, E011-P001-, (2003).

Ishihara, K.: Volcanic activity and strategy of volcanic disaster mitigation in southern Kyushu, Japan, International Workshop on Strategy of Volcanic Disaster Mitigation: Workshop report, 319-320, (2003).

Ishihara, K.: Empirical prediction model for volcanic eruption at Sakurajima, Japan, IUGG 2003 Abstracts, 159-159, (2003).

Ishihara, K.: Evaluation of Japan-Indonesia cooperation in volcanology, Symposium on Volcano Eruption Mechanism and Tectonics under collaboration study between Indonesia-Japan, 2-3, (2003).

神田 径, 森 真陽: 薩摩硫黄島における自然電位連続観測, 地球惑星科学関連学会 2003年合同大会予稿集, E074-P001-, (2003).

神田 径, 田中良和, 宇津木 充, 藤井郁子, 橋本武志: 地磁気からみた口永良部島火山の蓄熱場, 地球惑星科学関連学会 2003年合同大会予稿集, V080-012-, (2003).

Kanda, W., Tanaka, Y., Utsugi, M., Fujii, I.: Volcanomagnetic variation observed at Kuchierabujima Volcano, Japan, Abstracts of XXIII General Assembly of IUGG, Week A, A.26-A.26, (2003).

Kanda, W., Mori, S.: Self-potential surveys and monitoring on Satsuma-Iwojima Volcano, Japan, Abstracts of XXIII General Assembly of IUGG, Week A, A.278-A.278, (2003).

Maryanto, S., Iguchi, M., Tameguri, T.: Wave characteristics of harmonic tremor observed at Sakurajima volcano, 地球惑星科学関連学会 2003年合同学会予稿集 CD-ROM, (2003).

味喜大介, 宇都浩三, 周藤正史, 酒谷幸彦, 石原和弘: 古地磁気と全岩化学組成からみた桜島火山観測井ボーリングコア中の溶岩の対比, 第114回地球電磁気・地球惑星圏学会講演会講演予稿集, (2003).

小河 勉, 鍵山恒臣, 増谷文雄, 小林知勝, 高橋優志, 杉岡学, 田中良和, 井上直人, 神田 径: 雲仙火山周辺におけるボアホールを用いた鉛直地電位差測定(2), 日本火山学会 2003年度秋季大会予稿集, PA37-, (2003).

Sri Hidayati, Ishihara, K., Ratdomopurbo, Iguchi, M.: Focal mechanism of volcano-tectonic earthquakes at Merapi volcano, Indonesia, IUGG 2003 Abstracts, 215-215, (2003).

Srigutomo, W., Kagiya, T., Kanda, W., Hashimoto, T., Munekane, H., Tanaka, Y., Utsugi, M., Ohminato, T.: Resistivity structure of Unzen Volcano, Kyushu, Japan from time domain electromagnetic (TDEM) data and its implication to magma-ground water interaction, Abstracts of XXIII General Assembly of IUGG, Week A, A.541-A.541, (2003).

為栗 健, 井口正人: インドネシア・スメル火山におけるストロンボリ式噴火に伴う地震、空気振動観測, 地球惑星科学関連学会 2003年合同学会予稿集 CD-ROM, (2003).

Tameguri, T., Iguchi, M.: Vertical multiple source model for dilatational motion of explosion earthquake at Sakurajima volcano, IUGG2003Abstracts, 214-214, (2003).

Tameguri, T., Iguchi, M., Ishihara, K.: Mechanism of explosive eruptions from source mechanism analyses of explosion earthquakes at Sakurajima volcano, IUGG2003Abstracts, 218-218, (2003).

Tameguri, T., Iguchi, M., Triastuty, H., Mulyana, I., Hendrasto, M., Wirakusumah, A.: Comparative study of volcanic eruptions from seismic and infrasonic observation at Semeru volcano, East Java, Indonesia, Symposium on volcano eruptions mechanism and tectonics under collaboration study between Indonesia-Japan, 17-18, (2003).

山本圭吾, 大久保修平, 古屋正人, 新谷昌人, 松本滋夫, 高山鉄朗, 石原和弘: 桜島火山における絶対重力測定(1998年~2002年), 地球惑星科学関連学会 2003 年合同大会予稿集, V055-037-, (2003).

Yamamoto, K., Suzuki, T., Ito, S., Ishihara, K., Nishi, K.: Anomalous P wave attenuation region beneath the active crater of Sakurajima Volcano, Japan, Abstracts of IUGG 2003, V12/01P/D-003-, (2003).

山本圭吾: 桜島火山における重力変化の成因に関する一考察, 日本火山学会講演予稿集 2003 年度秋季大会, 4-, (2003).

井口正人, 為栗 健, 森健彦: 諏訪之瀬島火山の小規模噴火に伴う長周期地震波パルスについて, 地球惑星科学関連学会 2004 年合同学会予稿集 CD-ROM, (2004).

神田 径, 森 真陽, 長谷英彰: 開聞岳の自然電位分布について, 地球惑星科学関連学会 2004 年合同大会予稿集, V055-P034-, (2004).

Maryanto, S., Iguchi, M., Tameguri, T.: Comparative analysis of harmonic tremors following B-type earthquake swarm and explosive eruption, 地球惑星科学関連学会 2004 年合同学会予稿集 CD-ROM, (2004).

為栗 健, 井口正人, 八木原寛: 諏訪之瀬島火山における噴火機構の研究—2003 年 11 月の噴火地震の初動解析—, 地球惑星科学関連学会 2004 年合同学会予稿集 CD-ROM, (2004).

山本圭吾, 高山鉄朗, 為栗 健, 石原和弘: 水準測量による桜島火山の地盤上下変動および火山活動との関係 (1996 年~2003 年), 地球惑星科学関連学会 2004 年合同大会予稿集, V055-031-, (2004).

Kagiya, T., Srigutomo, W., Kanda, W., Hashimoto, T., Tanaka, Y., Ogawa, T., Utsugi, M.: Magma supply & emission system of Unzen Volcano deduced from resistivity structure, Extended Abstract of international workshop on Unzen Scientific Drilling Project 2005, 41-42, (2005).

Kanda, W., Tanaka, Y., Utsugi, M., Takakura, S., Inoue, H., Nakboh, M., Hiura, H., Mori, T., Yoshikawa, S., Shusaku, G.: Electric structural imaging around the active crater of Nakadake, Aso volcano, Abstracts of international workshop of volcanic explosion: Strategy for promoting researches on volcanic explosion, 41-41, (2005).

為栗 健, 井口正人, 八木原寛: 諏訪之瀬島火山における噴火地震の震源と初動部分のメカニズム, 京都大学防災研究所研究集会低周波地震の発生過程, 27-27, (2005).

(G2) 学術誌 (査読無し)

鍵山恒臣, 橋本武志, Srigutomo, Wahyu, 神田 径, 田中良和, 宇津木 充: 電磁気観測から推定される雲仙火山におけるマグマと水の相互作用, 月刊地球, 24, 858-865, (2002).

鬼澤真也, 大島弘光, 青山裕, 森濟, 前川徳光, 鈴木敦生, 筒井智樹, 松尾紉道, 及川純, 大湊隆雄, 山本圭吾, 森健彦, 平貴昭, 宮町宏樹, 岡田弘: 2001 年有珠火山人工地震探査—3 次元 P 波速度構造—, 月刊地球, 号外(39), 14-21, (2002). 山本圭吾, 石原和弘, 高山鉄朗: 桜島火山の噴火活動に伴う地盤傾斜変動, 月刊地球, 号外(39), 187-192, (2002).

藤井郁子, 神田 径: 火山性磁場変動解析ツールの開発 (I) スキーム, CA 研究会 2003 年論文集, 98-107, (2003).

神田 径, 藤井郁子: 火山性磁場変動解析ツールの開発 (I) 全磁力データへの応用, CA 研究会 2003 年論文集, 108-114, (2003).

長谷英彰, 石戸経士, 橋本武志, 神田 径, 田中良和: 九州の 4 火山(開聞岳・九重山・猿蓑山・雲仙岳)の岩石のゼータ電位測定, CA 研究会 2004 年論文集, 25-32, (2004).

石原和弘: 地形図にみる桜島の今昔, 月刊地図中心, 10-12, (2004).

及川純, 鍵山恒臣, 田中 聡, 宮町宏樹, 筒井智樹, 池田靖, 湯山弘明, 松尾紉道, 西村裕一, 山本圭吾, 渡辺俊樹, 大島弘光, 山崎文人: 人工地震を用いた富士山における構造探査, 月刊地球, 号外(48), 23-26, (2004).

10.7.9 水資源研究センター

(A1) 完全査読論文

- 浜口俊雄：モデル化誤差を空間統計学的に組み込んだ地下水モデル解析手法の提案，第6回水資源に関するシンポジウム，133-138，(2002)。
- 小尻利治，小林稔：GISを利用した分布型流出モデルによる水量、水質の推定，土木学会河川技術論文集，8，431-436，(2002)。
- 中川勝広，中北英一，鈴木善晴，大石 哲：TRMM/PRを用いた山岳域における地上降雨量分布の推定，土木学会水工学論文集，46，31-36，(2002)。
- 中北英一，沖村俊郎，鈴木善晴，池淵周一：降雨の標高依存特性を導入したTRMM/PRによる時間・空間平均降雨量の推定，土木学会水工学論文集，46，25-30，(2002)。
- Oishi, S., Matsui, M., Ikebuchi, S.: Development of the prediction model for acid rain and snow considering the detailed cloud microphysical processes, Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering, 20(2), 1-10, (2002)。
- 鈴木善晴，諸橋真琴，中北英一，池淵周一：3次元構造および降雨タイプを考慮した降雨分布の地形依存特性の解析，土木学会水工学論文集，46，13-18，(2002)。
- 東 博紀，岡 太郎，城戸由能：植物の栄養塩吸収と土壤中物質移動，水工学論文集，47，331-336，(2003)。
- Chaves, P., Kojiri, T., Yamashiki, Y.: Optimization of storage reservoir considering water quantity and quality, Hydrological Process, 17, 2769-2793, (2003)。
- Hamaguchi, T.: A NEW COMPOSITE APPROACH OF PHYSICAL AND GEOSTATISTICAL ASPECTS TO GROUNDWATER MODELING, Proc. of Weather Radar Information and Distributed Hydrological Modelling, IAHS Publication, 282, 152-158, (2003)。
- 浜口俊雄：地下水流動に対するモデル誤差の地盤統計学的改善策と最適モデルの選択法，水工学論文集，47，295-300，(2003)。
- 市川温，藤原一樹，中川勝広，椎葉充晴，池淵周一：沖縄地方における赤土流出モデルの開発，土木学会水工学論文集，47，751-756，(2003)。
- 甲山治，田中賢治，池淵周一：GMS-5データを用いた毎時間日射量データ推定手法の開発，土木学会水工学論文集，47，43-48，(2003)。
- 大石哲，砂田憲吾，池淵周一：硝酸の湿性降水量と雨滴粒径分布の関係に関する数値実験的研究，土木学会水工学論文集，47，115-120，(2003)。
- Ozaki, N., Fukushima, T., Harasawa, H., Kojiri, T., Kawashima, K., Ono, M.: Statistical analysis on the effects of air temperature fluctuations on river qualities, Hydrological Process, 17, 2837-2853, (2003)。
- 朴珍赫，小尻利治，友杉邦雄：流域環境評価のためのGISベース分布型流出モデルの展開，水文・水資源学会誌，16(5)，541-555，(2003)。
- Suzuki, Y., Nakakita, E., Ikebuchi, I.: Numerical study of rainfall-topography relationships on mountainous region in Japan using a mesoscale meteorological mode, Weather Radar Information and Distributed Hydrological Modelling, IAHS Publications, 282, (2003)。
- 鈴木善晴，宮田昇平，中北英一，池淵周一：メソ気象モデルによる数値シミュレーションに基づいた降雨-地形関係の解析，土木学会水工学論文集，47，73-78，(2003)。
- 田中賢治，坪木和久，椎葉充晴，池淵周一：JSM-SiBUCを用いた梅雨前線の数値計算を通じた外部境界データの評価，土木学会水工学論文集，47，85-90，(2003)。
- Boone, A., Habets, F., Noilhan, J., Clark, D., Dirmeyer, P., Fox, S., Pitman, A., Gusev, Y., Nasonova, O., Haddeland, I., Koster, R., Lohmann, D., Mitchell, K., Mahanama, S., Niu, G., Polcher, J., Verant, S., Shmakin, A., Tanaka, K., van den Hurk, B., et al.: The Rhone-Aggregation Land Surface Scheme Intercomparison Project: An Overview, Journal of Climate, 17(1), 187-208, (2004)。
- 浜口俊雄：透水係数を変量とした地下水位変分量の厳密解と透水係数の不均一分布構造の同定，水工学論文集，48(1)，361-366，(2004)。
- Higashi, H., Oka, T., Kido, Y.: Measurement of Water and Nutrient Consumption during Plant Growth Using a Weighing Lysimeter and Numerical Modeling, Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering, 22(1), 81-98, (2004)。
- 石田祐宣，松島大，樋口篤志，檜山哲哉，戸田求，浅沼順，玉川一郎，宮崎真，田中賢治，杉田倫明，永井秀幸，田中久則，飯田真一，小林菜花子：2001年筑波大学陸域環境研究センター(TERC)における乱流計測機集中観測：機器比較と校正による誤差の解析，水文・水資源学会誌，17(1)，43-60，(2004)。
- 城戸由能，深尾大介，岡 太郎：住宅地における発生源別懸濁態汚濁物質の流出解析と発生源対策の評価，水工学論文集，48，1453-1458，(2004)。
- 甲山治，田中賢治，池淵周一：中国淮河流域における農業形態の推定と陸面過程モデルへの適用，土木学会水工学論文集，48，211-216，(2004)。
- 中北英一：都市河川が対象とする降雨現象，河川技術論文集，10，19-24，(2004)。
- 中北英一，前田妙子：流域スケールに依存した分布型降雨情報の有効性に関する基礎的検討，土木学会水工学論文集，48，307-312，(2004)。
- 朴珍赫，小尻利治，友杉邦雄：GISベースの分布型流出モデルを用いた比較水文学の提案，水文・水資源学会誌，17(4)，368-380，(2004)。
- 相馬一義，田中賢治，中北英一，池淵周一：非静力数値気象モデルへの詳細な陸面過程モデルの導入，土木学会水工学論文集，48，127-132，(2004)。
- 鈴木善晴，鎌田雅憲，宮田昇平，中北英一，長谷部正彦，池淵周一：降雨-地形関係の時空間変動特性を考慮した山岳域における降雨分布特性の解析，土木学会水工学論文集，49，265-270，(2004)。
- 玉川一郎，田中賢治，石田祐宣，樋口篤志，松島大，浅沼順，小野圭介，多田毅，林 泰一，石川裕彦，田中広樹，檜山哲哉，岩田徹，田中健路，中北英一：琵琶湖プロジェクト2002年フラックス面的集中観測(Catch A Plume by SATs: CAPS:その概要，水文・水資源学会誌，17(4)，392-400，(2004)。
- 浜口俊雄：分布モデル化による透水係数同定問題の非適切性克服と解の観測更新感度向上，水工学論文集，49(1)，109-114，(2005)。

- 甲山治, 山田賢治, 田中賢治, 池淵周一: 衛星起源の植生状態量及び地上気象データを用いた土地被覆と生育作物の判別, 土木学会水工学論文集, 49, 373-378, (2005).
- 萬和明, 田中賢治, 池淵周一: NDVI 時系列解析による全球作物分類図の作成, 土木学会水工学論文集, 49, 379-384, (2005).
- 相馬一義, 田中賢治, 中北英一, 池淵周一: 琵琶湖周辺の対流性降水に地表面状態及び局地循環が与える影響の検討, 土木学会水工学論文集, 49, 259-264, (2005).

(A2) 一般査読論文

- Kuzuha, Y., Tomosugi, K., Kishii, T.: A Study on Temporal and Spatial Distributions of Low Precipitation by Depth-Area-Duration Analyses, Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering, 27-40, (2002).
- 中村太士, 竹門康弘: ダム堆砂量に関わる要因と生態系保全上の課題, 応用生態工学, 5(1), 125-127, (2002).
- Suzuki, Y., Na, Ikebuchi, S.: Study on the dependence properties of rainfall distributions on topographic elevations, Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering, 20(1), (2002).
- Hamaguchi, T.: Geostatistical Improvement of Imperfectly Fitting between Modeled Groundwater Flow and Its Real Behavior, Proc. of the 1st Int. Conf. on Hydrology and Water Resources in Asia Pacific Region, 1(2), 909-914, (2003).
- Kamada, M., Takemon, Y., Woo, H.: Ecological engineering for conserving and restoring ecosystem of rivers and watersheds in East Asia-Pacific Region, Ecology and Civil Engineering, 1(6), 59-60, (2003).
- 葛葉泰久, 友杉邦雄, 岸井徳雄: ランダムカスケードによる時空間降水量データの解析, 土木学会水工学論文集, 47, 133-138, (2003).
- 小松陽介, 葛葉泰久, 友杉邦雄, 岸井徳雄: 融雪流出卓越流域における地域洪水頻度解析, 土木学会水工学論文集, 48, 115-120, (2004).
- 竹門康弘, 鷺谷いづみ: 応用生態工学からみた外来種の現状把握と対策, 応用生態工学, 6(2), 191-194, (2004).

(A3) アブストラクト査読論文

- Chaves, P., Kojiri, T.: STORAGE RESERVOIR PLANNING CONSIDERING WATER QUANTITY AND QUALITY, Proc. Of the 13th IAHR-APD Congress, Vol.II, 1042-1047, (2002).
- 戎 信宏, 西川敦, 近藤昭彦, 中北英一, 田中賢治: 森林地における正規化植生指標と葉面積指数- 蒸発散の季節変化に関する研究, 第3回水文過程のリモートセンシングとその応用に関するワークショップ論文集, 59-67, (2002).
- 樋口篤志, 西田顕郎, 田中賢治, 戎信宏, 飯田真一, 中北英一, 近藤昭彦: 地上設置型植生モニタリングシステムを用いた日本での代表的な土地被覆での植生指標の季節変化ー PGLIERC, 琵琶湖プロジェクトの成果からー, 第3回水文過程のリモートセンシングとその応用に関するワークショップ論文集, 69-75, (2002).
- Ikebuchi, S.: Basin-wide Water Management and Hydroinformatics, Proc. of International Seminar on the Water

- Management in Basins and the Role of Reservoirs, 9-27, (2002).
- Kojiri, T., Hanatani, S.: Knowledge-based decision support system for reservoir operation with knowledge acquisition process on flood prediction and risk accuracy, Flood Defence 2002, Vol.II, 1430-1437, (2002).
- Kojiri, T., Kinai, Y., Park, J.: Integrated River Basin Environment Assessment On Water Quantity And Quality By Considering Utilization Processes, Proc. of International Conference of Water Resources and Environment Research, Vol.I, 396-401, (2002).
- 中北英一, 沖村俊郎, 鈴木善晴, 池淵周一: 降雨の地形依存性を考慮した TRMM 搭載レーダーの長期観測情報の有効利用, 第6回水資源に関するシンポジウム論文集, 645-650, (2002).
- 鈴木善晴, 中北英一, 池淵周一: , 第6回水資源に関するシンポジウム論文集, 639-644, (2002).
- Tamura, N., Kojiri, T., Tomosugi, K.: Water quantity and turbidity simulation with distributed runoff model in the Yellow River basin, Flood Defence 2002, Vol.II, 1699-1705, (2002).
- 田中賢治, 甲山治, 池淵周一: 多様な農耕地の影響を考慮した中国淮河流域における水・熱収支推定に関する研究, 第6回水資源に関するシンポジウム論文集, 603-608, (2002).
- 東海明宏, 小尻利治, 吉川仁恵: 分布型流出モデルをベースとした生態水質モデルによる流域環境評価, 第6回水資源に関するシンポジウム論文集, 229-234, (2002).
- Higashi, H., Oka, T., Kido, Y.: Consumption of Water and Nutrient during Plant Growth in a Weighing Lysimeter, Proc. of 1st Int'l Conf. on Asia and Pacific Hydrology and Water Resources, 2, 750-755, (2003).
- Kojiri, T., Teramura, K.: Integrated river basin environment assessment and planning through hybrid simulation processes, XI IWRA World Water Congress, (2003).
- Kojiri, T., Tokai, A., Yoshikawa, H.: Basin-wide environmental quality assessment based on distributed runoff model, XXX IAHR Congress, ThemeB, 231-238, (2003).
- Kozan, O., Tanaka, K., Ikebuchi, S.: The Estimation of Water and Heat Budget in the Huaihe River Basin China - Detail Representation of Various Cropland and Irrigation -, Proc. of the 1st International Conference on Hydrology and Water Resources in Asia Pacific Region, 2, 763-768, (2003).
- Nohara, D., Kojiri, T., Tomosugi, K.: A Study on Decision Support System for Continuous Reservoir Operation with Artificial Intelligence, Proc. of the 1st International Conference on Hydrology and Water Resources in Asia Pacific Region, 1, 121-126, (2003).
- Smith, P., Kojiri, T.: Monte carlo simulation of distributed rainfall-runoff conditions for probabilistic short-term forecasting, GIS & RS in Hydrology, Water Resources and Environment, Vol.1, (2003).
- Smith, P., Kojiri, T.: Short-term rainfall-runoff prediction with weather radar and Monte Carlo simulation, XXX IAHR Congress, ThemeD, 183-189, (2003).
- Costa, G., Kojiri, T., Porter, M.: Salinity intrusion - its characteristics and impact - Case in the Asia Pacific Region, Proc. of the 4th Int. Symposium on Environmental Hydraulics and the 14th Congress of APD-IAHR, 2027-2032, (2004).

- Ikebuchi, S.: Global warming and water-related disasters - Hydroinformatics for supporting the basin-wide water management -, Proc. of the symposium on water resource and its variability in Asia in the 21st century, 7-10, (2004).
- Ishida, S., Tanaka, K., Higuchi, A., Tamagawa, I., Matsushima, D.: Surface heat balance using flux measurement array during Catch A Plume by SATs (CAPS) IOP, Proceedings CD-ROM of the 6th International Study Conference on GEWEX in Asia and GAME, (2004).
- Ishida, Y., Takemon, Y., Ik.: Influence of sediment control dam on fish community living upper reaches., Proceedings of the 2nd Asia Pacific Association of Hydrology and Water Resources Conference, 218-227, (2004).
- KIDO, Y.: Characteristic of Particle Pollutant Runoff during Un-Irrigation Period in Yasu River Basin, Abstract Proceedings of 8th Intl' Conf. on Diffuse/Nonpoint Pollution, P-11(in CD-ROM)-, (2004).
- 城戸由能: 水環境関連研究における環境システム論的視点のこれまでの展開と今後の展望, 第17回環境システムシンポジウム講演集, 9-18, (2004).
- 甲山治, 山田賢治, 田中賢治, 池淵周一: 衛星リモートセンシングと陸面過程モデルを用いた中国史灌河流域における水利用の推定, 第4回水文過程のリモートセンシングとその応用に関するワークショップ, 45-54, (2004).
- Kozan, O., Tanaka, K., Ikebuchi, S., Qian, M.: Landuse and cropping pattern classification using satellite derived vegetation indices in the Huaihe river basin, Proc. of the 2nd International Conference on Hydrology and Water Resources in Asia Pacific Region, 2, 732-740, (2004).
- Kozan, O., Yamada, K., Tanaka, K., Ikebuchi, S.: Estimation of land use and water usage in the Huaihe river basin from field survey and satellite analysis, Proceedings CD-ROM of the 6th International Study Conference on GEWEX in Asia and GAME, (2004).
- Nakakita, E., Ikebuchi, S.: A study on global analysis of abnormal rainfall through various spatio-temporal scales and basin characteristics, Proc. of 4th Annual IASA-DPRI Forum on Integrated Disaster Risk Management: Challenges of Implementation (CD-ROM), (2004).
- 中北英一, 花房大輔: 様々な時間・空間スケールと流域特性を考慮した異常降雨のグローバル解析, 第12回地球環境シンポジウム講演論文集, 241-246, (2004).
- 中北英一, 岡根俊介: 人工衛星による低頻度観測情報から算定される降雨場確率パラメータの補正手法の開発, 第4回水文過程のリモートセンシングとその応用に関するワークショップ論文集, 117-123, (2004).
- Nawahda, A., Kojiri, T.: Integrated Hydrological Watershed Modeling Including Spatiotemporal Parameterizations, Proc. of the 6th Int. Conference on Hydroinformatics, 1019-1026, (2004).
- Suzuki, Y., Nakakita, E., Masahiko, H., Ikebuchi, S.: Study on rainfall-topography relationships in Japan with regard to the spatial scale of mountain slopes, Proc. of 6th Int. Symp. on Hydrological Applications of Weather Radar, Melbourne, Australia, CD-ROM, 8pp., (2004).
- Tanaka, K., Yorozu, K., Kozan, O.: Seasonal and inter-annual variations of the energy and water budget in south-east Asia -results from the GSWP2 baseline simulation-, Forest and water in warm humid Asia, Proc. of a workshop of the International Union of Forest Research Organizations (IUFRO), 45-48, (2004).
- Tanaka, K., Morohashi, M., Ikebuchi, S.: Development of a new Soil Moisture Retrieval Algorithm using TRMM/TMI polarization ratio and NDVI, Proc. of the 2nd International Conference on Hydrology and Water Resources in Asia Pacific Region, 2, 686-693, (2004).
- Tanaka, K., Ikebuchi, S., Yorozu, K.: Preliminary results of the GSWP-2 run by SiBUC, Proc. of the 84th AMS Annual Meeting, 18th Conference on Hydrology, 1.4-, (2004).
- Tanaka, K., Souma, K., Tsuboki, K., Ikebuchi, S.: Production of final dataset of GAME-HUBEX Regional 4DDA by JSM-SiBUC, Proceedings CD-ROM of the 6th International Study Conference on GEWEX in Asia and GAME, (2004).
- Terada, M., Kataoka, K., Ikebuchi, S., Nakakita, E., Ohish, S., Fujita, A., Takada, N.: The development of short-term rainfall prediction system in mountainous region by the combination of extrapolation model and meso-scale atmospheric model, Proc. of 6th Int. Symp. on Hydrological Applications of Weather Radar, Melbourne, Australia, CD-ROM, 8pp., (2004).
- Hamaguchi, T., Nakakita, E.: Mathematical countermeasures to difficulty in identifying distributed permeabilities and in enhancing sensitivity of updating parameters from observed data, Proc. of International Conference on Monitoring, Prediction and Mitigation of Water-Related Disasters, MPMD-2005, 107-112, (2005).
- Nakakita, E., Hanafusa, D.: A study on global analysis of abnormal rainfall through various spatiotemporal scales and basin characteristics, Proc. of International Conference on Monitoring, Prediction and Mitigation of Water-Related Disasters(MPMD-2005), 7-12, (2005).
- Souma, K., Tanaka, K., Nakakita, E., Ikebuchi, S.: Coupling a mosaic land surface scheme (SiBUC) with a nonhydrostatic atmospheric model (ARPS), Proc. of 85th AMS Annual Meeting, 19th conference of Hydrology (CD-ROM), P3.18-, (2005).
- Suzuki, Y., Miyata, S., Nakakita, E., Ikebuchi, S.: Effects of spatial scales of topography upon precipitation-topography relationship in mountainous regions, Proc. of International Conference on Monitoring, Prediction and Mitigation of Water-Related Disasters(MPMD-2005), 215-220, (2005).
- Tanaka, K., Yorozu, K., Hamabe, R., Ikebuchi, S.: Validation of the GSWP2 Baseline Simulation, Proc. of 85th AMS Annual Meeting, 19th conference of Hydrology (CD-ROM), 6.2-, (2005).
- Yorozu, K., Tanaka, K., Ikebuchi, S.: Creating a global 1-degree dataset of crop type and cropping calendar through the time series analysis of NDVI for GSWP2 simulation considering irrigation effect, Proc. of 85th AMS Annual Meeting, 19th conference of Hydrology (CD-ROM), 6.8-, (2005).

(B) 解説・総説

安部倉完, 堀道雄, 竹門康弘: 京都市深泥池における魚類相の変遷と外来魚除去による個体群抑制効果, 関西自然保護機構会報, 25, 79-85, (2003).

浜口俊雄：22.逆問題(Inverse Problem), 京都大学工学研究科が選ぶ先端技術のキーワード114選, 44-45, (2003).

池淵周一：都市における洪水管理, 都市問題研究, 55(8), 21-33, (2003).

小尻利治：気候変動と水資源について(I), 水利科学, 270(第47巻第1号), 39-50, (2003).

小尻利治：気候変動と水資源について(II), 水利科学, 271(第47巻第2号), 16-30, (2003).

小尻利治：気候変動と水資源について(III), 水利科学, 272(第47巻第3号), 74-86, (2003).

小尻利治：気候変動と水資源について(IV), 水利科学, 273(第47巻第4号), 18-34, (2003).

中北英一：都市河川流域が対象とする降雨現象, 季刊河川レビュー, No.12 冬季号, 35-40, (2004).

降雨観測, [特集]リモートセンシング最前線, 土木学会誌, 89, 25-27, (2004).

竹門康弘：巻頭言 ダムの自然環境への影響評価について, 河川, 6(2004), 3-5, (2004)..

(C) 著書

竹門康弘, 細谷和海, 村上興正：深泥池へ外来魚の捕獲調査と駆除事業, 外来種ハンドブック, 地人書館, 269-271, (2002).

友杉邦雄, 葛葉泰久：第5章 気候変動と水災害 第1節 豪雨・洪水災害 第2節 少雨と渇水災害の生起特性, 気候変動と水災害, 信山社サイテック, 141-186, (2002).

浜口俊雄, 他, 多数：地球統計学 (共訳著) ,, (2003).

小尻利治：水文大循環と地域水代謝, 技報堂出版, 72-91, (2003).

竹門康弘：河川工事, 生態学事典, 共立出版, 80-80, (2003).

竹門康弘：人工の淡水域, 生態学事典, 共立出版, 277-278, (2003).

竹門康弘：生態工学, 生態学事典, 共立出版, 325-325, (2003).

水環境教育研究委員会(WEE21)編集委員会：みんなでつくる川の環境目標, 環境コミュニケーションズ, 14-15, 36-39, 56-57, 60-63-, (2004).

竹門康弘, 山口健二：化学的酸素要求量, 改訂砂防用語集, 社団法人砂防学会編, 山海堂, 28-28, (2004).

竹門康弘：摂食機能群, 改訂砂防用語集, 社団法人砂防学会編, 山海堂, 164-164, (2004).

竹門康弘：栄養塩, 改訂砂防用語集, 社団法人砂防学会編, 山海堂, 16-16, (2004).

竹門康弘：河川連続体仮説, 改訂砂防用語集, 社団法人砂防学会編, 山海堂, 37-37, (2004).

竹門康弘, 山口健二：生物学的酸素要求量, 改訂砂防用語集, 社団法人砂防学会編, 山海堂, 161-161, (2004).

竹門康弘：底生動物, 改訂砂防用語集, 社団法人砂防学会編, 山海堂, 217-217, (2004).

竹門康弘：付着藻類, 改訂砂防用語集, 社団法人砂防学会編, 山海堂, 275-275, (2004).

竹門康弘：富栄養化, 改訂砂防用語集, 社団法人砂防学会編, 山海堂, 272-272, (2004).

竹門康弘：河川の形態, 水産海洋ハンドブック, 34-37, (2004).

竹門康弘：河川の流況と環境特性, 水産海洋ハンドブック, 37-39, (2004).

竹門康弘：河川生態系と物質循環, 水産海洋ハンドブック, 39-44, (2004).

Tanaka, K.: Land Surface Processes, The Textbook for the 12th IHP Training Course in 2003 UNESCO, 21, 79-110, (2004).

(D) 紀要・報告書

青井一, 池淵周一, 吉野文雄：瀬戸内海および周辺地域における広域水文循環の把握に関する研究, 京都大学防災研究所年報, 45B, 705-718, (2002).

浜口俊雄：統計学的に評価した空間不確定量の地下水流動モデルへの適用, 京都大学防災研究所年報, 45B, 677-685, (2002).

浜口俊雄：時空間統計学的推定手法の開発と空間統計成分をもつ地下水流動のモデル化, 水資源研究センター研究報告, 22, 13-24, (2002).

甲山治, 田中賢治, 池淵周一：多様な農耕地の影響を考慮した中国淮河流域における水・熱収支推定に関する研究, 京都大学防災研究所年報, 45B, 745-764, (2002).

中北英一, 沖村俊郎, 鈴木善晴, 池淵周一：降雨の標高依存特性を考慮した TRMM/PR 長期観測情報の有効利用, 京都大学防災研究所年報, 45B, 687-704, (2002).

太田太一, 池淵周一, 竹門康弘：河道における物理的環境と底生生物の挙動との関係, 京都大学防災研究所年報, 45B, 719-734, (2002).

鈴木善晴, 宮田昇平, 中北英一, 池淵周一：メソ気象モデルを用いた降雨場の時間積分過程の解析, 京都大学防災研究所年報, 45B, 765-784, (2002).

田中賢治, 相馬一義, 中北英一, 池淵周一：ARPS による琵琶湖プロジェクト集中観測時の大気場の再現, 京都大学防災研究所年報, 45B, 657-676, (2002).

Chaves, P., Kojiri, T.: Multi-objective Storage Reservoir Operation under Uncertainty, Annuals of DPRI, Kyoto Univ., 46B, 899-918, (2003).

古野弘典, 谷田一三, 竹門康弘, 谷田泰枝：木津川における河川の連続性とダムによる分断, 木津川の総合研究, 109-129, (2003).

浜口俊雄：サウジアラビア南西部の水資源開発の可能性～現地調査～, 水資源研究センター研究報告, 23, 9-13, (2003).

波多野圭亮, 池淵周一, 竹門康弘：貯水ダムが下流域生態系へ及ぼす影響評価-流況変化・土砂供給減少による底質環境と底生生物群集の応答-, 京都大学防災研究年報, 46B, 851-866, (2003).

井上泰江, 竹門康弘, 谷田一三, 安佛かをり, 三田村緒佐武：木津川砂州上のタマリ動物群集の動態-自然タマリと人工タマリにおける増水前後の比較-, 木津川の総合研究, 337-367, (2003).

加藤康充, 竹門康弘, 谷田泰枝, 谷田一三：洪水が河川生態系に与える影響-副流路及び河床内環境を中心に-, 木津川の総合研究, 289-336, (2003).

甲山治, 田中賢治, 池淵周一：正規化植生指標を用いた中国淮河流域における農耕サイクルの推定, 京都大学防災研究所年報, 46B, 875-884, (2003).

三田村緒佐武, 安佛かをり, 中島拓男, 竹門康弘, 谷田一三：砂州内間隙水における生元素の分布, 木津川の総合研究, 131-137, (2003).

中島拓男, 安佛かをり, 竹門康弘, 谷田一三, 三田村緒佐武: 木津川調査対象砂州の細菌分布と脱窒活性, 木津川の総合研究, 145-156, (2003).

中北英一: 欧州災害について一気象・水文状況と災害の実態一, 河川, 679, 14-23, (2003).

太田太一, 池淵周一, 竹門康弘: 河道の局所的環境条件が底生動物群集に与える影響-砂礫堆と樹林の影響を把握する一, 京都大学防災研究年報, 46B, 841-850, (2003).

Smith, P., Kojiri, T.: Probabilistic Short-term Distributed Flood Forecasting, Annuals of DPRI, Kyoto Univ., 46B, 885-897, (2003).

竹門康弘, 安部倉完, 田末利治: 京都市深泥池の水質に与える水道水漏水の影響-水道水漏水ポンプアップ後の電気伝導度の変化-, 水資源研究センター研究報告, 23, 7-8, (2003).

竹門康弘: 人為的に改変された河川生態系における自然復元の可能性と限界, 生態学研究センターニュース, 82, 4-5, (2003).

竹門康弘, 竹門 緑, 谷田一三, 中島拓男, 三田村緒佐武: 凍結コア法による河床間隙動物の定量調査結果, 木津川の総合研究, 235-241, (2003).

竹門康弘, 土居秀幸, 谷田一三: 木津川砂州における河川水流入部の水質環境と間隙動物の分布様式, 木津川の総合研究, 263-270, (2003).

竹門康弘, 西ふき野, 加藤智子, 谷田一三: 木津川砂州における堆積粒状有機物の分布様式, 木津川の総合研究, 243-262, (2003).

竹門康弘, 西ふき野, 谷田一三: 木津川砂州の比高による埋土種子の分布様式, 木津川の総合研究, 203-221, (2003).

竹門康弘, 渡辺香名子, 谷田一三: 木津川平瀬の底生動物群集におけるメッシュサイズ別採集効率, 木津川の総合研究, 223-233, (2003).

竹門康弘, 石田裕子, 谷田一三: 淀川水系下流域におけるカワヨシノボリ *Rhinogobius flumineus* とトウヨシノボリ *Rhinogobius* sp. OR 縞鱗型の生息場所選択と摂餌生態, 木津川の総合研究, 517-527, (2003).

田中武志, 池淵周一, 竹門康弘: 河床間隙水域の物理化学的特性とモンカゲロウの産卵場所選択, 京都大学防災研究年報, 46B, 867-873, (2003).

谷田一三, 竹門康弘, 清弘絢子, 金子真澄, 谷田泰枝: ワンド・タマリの環境特性と底生動物群集, 木津川の総合研究, 271-288, (2003).

浜口俊雄: 透水係数の不均質分布構造同定における非適切問題の克服法, 京都大学防災研究年報, 47B, 819-829, (2004).

開発一郎, 山中勤, 池淵周一, 小尻利治: 半乾燥地域平地での広域地下水涵養-モンゴル高原での観測結果解析一, 京都大学防災研究年報, 47B, 863-870, (2004).

城戸由能, 井口貴正, 深尾大介: 河床底泥が河川水質に及ぼす影響, 京都大学防災研究年報, 809-818, (2004).

城戸由能: 河川と河床中の水質環境-賀茂川における水質・環境に関する観測-, 水資源研究センター報告, 24, 47-56, (2004).

Nawahda, A., Kojiri, T., Ikebuchi, S.: Distributed Runoff Model Linking Surface with Groundwater Processes, Annuals of DPRI, Kyoto Univ., 47C, 83-88, (2004).

岡 太郎, 城戸由能, 浜口俊雄: 都市型盆地水系における

水・物質循環の解明-京都盆地を対象とした水文循環モデルの構築-, 水資源研究センター報告, 24, 75-76, (2004).

相馬一義, 田中賢治, 中北英一, 池淵周一: ARPS による琵琶湖プロジェクト集中観測時の大気場の再現(第二報), 京都大学防災研究年報, 47B, 831-850, (2004).

寶 馨, 立川康人, 児島利治, 可児良昭, 池淵周一: 降雨流出に及ぼす山腹斜面の影響-いわゆる「緑のダム」の洪水調節効果の流域水文学的検討-, 京都大学防災研究年報, 47B, 171-182, (2004).

竹門康弘: 河床間隙水域の構造と生態系機能, 水資源研究センター研究報告, 24, 39-46, (2004).

竹門康弘: 水資源セミナー実施報告 河川における水・物質・生物のダイナミズムと時空間構造, 水資源研究センター研究報告, 24, 1-2, (2004).

竹門康弘, 山田浩之, 池淵周一: 流域生態系の保全と復元-河川地形の生態機能の評価とその利用-, 水資源研究センター研究報告, 24, 69-72, (2004).

竹門康弘, 小川力也, 紀平肇: 砂州の生態系機能と保全・復元, 流水・土砂の管理と河川環境の保全・復元に関する研究, 河川環境管理財団, 100-145, (2004).

Yamada, H., Tanaka, T., Takemon, Y., Ik.: Changing patterns of water quality associated with hyporheic flow of a gravel bar in the Kamo River., Disaster Prevention Research Institute Annuals, Kyoto University, C(47), 263-272, (2004).

(E) 講義・講演会テキスト

浜口俊雄: 第4章 土構造物の弾性構造解析結果の図化と解釈, 第16回高度技術セミナー「有限要素法による土構造物の弾性構造解析」, 83-103, (2002).

池淵周一: 流域水管理とハイドロインフォマティクス, 「流域の水管理と貯水池の役割」国際セミナー講演論文集, 129-134, (2002).

甲山治, 田中賢治, 池淵周一: 陸面過程モデルを用いた中国淮河流域における灌漑用水量の推定, 水文・水資源学会2002年研究発表会要旨集, 84-85, (2002).

甲山治, 田中賢治, 池淵周一: 多様な農耕地の影響を考慮した中国淮河流域における水・熱収支推定に関する研究, 土木学会第57回年次学術講演会講演概要集(CD-ROM), II-258-, (2002).

中北英一: リモートセンシング・レーダー水文学の展望, 水工学に関する夏期研修会講義集, Aコース, A-5-1-A-5-19, (2002).

相馬一義, 田中賢治, 池淵周一: 数値気象予報モデル ARPS による琵琶湖プロジェクト集中観測時の大気場の再現, 水文・水資源学会2002年研究発表会要旨集, 70-71, (2002).

田中賢治, 畑中隆二, 椎葉充晴: メソ数値予報モデルへのGPS可降水量のデータ同化に関する研究, 土木学会第57回年次学術講演会講演概要集(CD-ROM), II-246-, (2002).

濱邊良, 田中賢治, 池淵周一: 夏季チベット高原における陸面過程モデル SiBUC の性能評価, 水文・水資源学会2003年研究発表会要旨集, 68-69, (2003).

樋口篤志, 田中賢治, 石田祐宣, 松島大, 玉川一郎, 浅沼順, 多田毅, 小野圭介, 林 泰一, 岩田徹, 田中広樹, 檜山哲哉, 石川裕彦, 田中健路: 琵琶湖プロジェクト2002年集中観測(Catch A Plume by SAI: CAPS); その概要, 日本気象学会2003年度春季大会講演予稿集, 337-, (2003).

石田祐宣, 樋口篤志, 田中賢治, 松島大, 玉川一郎, 浅沼順, 多田毅, 小野圭介, 林 泰一, 岩田徹, 田中広樹, 檜山哲哉, 石川裕彦, 田中健路: 複数の乱流計測器を用いた乱流熱輸送量空間分布観測の概要-琵琶湖プロジェクト 2002 年集中観測(CAPS)-, 日本気象学会 2003 年度春季大会講演予稿集, 338-, (2003).

甲山治, 田中賢治, 池淵周一: 正規化植生指標を用いた中国淮河流域における農耕サイクルの推定, 水文・水資源学会 2003 年研究発表会要旨集, 80-81, (2003).

相馬一義, 田中賢治, 中北英一, 池淵周一: 局地気象モデルへの詳細な陸面過程モデルの導入, 日本気象学会 2003 年度秋季大会講演予稿集, 445-, (2003).

Tanaka, K., Ishioka, K., Nakakita, E., Ikebuchi, S.: Energy and water budget in the lake Biwa basin Japan, Abstract of the IUGG2003, Sapporo Japan, A114-, (2003).

石田祐宣, 田中賢治, 玉川一郎, 樋口篤志, 小野圭介: 水平スケールの異なる熱収支とそのインバランサー-琵琶湖プロジェクト面的集中観測(CAPS2002,2003)-, 水文・水資源学会 2004 年研究発表会要旨集, 226-227, (2004).

石田祐宣, 安田延壽, 田中賢治, 玉川一郎, 樋口篤志: CAPS2003 観測データを用いた接地気層乱流の構造-高次相関量の確率分布を中心として-, 日本気象学会 2004 年度春季大会講演予稿集, P156-, (2004).

岸田 潔, 浜口俊雄: E. 浸透流と地下水流に関する実験, 水理実験指導書平成 16 年度版, 79-92, (2004).

甲山治, 田中賢治, 池淵周一: 陸面過程モデルを用いた中国史灌流域における灌漑用水量の検証, 水文・水資源学会 2004 年研究発表会要旨集, 26-27, (2004).

萬和明, 田中賢治, 池淵周一: 陸面過程モデル SiBUC による灌漑を考慮に入れた全球土壌水分量分布の算定, 水文・水資源学会 2004 年研究発表会要旨集, 82-83, (2004).

萬和明, 田中賢治, 池淵周一: 陸面過程モデル SiBUC による灌漑を考慮に入れた全球土壌水分量分布の算定, 平成 16 年度関西支部年次学術講演会講演概要, II-18-, (2004).

松島大, 田中賢治, 石田祐宣, 玉川一郎, 樋口篤志: 航空機による地表面温度観測と顕熱フラックスのフットプリント解析-琵琶湖プロジェクト面的集中観測(CAPS2002)-, 水文・水資源学会 2004 年研究発表会要旨集, 228-229, (2004).

Nakakita, E.: Radar hydrology, The Textbook for the 12th IHP Training Course in 2003, UNESCO, 21, 111-131, (2004).

相馬一義, 田中賢治, 中北英一, 池淵周一: 琵琶湖プロジェクト集中観測時の熱雷の再現と局地循環が果たした役割についての検討, 水文・水資源学会 2004 年研究発表会要旨集, 74-75, (2004).

玉川一郎, 民田晴也, 石田祐宣, 田中賢治, 樋口篤志: CAPS2002 観測データと CReSS による数値シミュレーションとの比較, 日本気象学会 2004 年度秋季大会講演予稿集, 237-, (2004).

山田賢治, 甲山治, 田中賢治, 池淵周一: 衛星による植生状態量及び地上気象データを用いた土地利用判別手法の構築, 水文・水資源学会 2004 年研究発表会要旨集, 256-257, (2004).

山田賢治, 甲山治, 田中賢治, 池淵周一: 衛星による植生状態量及び地上気象データを用いた土地利用判別手法の構築, 平成 16 年度関西支部年次学術講演会講演概要, II-19-, (2004).

(F) 新聞・雑誌記事

竹門康弘: 水辺に揺れる小さな生命-カゲロウと河川環境の変化, エコソフィア, 11, 30-35, (2003).

(G1) 講演会概要集

穴田夏野, 岡 太郎, 浜口俊雄: 地下ダムサイトを対象とした地下水流動の 2・3 次元複合モデルの開発, 平成 14 年度土木学会関西支部年次学術講演概要, II-28-1-II-28-2, (2002).

浜口俊雄: 均質等価透水係数を用いた地下水解析におけるモデル誤差の空間推定復元, 水文・水資源学会 2002 年度研究発表会要旨集, 58-59, (2002).

浜口俊雄: 空間不確定量を組み込んだモデルによる非定常地下水解析手法, 第 37 回地盤工学研究発表会発表講演集, 1199-1200, (2002).

浜口俊雄: モデル誤差を補完する物理・統計複合モデルの開発と地下水解析への適用, 第 57 回土木学会年次学術講演会講演概要集 CD-ROM, II-263-, (2002).

浜口俊雄: モデル誤差の空間不確定的偏りを考慮した地下水推定手法, 平成 14 年度農業土木学会講演要旨集, 170-171, (2002).

花房大輔, 中北英一, 沖村俊郎, 鈴木善晴, 池淵周一: TRMM/PR 情報からのリアルタイム積算標高依存特性を考慮した時間・空間平均降雨量の推定, 土木学会第 57 回年次学術講演会講演概要集(CD-ROM), II-241-, (2002).

葛葉泰久, 友杉邦雄, 岸井徳雄: 日降水量データのスケールリング, 土木学会第 57 回年次学術講演会講演概要集, 238-238, (2002).

中北英一, 佐藤幸久, 池淵周一: 降雨予測モデル「 α モデル」への非定常風速場の導入, 水文・水資源学会 2002 年研究発表会要旨集, 104-105, (2002).

中村一樹, 城戸由能, 岡 太郎: 降雨に伴う懸濁態汚濁物質の流出に関する調査・研究, 土木学会関西支部年次学術講演会講演概要, II-48-1-II-48-2, (2002).

野原大督, 小尻利治, 友杉邦雄: AI 手法によるダム貯水池の連続操作支援システムに関する研究, 土木学会第 57 回年次学術講演会講演概要集(CD-ROM), II-288-, (2002).

大石哲, 青木敦彦, 砂田憲吾, 池淵周一: 酸性物質の湿性降水量と雨滴粒径分布の関係に関する数値実験的研究, 水文・水資源学会 2002 年研究発表会要旨集, 226-227, (2002).

鈴木善晴, 宮田昇平, 中北英一, 池淵周一: メソ気象モデルを用いた降雨?地形関係の数値シミュレーション, 水文・水資源学会 2002 年研究発表会要旨集, 106-107, (2002).

鈴木善晴, 宮田昇平, 中北英一, 池淵周一: メソ気象モデル MM5 を用いた降雨場の地形依存特性の解析, 土木学会第 57 回年次学術講演会講演概要集(CD-ROM), II-240-, (2002).

竹門康弘: 溪・河畔植生と河川生物群集の関係, 第 4 回水文・水資源セミナー講演集, 55-69, (2002).

瀧 敏之, 岡 太郎, 浜口俊雄: 地下ダムサイトの 3 次元地下水流動解析, 平成 14 年度土木学会関西支部年次学術講演概要, II-27-1-II-27-2, (2002).

浜口俊雄: 不均一な透水係数の空間分布モデルによる地下水位変分評価手法, 水文・水資源学会 2003 年度研究発表会要旨集, 74-75, (2003).

浜口俊雄：透水係数分布の相違による地下水位変分評価と最適モデル選択，第 58 回土木学会年次学術講演会講演概要集 CD-ROM, 77-78, (2003).

浜口俊雄：一様な透水性の地下水モデルを利用した時空間不均一成分の評価，平成 15 年度農業土木学会講演要旨集，平成 15 年度農業土木学会講演要旨集, 462-463, (2003).

小松陽介，葛葉泰久，岸井徳雄，友杉邦雄：融雪流出卓越流域における河川流量の地域洪水頻度解析，水文・水資源学会 2003 年研究発表会要旨集, 148-149, (2003).

Kuzuha, Y., Tomosugi, K., Kishii, T.: Regional flood frequency analysis by numerical simulations: introduction of the Peano network and peak discharge response (PDR) function, 水文・水資源学会 2003 年研究発表会要旨集, 150-151, (2003).

宮田昇平，鈴木善晴，中北英一，池淵周一：山岳域における降雨-地形関係のメカニズムに関する数値実験，土木学会第 58 回年次学術講演会講演概要集 (CD-ROM), 13-14, (2003).

Smith, P., Kojiri, T.: Probabilistic Modeling of Distributed Rainfall and Flood Runoff Conditions, Proceedings of 2003 Annual Conference, Japan Society of Hydrology and Water Resources, 10-11, (2003).

Takemon, Y.: Relations of bar structure and vegetated conditions to benthic animal communities, The First Japan-South Korea Joint Seminar on Ecology and Civil Engineering, 75-78, (2003).

和佐守紘，東海明宏，小尻利治：化学物質の生態系への影響を考慮した流域環境評価に関する研究，水文・水資源学会 2003 年研究発表会要旨集, 46-47, (2003).

足立充，中北英一，池淵周一：地形性降雨を導入した広域合成レーダー情報による台風性降雨予測手法，第 59 回土木学会年次学術講演会講演概要集 (CD-ROM), II-4-, (2004).

足立充，中北英一，池淵周一：地形性降雨を導入した広域合成レーダー情報による台風性降雨予測手法，平成 16 年度関西支部年次学術講演会講演概要, II-16-, (2004).

Chaves, P., Kojiri, T.: Reservoir Optimization through Stochastic Dynamic Programming, Proceedings of 2004 Annual Conference, Japan Society of Hydrology and Water Resources, 32-33, (2004).

深尾大介，城戸由能，岡 太郎：住宅地における発生源別の懸濁態汚濁物質流出モデルに関する研究，土木学会関西支部年次学術講演会講演概要, II-48-1-II-48-2, (2004).

深尾大介，城戸由能：第 38 回日本水環境学会年會講演集，19-19, (2004).

浜口俊雄：不均質な透水係数分布同定における観測更新感度の向上，水文・水資源学会 2004 年度研究発表会要旨集, 86-87, (2004).

浜口俊雄：地盤統計モデルに基づく透水係数分布の構造同定，第 39 回地盤工学研究発表会発表講演集, 1249-1250, (2004).

浜口俊雄：地盤統計学による透水係数分布のモデル化とパラメータ更新に対する感度影響評価，第 59 回土木学会年次学術講演会講演概要集 CD-ROM, 39-40, (2004).

浜口俊雄：限られた観測数での透水係数の不均一分布同定手法，平成 16 年度農業土木学会講演要旨集, 384-385, (2004).

菊池祥子，中塚隼平，T-S.Chong，小尻利治，堀智晴：水資源利用限界を考慮した大陸規模世界ダイナミクスモデル，水文・水資源学会 2004 年研究発表会要旨集, 34-35, (2004).

北井剛，中北英一，足立充：合成レーダー情報を用いた日本全土における汎用短時間降雨予測手法の基礎的研究，水

文・水資源学会 2004 年研究発表会要旨集, 128-129, (2004).

Kohzu, A., Tayasu, I., Maruyama, A., Komatsu, Y., Huodo, F., Onoda, Y., Igeta, A., Matsui, K., Nakano, T., Wada, E., Takemon, Y., Nagata, T.: Nitrogen Isotope relations of riverine organisms and organic pools -new indicators of human impacts on river ecosystems., The Second Annual joint Seminar between Korea and Japan on Ecology and Civil Engineering, River Restoration Study Group & Center for Environmental Studies, Kyung-Hee University, Korea., 81-84, (2004).

岡根俊介，中北英一，：人工衛星による低頻度観測情報から算定される降雨場確率パラメータの補正手法の開発，水文・水資源学会 2004 年研究発表会要旨集, 136-137, (2004).

岡根俊介，中北英一，池淵周一：人工衛星による低頻度観測情報から算定される降雨場確率パラメータの補正手法の開発，平成 16 年度関西支部年次学術講演会講演概要, II-17-, (2004).

奥田和弘，城戸由能，岡 太郎，浜口俊雄：100 年確率を想定した鴨川の河川改修に関する研究，土木学会関西支部年次学術講演会講演概要, II-30-1-II-30-2, (2004).

Smith, P., 関井，小尻：，水文・水資源学会 2004 年研究発表会要旨集, 168-169, (2004).

鈴木善晴，宮田昇平，中北英一，池淵周一：降雨-地形関係のメカニズム解明に関する数値実験的研究，水文・水資源学会 2004 年研究発表会要旨集, 118-119, (2004).

Takemon, Y.: Integration of habitat index and trophic index of benthos communities for assessment of river ecosystem conditions., 59-60, (2004).

山形景子，城戸由能，岡 太郎：鴨川における昭和 10 年大洪水とその後の流出特性変化，土木学会関西支部年次学術講演会講演概要, II-8-1-II-8-2, (2004).

(G2) 学術誌 (査読無し)

竹門康弘：水生昆虫の生活史にかかわる研究課題，昆虫と自然, 39(5), 4-7, (2004).

10.7.10 巨大災害研究センター

(A1) 完全査読論文

- 河田恵昭, 佐々木基充, 高橋智幸, 鈴木進吾: 南海地震津波による水産被害の評価手法の開発, 海岸工学論文集, 49, 301-305, (2002).
- Komazawa, M., Morikawa, H., Nakamura, K., Akamatsu, J., Nishimura, K., Sawada, S., Erken, A., Onalop, A.: Bedrock structure in Adapazari, Turkey — A possible cause of severe damage by the 1999 Kocaeli Earthquake —, Soil Dynamics and Earthquake Engineering, 22, 829-836, (2002).
- 村上則男, 川方裕則, 林 春男, 高島正典: 強震観測記録と消防庁被害報告を用いた広域の地震被害推定と被害の及ぶ範囲の同定の手法—2001 年芸予地震への適用—, 地域安全学会論文集, 4, 95-104, (2002).
- Ogasawara, H., Sato, S., Nishii, S., Sumitomo, N., Ishii, H., Iio, Y., Nakao, S., Ando, M., Takano, M., Nagai, N., Ohkura, T., Kawakata, H., Satoh, T., Kusunose, K., Cho, A., Mecdecki, A., Cichowicz, A., Green, R., Kataka, M.: Semi-controlled seismo-genic experiments in South African deep gold mines, J. South African Inst. Mining Metallurgy, 102(4), 243-250, (2002).
- 吉川大智, 盛川 仁, 赤松純平, 野口竜也, 西田良平: 余震、微動、重力を用いた弓ヶ浜半島における2次元基盤構造の推定, 地震II, 55(1), 61-73, (2002).
- 加藤謙介, 渥美公秀, 矢守克也: ロボット介入活動における物語生成—有料老人ホームにおけるペット型ロボットを用いた事例—, 実験社会心理学研究, 43(43), 155-172, (2003).
- Suwa, H., Akamatsu, J., Nagai, Y.: Energy radiation by elastic waves from debris flows, Proceedings of the 3rd International Conference on Debris-Flow Hazards Mitigation: Mechanics, Prediction, and Assessment (held in Davos, Switzerland, September 10 - 12, 2003), 895-904, (2003).
- 田村圭子, 林 春男, 立木茂雄, 木村玲欧, 野田隆, 矢守克也: 阪神・淡路大震災の被災地における家計の変化—2003 年京大防災研復興調査—, 地域安全学会論文集, 5, 227-236, (2003).
- 矢守克也: 4 人の被災者が語る現在—語り部活動の現場から—, 質的心理学研究, 2(2), 29-55, (2003).
- 矢守克也, 林 春男, 立木茂雄, 野田隆, 木村玲欧, 田村圭子: 矢守克也・林 春男・立木茂雄・野田 隆・木村玲欧・田村圭子 2003 阪神・淡路大震災からの生活復興3 類型モデルの検証—2003 年生活復興調査報告—, 地域安全学会論文集, 5, 45-52, (2003).
- "Kikkawa, T., Yamori, K., Ajiro, T., Hayashi, H.: Crossroad: Kobe: A training tool for disaster preparedness and response., In W.C. Kriz & T. Eberle (Eds.), Bridging the gap: Transforming knowledge into action through gaming and simulation. Munich, Germany : SAGSAGA, 245-253, (2004)."
- Morikawa, H., Sawada, S., Akamatsu, J.: A Method to Estimate Phase Velocities of Rayleigh Waves Using Microseisms Simultaneously Observed at Two Sites, Bulletin of the Seismological Society of America, 99(3), 961-976, (2004).
- 河田恵昭, 上田征香, 川方裕則, 後藤隆一: 河川事業における住民と行政との合意形成に関する実証研究, 水工学論文

集, 403-408, (2004).

矢守克也, 重川希志依, 林 春男: トレードオフを伴う意思決定過程として見た災害対応過程, 地域安全学会論文集, 6, 277-282, (2004).

Yamada, T., Mori, J., Ide, S., Kawakata, H., Iio, Y., Ogasawara, H.: Radiation efficiency and apparent stress of small earthquakes in a South African gold mine, J. Geophys. Res., 101(B1)(1305, doi:10.1029/2004JB003221), (2005).

Yamori, K.: The way people recall and narrate their traumatic experiences of a disaster: An action research on a voluntary group of story-tellers. (In) Y.Kashima, Y. Endo, E.Kashima, C. Leung, & J. McClure (eds.), Progress in Asian Social Psychology (Vol.4). pp.183-199 Seoul: Kyoyook-kwahak-sa., (In) Y.Kashima, Y. Endo, E.Kashima, C. Leung, & J. McClure (eds.), Progress in Asian Social Psychology. Seoul: Kyoyook-kwahak-sa., 183-199, (2005).

(A2) 一般査読論文

- 韓 世燮, 河田恵昭, 岡村 真, 松岡裕美: 海底横ずれ断層での津波ポテンシャルについて, 海岸工学論文集, 49, 261-265, (2002).
- 林 春男, 草野 公平, 牧 紀男: 阪神・淡路大震災による兵庫県組織運用の分析—災害対応のための人材確保—, 地域安全学会論文集, 4, 289-298, (2002).
- 東田 光宏, 牧 紀男, 林 春男: 災害対応シュミレータの概念設計, 地域安全学会論文集, 4, 41-48, (2002).
- Himoto, K., Tanaka, T.: A Physically Based Model for Urban Fire Spread, Proc. of the 7th Int'l Symposium, Fire Safety Science, 129-141, (2002).
- 堀江 啓, 牧 紀男, 重川 希志依, 田中 聡, 林 春男: 外観目視による建物被災度評価手法の検討—建物被災度判定トレーニングシステムの開発—, 地域安全学会論文集, 4, 167-174, (2002).
- 金子 史夫, 江川 良武, 矢野 賢治, 林 春男: カトマンズ盆地における地震防災計画作成援助の意義と提案した防災体制の枠組み, 第 11 回日本地震工学シンポジウム, CD-R, 401-, (2002).
- 柄谷 友香, 林 春男: 地方自治体における財政分析を用いた復興過程把握手法の提案, 地域安全学会論文集, 4, 315-324, (2002).
- 河田恵昭: 21 世紀の海岸防災を考える, 海岸, 42(1), 1-4, (2002).
- 河田恵昭, 佐々木基充, 高橋智幸, 鈴木進吾: 南海地震津波による水産被害の評価手法の開発, 海岸工学論文集, 49, 301-305, (2002).
- 河田恵昭: 2000 年東海豪雨とその災害, 自然災害科学, 21(1), 8-14, (2002).
- 木村 玲欧, 林 春男, 立木 茂雄, 田村 圭子: 時系列でみた阪神・淡路大震災被災者の居住地の変遷, 第 11 回日本地震工学シンポジウム講演論文集, 2417-2422, (2002).
- 越村俊一, Harold Mofjeld, 片田敏孝: 津波の市街地氾濫による人的被害に関する一評価法——米国シアトルウォーターフロントにおけるケーススタディ——, 海岸工学論文集, 49, 1441-1445, (2002).

- Kujime, M., Matsushita, T., Tanaka, T.: Influence of Doorway Opening Conditions on Vestibule Pressurization Smoke Control in Office Buildings, Proc. of the 7th Int'l Symposium, Fire Safety Science, 741-752, (2002).
- 草野 公平, 林 春男, 牧 紀男: 阪神・淡路大震災における兵庫県の予算配分事業執行, 地域安全学会論文集, 4, 307-314, (2002).
- "Maki, N., Hayashi, H.: Continues Monitoring on Recovery Process from Disaster Using CCD Camera System: 1995 Kobe earthquake, Japan and the Chi-Chi Earthquake of September 21, 1999, International Symposium on Urban Planning, Cities in the Information Age, B2, 4-1-4-2, (2002)."
- 丸山 敬, 田中孝義: 乱流境界層内の二次元火炎後方熱流場の気流・温度性状に関する実験的研究 (その1), 日本建築学会計画系論文集, 557(557), (2002).
- 松田真盛, 河田恵昭, 永田 茂: 1955~1998年の60台風客観解析データを用いた高潮ハザードの算出, 海岸工学論文集, 49, 1426-1430, (2002).
- Nakao, M., Tanaka, T.: Study on the Estimation of the hazard to Evacuation Due to Wind-blown Fire Flow Induced by Urban Fire, Proc. of the 7th Int'l Symposium, Fire Safety Science, 679-690, (2002).
- 大宮善文, 田中孝義, 野竹宏彰: リスク概念に基づく建築物の設計可燃物密度, 日本建築学会計画系論文集, 551(551), 1-8, (2002).
- 下田 渉, 川方裕則, 林 春男: 都道府県別の地震被害データに基づく被害地震発生の時空間パターンの同定, 地域安全学会論文集, 4, 105-112, (2002).
- Suzuki, K., Harada, K., Tanaka, T.: A Multi-Layer Zone Model for Predicting Fire Behavior in a Single Room, Proc. of the 7th Int'l Symposium, Fire Safety Science, 851-862, (2002).
- 田口 尋子, 林 春男: 災害対応業務の標準化に向けた IDEFO 手法による評価手法の開発, 地域安全学会論文集, 4, 267-274, (2002).
- 高島 正典, 林 春男: DMSP 夜間可視画像を用いた広域都市圏の同定と地震被害ポテンシャルの推定, 地域安全学会論文集, 4, 151-158, (2002).
- 田村 圭子, 林 春男, 立木 茂雄, 木村 玲欧: 阪神・淡路大震災からの生活復興, 第11回日本地震工学シンポジウム講演論文集, 2411-2416, (2002).
- Watanabe, J., Shimomura, S., Aoyama, Y., Tanaka, T.: A Formula for Prediction of Ceiling Jet Temperature in Two Layer Environment, Proc. of the 7th Int'l Symposium, Fire Safety Science, 431-442, (2002).
- 後藤隆一, 河田恵昭: 市街地氾濫災害が被災住民の日常生活に与えたインパクトに関する分析, 水工学論文集, 47, 355-360, (2003).
- Hayashi, H.: Socio-economic Recovery from the 1995 Hanshin-Awaji Earthquake Disaster -Report of Panel Survey Data 2001-, Proceedings of 7th US/Japan Workshop on Urban Earthquake Hazard Reduction, CD-ROM 版-, (2003).
- 樋本圭祐, 田中孝義: 炭化層を形成する可燃物の経時的な燃焼モデルと区画火災への適用, 日本建築学会計画系論文集, 568(568), 9-16, (2003).
- 堀江 啓, 林 春男, 田中 聡, 長谷川 浩一, 牧 紀男, 沖村 孝: 地震による木造建物の破壊状態を反映する被害関数の構築, 地域安全学会論文集, 5, 123-132, (2003).
- 堀江 啓, 沖村 孝, 鳥居 宣之, 田中 聡, 牧 紀男, 林 春男: 木造建物を対象とした層破壊被害関数の適用性に関する考察, 土木学会地震工学論文集, (2003).
- Horie, K., Maki, N., Kohiyama, M., Lu, H., Tanaka, S., Hashitera, S., Shigekawa, K., Hayashi, H.: Process of Housing Damage Assessment -The 1995 Hanshin-Awaji Earthquake Disaster Case-, Natural Hazards, 29(3), 341-370, (2003).
- 樋本圭祐, 田中孝義: 区画間の火災拡大を考慮した建物燃焼性状予測モデル, 日本建築学会環境系論文集, 573(573), 1-8, (2003).
- 角谷三夫, 吉田俊之, 中道明子, 北後明彦, 田中孝義: 耐火性能設計における無耐火被覆鋼材の温度算定方法に関する提案, 日本建築学会環境系論文集, 573(573), 17-24, (2003).
- 河田恵昭, 奥村与志弘, 高橋智幸, 鈴木進吾: アスペリティに起因する南海地震津波の波源不均一性に関する研究, 海岸工学論文集, 50, 306-310, (2003).
- 河田恵昭, 鈴木進吾, 高橋智幸: 東海・東南海・南海地震の発生特性による広域津波の変化, 海岸工学論文集, 50, 326-330, (2003).
- "Kohiyama, M., NO., TA., LU., Ma., Tanaka, S., Hayashi, H.: Expansion of the Nishinomiya Buils Environment Database -Simulation of seismic ground motion distribution and correlation with damage in the 1995 Hyogo-ken Nanbu Earthquake, Natural Hazards, 29, 501-522, (2003)."
- Koike, N.: Far-Field Tsunami Pntial and a Real-Time Forecast System for the Pacific Using the Inversion Method, Natural Hazards, 29, 423-436, (2003).
- LU, H., Kohiyama, M., Horie, K., Maki, N., Hayashi, H., Tanaka, S.: Building Damage and Casualties after an Earthquake -Relationship between Building Damage Pattern and Casualty Determined Using Housing Damage Photographs in the 1995 Hanshin-Awaji Earthquake Disaster-, Natural Hazards, 29, 387-403, (2003).
- 牧 紀男, 三浦 研, 小林 正美, 林 春男: 1992年インドネシア・フローレス島地震・津波災害後の再定住地の変容プロセス, 日本建築学会計画系論文報告集, 566, 1-8, (2003).
- 松田真盛, 河田恵昭, 永田 茂: 高潮防災へのリスクマネージメント手法の適用, 海岸工学論文集, 50, 1326-1330, (2003).
- Ohashi, M., Kuroda, K., Miyoki, S., Uchuyama, T., Yamamoto, K., Kasahara, K., Shintomi, T., Yamamoto, A., Haruyama, T., Saito, Y., Higashi, Y., Suzyki, T., Sato, N., Tomaru, T., Tatsumi, D., Terada, S., Ando, M., Araya, A., Takemoto, S., Higashi, H., ., ., .: Design and construction status of CLIO, Classical Quantum Gravity, 20, S599-S607, (2003).
- SHAW, T., KANEKO, F., KOMURA, T., MATTINGLY, S., Hayashi, H.: Community-based disaster management activities in the Kathmandu Valley, Nepal, Proceedings of 7th US/Japan Workshop on Urban Earthquake Hazard Reduction, CD-ROM 版-, (2003).
- 高島 正典, 林 春男: 夜間都市光分布を用いた広域の人口・建物棟数分布のモニタリング-東海地震の被害想定への適用-, 地震工学論文集, Vol.26, CD-ROM 版-, (2003).

- 田村 圭子, 林 春男, 立木 茂雄, 木村 玲欧, 野田 隆, 矢守 克也: 阪神・淡路大震災の被災地における家計の変化 — 2003 年京大防災復興調査一, 地域安全学会論文集, 5, 45-52, (2003).
- 田村 圭子, 林 春男, 木村 玲欧: 防災対策のためのシナリオ・プランニング手法の確立 — 京都市東山区における、防災計画立案の試み —, 土木学会地震工学論文集, 243, (2003).
- Topping, K., Hayashi, H., Tatsuki, S., Maki, N., Tanaka, S., Banba, M., Kondo, T., Tamura, K., Horie, K., Hasegawa, K., Fukasawa, Y., Karatani, Y.: Strengthening Economic Development Through Disaster Reduction Strategic Planning in the Asia-Pacific Region., Proceedings of Asian Conference on Earthquake Engineering, Manila, Philippines., 1, 461-472, (2003).
- 秋月有紀, 田中孝義, 岩田美千子: 災害時の避難誘導に関する行政管轄下の標識の視認性 — 京都市東山区を対象とした実態調査 —, 都市計画論文集 No.39-3, pp589-594, 2004, 39(3), 589-594, (2004).
- 長谷川 浩一, 馬場 美智子, 堀江 啓, 牧 紀男, 林 春男: マニラ近郊の住宅地での建物ポリゴンデータを用いた地域特性の分析に基づく地震時死者数の推定, 地域安全学会論文集, 6, 35-42, (2004).
- 東田 光裕, 林 春男, 斉藤 俊一, 北野 哲人: 水害を対象とした災害対応シミュレータ (プロトタイプ) の開発, 地域安全学会論文集, 6, 51-58, (2004).
- 久次米真美子, 田中孝義: 必要排煙量に基づいた居室避難安全評価手法, 日本建築学会環境系論文集, 586(586), 1-8, (2004).
- 堀江 啓, 重川 希志依, 牧 紀男, 田中 聡, 林 春男: 非専門家に対する建物被災度判定訓練の効果検証, 地域安全学会論文集, 6, 373-382, (2004).
- 柄谷 友香, 高島 正典, 林 春男: 復旧投資戦略に着目した経済被害推定モデルの構築, 地域安全学会論文集, 6, 323-332, (2004).
- 河田恵昭, 奥村与志弘, 越村俊一, 藤間功司, 永井紀彦: エッジ波の発生を考慮した津波予警報の改良に関する研究, 海岸工学論文集, 6, 261-265, (2004).
- 河田恵昭, 新名恭仁, 原田賢治, 鈴木進吾: 津波による船舶被害の評価手法の提案, 海岸工学論文集, 51, 316-320, (2004).
- 河田恵昭, 越村俊一, 鈴木進吾: 防災対策の不確定性を考慮した津波減災効果の評価手法, 海岸工学論文集, 51, 1311-1315, (2004).
- 河田恵昭, 後藤隆一, 松尾一郎: 大規模地下街の浸水対策の現状と課題, 水工学論文集, 28(5), 445-450, (2004).
- WebGIS ベースの洪水ハザードマップの作成とその普及に関する研究, 自然災害科学, 23(4), 539-551, (2004).
- 木村 玲欧, 林 春男, 立木 茂雄, 田村 圭子: 被災者の主観的時間評価からみた生活再建過程-復興カレンダーの構築-, 地域安全学会論文集, 6, 241-250, (2004).
- Kohiyama, M., Hayashi, H., Maki, M., Hashitera, S., Kroehl, H., Elvidge, C., Hobson, V.: Early damaged area estimation system using DMSP-OLS night-time imagery, International Journal of Remote Sensing, 25(11), 2015-2036, (2004).
- 越村俊一: 東南海・南海地震津波対策に向けての広域連携情報ネットワークの提案, 地域安全学会論文集, 133(128), 139-148, (2004).
- 牧 紀男, 近藤 民代, 田村 圭子, 林 春男, ケネス トッピング, 立木 茂雄, 堀江 啓, 馬場 美智子, 田中 聡, 深澤 良信, 吉富 望: ステークホルダー参加型地震防災総合計画策定手法の開発-「マリキナ市地震防災総合計画・アクションプラン」策定の試み-, 地域安全学会論文集, 6, 111-120, (2004).
- 下田 渉, 浦川 豪, 林 春男: GIS を活用した個人の震災体験整理手法の開発とその活用-体験から得られるリソースに着目して-, 地域安全学会論文集, 6, 373-382, (2004).
- 鈴木圭一, 田中孝義, 原田和典, 吉田治典: 火災空間における垂直温度分布の予測モデル 多層ゾーン煙流動予測モデルの開発 その1, 日本建築学会環境系論文集, 582(582), (2004).
- 立木 茂雄, 林 春男, 矢守 克也, 野田 隆, 田村 圭子, 木村 玲欧: 阪神・淡路大震災被災者の長期的な生活復興過程のモデル化とその検証: 2003 年兵庫県復興調査データへの構造方程式モデリング(SEM)の適用, 地域安全学会論文集, 6, 251-260, (2004).
- 高島 正典, 林 春男: DMSP 夜間可視画像における画素単位の観測値分布を考慮した都市光強度推定手法の提案, 地域安全学会論文集, 6, 85-94, (2004).
- 田村 圭子, 林 春男, 立木 茂雄, 牧 紀男, 田中 聡, 近藤 民代, 堀江 啓, 馬場 美智子, 柄谷 友香, 長谷川 浩一, 深澤 良信: ワークショップによる、ステークホルダー参加型防災戦略計画策定手法の開発, 地域安全学会論文集, 6, 129-138, (2004).
- 田中亮平, 河田恵昭, 井上雅夫, 原田賢治, 高橋智幸: 2003 年十勝沖地震時における漁民の避難行動に関する実態調査, 海岸工学論文集, 51, 1301-1305, (2004).
- 田中 聡, 水越 薫, 大森 達弥, 堀江 啓, 藤原 秀樹, 卜部兼慎, 牧 紀男, 林 春男, 田村 圭子: フィリピン・マリキナ市における枠組組積構造 Non-Engineered 住宅の耐震安全性に関する考察, 地域安全学会論文集, 6, 25-34, (2004).
- Tanaka, T., Yamada, S.: BRI2002: Two Layer Zone Smoke Transport Model, Fire Science and Technology, 23(1), (2004).
- 浦川 豪, 吉富 望, 林 春男: マルチハザード社会の安全・安心を守るためのGISの活用方策-Enterprise GISを基盤とした Combat GIS-, 地域安全学会論文集, 6, 305-314, (2004).
- 渡邊 学, 林 春男, 高島 正典, 堀江 啓, 田中 聡, 長谷川 浩一, 浦川 豪: 地震災害の被害想定のための高解像度衛星画像・GPS ビデオカメラを用いた建物イベントリー推定手法-フィリピンのマリキナ市を事例として-, 地域安全学会論文集, 6, 75-84, (2004).
- Watanabe, J., Tanaka, T.: Experimental Investigation into Penetration of a Weak Fire Plume into a Hot Upper Layer, Journal of Fire Science, 22(5), 351-440, (2004).
- 山口純一, 田中孝義: 初期火災時における煙層下端高さの簡易予測式, 日本建築学会環境系論文集, 581(581), (2004).
- Ogasawara, H., Takeuchi, J., Shimoda, N., Ishii, H., Nakao, S., vanAswegen, G., Mendecki, A., Cichowicz, A., Ebrahim-Trollope, S., Kawakata, H., Iio, Y., Ohkura, T., Ando, M., Th.: High-resolution Strain Monitoring During M-2 Events in a South African Deep Gold Mine in Close Proximity to Hypocentres, Proc. 6th Int. Symposium on Rockburst and Seismicity in Mines, 385-391, (2005).

Ogasawara, H., Takeuchi, J., Shimoda, N., Nakatani, M., Kato, A., Iio, Y., Kawakata, H., Yamada, T., Yamauchi, T., Ishii, H., Satoh, T., Kusunose, K., Otsuki, K., Kita, S., Nakao, S., Ward, A., McGill, R., Murphy, S., Mendecki, A., vanAswegen, G.: Multidisciplinary Monitoring of the Entire Life Span of an Earthquake in South African Gold Mines, Proc. 6th Int. Symposium on Rockburst and Seismicity in Mines, 393-398, (2005).

(A3) アブストラクト査読論文

盛川仁, 赤松純平, 駒澤正夫, 中村佳重郎, 西村敬一, 澤田純男: トルコ・アダパザル周辺の基盤構造について, 第 11 回日本地震工学シンポジウム論文集, No.270-, (2002).

吉川大智, 盛川仁, 野口竜也, 寺田一樹, 西田良平, 赤松純平: 重力および微動データに基づく弓ヶ浜半島の 3 次元基盤構造の推定, 第 11 回日本地震工学シンポジウム論文集, No.288-, (2002).

Tanaka, T.: A Short History of Fire in Kyoto, Proc. of Int. Sym. on Protection of Cultural Heritage Buildings from Fire, 1-17, (2003).

Akuzuki, Y., Tanaka, T.: Visibility of Text Information Functioning as Urban Disaster Prevention - The Visivility of Emergency Signs in the Deague Subway Fire, Korea -, Proc. of the 6th Asia-Oceania Symposium, Daegu, Korea, 569-578, (2004).

Atsumi, T., Yamori, K., Takano, N.: Group dynamics of collective remembering of historical events: Preliminary studies and future perspectives. Programme: Collective remembering, collective emotions and shared representations of history., Proceedings of the 5th. International Meeting of Social Representation Studies, (2004).

Himoto, K., Tanaka, T.: Physically-based Modeling of Fire Spread in Urban Area, Proc. of the 2nd Int'l Symp.on New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in Asia, 103-110, (2004).

Kadoya, M., Tanaka, T., Kujime, M., Nakamichi, A.: Simple Verification Method of Building Fire Safety Performance - Required width of opening at corridor of condominium -, Proc. of the 6th Asia-Oceania Symposium, Daegu, Korea, 453-458, (2004).

Nakao, M., Tanaka, T.: Reconstruction of Post-Earthquake In Inariyama Post Town, Proc. of the 6th Asia-Oceania Symposium, Daegu, Korea, 901-912, (2004).

Suzuki, K., Tanaka, T., Harada, K., Yoshida, H.: An Application of a Multi-Layer Zone Model to a Tunnel Fire, Proc. of the 6th Asia-Oceania Symposium, Daegu, Korea, 639-649, (2004).

Yamada, S., Tanaka, T.: Some Improvement of Smoke Movement Prediction Using BRI2002, Proc. of the 6th Asia-Oceania Symposium, Daegu, Korea, 669-680, (2004).

Yamaguch, J., Tanaka, T.: Temperature Profiles of Window Jet Plume, Proc. of the 6th Asia-Oceania Symposium, Daegu, Korea, 63-71, (2004).

(B) 解説・総説

河田恵昭: 日本が直面する最大の危機, ガバナンス 9 月号, 17, 26-29, (2002).

河田恵昭: 東海・南海地震, ニュートン, 6, 34-43, (2002).

河田恵昭: スーパー広域災害に対処できるのか, 月刊建設 9 月号, 2-3, (2002).

河田恵昭: 津波の想定, 建築防災 9 月号, 296, 21-30, (2002).

河田恵昭: 自分でできる防災対策・防災活動, 広報まつばら 8 月号, (2002).

河田恵昭: 災害国日本とその防災課題, 消防防災, 秋号, 44-53, (2002).

河田恵昭: 大都市災害に直面する最大の危機, 電気協会報 9 月号, 934, 8-12, (2002).

河田恵昭: 危機管理・減災と自治体, 都市問題, 93(2), 3-17, (2002).

河田恵昭: 日本の自然災害の様態を予測する, 土木学会夏期講習会講義集, (2002).

河田恵昭: 津波, そなえ, 512, 6-7, (2003).

河田恵昭: 東海地震の防災対策の諸問題, 月刊地球, 41, 158-165, (2003).

河田恵昭: 港湾に求められる危機管理体制と防災, 港湾, 80, 20-22, (2003).

河田恵昭: 世界の防災の動向, 国際建設防災, 12, (2003).

河田恵昭: 減災に必要な首都圏自治体の連携, 首都圏の広域行政東京都知事本部, 74-84, (2003).

矢守克也: 社会心理学の立場から見た防災情報, 京都大学防災研究所公開講座概要集, 14, 45-62, (2003).

矢守克也: ケータイメールで総合学習, 奈良大学社会学部 (編)「おもしろ講座:大学の先生と考える総合学習」, 11-12, (2003).

矢守克也: 心理学をヒントにケータイについてもっと知ろう, 奈良大学社会学部 (編)「おもしろ講座:大学の先生と考える総合学習」, 9-10, (2003).

林 春男: 新潟県小千谷市税務課の挑戦, 税大通信, 460, 2-3, (2004).

河田恵昭: 災害をきちんと調査・分析することが重要, PORTAL, 81, 8-9, (2004).

河田恵昭: 激化する都市水害の課題と対策, Review 季刊 河川レビュー, 47(A), 4-11, (2004).

河田恵昭: 高潮・津波ハザードマップ, ベース設計資料, 48, 41-44, (2004).

河田恵昭: いつ、どこを襲うかわからない巨大災害, 関塾タイムス, 159, 12-13, (2004).

河田恵昭: 大規模地震・津波への備え, 港湾, 153, 8-13, (2004).

河田恵昭: 風水害による都市災害対策とその課題, 新都市, 58(1), 10-12, (2004).

河田恵昭: 巨大地震への備え, 道路 「特集 道路の防災対策」, 51, 8-18, (2004).

河田恵昭: 津波・高潮対策の課題, 波となぎさ, 58(1), 10-21, (2004).

河田恵昭: 阪神・淡路大震災の教訓は来るべき東海・東南海・南海地震災害に適用できるか, 比較防災学ワークショップ Proceedings, 40, 1-11, (2004).

河田恵昭: ますます災害にもろくなっていく都市の被害を減らす, 文部科学時報, 763, 32-33, (2004).

河田恵昭: 「減災」によるこれからの地域防災, 21 世紀ひょうご, 92, 21-35, (2005).

河田恵昭: 油断は禁物、災害は他人事ではない未曾有の多発期を迎えて自覚が必要, Anima NEWS, 20, (2005).

河田恵昭：都市防災と企業防災，BUILDING（第42回経営セミナー），183，4-6，(2005).

河田恵昭：今こそ経営戦略をもて，CE 建設業界，54，30-31，(2005).

河田恵昭：阪神・淡路大震災から10年～近年の災害特性と総合減災システムの視点へ，JR ガゼット，21(4)，39-43，(2005).

河田恵昭：これまでの防災から減災の視点へ，Labor Research Library，3，3-6，(2005).

河田恵昭：想定外の大地震 津波は瀬戸内海にもやってくる，Newton，25(3)，40-41，(2005).

河田恵昭：巨大地震とその対策（下）～東南海・南海・東海地震に備えて～，大阪消防，32-35，(2005).

河田恵昭：巨大地震とその対策（上）～東南海・南海・東海地震に備えて～，大阪消防，34-36，(2005).

河田恵昭：2004年の災害の特徴と減災戦略，河川，703，3-6，(2005).

河田恵昭：東南海・南海地震・津波災害の対策とその課題，高圧ガス，42(2)，14-19，(2005).

河田恵昭：人と防災未来センターと国際防災への取り組み，消防科学と情報，79，57-62，(2005).

河田恵昭：東南海・南海地震に備えて，電力土木，316，3-9，(2005).

河田恵昭：スマトラ地震による津波被害，土木学会誌，90，5-10，(2005).

河田恵昭：阪神・淡路大震災から10年，予防時報220 55周年記念号，30-39，(2005).

河田恵昭：わが国の津波防災への挑戦，20-31，(2005).

"矢守克也：解説：マスコミ体験と災害報道，メモリカルコンファレンス・イン・神戸（編）「阪神・淡路大震災：向き合い続けた10年」神戸新聞総合出版センター，132-133，(2005)."

矢守克也：インターフェースとしての質的研究法，心理学ワールド，26-27，(2005).

(C) 著書

加納靖之，川方裕則，柳谷俊：，Seismogenic Process Monitoring -Mining and Experimental Seismology，297-305，(2002).

川方裕則，長秋雄：，Seismogenic Process Monitoring -Mining and Experimental Seismology，271-284，(2002).

小笠原宏，佐藤志津加，西井聡，川方裕則，南アフリカ金鉱山における半制御地震発生実験国際共同グループ：，Seismogenic Process Monitoring -Mining and Experimental Seismology，173-184，(2002).

建築物の火災安全設計指針，日本建築学会，1-200，(2002).

田中哮義：改定版 建築火災安全工学入門，日本建築センター，1-357，(2002).

橋本 学，入倉孝次郎，安藤政孝，佐藤忠信，中島正愛，鈴木祥之，田中 聡，河田恵昭：地震災害論，防災学講座 2，(2003).

林 春男：いのちを守る地震防災学，岩波書店，1-184，(2003).

今本博建，岡田憲夫，河田恵昭，林 春男：防災計画論，防災学講座 4，(2003).

田中哮義，山田茂：BRI2002 二層ゾーン建物内煙流動モデルと予測計算プログラム，建築研究振興協会，1-120，(2003).

矢守克也：道路施設空間と群集行動，（独）産業技術総合研究所人間福祉医工学研究部門（編）「人間計測ハンドブック」朝倉書店，752-757，(2003).

サトウタツヤ，矢守克也，川野健治，宮内洋：座談：ボトムアップでいこう，現代のエスプリ（特集：ボトムアップ人間科学の可能性）至文堂，5-27，(2004).

矢守克也：防災というフィールド，現代のエスプリ「ボトムアップ人間科学の可能性」至文堂，52-59，(2004).

矢守克也：動物・ロボット介在活動ー新しいヒューマンケアの可能性ー，大橋英寿（編著）「フィールド社会心理学」放送大学教育振興会，100-109，(2004).

矢守克也：防災に社会心理学を役立てる，竹村和久（編著）「社会心理学の新しいかたち」誠信書房，149-172，(2004).

矢守克也：古典に学ぶ，方法論を学ぶー概論書で満足しないためにー，無藤隆・やまだようこ・サトウタツヤ・麻生武・南博文（編）「ワードマップ質的心理学」新曜社，46-52，(2004).

矢守克也：ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション：「クロスロード」への招待，ナカニシヤ出版，(2005).

(D) 紀要・報告書

赤松純平，駒澤正夫：京都盆地の地盤震動特性と重力基盤，京都大学防災研究所年報，46B，929-936，(2003).

赤松純平，中村佳重郎，駒澤正夫，西村敬一：重力データを用いた地殻密度構造(近畿圏構造盆地の重力基盤構造ー京阪奈地域ー)，大都市大震災軽減化特別プロジェクト I 地震動(強い揺れ)の予測「大都市圏地殻構造調査研究」平成14年度成果報告書，407-415，(2003).

赤松純平：脈動観測資料と重力データの併合処理による基盤構造探査の実用化について，脈動観測資料と重力データの併合処理による基盤構造探査の実用化に関する研究，平成11～13年度科学研究費補助金(基盤研究 B(1))研究成果報告書(代表者：赤松純平，No.11480100)，1-5，(2003).

河田恵昭：日本学術会議自然災害工学専門委員会報告ースーパー広域災害の新たな社会的課題ー，DRS report，1-20，(2003).

河田恵昭：21世紀COEプログラムへの挑戦ー激動する災害環境と巨大災害ー，京都大学防災研究所年報，46，65-72，(2003).

河田恵昭，田中哮義，林 春男，矢守克也，高橋智幸，川方裕則：防災問題における資料解析研究(30)，京都大学防災研究所年報，46，89-106，(2003).

河田恵昭，後藤隆一，松尾一郎：我が国の地下街浸水事例とその対策(1)，京都大学防災研究所年報，46，919-928，(2003).

重川希志依，矢守克也，野田隆：災害対応に関わる知恵の体系化に関する研究ー神戸市震災人材プロジェクトー，文部省大都市大震災軽減化特別プロジェクト平成14年度報告書(CD-ROM版)，4.5.4.1節，(2003).

矢守克也：トランスクリプター4人の震災被災者が想起する現在ー，奈良大学紀要，253-282，(2003).

矢守克也：モノを遺すことの意味ーRadleyのartefact論をめぐるー，奈良大学総合研究所年報，1-13，(2003).

吉川肇子, 矢守克也, 網代剛, 林 春男, 堀江啓, 東田光裕, 木村玲玖: 災害シナリオ・プランニング技術の開発に関する研究, 文部省大都市大震災軽減化特別プロジェクト平成15年度報告書(CD-ROM版), 4.5.6節, (2003).

赤松純平, 西村敬一, 北岡豪一, 尾上謙介: 生駒市生駒小瀬の里温泉の地質学的・温泉水文学的調査研究, 防災研究協会平成15年度調査研究成果報告書, 61p, (2004).

赤松純平, 中村佳重郎, 駒澤正夫, 西村敬一: 京都・奈良盆地系の重力基盤構造について, 京都大学防災研究所年報, 47B, 871-876, (2004).

赤松純平, 諏訪 浩, 市川信夫, 駒沢正夫: 重力異常と脈動の震動特性からみた上高地盆地焼岳山麓の基盤構造, 京都大学防災研究所年報, 47B, 877-882, (2004).

赤松純平, 中村佳重郎, 駒澤正夫, 西村敬一: 重力データを用いた地殻密度構造(京都盆地と奈良盆地の一元化重力基盤構造), 大都市大震災軽減化特別プロジェクトI地震動(強い揺れ)の予測「大都市圏地殻構造調査研究」平成15年度成果報告書, 619-625, (2004).

川方裕則, 河田恵昭, 林 春男, 田中孝義, Topping, Kenneth C., 矢守克也, ポール吉富, 浦川豪, 久貝智洋: , Annuals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., 47C, 89-92, (2004).

河田恵昭: 十勝沖地震・津波災害, 京都大学防災研究所年報, 122, 81-89, (2004).

河田恵昭, 田中孝義, 林 春男, 矢守克也, 川方裕則: 防災問題における資料解析研究(31), 京都大学防災研究所年報, 47B, 113-133, (2004).

重川希志依, 矢守克也, 野田隆, 田中 聡, 木村玲玖, 柿本雅道: 災害対応に関わる知恵の体系化に関する研究—神戸市震災人材プロジェクト—, 文部省大都市大震災軽減化特別プロジェクト平成15年度報告書(CD-ROM版), 3.5.4節, (2004).

浦川豪, 吉富望, 久貝智洋, 川方裕則, Topping, Kenneth C., 林春男: , Annuals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., 47C, 337-344, (2004).

吉川肇子, 網代剛, 矢守克也, 林 春男, 堀江啓, 東田光裕, 木村玲玖, 佐土原聡: 災害シナリオ・プランニング技術の開発に関する研究, 文部省大都市大震災軽減化特別プロジェクト平成15年度報告書(CD-ROM版), 3.5.6節, (2004).

矢守克也: ゲーミング技法を用いた防災教育・研修の展開—自助・共助・公助システムの確立へ向けて—, (財)関西エネルギー・リサイクル科学研究振興財団平成17年助成研究発表会予稿集, 7-12, (2005).

矢守克也: 復興推進—施策推進上の共通課題への対応—, 兵庫県復興10年委員会(編)「阪神・淡路大震災 復興10年総括検証・提言報告《概要版》», (2005).

矢守克也: 復興推進—施策推進上の共通課題への対応—, 兵庫県復興10年委員会(編)「阪神・淡路大震災 復興10年総括検証・提言報告《第2編 総括検証》», 262-315, (2005).

(E) 講義・講演会テキスト

河田恵昭: 水害と自主防災, 第1回阿武隈川自主防災に関するシンポジウム, 11-48, (2003).

河田恵昭: 水害と自主防災, 第2回阿武隈川自主防災に関するシンポジウム, 13-69, (2003).

河田恵昭: JICA(国際協力事業団)の「防災と開発」

委員会活動報告と2,3の調査事例, 中部高等学術研究所共同研究会 人間安全保障, 第9回防災と「人間安全保障」, 2-41, (2003).

河田恵昭: 災害につよいまちづくり～徳島県の自治体職員としての大地震対策～, 教養講座講演録, 1-34, (2004).

(F) 新聞・雑誌記事

林 春男: 三宅島の復興に向けて, 都政研究, 7, 4-9, (2002).

林 春男: 新しい道路課題としての帰宅困難者問題, 道路, 738, 24-27, (2002).

林 春男: 防災CALSの推進, 日本建設情報総合センター JACIC 情報, 1(18), 70-72, (2003).

林 春男: 被災者の心のケアと市民の役割, FRONT(水の情報文化情報誌), 別冊, 21-23, (2004).

(G1) 講演会概要集

河田恵昭: 危機管理のあり方, 国土交通省国土交通大学校, (2002).

中村佳重郎, 赤松純平: 京都盆地南部の巨椋池干拓地およびその周辺部の地盤の特性について, 第12回環境地質学シンポジウム論文集, 237-242, (2002).

諏訪 浩, 赤松純平: 土石流のエネルギー損失に占める弾性波成分, 第12回環境地質学シンポジウム論文集, 191-194, (2002).

赤松純平, 市川信夫, 駒澤正夫, 諏訪 浩: 上高地盆地焼岳山麓の重力基盤構造について, 第13回環境地質学シンポジウム論文集, 383-388, (2003).

Ca., Ma., Ki., Hayashi, H., Sh., Ka.: Damage to personal household belongings as a predictor of injury and death in the 1995 Hanshin-Awaji Earthquake, 比較防災学ワークショップ Proceedings, 3, 63-73, (2003).

Hayashi, H.: Development of Marikina Comprehensive Earthquake Disaster Reduction Program: A Case Study for Figuring Out How an EqTAP Master Plan Can Be Implemented., A Paper read at the Fifth EqTAP Workshop. Kashikojima, Japan. (in Printing), (2003).

河田恵昭: 比較防災学の適用(2)ー減災に必要な首都圏自治体の連携ー, 比較防災学ワークショップ Proceedings, 1-7, (2003).

下田 渉, 浦川 豪, 林 春男: 体系的な震災理解のための参加型認識共有システムの構築, 比較防災学ワークショップ Proceedings, 3, 51-58, (2003).

Takashima, M., Hayashi, H.: Monitoring Spatial Distribution of Population and Buildings using DMSP Night-time Imagery and Its Application for Earthquake Damage Assessment, Proc. of IEEE International Geoscience and Remote Sensing Symposium, (2003).

Tatsuki, S., Hayashi, H., Yamori, K., Noda, T., Tamura, K., Koshiyama, K.: Model construction and testing of psychological recovery processes from the Kobe earthquake disaster experiences I: life recovery process scale construction using the 2002 public restoration housing residents population survey data., Proceedings of the 3rd. Workshop for "Comparative Study on Urban Earthquake Disaster Mnagemen, 23-28, (2003).

矢守克也：語り部活動というフィールドでの模索 第14回日本発達心理学会シンポジウム「現場（フィールド）の狭間で「もどえる自己」」，第14回日本発達心理学会発表論文集，(2003).

"矢守克也：震災語り部グループにおけるアクション・リサーチ 第14回日本発達心理学会ワークショップ「質的心理学研究の良さを考える」，兵庫教育大学，2003/3，第14回日本発達心理学会発表論文集，(2003)."

矢守克也：防災安全論（中）－〈リスク社会〉における防災－，第22回日本自然災害学会学術講演会概要集，235-236，(2003).

矢守克也：防災安全論（上）－犯罪の自然災害化／自然災害の犯罪化－，第44回日本社会心理学会大会論文集，392-393，(2003).

矢守克也：規範論－社会構成主義の視点から－ 第44回日本社会心理学会ワークショップ「規範研究の未来」，第44回日本社会心理学会大会論文集，(2003).

矢守克也：4人の被災者が語る現在（Ⅱ）－さまざまな〈バイ・プレーヤー〉形式－，第50回日本グループ・ダイナミックス学会発表論文集，20-23，(2003).

Yamori, Katsuya: , Proceedings of the 7th US-Japan Workshop on Urban Earthquake Hazard Reduction, 185-192, (2003).

赤松純平, 西村敬一, 中村佳重郎, 駒沢正夫, 矢野孝雄, 盛川仁：中国雲南省麗江盆地の基盤構造とテクトニクスについて，「ユーラシア(超)大陸の構造と形成に関するワークショップ」集録，国立極地研究所，CDROM,6p-, (2004).

Banba, M., K., Y., K., S., Y., H., S.: Analysis of Land Use Control and Management for Earthquake Disaster Reduction in Asia Pacific Region: Case Study of Marikina City., Proceedings of Asian Conference on Earthquake Engineering, Manila, Philippines, , II, 277-290, (2004).

Hasegawa, K., Hayashi, H., Topping, K., Maki, N., Tatsuki, S., Banba, M., Horie, K., Tanaka, S., Tamura, K., Kondo, T., Karatani, Y., Fukasawa, Y.: Interactive Seismic Risk Assessment in Marikina City Philippines., Proceedings of Asian Conference on Earthquake Engineering, Manila, Philippines, , I, 499-511, (2004).

Hayashi, H., Topping, K., Maki, N., Tatsuki, S., Tanaka, S., Banba, M., Tamura, K., Kondo, T., Horie, K., Hasegawa, K., Karatani, Y., Fukasawa, Y.: Development of a Master Plan for Earthquake Disaster Reduction in the Asia-Pacific Region: Significance of the Marikina Case Study. , Proceedings of Asian Conference on Earthquake Engineering, Manila, Philippines, , I, 419-432, (2004).

Horie, K., Hayashi, H., Topping, K., Maki, N., Banba, M., Tatsuki, S., Tanaka, S., Hasegawa, K., Tamura, K., Kondo, T., Karatani, Y., Fukasawa, Y.: Development of Earthquake Countermeasures' Toolbox as a Method to Increase Public Awareness., Proceedings of Asian Conference on Earthquake Engineering, Manila, Philippines, , I, 487-498, (2004).

Kondo, T., Hayashi, H., Topping, K., Maki, N., Tatsuki, S., S., Banba, M., Tamura, K., Horie, K., K., Karatani, Y., Fukasawa, Y.: Development of Integrated Strategic Plan for Earthquake Disaster Reduction in Marikina City, Philippines., Proceedings of Asian Conference on Earthquake Engineering, Manila, Philippines, , I, 445-460, (2004).

Maki, N., Hayashi, H., Topping, K., K., Banba, M., Tatsuki, S., Kondo, T., Tanaka, S., Karatani, Y., Fukasawa, Y., Horie, K., Hasegawa, K.: Developing Earthquake Disaster Reduction Planning Process for Asia-Pacific Region: Case Study in Marikina City, Philippines. , Proceedings of Asian Conference on Earthquake Engineering, Manila, Philippines, , I, 433-444, (2004).

重川希志依, 矢守克也, 林 春男：神戸市職員震災人材バンクエスノグラフィー調査（1） ，第23回日本自然災害学会学術講演会概要集，181-182, (2004).

Tamura, K., Hayashi, H., Topping, K., Maki, N., Tatsuki, S., Tanaka, S., M., Kondo, T., Horie, K., Hasegawa, K., Karatani, Y., Fukasawa, Y.: The Development of Civic Involvement Skills in the Process of Disaster Reduction Planning: A Case Study in Marikina City, Philippines., Proceedings of Asian Conference on Earthquake Engineering, Manila, Philippines, , I, 473-486, (2004).

Tanaka, S., K., T., Horie, K., Maki, N., Hayashi, H.: Loading Experiments of Non-Engineered Houses in Marikina City, Philippines. , Proceedings of Asian Conference on Earthquake Engineering, Manila, Philippines, , I, 273-282, (2004).

Tatsuki, S., Hayashi, H., Hasegawa, K., Tamura, H.: The Impact of Risk Perception, Disaster Schema, Resources, Intention, Attitude, and Norms upon Risk Aversive Behavior among Marikina City Residents: Structural Equation Modeling with Latent Variables. , A Paper read at the Fifth EqTAP Workshop. Kashikojima, Japan., CD-ROM 版-, (2004).

Yamamura, Y., Yamori, K.: The Preservation and Use of Materials connected to Earthquake Disasters at The Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial Disaster Reduction and Human Renovation Institution (DRI). , The 15th. International Congress on Archives Programme, (2004).

矢守克也：記念日と記念碑 ，第1回質的心理学会アブストラクト集，38-39, (2004).

矢守克也, 重川希志依, 林 春男：神戸市職員震災人材バンクエスノグラフィー調査（2） ，第23回日本自然災害学会学術講演会概要集，183-184, (2004).

矢守克也：可視化の〈道具〉としてみた防災テクノロジー（その1）－総体性の可視化－ ，第45回日本社会心理学会発表論文集，232-233, (2004).

矢守克也：防災ゲーミングをめぐって ワークショップ「プリスク립ティヴ・アプローチ社会問題のための処方的研究」 ，第45回日本社会心理学会発表論文集，(2004).

矢守克也：災害の体験を語り継ぐ，第46回日本教育心理学会発表論文集，(2004).

矢守克也, 吉川肇子, 網代剛, 林 春男：防災ゲーミングの可能性 ，第51回日本グループ・ダイナミックス学会発表論文集，(2004).

Yamori, Ka.: Risk communication in disaster prevention: From neutral risk perception to active risk taking. , 第51回日本グループ・ダイナミックス学会発表論文集，136-137, (2004).

Yamori, Ka.: Qualitative Research in Disaster Management: "To the past to inform the Future" , 第68回日本心理学会発表論文集，(2004).

"高玉潔, 仲麻友子, 矢守克也：ゲーミングを通じた防災教育実践（Ⅱ）－和歌山県立橋本高校での試み－ ，第52回日本グループ・ダイナミックス学会大会発表論文集，56-57, (2005)."

高木光太郎, 大橋靖史, 山本登志哉, 古山宣洋, 矢守克也: デイスクommunication分析の方法と可能性, 第16回日本発達心理学会大会発表論文集, (2005).

やまだようこ, 溝上慎一, 徳田治子, 石井宏典, 松島恵介, 能智正博, 矢守克也: 質的心理学の方法論(1) - 「語る」身体の「語り」を扱う., 第16回日本発達心理学会大会発表論文集, (2005).

矢守克也, 仲麻友子, 高玉潔: ゲーミングを通じた防災教育実践(Ⅰ) - 和歌山県立橋本高校での試み -, 第52回日本グループ・ダイナミックス学会大会発表論文集, 54-55, (2005).

矢守克也, 山中茂樹, 唐沢かおり, 菅磨志保, 浦野愛: 阪神・淡路大震災から10年 - 神戸から何が伝えられ、どのように受けとめられたのか -, 第52回日本グループ・ダイナミックス学会大会発表論文集, (2005).

(G2) 学術誌 (査読無し)

平田美佐子, 梅田康弘, 川方裕則: 2000年鳥取県西部地震の初期破壊, 月刊地球, 号外38, 162-166, (2002).

河田恵昭: 危機管理としての海岸防災, 土木学会水工学シリーズ, 02-B-1, B-1-1~B-1-14, (2002).

林 春男: 最近の防災研究の動向, 学術月報(日本学術振興会), Vol.56 No.7(704), 4-7, (2003).

河田恵昭: 3-4 津波災害とその対策, 土木学会誌, 88(9), 36-41, (2003).

杉島敬志, 小田晋, 矢守克也, 伊東一郎: 討論: 〈声〉の複数性 - フィールドにおけるポリフォニーをどう扱うか, 文化人類学研究, 4, 66-86, (2003).

矢守克也: 災害心理学の立場より: 4人の震災被災者の語りの分析 - 教育心理学会第44回大会シンポジウム「記憶とナラティブ」から -, 教育心理学年報, 42, 14-15, (2003).

矢守克也: グループ・ダイナミックスが聞いたバフチンの声 - 被災者の語りのポリフォニー, 文化人類学研究, 4, 38-55, (2003).

林 春男, 立木 茂雄, 牧 紀男, 田村 圭子, 田中 聡, 堀江 啓, 長谷川 浩一, 馬場 美智子, 近藤 民代, 渡辺 正幸: アジア太平洋地域における地震災害の軽減を目的としたマスタープランの開発: マニラ首都圏マリキナ市のケーススタディ, 自然災害科学, 23(2), 155-198, (2004).

矢守克也: 書評: 「大橋靖史・森 直久・高木光太郎・松島恵介(著) 心理学者、裁判と出会う - 供述心理学のフィールド -」, 質的心理学研究, 3, 180-182, (2004).

矢守克也: 社会心理学がエージェントシステム研究から学ぶべきこと - 渋谷 (2004) へのコメント -, シミュレーション&ゲーミング, 14(2), 186-187, (2004).

矢守克也: 書評: 「若林佳史(著) 災害の心理学とその周辺 - 北海道南西沖地震の被災地へのコミュニティ・アプローチ -」, 社会心理学研究, 19(3), 257-258, (2004).

矢守克也: 災害の体験を語り継ぐ - 「応答性」をめぐる -, 教育心理学年報, 44, 18-19, (2005).

10.7.11 斜面災害研究センター

(A1) 完全査読論文

Wang, F., Matsumoto, T., Maegawa, K.: Model of rapid landslide motion and distress area prediction, Chinese Journal of Engineering Geology, 10(Special Issue), 267-272, (2002).

Wang, F., Sassa, K., Wang, G.: Mechanism of a long-runout landslide triggered by the August 1998 heavy rainfall in Fukushima Prefecture, Japan, Engineering geology, 63(1,2), 169-185, (2002).

Wang, G., Sassa, K.: Post-failure mobility of saturated sands in undrained load-controlled ring shear tests, Canadian Geotechnical Journal, 39(4), 821-837, (2002).

Wang, G., Sassa, K.: Pore pressure generation and movement of rainfall-induced landslides: effects of grain size and fine particle content, Engineering geology, 69(1,2), 109-125, (2002).

Wang, G., Sassa, K., Fukuoka, H.: Downslope volume enlargement of a debris slide-debris flow in the 1999 Hiroshima, Japan, Rainstorm, Engineering geology, 69(3,4), 309-330, (2002).

古谷 元, 末峯 章, 日浦啓全, 福岡 浩, 佐々恭二, 丸井英明: 結晶片岩地域の崩積土層で発生した斜面崩壊に関与する流動地下水脈, 日本地すべり学会誌, 40(6), 10-21, (2003).

Sassa, K., Wang, G., Fukuoka, H.: Performing undrained shear tests on saturated sands in a new intelligent type of ring shear apparatus, Geotechnical Testing Journal, ASTM, 26(3), 257-265, (2003).

Wang, F., Sassa, K., Wang, G.: Mechanism of the long runout Hiegaesi landslide triggered by heavy rainfall, Landslide News, 14/15, 15-18, (2003).

Agung, M., Sassa, K., Fukuoka, H., Wang, G.: Evolution of Shear-Zone Structure in Undrained Ring-Shear Tests, Landslides: Journal of the International Consortium on Landslides, 1(2), 101-112, (2004).

Fukuoka, H., Wang, G., Sassa, K., Wang, F., Matsumoto, T.: Earthquake-induced rapid long-traveling flow phenomenon: May 2003 Tsukidate landslide in Japan, Landslides: Journal of the International Consortium on Landslides, 1(2), 151-155, (2004).

Moriwaki, H., Inokuchi, T., Hattarji, T., Sassa, K., Ochiai, H., Wang, G.: Failure process in a full-scale landslide experiment using a rainfall simulator, Landslides: Journal of the International Consortium on Landslides, 1(3), 277-288, (2004).

Ochiai, H., Okada, Y., Furuya, G., Okura, Y., Matsui, T., Sammori, T., Terajima, T., Sassa, K.: A fluidized landslide on a natural slope by artificial rainfall, Landslides: Journal of the International Consortium on Landslides, 1(3), 211-219, (2004).

Okada, Y., Sassa, K., Fukuoka, H.: Excess pore pressure and grain crushing of sands by means of undrained and naturally drained ring-shear tests, Engineering Geology, 75(3-4), 325-343, (2004).

奥野岳志, 汪 発武, 松本樹典: 白山における巨大甚之助谷地すべりの運動様式及び影響素因, 日本地すべり学会誌, 41(1), 57-64, (2004).

Sassa, K., Fukuoka, H., Wang, G., Ishikawa, N.: undrained dynamic-loading ring-shear apparatus and its application to landslide dynamics, Landslides: Journal of the International Consortium on Landslides, 1(1), 9-17, (2004).

Sassa, K., Wang, G., Fukuoka, H., Wang, F., Ochiai, T., Sugiyama, M., Sekiguchi, T.: Landslide risk evaluation and hazard zoning for rapid and long-travel landslides in urban development areas, *Landslides: Journal of the International Consortium on Landslides*, 1(3), 221-235, (2004).

末峯 章：地すべり発生時の地下水の観測事例，日本地すべり学会誌，41(1)，43-48，(2004)。

Trandafir, A., Sassa, K.: Undrained cyclic shear response evaluation of sand based on undrained monotonic ring shear tests, *Soil Dynamics and Earthquake Engineering*, 24(11), 781-787, (2004).

汪 発武，佐々恭二，松本樹典，奥野岳志：粒子破碎を考慮した地すべりの流動化メカニズムと運動範囲予測，日本地すべり学会誌，41(5)，377-388，(2004)。

Wang, F., Okuno, T.: Deforming mechanism of the giant Jinnosuke-dani landslide in Haku-san mountainous area, Japan, *Journal of Geological Hazards and Environment Preservation*, 3(15), 48-54, (2004).

Wang, F., Zhang, Y., Huo, Z., Matsumoto, T., Huang, B.: The July 14, 2003 Qianjiangping Landslide, Three Gorges Reservoir, China, *Landslides: Journal of the International Consortium on Landslides*, 2(1), 157-162, (2004).

(A2) 一般査読論文

Araiba, K., Suemine, A.: On the process of formation of sliding surface in landslides, *Proc. Interpraevent in the Pacific Rim*, 2, 495-504, (2002).

Furuya, G., Suemine, A., Osanai, N., Hiura, H., Marui, H., Sato, O.: Estimation of Veins of groundwater related to slope failures by the investigation of soil and Groundwater temperature in landslide mass at Zentoku, Shikoku Island, Southwestern Japan, *Proc. Interpraevent in the Pacific Rim*, 2, 515-523, (2002).

Hong, Y., Hiura, H., Maeda, H., Furuya, G., Fukuoka, H., Sassa, K.: Study on the creating warning and evacuation system from landslide disaster in use of the data of observation system, *Proc. Interpraevent 2002 in the Pacific Rim*, Matsumoto, 2, 695-703, (2002).

佐々恭二，福岡 浩，王功輝：地震豪雨時の高速長距離土砂流動現象の予測の研究(APERIF)について，(社)日本地すべり学会関西支部シンポジウム「土砂災害新法と危険度予測研究」論文集，61-79，(2002)。

Wang, G., Sassa, K., Fukuoka, H.: Landslide-triggered debris flow: a case study on the 29 June 1999 Kameyama landslide, Hiroshima, Japan, *Proc. Interpraevent 2002 in the Pacific Rim*, 2, 571-582, (2002).

Sassa, K., Wang, G., Fukuoka, H.: Assessment of earthquake-induced catastrophic landslides in urban areas and their prevention planning (Keynote paper), *Proceedings of the International Conference on Slope Engineering*, 26-49, (2003).

Wang, F., Matsumoto, T., Sassa, K.: Effects of grain crushing properties on rapid landslides from experimental study to motion simulation, *Proc. Intl. Symposium on Fast Slope Movements: Prediction and Prevention for Risk Mitigation*, 11-13 May 2003, Naples, Italy, 523-530, (2003).

Wang, F., Sassa, K.: A general mechanism of long-runout

landslides induced by earthquake and rainfall in crushable soils, *Proc. Intl. Symposium on Fast Slope Movements: Prediction and Prevention for Risk Mitigation*, 11-13 May 2003, Naples, Italy, 531-536, (2003).

Wang, G., Sassa, K., Fukuoka, H.: Role of grain size and fine-particle content on the pore-pressure generation and movement of rainfall-induced landslides: an experimental study (Invited paper), *International workshop on occurrence and mechanisms of flows in natural slopes and earthfills (IW-Flows2003)*, 163-174, (2003).

Wang, G., Sassa, K., Fukuoka, H.: Seismic loading tests on a sandy soil: application of ring shear test results to slope stability analysis during earthquakes, *Soil and Rock America 2003*, 1060-1065, (2003).

Gratchev, I., Sassa, K., Fukuoka, H.: Cyclic behavior of clayey sands under different physico-chemical conditions, *Landslides: Evaluation and Stabilization: Proc. 9th International Symposium on Landslides*, 701-704, (2004).

Greif, V., Sassa, K., Fukuoka, H.: Monitoring of rock displacements at Bitchu-Matsuyama rock slope in Japan using linear variable differential transformer (LVDT) sensors, *Landslides: Evaluation and Stabilization: Proc. 9th International Symposium on Landslides*, 773-779, (2004).

日浦啓全，海堀正博，末峯 章，里深好文，堤 大三：2004年台風10号豪雨による徳島県木沢村と上那賀町における土砂災害緊急調査報告(速報)，砂防学会誌，57(4)，39-47，(2004)。

Igwe, O., Sassa, K., Fukuoka, H.: Experimental study on the potential for liquefaction of sands with varying gradations, *Landslides: Evaluation and Stabilization: Proc. 9th International Symposium on Landslides*, 717-722, (2004).

Lourenco, S., Sassa, K., Fukuoka, H.: An experimental study on the pore water pressure increase in rainfall-induced landslides, *Landslides: Evaluation and Stabilization: Proc. 9th International Symposium on Landslides*, 713-716, (2004).

Okuno, T., Wang, F., Matsumoto, T.: The deforming characters of the giant Jinnosuke-dani landslide in Haku-san mountainous area, Japan, *Proc. 9th International Symposium on Landslides, Landslides: Evaluation and Stabilization. June 28 to July 2, 2004, Rio de Janeiro*, 1279-1295, (2004).

Sassa, K., Wang, G., Fukuoka, H., Vankov, D.: Energy necessary to cause liquefaction in cyclic loading ring shear tests., *Landslides: Evaluation and Stabilization: Proc. 9th International Symposium on Landslides*, 705-711, (2004).

Tanaka, Y., Wang, F., Nakamura, K., Matsumoto, T.: Sliding mechanism of the Yamashina flowslide triggered by continual rainfall in Kanazawa City, Japan, *15th Southeast Asian Geotechnical Society Conference*, 22 -26 November 2004, Bangkok, Thailand, 1, 331-336, (2004).

Trandafir, A., Sassa, K.: Newmark deformation analysis of earthquake-induced catastrophic landslides in liquefiable soils, *Landslides: Evaluation and Stabilization: Proc. 9th International Symposium on Landslides*, 723-728, (2004).

汪 発武，佐々恭二：地すべり運動シミュレーションとハザードマップ，日本地すべり学会関西支部シンポジウム「GISと地すべりハザードマップ」論文集，61-79，(2004)。

Wang, F., Okuno, T., Matsumoto, T.: Deformation style and influential factors of the giant Jinnosuke-dani landslide in Japan, 15th Southeast Asian Geotechnical Society Conference, 22 -26 November 2004, Bangkok, Thailand, 1, 399-404, (2004).

Wang, F., Nakamura, K., Matsumoto, T., Tanaka, Y.: Fluidization and motion mechanisms of the Tsukidate flowslide triggered by Sanriku-Minami earthquake in Japan, 15th Southeast Asian Geotechnical Society Conference, 22 -26 November 2004, Bangkok, Thailand, 1, 899-904, (2004).

(A3) アブストラクト査読論文

Gratchev, I., Sassa, K., Fukuoka, H.: Behaviour of bentonite-enhanced sands under dynamic loading in a ring shear apparatus, Proceedings of the Fifth Conference "Sergeevskie chteniya" on environmental geoscience, engineering geology, and hydrogeology, 1(1), 7-11, (2003).

Wang, F., Sassa, K., Fukuoka, H., Wang, G.: Prediction of Landslides: Occurrence Time and Passing Area, Proc. of the 2nd International Symposium on Mitigation of Geo-hazards in Areas around Japan Sea, 1-13, (2004).

(B) 解説・総説

(C) 著書

佐々恭二, 福岡 浩: 第1章・地すべり・斜面崩壊災害, 防災学講座3・地盤災害論(京都大学防災研究所編, 山海堂), (1), 1-56, (2003).

(D) 紀要・報告書

古谷 元, 末峯 章, 丸井英明, 佐藤 修, 原 龍一, 岡本 敦: 結晶片岩地域の山地における土石流源頭部の地下水流の推定 -第2報-, 新潟大学災害研年報, 24, 19-25, (2002).

Agung, M., Sassa, K., Fukuoka, H.: The evolution of sliding-flow structure under the undrained shearing in the ring shear tests, 京都大学防災研究所年報, 46B, 159-170, (2003).

Trandafir, A., Sassa, K., Fukuoka, H.: Assessment of undrained seismic displacements on shear surfaces in saturated cohesionless soils, 京都大学防災研究所年報, 46B, 171-180, (2003).

Furuya, G., Sassa, K., Suemine, A.: Distribution relationship between veins of groundwater, slope angles, and slope failure at a landslide, in crystalline schist area, 京都大学防災研究所年報, 47C, 183-192, (2004).

Igwe, O., Sassa, K., Fukuoka, H.: Liquefaction potential of granular materials using differently graded sandy soils, 京都大学防災研究所年報, 47B, 893-902, (2004).

佐々恭二, 福岡 浩, 王功輝, 汪 發武: 平成15年7月水俣市宝川内で発生した土石流災害と今後の対策, 平成15年度科学研究費補助金(特別研究促進費(1))「2003年7月吸収豪雨災害に関する調査研究」研究成果報告書, 187-196, (2004).

Sassa, K., Wang, G., Fukuoka, H.: Assessment of landslide risk during earthquake/rainfall on urban areas, 京都大学防災研究所年報, 47C, 93-115, (2004).

Wang, F., Matsumoto, T., Sassa, K.: Deforming mechanism and influential factors of giant Jinnosuke-dani landslide, Japan., 京都大学防災研究所年報, 47B, 883-891, (2004).

(E) 講義・講演会テキスト

Aurelian, C., Hi., Sassa, K.: An Effective Stress Model for Residual Excess Pore Pressure Response in Sand Under Cyclic Loading, 都市域斜面防災の新世紀～地震豪雨時の高速長距離土砂流動現象の解明(APERIF)公開シンポジウム論文集, 231-244, (2004).

福岡 浩, Igwe Ogbonnaya, 佐々恭二, 岡田康彦: 2001年1月エルサルバドル地震による高速土砂流動再現試験, 都市域斜面防災の新世紀～地震豪雨時の高速長距離土砂流動現象の解明(APERIF)公開シンポジウム論文集, 301-312, (2004).

岡田康彦, 佐々恭二, 福岡 浩: リングせん断試験機を用いた大せん断変位下における砂の非排水せん断挙動及び過剰間隙水圧の推定, 都市域斜面防災の新世紀～地震豪雨時の高速長距離土砂流動現象の解明(APERIF)公開シンポジウム論文集, 209-230, (2004).

佐々恭二: 地震豪雨時の高速長距離土砂流動現象メカニズムの解明—大都市圏での災害とその防災—, 都市域斜面防災の新世紀～地震豪雨時の高速長距離土砂流動現象の解明(APERIF)公開シンポジウム論文集, 7-34, (2004).

佐々恭二, 東畑郁生, 福岡 浩, 杉山正憲, 千木良雅弘, 森脇 寛, 落合博貴, 小長井一男: 科学技術振興調整費「地震豪雨時の高速長距離土砂流動現象の解明」の成果～土砂流動機構と災害危険区域予測法の開発～, 第41回自然災害科学総合シンポジウム論文集, ii, 28-53, (2004).

佐々恭二, 福岡 浩, 王 功輝: 世界遺産「マチュピチュ遺跡」の地すべり危険度評価, 第41回自然災害科学総合シンポジウム論文集, ii, 1-13, (2004).

末峯 章: 山地地下水の実態、「地すべり防止工事事」登録更新特別講習会テキスト -高松-, 地すべり対策技術協会, 1-34, (2004).

汪 發武, 奥野岳志, 松本樹典: 地盤材料の破碎性と高速土砂流動—実験結果に基づいた運動予測—, 都市域斜面防災の新世紀～地震豪雨時の高速長距離土砂流動現象の解明(APERIF)公開シンポジウム論文集, 273-290, (2004).

(F) 新聞・雑誌記事

(G1) 講演会概要集

Agung, M., Sassa, K., Fukuoka, H.: Grain Crushing Influences on Compatibility of Granular Material by means of Newly Developed Grain Crushing Apparatus, 第41回日本地すべり学会研究発表会講演集, 85-88, (2002).

福岡 浩, 佐々恭二, 小長井一男, 守随治雄: 2001年1月エルサルバドル地震によるラスコリナス流動性崩壊, 第41回日本地すべり学会研究発表会講演集, 71-74, (2002).

- 福岡 浩, 玉利吉章, 今井保行, 神崎政之, 高木 達 : RTK-GPS を用いた斜面健康診断用三脚の開発, 第 41 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 489-490, (2002).
- 古谷 元, 末峯 章, 小山内信智, 佐藤 修, 丸井英明, 小松原岳史: 結晶片岩地域の土石流源頭部における斜面崩壊と流動地下水の関係, 第 4 1 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 223-226, (2002).
- Greif, V., Sassa, K., Fukuoka, H.: Development of 2D Physical Modelling Device to Study Natural Rock Slope Failure Mechanism, 第 41 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 83-84, (2002).
- Igwe, O., Sassa, K., Fukuoka, H.: Influence of particle size distribution on the undrained shear behavior of granular materials, 第 41 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 75-78, (2002).
- 末峯 章, 近藤大器: 徳島市における江戸時代の地震時人的被害, 第 4 1 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 447-450, (2002).
- 玉利吉章, 末峯 章, 岡田康彦, 藤川美嗣: 写真測定の地すべり地への適用例, 第 4 1 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 215-216, (2002).
- 玉利吉章, 福岡 浩, 佐々恭二, 渡部英久: 三次元せん断変位計及び干渉 SAR 解析を用いた結晶片岩の斜面変動検出, 第 41 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 469-472, (2002).
- Trandafir, A., Sassa, K., Fukuoka, H.: Evaluation of Earthquake-Induced Flow Sliding Potential in Sandy Soils by Ring Shear Tests, 第 41 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 67-70, (2002).
- Wang, G., Sassa, K., Fukuoka, H.: Response of sandy soils to seismic loading: application of ring shear tests to slope stability analysis during earthquakes, 第 41 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 89-92, (2002).
- Agung, M., Sassa, K., Fukuoka, H.: A New Method for Investigating the Shear Zone Development Process on Granular Material by a New Shear Zone Sampler for Ring Shear Apparatus, 第 42 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 247-250, (2003).
- Ayle, T., Sassa, K., Hi.: The Influence of Mineralogy on the Stress - Strain (Displacement) Behaviour of Granular Soils, 第 42 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 71-74, (2003).
- 古谷 元, 末峯 章, 丸井英明, 佐々恭二, 原 龍一, 岡本敦: 結晶片岩地域の土石流源頭部における斜面崩壊と流動地下水の関係 (第 2 報), 第 4 2 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 399-402, (2003).
- Gratchev, I., Sassa, K., Hi.: Effect of salt concentration and pH of pore water on liquefaction on clayey sands under dynamic loading in a ring shear apparatus, 第 42 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 285-288, (2003).
- Greif, V., Sassa, K., Fukuoka, H.: Monitoring of Rock Displacements Using Linear Variable Differential Transformer (LVDT) Sensors, 第 42 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 277-280, (2003).
- Igwe, O., Sassa, K., Fukuoka, H.: The Concept of Critical Pore Pressure : The Boundary Between Contraction and Dilation, 第 42 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 253-256, (2003).
- 石川直秀, 佐々恭二, 福岡 浩: 可視型リングせん断試験機の開発と PIV を用いたせん断中の土砂流動現象の画像解析, 第 42 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 243-246, (2003).
- Ivan, G., Sassa, K., Fukuoka, H.: Effect of salt concentration and pH of pore water on liquefaction of clayey sands under dynamic loading in a ring shear apparatus, 第 42 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 285-288, (2003).
- Lourenco, S., Sassa, K., Fukuoka, H.: Constant stress drained tests in saturated sandy soils, 第 42 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 247-250, (2003).
- 佐々恭二: 「地すべり」の学術的定義, 第 42 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 143-144, (2003).
- 佐々恭二: 文部科学省・科学技術振興調整費「地震豪雨時の高速長距離土砂流動現象の解明」について, 第 42 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 231-232, (2003).
- 佐々恭二, 宮城豊彦: 平成 15 年 5 月 26 日三陸南地震により宮城県築館町において誘発された高速長距離運動地すべり, 第 42 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 273-276, (2003).
- Trandafir, A., Sassa, K., Hi.: Prediction of undrained cyclic shear response of saturated sand in the ring shear apparatus, 第 43 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 251-252, (2003).
- Wang, G., Sassa, K., Fukuoka, H.: Landslide-induced debris flow: a case of Kameyama landslide in the 1999 Hiroshima, Japan, rainstorm, 第 42 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 273-276, (2003).
- 福岡 浩, 佐々恭二, 石川直秀: 可視型地震時地すべり再現試験機による高速土砂流動の再現, 第 43 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 143-144, (2004).
- 古谷 元, 佐々恭二, 佐々木亮, Lourenco, Sergio, 落合博貴, 三森利昭, 岡田康彦, 寺嶋智己, 大倉陽一, 松井琢郎, Read, M.E.: 人工降雨による実斜面の土層変形計測, 第 43 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 279-282, (2004).
- Gratchev, I., Sassa, K., Fukuoka, H.: Influence of loading frequency on the liquefaction of clayey sands, 第 43 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 131-134, (2004).
- Igwe, O., Sassa, K., Fukuoka, H.: A Study on Liquefaction Potential of Granular Materials using Differently Graded Sandy Soils, 第 43 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 135-138, (2004).
- 岡田康彦, 末峯 章, 古谷 元, 佐々木 亮: 三次元写真測量システムを用いた地すべり変位検出について, 第 4 3 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 535-538, (2004).
- 佐々木亮, 佐々恭二, 福岡 浩, 王功輝: 可視型地震時地すべり再現試験機を用いた粒状体の加速及び定常状態における速度分布形状, 第 43 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 145-148, (2004).
- 末峯 章: 林道建設と地すべり活動について 2, 第 4 3 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 89-92, (2004).
- 王功輝, 佐々恭二, 福岡 浩: 平成 15 年 7 月水俣市宝川内地区の土砂災害について, 第 43 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 151-154, (2004).
- Wang, H., Sassa, K., Hi., Wa.: Landslide hazard zonation using statistical analysis and GIS in Minamata area, 第 43 回日本地すべり学会研究発表会講演集, 169-172, (2004).

(G2) 学術誌 (査読無し)

末峯 章, 海堀正博, 王 功輝, 古谷 元: 平成 16 年台風 10 号による徳島県那賀川上流域で発生した土砂災害の緊急調査報告, 日本地すべり学会誌, 41(3), 87-89, (2004).